

運用報告書（全体版）

HK エレクトリック・インベストメンツ
(HK Electric Investments)

クローズド・エンド型／契約型外国投資信託

計算期間 自 2023 年 1 月 1 日
(第 10 会計年度) 至 2023 年 12 月 31 日

トラスティ・マネジャー

HK エレクトリック・インベストメンツ・マネジャー・リミテッド
(HK Electric Investments Manager Limited)

目 次

定義語	i
I. 本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の概要	1
II. 会長声明	10
III. 最高経営責任者による報告	14
IV. 本トラストの仕組み	30
V. 投資リスク	82
VI. 運用の経過	89
VII. 運用状況	93
VIII. 本トラストの経理状況	98
IX. 本トラスティ・マネジャーの経理状況	186
X. 本グループの5年間の財務概要	199
XI. HEC社 直近10年間の電力供給報告書、財政状態及び営業実績	200
XII. 費用の明細	204
XIII. 純資産額計算書	205
XIV. 投資資産	206
XV. 企業情報	207
XVI. 財務カレンダー及び本株式ステーブル受益証券の情報	210

(注1) 別段の記載がなされている場合を除き、本書に記載の「香港ドル」は、香港の法定通貨である香港ドルを指す。日本円への換算は、別段の記載がなされている場合を除き、株式会社三菱UFJ銀行が公表した2024年3月29日現在における対顧客電信直物売買相場の仲値である1.00香港ドル=19.34円の換算率で行われている。

(注2) 本書記載の一定の金額及び百分率の数値は、端数の調整がなされている。したがって、一部の表記載の合計値が、各項目の数値の単純合計とは異なる場合がある。

定義語

本書において、別段の定義がされていない用語の定義は、本「定義語」の記載に従う。

用語	定義
「承認事業」	: 本信託証書に記載された本トラストの承認された事業。すなわち、 (a) HKエレクトリック・インベストメンツ社に対する投資（HKエレクトリック・インベストメンツ社の有価証券及びその他の持分に対する投資を含むが、これらに限定されない。） (b) 本信託証書に基づく本トラスティ・マネジャーの権限及び権利の行使、並びにその義務及び債務の履行 (c) 上記（a）及び／又は（b）に記載される活動のために又はそれに関連して必要であるか又は望ましいあらゆる事項又は活動
「本取締役会」	: 本トラスティ・マネジャー取締役会及びHKエレクトリック・インベストメンツ社取締役会
「CCASS」	: HKSCCにより設立・運営される中央清算決済システム（Central Clearing and Settlement System）
「CCASS口座」	: CCASSにおいてCCASS参加者により維持される証券口座
「CCASS決済参加者」	: CCASSに直接決済参加者又は一般決済参加者として参加することを認められた者
「CCASS参加カストディアン」	: CCASSにカストディアンとして参加することを認められた者
「CCASS参加投資家」	: CCASSに投資家として参加することを認められた者。個人若しくは共同個人又は法人であってもよい。
「CCASS参加者」	: CCASS決済参加者、CCASS参加カストディアン又はCCASS参加投資家
「CKハチソン社」	: ケイマン諸島において有限責任の特例会社として設立された会社であるCKハチソン・ホールディングス・リミテッド（CK Hutchison Holdings Limited）。同社の株式は香港証券取引所のメインボードに上場されている（証券コード：1）。
「CKI社」	: 英領バミューダ諸島において設立された有限責任会社であるCKインフラストラクチャー・ホールディングス・リミテッド（CK Infrastructure Holdings Limited）。同社の株式は香港証券取引所のメインボードに上場されている（証券コード：1038）。
「CLPホールディングス社」	: 香港において設立された有限責任会社であるCLPホールディングス・リミテッド（CLP Holdings Limited）。同社の株式は香港証券取引所のメインボードに上場されている（証券コード：2）。同社は、独立した第三者に該当する。
「CLPパワー社」	: 香港において設立された有限責任会社であるCLPパワー・ホンコン・リミテッド（CLP Power Hong Kong Limited）。同社は、CLPホールディングス社の完全子会社である。同社は、独立した第三者に該当する。

- 「香港会社条例」 : 会社条例（香港法第622章）（その時々における改正又は補足を含む。）
- 「HKエレクトリック・インベストメンツ社」 : 2013年9月23日にケイマン諸島において有限責任の特例会社として設立された会社であるHKエレクトリック・インベストメンツ・リミテッド（HK Electric Investments Limited）
- 「HKエレクトリック・インベストメンツ社監査委員会」 : HKエレクトリック・インベストメンツ社の監査委員会
- 「HKエレクトリック・インベストメンツ社取締役会」 : HKエレクトリック・インベストメンツ社の取締役会
- 「HKエレクトリック・インベストメンツ社附属定款」 : 2014年1月1日に採択したHKエレクトリック・インベストメンツ社の変更及び書換済附属定款（その時々における変更を含む。）
- 「コーポレート・ガバナンス規則」 : 香港上場規則別紙C1に規定されるコーポレート・ガバナンス規則
- 「分配」 : 所得又は資本の性質を問わず、利益、所得又はその他の支払い若しくは収益の分配
- 「本電力事業」 : 本グループが実施する香港における発電、送電、配電及び供給の事業
- 「交換権」 : 発行済本株式スレーブル受益証券の全てを、本株式スレーブル受益証券の構成要素である本受益証券に紐付けされた本トラスティ・マネジャーが保有する本普通株式と交換することを要求する本信託証書に基づく本株式スレーブル受益証券の名簿上の保有者の権利。当該権利は、本受益証券の名簿上の保有者の特別決議を可決することにより行使することができる。交換権が行使された場合には、本信託証書は終了し、本受益証券及び本優先株式は本普通株式と交換された後消却され、本株式スレーブル受益証券の名簿上の保有者であった者は、上場され、香港証券取引所の事前承認を条件として取引可能な本普通株式の保有者になる。
- 「本受益証券の名簿上の保有者の特別決議」 : 本信託証書に基づき適式に招集及び開催された本受益証券の名簿上の保有者の総会において提案され、投じられた賛成票及び反対票の合計の75%以上の多数票により特別決議として可決された決議
- 「電力事業関連の固定資産」 : 土地、建物、工場、設備及び資産計上した改修・改良工事に対するHEC社による電力事業関連の投資であり、本電力供給契約に定める会計方針に反しない限りにおいて、建設中の資産、売掛金、輸送中の物品及び未使用設備が含まれる。
- 「会計年度」 : 12月31日に終了した、又は終了する会計年度
- 「本グループ」 : HKエレクトリック・インベストメンツ社及びその子会社群
- 「本グループ分配可能利益」 : 該当する会計年度又は分配期間における、本信託証書に定める調整後の本株式スレーブル受益証券保有者に帰属する監査済連結純利益
- 「HEC社」 : 1889年1月24日に香港において設立された有限責任会社であるザ・ホンコン・エレクトリック・カンパニー・リミテッド（The Hongkong Electric Company, Limited）。同社は、HKエレクトリック・インベストメンツ社の間接完全子会社である。
- 「香港財務報告基準」 : 香港公認会計士協会（The Hong Kong Institute of Certified Public Accountants）により公表された香港財務報告基準

- 「香港財務報告基準等」 : 香港公認会計士協会（The Hong Kong Institute of Certified Public Accountants）により公表され適用されている個々の香港財務報告基準、香港会計基準及びそれらの解釈の総称
- 「HKSCC」 : 香港エクスチェンジャーズ・アンド・クリアリング・リミテッド（Hong Kong Exchanges and Clearing Limited）の完全子会社である香港セキュリティーズ・クリアリング・カンパニー・リミテッド（Hong Kong Securities Clearing Company Limited）
- 「HKSCCノミニーズ」 : CCASSの運営者であるHKSCC（又はその承継人）のノミニーとしての資格において行為する、HKSCCの完全子会社であるHKSCCノミニーズ・リミテッド（HKSCC Nominees Limited）又はその承継人、後任若しくは譲受人をいう。
- 「本株式ステーブル受益証券保有者」 : 本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社により発行された本株式ステーブル受益証券を保有する者
- 「香港」 : 中国の香港特別行政区
- 「香港政府」 : 香港の政府
- 「香港株主名簿」 : HKエレクトリック・インベストメンツ社附属定款及び本信託証書に基づき香港においてHKエレクトリック・インベストメンツ社により作成・備置されたHKエレクトリック・インベストメンツ社の支店株主名簿
- 「独立した第三者」 : 本トラスト、本トラスティ・マネジャー、HKエレクトリック・インベストメンツ社、それらの子会社又は関連会社の取締役、チーフ・エグゼクティブ又はそれらの受益証券若しくは株式の大量保有者と（香港上場規則における定義における）関係を有しない者
- 「本株式ステーブル受益証券の名簿上の共同保有者」 : 本株式ステーブル受益証券の共同保有者として本株式ステーブル受益証券登録簿にその時点で記載されている者
- 「本受益証券の名簿上の共同保有者」 : 本受益証券の共同保有者として本受益証券登録簿にその時点で記載されている者
- 「ラマ発電所」 : 香港、ラマ島、ポロ・ツイにある本グループの発電所で、ラマ風力発電所を含む。
- 「ラマ風力発電所」 : 香港、ラマ島北部、タイリンにある本グループの風力発電所
- 「紐付けされた」 : 各本受益証券を、（本トラストのトラスティ・マネジャーとしての資格における）本トラスティ・マネジャーが保有する具体的に特定された本普通株式と組み合わせ、紐付けること。その結果、本信託証書に基づき、本受益証券の名簿上の保有者は、具体的に特定された本普通株式の実質的分持を有し、本受益証券が譲渡される場合には、本普通株式の実質的分持も譲渡されることになる。「紐付け」も同様に解釈されるものとする。
- 「上場日」 : 2014年1月29日。同日に、本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社により共同で発行された本株式ステーブル受益証券が香港証券取引所のメインボードに上場された。
- 「香港上場規則」 : 香港証券取引所における香港上場規則（その時々における改正又は補足を含む。）
- 「本株式ステーブル受益証券の名簿上の保有者の総会」 : 本信託証書第4.7条（b）項に定める本受益証券の名簿上の保有者及び本株主の合同総会
- 「モデル規約」 : 香港上場規則別紙C3に規定される上場会社の取締役による証券取引に関するモデル規約

- 「**本受益証券の名簿上の保有者の普通決議**」 : 本信託証書に基づき適式に招集及び開催された本受益証券の名簿上の保有者の総会において提案され、投じられた賛成票及び反対票合計の50%超の多数票により普通決議として可決された決議
- 「**本普通株式**」 : HKエレクトリック・インベストメンツ社附属定款に定められた権利が付された1株当たり額面金額0.0005香港ドルのHKエレクトリック・インベストメンツ社の株式資本における普通株式
- 「**認可報酬**」 : 電力事業関連の業務に関する本電力供給契約における各年度のHEC社の認可報酬
- 「**PAH社**」 : 香港において設立された有限責任会社であるパワー・アセット・ホールディングス・リミテッド (Power Assets Holdings Limited)。同社の株式は香港証券取引所のメインボードに上場されている (証券コード: 6)。
- 「**PAHグループ**」 : PAH社及びその子会社群、合弁会社及び関連会社 (本トラスト・グループを除く。)
- 「**本優先株式**」 : HKエレクトリック・インベストメンツ社附属定款に定められた権利が付された1株当たり額面金額0.0005香港ドルのHKエレクトリック・インベストメンツ社の株式資本における優先株式
- 「**主要な本株主名簿**」 : ケイマン諸島において備え置かれるHKエレクトリック・インベストメンツ社の主要な株主名簿
- 「**電気料金減額準備金**」 : 本電力供給契約に基づき設定された口座であり、各年度の電気料金安定化基金の期首及び期末の平均残高を香港銀行間取引金利 (HIBOR) 1ヵ月物の平均 (年率) で乗じた金額に相当する金額の年度毎の支払いに関係するものである。
- 「**基準日**」 : 分配を受領し、及び/又は本株式ステーブル受益証券の名簿上の保有者の総会若しくは本受益証券の名簿上の保有者の総会の開催の通知を受領し、かかる総会に出席し、議決することができる者として本受益証券の名簿上の保有者を特定することを目的として、本トラスティ・マネジャーにより決定される、特定の日又は複数の日
- 「**実質的持分登録簿**」 : (本トラストのトラスティ・マネジャーとしての資格における) 本トラスティ・マネジャーの名義で主要な本株主名簿に記載された本普通株式の実質的持分の登録簿であり、本信託証書に基づき本トラスティ・マネジャー又は本トラスティ・マネジャーにより指名された登録機関による作成・備置が要請される。
- 「**本株主名簿**」 : HKエレクトリック・インベストメンツ社の主要な本株主名簿、香港株主名簿及びその他の支店株主名簿
- 「**本株式ステーブル受益証券の名簿上の保有者**」 : 本株式ステーブル受益証券の名簿上の保有者として本株式ステーブル受益証券登録簿に該当する時点で記載された者を意味し、かつ、本株式ステーブル受益証券の名簿上の共同保有者として記載された者を含む。これに類似する用語は、同様の意味に解されるものとする。疑義を避けるために付言すると、「**本株式ステーブル受益証券の名簿上の保有者**」及び「**本株式ステーブル受益証券の名簿上の共同保有者**」にCCASS参加者は含まない。

- 「本受益証券の名簿上の保有者」 : 本受益証券の保有者として本受益証券登録簿に該当する時点で記載された者を意味し、かつ、本受益証券の名簿上の共同保有者として記載された者を含む。これに類似する用語は、同様の意味に解されるものとする。
- 「登録機関」 : 本株式ステーブル受益証券登録簿、本受益証券登録簿、実質的分持登録簿、主要な本株主名簿及び香港株主名簿等を備置するために本トラスティ・マネジャー及び／又はHKエレクトリック・インベストメンツ社により随時任命される者をいう。
- 「本電力供給契約」 : HEC社に係る電力供給体制について定める契約（その時々における変更を含む。）。同契約は、香港における本グループによる発電、送電、配電及び供給を規制している。詳細は、後記「XI. HEC社 直近10年間の電力供給報告書」を参照のこと。また、同契約の写しは、香港政府環境及び生態局（Environment and Ecology Bureau）のウェブサイト（www.eeb.gov.hk）及びHKエレクトリック・インベストメンツ社のウェブサイト（www.hkei.hk）で入手可能である。
- 「香港証券先物委員会」 : 香港の証券先物委員会（Securities and Futures Commission）
- 「香港証券先物条例」 : 証券先物条例（香港法第571章）（その時々における改正又は補足を含む。）
- 「本株式ステーブル受益証券」 : 本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社により共同で発行された本株式ステーブル受益証券をいう。各本株式ステーブル受益証券は、以下の証券又は証券の持分の組み合わせである。本信託証券の規定に従い、いずれも一体としてのみ取引することができ、個別に又は他と分離して取引することはできない。
- (a) 本受益証券
- (b) 本受益証券に紐付けされ、かつ、（本トラストのトラスティ・マネジャーとしての資格において）法的所有者としての本トラスティ・マネジャーが保有する具体的に特定された本普通株式の実質的分持
- (c) 本受益証券と一体化された具体的に特定された本優先株式
- 「本株式ステーブル受益証券登録簿」 : 本株式ステーブル受益証券の名簿上の保有者の登録簿
- 「本株主」 : 主要な本株主名簿又は香港株主名簿に本普通株式の株主及び／又は本優先株式の株主として該当する時点で記載されている者
- 「本株式」 : 本普通株式及び本優先株式の総称又はその一方
- 「一体化された」 : 各本受益証券を具体的に特定された本優先株式に結びつける方法。その結果、本信託証券に基づき、前者は後者と別個に取引することができなくなる。「一体化」は同様に解釈されるものとする。
- 「香港証券取引所」 : 香港証券取引所（The Stock Exchange of Hong Kong Limited）又は文脈により香港証券取引所の持株会社である香港エクスチェンジェーズ・アンド・クリアリング・リミテッド（Hong Kong Exchanges and Clearing Limited）
- 「本株式ステーブル受益証券大量保有者」 : 発行済本株式ステーブル受益証券の10%以上を保有する者
- 「電気料金安定化基金」 : 電気料金の調整状況の改善を目的とした資金を蓄積・提供するために、本電力供給契約に基づき設立された基金

- 「本トラスト」 : 香港法に基づき、本信託証書により設定されたHKエレクトリック・インベストメンツ (HK Electric Investments)
- 「本信託証書」 : 本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社間で締結された本トラストを設定する2014年1月1日付の信託証書（その後随時行われる変更を含む。）
- 「本トラスト分配可能利益」 : 本トラスティ・マネジャーが本普通株式に関してHKエレクトリック・インベストメンツ社から受領した配当金、分配金及びその他の金額から、本信託証書に基づき控除又は支払いを行うことが認められている全ての金額（本トラストの営業費用等）の控除を行った金額
- 「本トラスト・グループ」 : 本トラスト及び本グループの総称
- 「本信託財産」 : 本信託証書に基づき本受益証券の名簿上の保有者のための信託財産として保有される以下を含む種類を問わない全ての財産及び権利
- (a) 本トラストが取得したHKエレクトリック・インベストメンツ社の証券その他の権利及び持分
- (b) 本トラストに対する拠出金及び本受益証券の発行に関する引受金
- (c) (本トラストのトラスティ・マネジャーとしての資格における) 本トラスティ・マネジャーにより及びそれを代理して締結された承認事業に関する契約又は取決に関する権利
- (d) 上記 (a) から (c) 記載の証券、金銭その他の権利及び持分から生じた利益、利子、収入及び財産
- 「本トラスティ・マネジャー」 : (本トラストのトラスティ・マネジャーとしての資格における) HKエレクトリック・インベストメンツ・マネジャー・リミテッド (HK Electric Investments Manager Limited)。同社は、2013年9月25日に香港において設立された有限責任会社であり、PAH社の間接完全子会社である。
- 「本トラスティ・マネジャー 監査委員会」 : 本トラスティ・マネジャーの監査委員会
- 「本トラスティ・マネジャー 取締役会」 : 本トラスティ・マネジャーの取締役会
- 「本受益証券」 : 本トラストの不可分の持分。本受益証券は、本信託証書において、本受益証券により付与される旨記載された権利を（本受益証券独自の権利か本株式ステーブル受益証券の構成要素としての権利かを問わず）付与する。
- 「本受益証券保有者」 : (a) 本受益証券登録簿に本受益証券の保有者として記載された者。疑義を避けるために付言すると、本株式ステーブル受益証券の構成要素としての本受益証券を保有し、本株式ステーブル受益証券登録簿に本株式ステーブル受益証券（当該本受益証券を含む。）の保有者として記載された者を含む。
- (b) 本受益証券の名簿上の保有者がHKSCCノミニーズである場合には、文脈上許容される限り、そのCCASS口座にHKSCCノミニーズの名義で記載された本受益証券が預託されたCCASS参加者も含むものとする。疑義を避けるために付言すると、「**本受益証券の名簿上の保有者**」及び「**本受益証券の名簿上の共同保有者**」にCCASS参加者は含まない。

- 「**本受益証券登録簿**」 : 本受益証券の名簿上の保有者の登録簿であり、本信託証書に基づき本トラスティ・マネジャー又は本トラスティ・マネジャーにより指名された登録機関による作成・備置が要請される。
- 「**米国**」 : アメリカ合衆国、その準州及び自治領、アメリカ合衆国のいずれかの州並びにコロンビア特別区
- 「**米ドル**」 : 米国の法定通貨である米ドル

本書において、文脈上別の解釈を必要とする場合を除き、「**関係者／関連会社**」、「**関連当事者**」、「**関連取引**」、「**支配株主**」及び「**子会社**」とは、香港上場規則（（本トラスティ・マネジャーとしての資格における）本トラスティ・マネジャー、HKエレクトリック・インベストメンツ社及び香港証券取引所間で締結した上場契約による修正を含む。）においてそれらの用語に与えられる意味を有する。同上場契約により、「**関連当事者**」の定義を拡大し、本トラスティ・マネジャー、その取締役及び支配株主、並びにそれぞれの関係者／関連会社も対象にする等、香港上場規則に修正がなされている。

I. 本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の概要

本トラストは、2014年1月に設立された、エネルギー・セクターに純然たる重点を置く香港の単一の投資信託（固定型）である。本株式ステーブル受益証券は、本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社により発行され、香港証券取引所のメインボードに上場されている。本トラストは、本グループが本株式ステーブル受益証券保有者に対する安定的な分配と、本グループの持続可能かつ長期的な成長潜在力の確保に専念できるように構成されている。

本グループの主たる事業会社であるHEC社は、香港において589,000人超の需要家に対する発電、送電、配電、電力供給を行う電力会社である。HEC社は、1890年から香港の経済成長のために手頃な料金で安全で信頼できるクリーンな電力供給を行っており、2050年までに香港がカーボン・ニュートラルを達成できるよう、ガス火力発電容量及び再生可能エネルギーの利用を増やすとともに、コミュニティの脱炭素化を支援している。

本グループは、コミュニティ参加と恵まれない人々に対する支援に関するHEC社の長い伝統を維持するとともに、香港社会の積極的で責任ある一員であり続けることに努めている。

HEC社は、1997年以来99.999%を超える世界クラスの供給信頼性を維持しており、香港がスマートで配慮があり、持続可能な都市になるよう電力供給を続ける。

業績ハイライト

財務実績

	2023年	2022年
売上収益	11,406百万香港ドル	10,793百万香港ドル
分配可能利益	2,830百万香港ドル	2,830百万香港ドル
本株式ステーブル受益証券1口当たり分配金総額	32.03香港セント	32.03香港セント
本株式ステーブル受益証券1口当たり中間分配金	15.94香港セント	15.94香港セント
本株式ステーブル受益証券1口当たり期末分配金	16.09香港セント	16.09香港セント
資産総額	118,540百万香港ドル	121,002百万香港ドル
純負債総資産比率	51%	51%
S&Pによる信用格付		
HEC社	A- / 安定的	A- / 安定的
HKエレクトリック・インベストメンツ社	A- / 安定的	A- / 安定的

事業実績

<発電>

	2023年	2022年
発電容量	3,403メガワット	3,402メガワット
発電		
ガス火力発電	約56%	約53%
石炭火力発電	約44%	約47%
固定価格買取制度に基づく再生可能エネルギー設備数	543 (合計発電容量 10.8メガワット)	383 (合計発電容量 7.4メガワット)
需要家が引き受けた再生可能エネルギー証書	約9.1ギガワット時	約8.3ギガワット時

<需要家サービス>

	2023年	2022年
需要家数	589,000	586,000
スマート・メータ設置数	360,000個超	240,000個超
販売電力量	10,040ギガワット時	9,941ギガワット時
無料電気自動車充電設備の提供数	47,452	42,743
平均需要家満足指数（5段階評価）	4.72	4.71

<送電及び配電>

	2023年	2022年
供給信頼度	99.999%超* (99.9999%超**)	99.9999%超
需要家当たりの計画外電力供給障害	3.4分未満* (0.5分未満**)	0.5分未満
送配電網の長さ	6,969キロメートル	6,853キロメートル

* 大規模障害発生日に分類される2023年4月19日の電力供給障害による影響を含む。

** 国際基準に従って2023年4月19日の電力供給障害による影響を除いた数値。

年度概括

1～6月

- ・ HEC 社が、支援を必要とする人々の援助と省エネルギーの奨励のために 95 百万香港ドルを割り当て、消費量が少ない世帯に対して「特別電力補助金」を支給するとともに、50,000 世帯の弱い立場にある家族に対して「ケアと共有 (Care and Share)」飲食クーポンを支給する。
- ・ 本グループが香港信頼性・安全向上センター (Centre for Advances in Reliability and Safety) と共同で、本グループの配電ケーブルの検査の効率と精度を向上させる検査・保守計画の策定における AI 技術の展開について調査研究を行う。
- ・ 従業員の自主的な学習と知識移転を啓発するため、需要家サービス、データ・プライバシー、業務手順、法令遵守等の課目を対象として、従業員向けの最初の自主学習ビデオ・コンテストが開催される。
- ・ 本グループの企業ウェブサイトの外観が一新されて現代的なデザインになり、迅速でユーザーフレンドリーな検索を可能にする明確に定義された情報アーキテクチャが組み込まれる。
- ・ 本グループのハッピー・グリーン・キャンペーンの 20 周年を祝して 3 日間の「ハッピー・グリーン・フェア (Happy Green Fair)」が開催され、「涼しくカーボン・ニュートラル (Be Chill. Be Carbon Neutral)」のテーマの下に環境教育活動が実施され、約 3,000 名の一般市民が来訪してさまざまな活動に参加する。
- ・ 2023 年 7 月に商業運転が開始された新設の海上液化天然ガスターミナルに本グループの浮体式貯蔵・再ガス化設備船舶が香港水域において無事接舷する。このターミナルは、HEC 社の電力供給の信頼性だけでなく、競争的な価格でガスを調達する能力も強化するものである。
- ・ 5 月に年次総会が開催され、会長及び執行取締役が本株式ステーブル受益証券保有者に本グループの業績と最近の状況について伝える。
- ・ HEC 社が、国際連合の「健康的な高齢化の 10 年 (Decade of Healthy Ageing)」のテーマに賛同して、退職者が自分の夢のプロジェクトを実現して社会に貢献することを支援する補助金プログラムを導入する。
- ・ 4 月に発生した電力供給障害に対応して、本グループが香港政府に調査報告書を提出し、本グループの事業運営の改善と信頼できる電力供給の確保のため、21 件の改善措置とリスク評価を実施するとともに、従業員の研修を強化する。
- ・ 5 月に HEC 社が、燃料費調整による加算額の支払額を 4 月の水準に据え置いたため、需要家に特別燃料割戻しを提供する。燃料費調整による加算額は 6 月から減額され始めており、当会計年度末には当会計年度初頭の水準を 44% 下回っている。
- ・ 「ライフ・ファースト 2023－ウォーク・ザ・トーク (Life First 2023 - Walk the Talk)」や「魯班飯配布 (Distribution of Lo Pan Rice)」を含む一連の安全衛生に関する研修とキャンペーンを通じて、従業員と契約業者の間における労働安全衛生意識の向上が図られる。
- ・ 2023 年環境の日 (World Environment Day 2023) を支援するため、食品廃棄物の削減と環境に優しい方法による資源の利用を従業員に奨励する「クリーン・プレート・チャレンジ (Clean Plate Challenge)」を呼び物にした環境キャンペーンが実施される。このイベントは約 800 名の従業員の参加者を集めた。

7～12月

- ・ 香港海上 LNG ターミナルの進水式が香港特別行政区行政長官のジョン・KC・リー (John KC Lee) 氏、環境及び生態局長のツェ・チン・ワン (Tse Chin-wan) 氏、CK ハチソン社会長のリ・ツアー・クオイ、ヴィクター氏、CLP ホールディングス社会長のマイケル・カドゥーリー氏を来賓として執り行われた。
- ・ 「CAREnJOY・フォー・エルダリー (CAREnJOY for the Elderly)」プログラムに基づく新イニシアチブの「ファン&ジョイ (Fun & Joy)」を通じて、一人暮らしの高齢者がパンデミック後にコミュニティと再びつながりを持つことを促進する外出イベントが実施される。最初のイベントでは、約 300 名の高齢者が参加してサイバーボードで映画を鑑賞した。
- ・ ワン・チー・ティン氏の退任を受けて、2023 年 7 月 1 日付でチェン・チョー・イン、フランシス氏が本取締役会により本グループの最高経営責任者に任命される。
- ・ HEC 社が、緊急時に信頼できる炭素排出量ゼロの電力を需要家に供給するため、エネルギー貯蔵トラックと電力切替トラックからなる新たな環境に優しい可動式電力供給システムを導入する。
- ・ 超大型の台風 9 号 (Saola) の襲来を受けて、本グループのエンジニアがさまざまな機材を携えて芽菜坑村 (Nga Choy Hang Tsuen) に赴き、倒木の幹を切断し、支柱に登って電力供給を回復する。
- ・ 2019-2023 年開発計画に基づく第 3 のガス火力コンバインドサイクル発電設備である L12 が 2024 年前半の商業運転に向けて 9 月に同期作業を完了する。この発電設備により、本グループのガス火力発電能力はさらに増強される見通しである。
- ・ 第 5 回香港パブリック・リレーションズ・アワード 2023 (5th Hong Kong Public Relations Awards 2023) において、本グループのアクティビティ・ブック「脱炭素化の ABC (Decarbonisation ABC)」が、幼児に対する環境に優しい習慣の奨励における有効性と創造性が評価され、「企業持続可能性」カテゴリーで金賞を獲得する。
- ・ HEC 社の最初の技術革新会議が「境界を超える技術革新 (Innovating Beyond Boundaries)」と題してさまざまなセクターの専門家を集めて開催され、専門家が技術革新に係る経験を披露するとともに、最初の技術革新報告書が刊行される。この会議には 300 名を超える参加者が出席した。
- ・ 本グループが香港警察及びその他のいくつかの政府部門とともに、電力供給障害の発生時の連絡と緊急時即応体制の強化のための防災訓練に参加する。
- ・ HEC 社がステート・グリッド NARI (State Grid NARI) との間で、送配電網運営の最適化のための機会の追求と、将来における中国大陸からのゼロカーボン・エネルギーの輸入計画策定のための協力協定に調印する。
- ・ HEC 社及び香港政府が現行の本電力供給契約の 2023 年中間レビューを完了する。同時に香港政府は、HEC 社の 22 十億香港ドルの資本投資に関する 2024-2028 年度開発計画及び 2024 年度料金調整を承認する。その結果、2024 年 1 月の純電気料金は 2023 年 1 月の水準から 16%の引下げとなった。
- ・ HEC 社が FIA 世界ラリークロス選手権香港 (中国) - シーズン・フィナーレ 2023 のエネルギー・パートナーになり、主催者と協力してこのレースをエキサイティングな低炭素イベントとして開催する。
- ・ 本グループが 2023 年広東・香港・マカオ大湾区人材採用フェア (2023 Greater Bay Area Talent Recruitment Fair) 及び中山大学キャンパス・ジョブ・フェア (Sun Yat-Sen University Campus Job Fair) に参加し、中国大陸の人材を勧誘する。

受賞歴

企業／コミュニティの分野

17の賞

- ・ **2023年ARCアワード・インターナショナル (2022 ARC Awards International)**
2022年度年次報告書
－従来型年次報告書部門：電気及びガス・サービス：銀賞
－内部デザイン部門：電力会社：銅賞
- ・ **第5回香港パブリック・リレーションズ・アワード2023 (The 5th Hong Kong Public Relations Awards 2023)**
－企業持続可能性部門：金賞
- ・ **ケアリング・カンパニー・スキーム2022/23 (Caring Company Scheme 2022/23)**
－10イヤー・プラス・ケアリング・カンパニー・ロゴ (10 Years Plus Caring Company Logo)
- ・ **ザ・コミュニティ・チェスト・オブ・ホンコン (The Community Chest of Hong Kong)**
－2022/23年度企業・従業員貢献プログラム (Corporate and Employee Contribution Programme 2022/23) : 銅賞
- ・ **ハピネス・アット・ワーク・プロモーション・スキーム2023 (Happiness-at-work Promotional Scheme 2023)**
－「ハッピー・カンパニー・5イヤーズ・プラス」レーベル (“Happy Company 5 Years Plus” Label)
- ・ **グッドMPFエンプロイヤー2022-23 (Good MPF Employer 2022-23)**
－グッドMPFエンプロイヤー・5イヤーズ・プラス (Good MPF Employer 5 Years+)
－e-コントリビューション・アワード (e-Contribution Award)
－MPFサポート・アワード (MPF Support Award)
- ・ **ERBマンパワー・ディベロッパー・アワード・スキーム (ERB Manpower Developer Award Scheme)**
－マンパワー・ディベロッパー賞 (Manpower Developer Award)
- ・ **広東大鵬LNGカンパニー・リミテッド (Guangdong Dapeng LNG Company Ltd.)**
－ベスト・コオペラティブ・フェーズIガス・ユーザー2023 (Best Cooperative Phase I Gas User 2023)
- ・ **ウェブ・アクセシビリティ・リコグニション・スキーム2022-2023 (Web Accessibility Recognition Scheme 2022-2023)**
－トリプル金賞
- ・ **プライバシーフレンドリー・アワード2023 (Privacy-Friendly Awards 2023)**
－金賞
- ・ **建設業ボランティア・アワード・スキーム2023 (Construction Industry Volunteer Award Scheme 2023)**
－最優秀支援組織 (The Most Supportive Organisation) : 優秀賞
- ・ **パートナー・エンプロイヤー・アワード2023 (Partner Employer Award 2023)**
－エクセレント・コーポレーション賞 (Excellent Corporation Award)
－既存従業員維持賞 (Existing Employee Retention Award)
- ・ **2023年ランスタッド・エンプロイヤー・ブランド・アワード (Randstad Employer Brand Award 2023)**
－モスト・アトラクティブ・エンプロイヤーズ (香港) (Most Attractive Employers (Hong Kong)) : 上位20社

需要家サービスの分野

27の賞

- **第21回APCSCインターナショナル・カスタマー・リレーションシップ・エクセレンス・アワード (The 21st APCSC International Customer Relationship Excellence Awards)**
 - 企業カテゴリー
 - －パブリック・サービス・オブ・ザ・イヤー2023 (Public Service of the Year 2023)
 - 個人カテゴリー
 - －カスタマー・サービス・マネジャー・オブ・ザ・イヤー2023 (コンタクト・センターー公益事業) (Customer Service Manager of the Year 2023 (Contact Center - Public Utilities))
 - －カスタマー・サービス・チーム・リーダー・オブ・ザ・イヤー2023 (コンタクト・センターー公益事業) (Customer Service Team Leader of the Year 2023 (Contact Centre - Public Utilities))
 - －カスタマー・サービス・プロフェッショナル・オブ・ザ・イヤー2023 (Customer Service Professional of the Year 2023)
 - ・コンタクト・センターー公益事業
 - ・サービス・センターー公益事業
 - ・テクニカル・センターー公益事業
 - ・コンタクト・センターー 2つの優秀認証
 - ・テクニカル・センターー優秀認証
- **HKRMAクオリティ・サービス・プログラム2023 (HKRMA Quality Service Programme 2023)**
 - 企業カテゴリー
 - －2023年エクセレント・サービス・リテイラー・オブ・ザ・イヤー (2023 Excellent Service Retailer of the Year) –フラッグシップ・ストア
 - －2023年クオリティ・サービス・リテイラー・オブ・ザ・イヤーー小売 (サービス) カテゴリー (2023 Quality Service Retailer of the Year - Retail (Services) Category)
- **HKRMAクオリティ・サービス・プログラム**
 - 2023年1月～2023年3月
 - －サービス・カテゴリー・リーダー (Service Category Leader) (小売 (サービス))
 - －サービス・インダストリー・リーダー (Service Industry Leader) : 金賞
 - 2023年4月～2023年6月
 - －サービス・カテゴリー・リーダー (小売 (サービス))
 - －サービス・インダストリー・リーダー : 金賞
 - 2023年7月～2023年9月
 - －サービス・カテゴリー・リーダー (小売 (サービス))
 - －サービス・インダストリー・リーダー : 金賞

- ・ **香港カスタマー・コンタクト・アソシエーション・アワード2023 (Hong Kong Customer Contact Association Award 2023)**
企業カテゴリー
 - －ミステリー・カスタマー・アセスメント・アワード (ブリック・アンド・モルタル) (Mystery Customer Assessment Award (Brick-and-Mortar)): ベスト・オブ・ザ・ベスト賞
 - －ミステリー・カスタマー・アセスメント・アワード (ブリック・アンド・モルタル) ー公共サービス及び公益事業: ベスト・イン・クラス賞
 - －ミステリー・カスタマー・アセスメント・アワードー公共サービス及び公益事業: ベスト・イン・クラス賞
 - －ミステリー・カスタマー・アセスメント・アワードー公共サービス及び公益事業: 金賞
 - －ミステリー・カスタマー・アセスメント・アワード (ブリック・アンド・モルタル) ー公共サービス及び公益事業: 金賞
 - －インバウンド・カスタマー・センター・オブ・ザ・イヤー (Inbound Customer Centre of the Year) ー公共サービス及び公益事業: 金賞
 - －ブリック・アンド・モルタル・カスタマー・センター・オブ・ザ・イヤー (Brick-and-Mortar Customer Centre of the Year) ー公共サービス及び公益事業: 銀賞
 個人カテゴリー
 - －ブリック・アンド・モルタル・カスタマー・コンタクト・プロフェッショナル・オブ・ザ・イヤー (Brick-and-Mortar Customer Contact Professional of the Year): 金賞
- ・ **ベストSMEパートナー・アワード2023 (Best SME' s Partner Award 2023)**
－ベストSMEパートナー金賞 (Best SME' s Partner Gold Award)
- ・ **香港スター・ブランド・アワード2023 (企業部門) (Hong Kong Star Brand Award 2023 (Enterprise))**

環境分野

16の賞

- ・ **香港グリーン・アワード2023 (Hong Kong Green Awards 2023)**
－持続可能調達賞 (大企業) ー供給業者協力及び技術革新 (Sustainable Procurement Award (Large Corporation) - Supplier Collaboration and Innovation)
- ・ **BOCHK 企業低炭素環境リーダーシップ・アワード2022 (BOCHK Corporate Low-Carbon Environmental Leadership Awards 2022)**
－製造セクター: 銅賞
- ・ **香港環境運動委員会 (Environmental Campaign Committee)**
－香港グリーン・オーガニゼーション
- ・ **香港グリーン・オーガニゼーション認証 (Hong Kong Green Organisation Certification)**
－エクセレンス・レベル・エネルギーワイズ認証 (Excellence Level Energywise Certificate): ラマ発電所
－エクセレンス・レベル・エネルギーワイズ認証: 送配電部門 (電力センター)
－エクセレンス・レベル・ウェイストワイズ認証 (Excellence Level Wastewise Certificate): 発電部門
－エクセレンス・レベル・ウェイストワイズ認証: 送配電部門
- ・ **室内空気質認証スキーム (Indoor Air Quality Certification Scheme)**
－エクセレント・クラス認証: 香港電力センター
－エクセレント・クラス認証: 電力タワー
－グッド・クラス認証: 電力センター
－グッド・クラス認証: ラマ発電所 (管理制御建屋)
－グッド・クラス認証: ラマ発電所 (新制御建屋)
- ・ **ワールド・グリーン・オーガニゼーション (World Green Organisation)**
－グリーン・オフィス及びエコヘルシー・ワークプレイス・アワード・レーベリング・スキーム (Green Office and Eco-Healthy Workplace Awards Labelling Scheme): 香港電力センター

- ・ フードウェイスト・リーン・アンド・グリーン・レーベル・スキーム (FoodWaste Lean and Green Label Scheme)
 - －フードウェイスト・リーン・レーベル：ラマ発電所社員食堂
- ・ カーボンケア・レーベル2023 (CarbonCare Label 2023)
 - －レベル4：香港電力センター
- ・ カーボンケア・スター・レーベル2023 (CarbonCare Star Label 2023)
 - －香港電力センター

品質／健康衛生／安全の分野

17の賞

- ・ **第22回香港労働安全衛生アワード (22nd Hong Kong Occupational Safety and Health Award)**
 - －労働安全衛生報告書アワード (OSH Report Award)：金賞
 - －労働安全衛生広報宣伝アワード (OSH Promotion Award)：銀賞
 - －労働安全行動アワード (Work Safe Behaviour Award)：銀賞
 - －気温上昇時労働安全衛生ベスト・プログラム・アワード (Best Program for Work Safety and Health in Hot Weather Award)：銀賞
 - －労働安全衛生向上プログラム・アワード (OSH Enhancement Program Award)：優秀賞
 - －安全実績アワード (Safety Performance Award) (全産業カテゴリー)：エクセレンス賞
 - －安全実績アワード (全産業カテゴリー)：殊勲賞 (Outstanding Award)
- ・ **第29回コンシダレート・コントラクターズ・サイト・アワード・スキーム (29th Considerate Contractors Site Award Scheme)**
 - －3つの現場監督企業賞 (Site Supervisory Company Award)
- ・ **2022-23年労働衛生アワード (Occupational Health Award 2022-23)**
 - －ジョイフル@ヘルシー・ワークプレイス・ベスト・プラクティス賞 (Joyful @ Healthy Workplace Best Practices Award)：大賞
 - －ベスト・プレゼンテーション賞 (Best Presentation Award)：金賞
- ・ **アウトスタンディング・レジスタード・エレクトリカル・コントラクターズ・コンペティション2023 (Outstanding Registered Electrical Contractors Competition 2023)**
 - －優秀賞
- ・ **第10回地域安全クイズ (The 10th Regional Safety Quiz)**
 - －企業カテゴリー：第3位
 - －企業カテゴリー：クリエイティブ賞
- ・ **誤警報防止アワード2022 (Prevention of False Alarms Awards 2022)**
 - －銀賞
- ・ **ハート・ケアリング・オーガニゼーション・アワード (Heart Caring Organization Award)**
 - －優秀組織

スタッフ

5つの賞

- ・ ユース・エンプロイメント・アンド・トレーニング・プログラム (YETP) モスト・インブルーブド・トレイニーズ2023 (Youth Employment and Training Programme (YETP) Most Improved Trainees 2023)
－YETPモスト・インブルーブド・トレイニー
- ・ 建設業アウトスタンディング・アプレンティス・アワード (Construction Industry Outstanding Apprentice Awards)
－クラフツマン・アプレンティス/トレイニー・カテゴリー：2023年建設業アウトスタンディング・アプレンティス
- ・ 第12回電力システムの制御・運営管理の発展 (APSCOM) に関するIET国際会議 優秀論文賞 (The 12th IET International Conference on Advances in Power System Control, Operation and Management (APSCOM) High-quality Paper Award)
－2022年優秀論文賞
- ・ 香港技術者協会 (The Hong Kong Institution of Engineers)
－2023年HKIE若手エンジニア/研究者優秀論文賞
- ・ 2022年アウトスタンディング・アプレンティス・アワード (2022 Outstanding Apprentice Award)
－2022年優秀アプレンティス・アワード (2022 Merit Apprentice Award)

II. 会長声明

本トラスト並びにHKエレクトリック・インベストメンツ社及びその完全子会社であるHEC社の2019-2023年度開発計画は、2023年度に無事完了しました。26.6十億香港ドルの青写真に基づき、3基の新設ガス火力発電設備と合併会社による海上液化天然ガス（LNG）ターミナルが建設されたことから、2024年度から本グループの天然ガス発電の比率を約70%まで拡大することが可能になり、香港市の炭素削減の取組に貢献できるようになりました。さらに本グループは、一連の社会的支援、並びにエネルギー効率向上及び省エネルギーに関するプログラムを実施しました。

本グループは、2024~2028年の期間の資本的支出を対象とする次の開発計画を進めることについて香港政府の承認を受けています。この計画では新たに22十億香港ドルを投資して、異常気象に耐えられるようにシステムの信頼性を維持しながら、香港市の開発に合わせて排出実績のさらなる改善と送配電網の強化に取り組む方針です。近年本グループは、香港特別行政区政府の香港大気清浄化計画2035（Clean Air Plan for Hong Kong 2035）及び香港の気候変動行動計画2050（Climate Action Plan 2050）を支援するため、インフラストラクチャ及び事業運営を新時代のより環境に優しいエネルギーへと体系的に移行させる計画を大きく前進させています。

また、2023年には、2019~2033年の15年間の本電力供給契約（SCA）に係る最初の間レビューが実施されました。この本電力供給契約は、グリーン・トランジションに対する投資のための安定的な規制上のプラットフォームを設定するものです。本グループは香港政府と緊密に協議を行い、エネルギー危機の期間中の新たな特別料金減免メカニズム（Special Tariff Relief Mechanism）及び電力供給の大規模な障害が発生した場合の罰則制度の導入に加え、一般市民に対する情報開示の透明性の向上について、本電力供給契約を修正することで合意しました。

電力供給の信頼性に対する重点的な取組にもかかわらず、2023年4月19日の夜半過ぎに予期せぬ電力供給障害が発生し、約44,000名の需要家が影響を受けました。本グループの回復システムが設計通りにスムーズに機能したことから、電力供給は33~48分以内に復旧しました。その後、本グループは徹底的な検査を行い、システムとプロセスの強化のための一連の改善を施しました。

財務成績及び分配

2023年12月31日に終了した会計年度における本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社のEBITDAは8,033百万香港ドル（2022年度：7,599百万香港ドル）、本株式ステーブル受益証券保有者に帰属する監査済利益は3,156百万香港ドル（2022年度：2,954百万香港ドル）となりました。

本トラスティ・マネジャーの取締役会は、本トラストの期末分配金を本株式ステーブル受益証券1口当たり16.09香港セント（2022年度：16.09香港セント）とすることを宣言しました。この分配金は、2024年4月8日現在で本株式ステーブル受益証券登録簿に記載されている本株式ステーブル受益証券保有者に対し、2024年4月17日に支払われます。この分配金額と本株式ステーブル受益証券1口当たり15.94香港セント（2022年度：15.94香港セント）の中間分配金を合わせた当会計年度の分配金総額は本株式ステーブル受益証券1口当たり32.03香港セント（2022年度：32.03香港セント）になります。

2019-2023年度開発計画の完了

新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大に続く大規模な混乱にもかかわらず、最新の380メガワットのガス火力発電設備であるL12の建設をもって、2019-2023年度開発計画に基づく全ての主要な資本建設工事が実質的に完了しました。材料及び人員の適時の移動に対する制限と現場におけるソーシャル・ディスタンス措置の中で効率的に作業を行ったチームは特に誇るべきものです。過去5年間にわたって本グループは、3基の新設ガス火力発電設備のL10、L11、L12を連続して建設するとともに、1基の旧式の非効率的なガス火力発電設備と2基の老朽化した石炭火力発電設備を廃用しました。

本グループは、発電用天然ガスの使用拡大を支えるため、ガス供給の安全性の向上だけでなく、競争的なガス価格を確保する能力の強化のためにも必要とされるインフラストラクチャを設置しました。すなわち、2023年7月に本グループは、CLPパワー・ホンコン・リミテッド（CLP Power Hong Kong Limited）とのパートナーシップに基づき、263,000立方メートルのLNG貯蔵容量を備えた香港で最初の海上LNGターミナルを稼働させました。このターミナルに到着したLNGは貯蔵され、18キロメートルの海底パイプラインを通過してラマ発電所に供給される前にガス化されます。

さらに本グループは、需要家基盤全体にわたって360,000個超のスマート・メータをAMI（advanced metering infrastructure）とともに設置しました。現在では本グループの需要家の約60%にスマート・メータが設置されており、これらの需要家は自分の電力使用パターンをより適切に理解し、それに従って省エネルギー行動を取れるようになっていきます。

次の段階のグリーン・エネルギーへの移行

本グループは香港政府の承認を受けて2024-2028年度開発計画を進めています。この計画の重要な資本プロジェクトには、十分な発電容量を維持しつつ、炭素及びその他の排出量をさらに削減するために、老朽化した石炭火力発電設備を別の新たなガス火力発電設備と置き換える計画が含まれています。供給信頼性の確保のため、本グループは、3基の高速起動可能な石油火力オープンサイクル発電設備を建設して、50年近く稼働している4基の同様の設備と置き換えるとともに、本グループの系統へのゼロカーボン電力の輸入が可能になるまで資本投資を最適化するため、2基の石炭火力発電設備の稼働期間を延長する計画です。

近年香港では、世界の多くの他の地域と同様に、異常気象と洪水の発生頻度が上昇しています。2017年の台風13号（Hato）、2018年の台風22号（Mangkhut）、2023年の台風9号（SaoIa）といった超大型台風が続いて、2023年9月には空前の豪雨に見舞われ、これまで洪水が報告されたことがなかった山腹に位置する数カ所の変電所で重大な水害が発生しました。これまで以上に深刻な異常気象に直面して、本グループは全ての送配電網資産の持続的な信頼性を確保するためのタスクフォースを設置しました。このタスクフォースは全面的なレビューを再度実施し、洪水制御や防風措置を含む異常気象に対するシステムの弾力性を向上させるプロジェクトを実施する予定です。

さらに本グループは、香港市の開発を支援するため、香港の南区及び東区に新設の送電変電所と配電変電所を建設する予定です。また、電力供給の信頼度と質の向上に向けた継続的な取組の一環として、変電所の老朽化した地下ケーブルと設備の段階的な交換とともに、高圧化が実施される予定です。

本グループは、電気自動車充電インフラストラクチャの設置を模索している香港政府、運送業界、不動産管理者に対して技術的助言及び評価サービスを提供しています。2020年の香港政府による自宅EV充電補助金制度（EHSS）の導入以後、本グループは、約53,000の駐車スペースについてEV充電インフラストラクチャの設置のためにEHSSの申請を行った約470件の民間住宅を支援しました。さらに2023年には、5,000超の駐車スペースをカバーする約100カ所のEHSS適用外の駐車場に対して技術的な助言を行いました。

国際的なコンセンサスと業界のベスト・プラクティスに合わせて、本グループは、3つの国際連合持続可能開発目標（SDGs）を、対応する内部目標とともに支援することを公約しており、その進捗状況は本グループの年次持続可能性報告書において報告されています。最新の状況を踏まえ、本グループの公約には追加のSDGsが盛り込まれています。

日常的な高いサービス水準の実現

COVID-19のパンデミックからの脱却に伴い、通常の経済活動が再開されたことに加え、気温が上昇したことから、電力消費量は増大しました。その結果、589,000名に拡大した需要家基盤に対する電力販売量は10,040ギガワット時（2022年度：9,941ギガワット時）に達しました。特筆すべきことに、4月に電力供給障害が発生したにもかかわらず、本グループは27年連続で99.999%超の供給信頼度の記録を維持することができました。

本グループは公約されている需要家サービス基準を全て達成し、需要家満足度の成績は5点満点で4.72点になりました。本グループは、紙使用量を削減し、エネルギー消費を最適化するため、需要家にオンライン及びモバイルのセルフサービス・チャンネルを利用することを継続的に呼びかけています。

固定価格買取制度は本グループの需要家の間で引き続き好評であり、2023年度には新たに160件の再生可能エネルギー・システムがHEC社の送配電網に接続されました。ラマ発電所における本グループ独自の太陽光発電システム、ラマ風力発電所、本グループの施設及びオフィス・ビルの屋上に設置された小規模の再生可能エネルギー設備を合わせて、当会計年度中に10百万単位超のグリーン電力が生み出されており、それらは全て再生可能エネルギー証書の形で本グループの需要家が引き受けています。

本グループは一連のスマート・パワー・サービスを通じて、150件超の建物におけるエネルギー効率向上とコスト節減のためのプロジェクトの実施を支援しました。そのうち6件の仮設住宅プロジェクトでは、約250世帯がエネルギー効率に優れた電気機器を購入できるよう支援しました。

技術革新に対する重点の強化に伴い、近年本グループは、信頼性と効率をともに向上させるため、業務全般にわたってデジタルトランスフォーメーションを進めています。送配電網の保守管理やプラントの運転等について、先進の解析、人工知能、ロボティクス、モノのインターネットの技術を導入するため、200件超のプロジェクトが実施されています。さらに本グループは、基幹システムをサイバー上の脅威から保護するためにサイバーセキュリティに関する方針と準備態勢を強化しました。

手頃な料金による電力の供給は、引き続き本グループの需要家に対する公約の重要な一部になっています。可能な限り透明性を維持しながら、国際的な燃料価格の変化を反映させるため、本グループの料金の燃料費調整による加算額の部分は毎月調整されています。このメカニズムの効果により、2023年度の下半期には料金を引き下げることができました。燃料費調整による加算額の減額に加え、HEC社と香港政府によるさまざまな電力補助金の支給の結果、2023年度における本グループの家庭用需要家に対する920,000件超の月次請求額が0になり、これは当会計年度中のHEC社の家庭用需要家向け請求書全体の約16%を占めています。

人々と環境に対する配慮

香港における主要な選ばれる雇用者として、本グループは新世代のエンジニアを電力セクターに勧誘することを優先課題としています。広範な研修制度と能力開発の機会に加えて、本グループは中国本土における採用の推進を通じて人材プールの拡大にも取り組んでいます。従業員が新時代のエネルギー供給に必要とされる新たな技術、設備、方法を活用するスキルを向上させることができるように、採用、研修及び人材維持に関する戦略の策定が進められています。

本グループのケアと支援は、小規模企業と弱い立場の人々を支援することを2つの主要な優先課題として、より広範なコミュニティが常態に復帰することを援助しています。本グループは「ケアと共有 (Care and Share)」飲食クーポンの配布を通じて小規模の外食業者と飲食店を引き続き支援するとともに、小規模企業に対してエネルギー効率に優れた設備又は脱炭素化関連設備の設置のための補助金を支給しています。COVID-19に伴う制限が全て撤廃されたことを受けて、本グループはNGOパートナーと協力してコミュニティ活動の再開に取り組んでおり、一人暮らしの高齢者の家庭訪問と小旅行を計画するとともに、そのような高齢者が再びコミュニティとつながることを促進しています。

香港のエネルギー・セクターの重要な一員として、本グループは、一般市民と若い世代におけるエネルギー効率向上と省エネルギーや低炭素のライフスタイルを振興する責任があると考えています。当会計年度には、グリーン・ホンコン・グリーン (Green Hong Kong Green) やハッピー・グリーン・キャンペーン (Happy Green Campaign) 等の確立されたイニシアチブを通じて、数万人の参加者の間に環境意識と環境に関するメッセージが周知されました。

過去5年間に本グループは、香港市がよりスマートで環境に優しい都市へと円滑に移行するように、支援を必要とする人々とさまざまな事業セクターをサポートするために約300百万香港ドルを拠出しました。来年度に向けて、弱い立場の人々を引き続き支援するとともに、エネルギー効率向上と省エネルギー、及び二酸化炭素排出量の削減方法を振興するために55百万香港ドル超の予算が計上される予定です。

展望

2024年の香港経済の見通しについて本グループは、企業及び社会の活動がパンデミック前の水準に向かって緩やかに回復していることから、慎重でありつつも楽観的に考えています。本グループは香港市の開発と脱炭素化の取組の支援のために必要とされるインフラストラクチャの建設に取り組んでおり、その概要は新たな開発計画に示されています。本グループの事業は、利害関係者、需要家及び環境のために持続可能な最適の実績を達成するように厳格に管理されます。

2024年の本グループの標準電気料金は、広範な資本建設工事が計画されていることから電力量当たり5香港セントの引上げを余儀なくされ、119.5香港セントになったものの、国際的な燃料価格の下落に伴い、燃料費調整による加算額は減額されています。その結果、2024年1月の純電気料金は、2023年1月の水準から16%引き下げられて電力量当たり165.5香港セントに設定されました。

2024年に本グループの総電気出力に占めるガス火力発電の比率は約70%に上昇する見通しです。天然ガスの使用拡大の結果、燃料費は増加が見込まれるものの、海上LNGターミナルにより世界中から競争的な価格でガスを輸入可能になり、本グループが締結している現行の長期的なガス輸入契約は増強される見通しです。地政学的な緊張の持続を踏まえて、燃料価格は短期的な変動が予想されます。

将来的に本グループは、2035年までに香港市の二酸化炭素排出量を2005年の水準と比較して50%削減する目標の達成を支援するため、本グループの全ての業務における炭素排出量の削減を重要な優先課題としています。同時に本グループは、ゼロカーボン・エネルギーの利用拡大に向けた香港政府の政策的な方向性を支持しており、送配電網の安定性を維持しながら、ゼロカーボン電力を国境を越えて安全に輸入する方法について、先を見越して計画し、研究を行っています。

最後に、本グループの成功にとって不可欠な献身とスキルを捧げている全ての従業員に感謝します。

フォク・キン・ニン、カニング

会長

香港、2024年3月19日

III. 最高経営責任者による報告

事業レビュー

最初に、本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社を代表して、長期の勤続を経て2023年7月1日付でHKエレクトリック・インベストメンツ社の最高経営責任者及びHEC社のマネージング・ディレクターを退任したワン・チー・ティン氏に感謝の意を表す。同氏のヴィジョンとリーダーシップの下で、本グループは需要家サービスと信頼性について世界最高の電力会社の1つとなり、グリーン・エネルギー供給企業への転換に着手した。

ワン氏の後継者として、同氏の業績を礎として、従業員の支援と協力を得て、全ての利害関係者の持続可能な成功を確保しつつ、HEC社のゼロカーボンへの移行の実現に努めていく方針である。

香港のエネルギー移行構想の進捗

2023年度に本グループは、グリーン・エネルギー戦略を進めるとともに、信頼できる安全で手頃な料金の電力を供給することを通じて、香港がCOVID-19後の経済回復の遅れから脱却できるよう支援することを優先事項に掲げた。

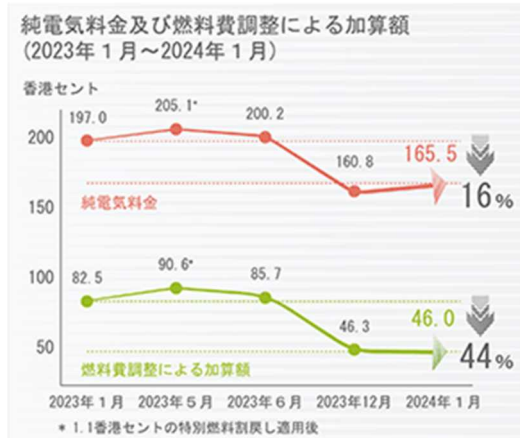
2023年度は、2019-2023年度開発計画の完了に伴い、HEC社がより環境に優しいエネルギーに向けて進展するための節目の年となった。この開発計画に基づき、本グループはガス火力発電能力拡大のために26.6十億香港ドルの投資を行った。その結果、3基の380メガワットのガス火力コンバインドサイクル発電設備の新設により、2024年度から本グループのガス火力発電の比率を約70%まで引き上げることが可能になっている。また、2023年7月には、本グループのガス火力発電体制における主要な資産として、香港で最初の海上液化天然ガス(LNG)ターミナルが稼働したことにより、世界のどの地域からでもLNGを調達可能になった。

過去5年間に建設されたインフラストラクチャを通じて、本グループの炭素排出量は2018年の水準と比較して21%削減されている。

本グループは、新たな2024-2028年度開発計画に基づき、クリーン・エネルギーへの移行を継続するとともに、最高水準の供給信頼度を確保するための投資を行って行く方針である。この期間中に本グループは、炭素排出量削減能力を強化し、老朽化した石油火力発電設備を置き換え、電力供給信頼性を確保するために送配電網を強化し、異常気象に対するシステムの弾力性を向上させるために、22十億香港ドルの投資を行う予定である。

2023年にCOVID-19の影響からの経済の回復は予想を下回るペースになった。燃料価格は歴史的な高水準から下落したものの、依然として通常の水準を上回っている。当会計期間中の優先課題として、弱い立場にある需要家と小規模企業を支援するため、手頃な料金で電力を供給することが挙げられる。消費量が少ない家庭用需要家に対しては、経済的な苦境を緩和するために電力量当たり9.5香港セントの特別電力補助金が支給されるとともに、2023年5月には、燃料価格高騰の影響を緩和するため、全ての需要家に対して電力量当たり1.1香港セントの燃料特別割戻しが実施された。

電力インフラストラクチャの改良及び強化工事から生じた資本投資に加え、営業費用の増加により、標準電気料金に圧力がかかっている。2024年度の標準電気料金は電力量当たり5香港セント引き上げられて119.5香港セントとなった。2024年度には天然ガスの使用量が増加すると予想されているが、国際的な燃料価格の下落の結果、燃料費調整による加算額(FCC)は減額される見通しであり、2024年1月のFCCは2023年1月の水準から44%減少して電力量当たり46香港セントとなった。このFCCの大幅な減額により、2024年1月の純電気料金は前会計年度比で16%引き下げられて電力量当たり165.5香港セントとなった。



2023年に本グループの15ヵ年本電力供給契約に対する最初の間接レビューが実施された。本グループは香港政府と緊密に協議を行い、エネルギー危機の場合の特別料金減免メカニズム及び大規模な電力供給障害が発生した場合の罰則制度を導入するように本電力供給契約を修正することで合意した。さらに、一般市民に対する情報開示の透明性の向上が盛り込まれる予定である。

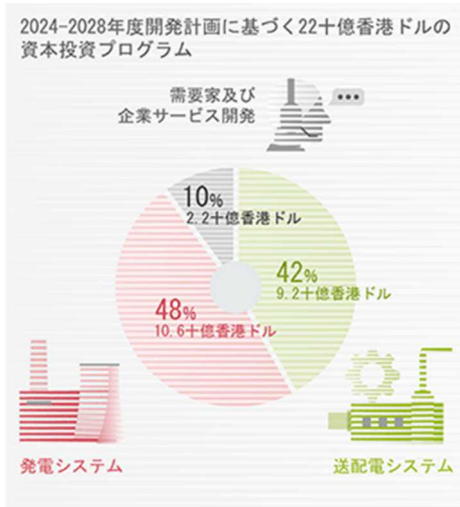
ガス火力発電への着実な移行

2019-2023年度開発計画に基づく第3かつ最後の380メガワット・ガス火力コンバインドサイクル発電設備であるL12が建設された。2023年9月にL12の同期作業が無事に行われ、加熱試運転、性能及び信頼性試験の完了後、2024年前半に発電設備が稼働する予定である。ほぼ同時期には、旧式の石炭火力発電設備であるL4の廃用が行われている。

2024-2028年度開発計画に基づき、本グループは、特にガス火力発電容量をさらに拡大するために10.6十億香港ドル近くの投資を行う予定である。ラマ発電所において計画されているプロジェクトには、旧式の石炭火力発電設備を新設のガス火力発電設備に置き換えることが含まれている。新たなガス火力発電設備が完成すると、本グループのガス火力発電設備は5基になり、燃料構成においてガスが最大の比率を占めるようになることで、2035年までに炭素排出量を2005年の水準から半減させるという香港政府の中間目標の達成に貢献することができる。この開発計画には、不測事態に対応するため、3基の高速起動可能な石油火力オープンサイクル発電設備を建設して4基の同様の設備と置き換えることが盛り込まれるとともに、将来あり得るゼロカーボン・エネルギーの輸入に備えつつ、資本的支出を最適化するため、予想されるゼロカーボン・エネルギー輸入の直前まで2基の石炭火力発電設備の稼働期間を延長するための工事も含まれている。

並行して、広範なイニシアチブにより送配電網を強化するために9.2十億香港ドルの投資が行われる予定である。そのようなイニシアチブには、香港の東区及び南区における新たな電力需要並びにその他の地域における需要に対応するための3つの新設のゾーン変電所の開発の着手を伴う送電網の拡充に加え、変電所における老朽化した地下ケーブルと施設の段階的な交換が含まれている。

本グループは、遠隔制御及び監視システムの更新と改良に加え、グリッド・インテリジェンスとオートメーションの強化を通じたスマート・グリッドへの進化に引き続き取り組んでいく方針である。



もう1つの重要な重点課題は、洪水制御や防風措置等、頻度が増している異常気象に対応したシステムの弾力性の改善である。気候変動によってもたらされた事業上の課題に対処するため、本グループは内部タスクフォースを立ち上げて、現行の設計基準の見直し、重要インフラストラクチャ資産の特定、弾力性向上のための措置の策定に当たらせている。このタスクフォースは、気候変動に関する政府間パネルが発行した第5次評価報告書及び過去に香港で発生した異常気象を参照して、本グループの重要インフラストラクチャに対する多数の強化策、気候変動対策に関する新戦略、不測事態対応計画の強化策を策定した。

2023年末までに本グループは、需要家基盤の60%をカバーする合計360,000個超のスマート・メータを設置した。ラストマイル通信ネットワークの設計と展開を支援するため、518,100個超のメータをカバーする区域について現地調査が完了している。AMIシステムは性能向上のための改良が施されており、スマート・メータから受信したデータは、メータが正常に機能していたことを確認するために分析されている。2024-2028年度開発計画に基づき、2025年までにこのイニシアチブは完了し、本グループのサービス・エリアの100%にスマート・メータが設置される予定である。その結果、需要家は、ウェブサイトやモバイル・アプリを通じて自分の使用パターンをより適切に監視及び理解し、必要に応じてエネルギーの使用を最適化することができるようになる。

海上LNGターミナル：香港における新エネルギー時代の到来

2023年7月に、香港における低炭素発電事業を支える香港で最初の海上液化天然ガス（LNG）ターミナルが稼働したことから、本グループは、香港市のエネルギー転換を支援するクリーンな燃料の供給を確保できるようになっている。

ラマ発電所と海底パイプラインを介して接続される浮体式貯蔵・再ガス化設備（FSRU）船舶の「バウヒニア・スピリット（Bauhinia Spirit）」号は、全長345メートル、LNG貯蔵容量263,000立方メートルの世界最大のFSRU船舶である。COVID-19に起因する制限と物流上の制約により、海外の専門家の来訪に影響を及ぼす旅行の制限と輸送の遅延、及び悪天候等のその他の問題を克服する必要があるが生じたものの、業界横断的な専門家のチームの共同作業により、プロジェクトは無事に完了した。

2023年9月21日にターミナルの進水を祝して大規模な進水式が開催された。この式典は、香港特別行政区行政長官のジョン・KC・リー（John KC Lee）氏、香港環境及び生態局長のツェ・チン・ワン（Tse Chin-wan）氏、CKハチソン・ホールディングス・リミテッド会長のリ・ツアー・クォイ、ヴィクター氏、及びCLPホールディングス社長のマイケル・カドゥーリー（Michael Kadoorie）氏を来賓として執り行われた。

式典のスピーチにおいて、行政長官は、社会と経済の開発のスムーズな運営における安全で安定的なエネルギー供給の重要性を強調するとともに、香港の人々の精神を反映する本プロジェクトに携わった全ての人々の団結、協調、不屈の精神の賜物である「バウヒニア・スピリット」号に敬意を表した。

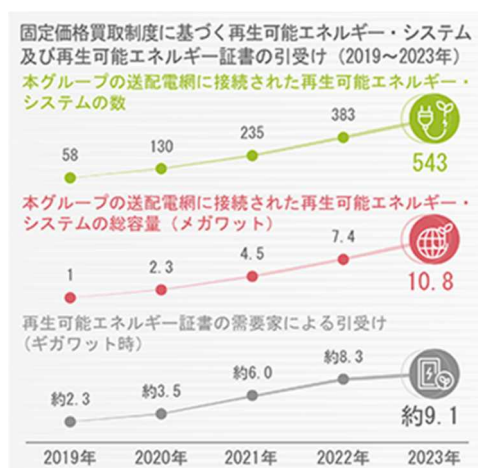
この海上LNGターミナルは、本グループがより広範で直接的な国際LNG市場にアクセスすることを可能にする、単なるインフラストラクチャをはるかに超える存在である。このターミナルは、香港市のエネルギー転換を支援する香港のエンジニアリング能力の誇るべき象徴として存在するものでもある。

このターミナルに到着したLNGは、再ガス化のために浮体式貯蔵・再ガス化設備船舶（FSRU）に荷揚げされる。

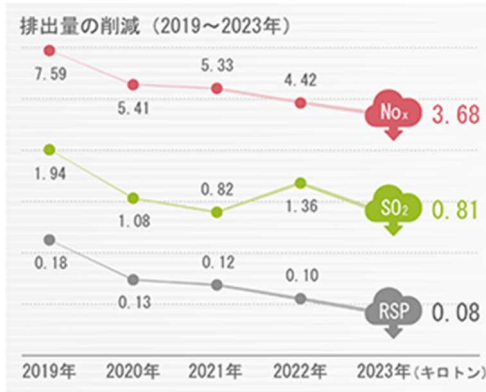
優れたサービスと事業運営

最先端の新たなガス火力コンバインドサイクル発電設備とインフラストラクチャにより、信頼できる電力供給が維持されている。2023年度に本グループは、香港島及びラマ島における589,000超（2022年度：586,000）の需要家にサービスを提供し、主として当会計年度における通常の経済活動の再開と気温の上昇により、合計で10,040ギガワット時（2022年度：9,941ギガワット時）の電力を販売した。

2023年度における送出電力の約56%がガス火力発電から生み出されており、この比率は、L12が全面的に商業運転を開始した暁にはさらに上昇して約70%に達する見通しである。本グループの太陽光発電事業は、香港島及びラマ島全域におけるHEC社の施設及び変電所の屋上に設置された高効率単結晶光起電性パネルにより合計1.2メガワットまで拡大されている。2023年度に本グループの太陽光発電システム、ラマ風力発電所、及び550カ所超の需要家側のシステムから送配電網に供給された再生可能エネルギーは合計で10ギガワット時超に達した。



ラマ発電所では、ガス火力発電設備における排出窒素酸化物（NO_x）の選択触媒還元装置、並びに石炭火力発電設備用の低NO_xバーナー、排煙脱硫プラント及び高効率電気集塵装置を含む、高度の信頼性と精度を備えた最新の汚染物質対策設備の運用によって汚染物質の排出量を法定上限値を大幅に下回る水準に抑えている。その結果、二酸化硫黄（SO₂）、NO_x及び浮遊粒子状物質（RSP）の排出量は、2022年度の水準から、それぞれ、40%、17%及び20%削減され、2018年度比では72%、53%及び60%の削減となっている。



ワールドクラスの供給基準の維持

2023年4月19日に発生した予期せぬ電力供給障害により約44,000名の需要家が影響を受けたにもかかわらず、本グループは27年連続で99.999%超の供給信頼度を達成した。

この供給障害の発生後、本グループの調査報告書において7つの分野における勧告が提示され、発送配電網全体にわたって実施された。これらの勧告には、位置識別ラベルと回路図の更新のためのドキュメンテーションの拡充、送電設備の試運転に係る手順の改善、発電設備のフォルトライドスルー能力の強化と予備ケーブル回線の再配置が含まれている。さらに、新たなガイドラインが導入され、エンジニアの現場研修が拡充された。

2023年にラマ発電所では2件の重大な火災が、1件はプラントの解体中に、もう1件は保守作業中の石炭船揚炭機において発生した。いずれの火災についても徹底的な調査が行われ、今後同様の火災を発生させないために是正及び管理措置が実施された。

その他には、ノース・ポイント132キロボルト開閉所において、2024年末の稼働に向けて、老朽化した132キロボルト・ガス絶縁開閉器（GIS）を新型のコンパクトなGISと交換し、関連する制御及び保護リレー・パネルを設置することを含む改良工事の最終段階が順調に進められている。

電力供給障害や大規模で重大な事象が発生している間も電力供給を確保するため、数多くのプロジェクトが実施されている。これらのプロジェクトには、ディーゼル発電機と比較して騒音と排ガス排出量を最小限に抑えるためにバッテリーで動作するエネルギー貯蔵トラックと電力切替トラックで構成される、環境に優しい可動式電力供給システムの導入が含まれる。このシステムは、650件超の小規模世帯に最大で2時間連続して電力供給を行うことが可能である。

2024-2028年度開発計画において、本グループは送配電網の強化を継続するとともに、特定された脆弱性のある分野に対処する軽減措置を実施する予定である。本グループは、ステート・グリッド・コーポレーション・オブ・チャイナの子会社であるNARIグループ・コーポレーション（NARI Group Corporation）と共同で、電力網の運営を最適化すべき追加の分野を特定し、完全自動化の達成に向けた電力システム全体の遠隔監視の改善と、ゼロカーボン電力の輸入計画の事前策定に取り組む方針である。

異常気象時の弾力性のある電力供給の確保

2023年9月及び10月の黒色暴雨警報（black rainstorm warning signal）が発せられた水害において、需要家に対する緊急支援が以下の通りに実施された。

- － 電力供給の復旧のために動員された従業員数：146名
- － 各緊急支援シフトの時間／緊急支援業務の最長時間：12時間／19時間
- － 屋外緊急支援業務の回数：20回
- － 需要家緊急時サービスセンターが受けた支援要請電話の数：277件
- － 対象期間：2023年9月7日23時05分～2023年9月8日15時40分、及び2023年10月8日12時40分～2023年10月9日11時40分

2023年9月に香港は2日間の歴史的な豪雨災害に見舞われ、降水量は過去最高の月間1,000ミリ超に達した。1ヵ月後の10月には台風14号（Koinu）が襲来し、例年を4倍上回る降雨量をもたらした。この2回の豪雨により香港全域で広範な洪水が発生した。

洪水により、本グループの配電変電所の設備とケーブルが故障し、電力供給障害を惹き起こすおそれがある。これを防止するため、本グループは、供給信頼性を確保するためのバックアップ・システムを備える一連の洪水対策インフラストラクチャに対する組織的な投資を行っている。ケーブルの引込口は浸水を防ぐためにシーリング処理され、開閉器の交換及び架台への設置を含むその他の強化工事が実施された。本グループは2段階の洪水警報を設定しており、これは対応指令センターにおける人間による確認によって補完されている。これらの予防措置により、9月の豪雨時に変電所が浸水した29件のうち19件では電力供給障害なしで機能を維持した。残りの10件の大部分は洪水の記録がなかった山腹の近辺に位置していたが、浸水の影響を被った装置は直ちに修理され、電力供給は可及的速やかに復旧した。10月の洪水時には全ての変電所が適切に機能した。

緊急時の需要家に対するケアは、本グループのサービスにおける最優先事項の1つである。本グループの需要家緊急時サービスセンターは、24時間体制の緊急通報電話及びSMSサービスを需要家に提供している。このサービスは、サービス障害を被った需要家に対して常時即応体制で支援を提供する経験あるエンジニアリング・スタッフの緊急対応チームによって補完されている。

石澳の住民に対する海上からの支援

2023年9月及び10月の洪水時に石澳道（Shek O Road）が崩落し、通行不能になったため、需要家が緊急支援を要請した場所に車両で駆けつけることができなくなった。そのような事態にもかかわらず、本グループのエンジニアと技術者のチームは、必要とされるツールと装備、その他必要な品々を携えてボートで出発し、その後、香港政府の消防隊員の支援を受けて石澳村（Shek O Village）まで30分かけて徒歩で向かった。緊急修理を行った後、チームは大浪湾村（Big Wave Bay Village）に赴いて現地住民の支援を行い、その後電力供給は復旧した。

深刻な異常気象の発生頻度が上がると見込まれることから、2018年に本グループは、全ての送配電網資産の信頼性を確保するためのタスクフォースを設置した。このタスクフォースは、異常気象に対するシステムの弾力性を向上させるため、洪水制御や防風措置等の多数のプロジェクトの実施を監督している。9月及び10月の豪雨災害で得られた経験を活用して、タスクフォースは引き続き、本グループのシステムの洪水に対する弾力性を強化するための改善計画を策定していく予定である。

さらに2022年には、超大型台風襲来時のHEC社の施設に対する洪水のリスクと深刻度を評価するために送配電網全体の調査が実施された。この調査では、気候変動と台風の強度の上昇により2100年までに予想される海水位の上昇が考慮されている。調査結果に基づき、本グループの既存施設の洪水及び越波の影響に対する弾力性を強化するための措置が策定された。加えて、2023年には、気候変動対策の規定を盛り込んだ新規施設の設計に関する新ガイドラインが策定された。

本グループの広範な不測事態対応及び電力復旧計画では、異常気象によって生じた混乱後の電力システムの迅速かつスムーズな回復のために行うべき行動とプロセスの概要が示されている。これらの計画は定期的に見直され、更新されている。

防災訓練は、常に危機対応準備の不可欠な一部になっている。2023年に本グループは、香港機電工程署（EMSD）、警察、救急サービス部門、香港病院管理局（Hospital Authority）とともに、地域的な電力供給障害事例を想定した大規模訓練に参加した。この訓練は、本グループの通信及び報告メカニズム、業務スタッフの緊急時動員、フィールド・コマンド・センター（Field Command Centre）の通信設備、情報伝達構成、経営陣及びコマンド・センターに対する内部報告手段のストレステストとなった。

デジタルトランスフォーメーションと技術革新

本グループは、ガス火力発電インフラストラクチャに対する投資と並行して、効率向上とリスク低減のためにデジタルトランスフォーメーションに対して着実に投資を行っている。本グループは、ラマ発電所と送配電網全体にわたってオートメーションとロボティクスを展開するとともに、さまざまな用途で5G及びモノのインターネットの技術を使用している。本グループの24時間稼働のシステム管理センターは、エネルギー管理システムと配電管理システムを通じて送配電網全体を監視し、調整している。

当会計年度中に実施された先駆的なイニシアチブの1つは、サイバーポート（Cyberport）と華富（Wah Fu）の間のケーブル・トンネル内部のロボット検査システムの開発であり、これには、職場の安全強化と業務効率向上を目的として、現地電気通信事業者と連携して展開した5GとWi-Fiのハイブリッド・ネットワークが使用された。このロボットは内蔵の赤外線及びHDカメラとガス検知器を使用してルーティン検査と臨時検査を自律的に行い、自動的にデータを収集及び分析して異常を検知する。加えて、このロボットはまた、エンジニアがトンネルの密閉された空間に入る前の立入前検査を支援することができる。この革新的な技術は、香港通信事務管理局弁公室（Office of the Communications Authority）の5G早期開発振興補助金制度（Subsidy Scheme for Encouraging for Early Deployment of 5G）の補助金の支給を受けている。

本グループは、香港信頼性・安全向上センター（Centre for Advances in Reliability and Safety）と共同で本グループの11キロボルト・ケーブルの健全性を評価するためのソフトウェア・モデルを開発した。この特別に開発されたモデルは、人工知能技術と過去のケーブル試験記録を使用して、11キロボルト配電ケーブルの故障の危険がある部分を予測するものである。

本グループの多くの施設は高リスクの環境にあり、本グループは、エンジニアリング・スタッフの健康と安全を確保するために自動化技術を組織的に展開している。

フェリーのプロペラや高所にあるプラント施設等の高リスクの区域及び設備の検査にはドローンが広範に使用されている。2023年7月に本グループは、深セン水域の大鵬液化天然ガスターミナル（Dapeng Liquefied Natural Gas terminal）近傍の3キロメートルの海底天然ガス・パイプラインを検査するためにドローンを配備した。さらに本グループは、貯炭所の検査のためにドローンを用いた3Dレーザー走査を利用することで、データ分析を含む検査に必要な期間を7日間からわずか2日間に短縮した。このようなドローン検査により、従来の検査方法に比べて安全性が向上し、コストが削減され、効率が向上している。

オートメーション、ロボティクス、関連技術の採用拡大に伴い、ますます洗練され、損害が大きくなりつつある一連のサイバー攻撃から基幹的なITインフラストラクチャの安全を確保することがこれまで以上に重要になっている。本グループは、強力で弾力性がある情報・サイバーセキュリティ態勢を維持するための人員、プロセス、技術に対する投資に高い優先度を与えている。

本グループは、多層防御戦略によって裏付けられた包括的なサイバーセキュリティ管理枠組と情報セキュリティ管理システムを通じて、サイバーセキュリティ制御の多層的な統合を促進している。これらの枠組とシステムを通じて、本グループのシステムと需要家をサイバー攻撃から先を見越して保護することが可能になっている。2023年に本グループは、セキュリティ措置をベスト・プラクティスに合致するように見直し、更新した。年次サイバーセキュリティ評価では、本グループ独自の防御措置が侵入テストとリアルタイム・シミュレーションを用いてテストされ、特定された改善措置が実施された。従業員のサイバーセキュリティ意識を高めるため、ワークショップ、講演会、ビデオ上映、クイズ、訓練が実施されている。

技術革新の精神の擁護

技術革新は本グループの事業の要となっている。2018年から本グループが設定している公式の技術革新戦略は、本グループのチームが問題を解決したり、物事を行ったりする新たな方法を案出することを促し、情報を与え、支援することを通じて、技術革新の風土を奨励することを目的としている。

HEC社の技術革新委員会は、技術革新戦略を設定及び監督し、大規模及び小規模の双方の適格プロジェクトを振興し、そのようなプロジェクトに資金を提供している。同委員会は、現在までに組織全体にわたって200件超のプロジェクトの実施を監督し、成功させている。

技術革新の成果を表彰し、文書化することにより、他の従業員にその成果を踏まえて行動するように促すことになる。2年に1回の授賞コンテスト及びオンライン・フォーラムのイノ・ハブ（Inno Hub）は、これらの従業員にプラットフォームを提供している。イノ・ハブは、全範囲のコンテンツを1つにまとめることで、欠点の克服と改善に関する革新的なソリューションの創出を促すものである。イノ・ハブを通じて、従業員はさまざまな開発段階におけるプロジェクトに関する実践的な情報と更新情報にアクセスすることができる。アイデアの案出を刺激し、参照用のベスト・プラクティスを提供するため、イノ・ハブはHEC社内及び他社における成功事例を記載している。

2023年度においても本グループは技術革新の取組を延長しており、40名を超える外部のゲストと講演者を招き、約300名の従業員が参加して技術革新会議が成功裏に開催された。この会議のテーマは「境界を超える技術革新（Innovating Beyond Boundaries）」であり、参加者は官民双方のセクターにおける成功したプロジェクトからインスピレーションを得るとともに、経験を共有することができた。このイベントのスピーチにおいてHEC社のマネージング・ディレクターのチェン・チョー・イン、フランシス氏は「我々の究極の目的は、日常業務における効率と生産性をさらに向上させ、需要家のために安定した信頼できる電力供給を確保することである」と述べている。

さらにHEC社の従業員は、この会議において自らの成功体験を披露した。それらの従業員のプロジェクトの多くは組織の異なる部局が共同で実施するものであり、それらの部局の共同作業の結果、素晴らしい成果が達成された。そのような成果の一例として、ビッグデータ解析を使用した電力ケーブルの状態評価法の開発が挙げられ、これにより4年間でケーブル故障が30%超減少した。

技術革新は、HEC社の事業のあらゆる側面にわたってプラスの影響を与えている。第一線における技術革新は需要家サービスの改善につながるとともに、セルフサービスを支援している。同時にバックオフィス業務も恩恵を受けている。例えば、設備やスペアパーツにアクセスする方法をスマート化することで、労働安全と業務効率が向上している。さらに、本グループの従業員は、NGOと協力して弱い立場の人々の支援する方法を促進及び合理化するためのオンライン・プラットフォームや、炭素排出量削減のために建設現場でより環境に優しいエネルギーを使用可能にするためのオンライン・プラットフォームを考案している。

技術革新の風土は、議論とアイデアが自由にやりとりされるときに最も真価を発揮する。このことを念頭に置いて、2023年度HEC社技術革新報告書では、本グループの技術革新の道筋におけるあらゆるアイデアとソリューションが文書化されている。この報告書は自由に閲覧して活用することが可能である。

高いサービス基準の維持

2023年度に本グループは引き続き最高水準の需要家満足度を達成しており、18の公約されているサービス基準を全て満たすか、それを上回る実績を上げている。アフターサービス調査を通じて測定された需要家満足指数は5点満点で4.72点となり、2,100件の賛辞が寄せられている。

現在需要家は、改善された電話対応フローに従ってサービスホットラインに電話することで、より効率的で合理的なサービスを受けることができる。このフローは、カスタマー・サービス・エグゼクティブ（Customer Services Executive）に接続して処理を受ける前に、アカウント開設に関する基本的な情報やその他の質問事項について準備しておくように需要家に促すものである。

さらに本グループは、予約時間の厳守並びに接続及び提供実績に関する実績目標を達成している。本グループは、検査スタッフの予想到着時間を記載したSMS通知により需要家に適切な情報を常時提供している。

HKエレクトリック・アプリはさらに改良されており、消費量記録の表示が改善されるとともに、パスワードのリセットがより容易になっている。アプリのさまざまな機能の使用方法和アカウントオンライン（AOL）サービスの登録方法を需要家に説明する一連のビデオが提供されている。さらに本グループは、環境に優しい低炭素のライフスタイルを奨励する取組の一環として、AOLサービスを通じて電子請求書に移行した需要家にインセンティブを提供している。

利害関係者との間のコミュニケーションを強化するため、2023年3月に本グループの企業ウェブサイトが更新されており、外観が一新され、機能が改善されるとともに、コンテンツが増強された。

香港の二酸化炭素排出量の削減

香港の気候変動対策の取組を支援するため、2019年から本グループは、エネルギー効率向上及び省エネルギーの奨励、並びに再生可能エネルギーの域内開発の振興を目的として、一連のスマート・パワー・サービスを運営している。現在までに本グループは、再生可能エネルギー、脱炭素化、電化を支援するプロジェクトに財源と技術的専門知識を提供するため、約300百万香港ドルを投資している。これらのプロジェクトは、建物に加え、現在社会で不利な立場に置かれている人々を対象としている。

2023年度に本グループは、スマート・パワー・ケア基金、スマート・パワー・ビルディング基金、及び特に人気のある固定価格買取制度について、商業セクターと家庭用セクターの双方からの約2,200件の問合せを処理した。160の新たな需要家側の再生可能エネルギー・システムが送配電網に接続された結果、送配電網に接続された需要家の再生可能エネルギーの総容量は約10.8メガワット、年間出力は8ギガワット時にそれぞれ増加した。建設現場のためのスマート・パワー（Smart Power for Construction Site）サービスに基づき、本グループは、2023年の建設ライフサイクルを通じて炭素排出量の削減を支援するため、10カ所の建設現場に対して送配電網からの電力供給を適時に行った。

スマート・パワー・サービスの枠組の下で、電気輸送機関に対する長期的な支援策として、無料のスマート・パワーEV充電ソリューション（SPECS）サービスが実施されている。このサービスの開始以後、本グループは、約470名の需要家が自己の駐車場に電気自動車（EV）の充電を可能にするインフラストラクチャを設置するために自宅EV充電補助金制度（EHSS）に基づく政府補助金を申請することを支援した。2023年には同制度に基づいて20カ所の駐車場にEV充電可能なインフラストラクチャが設置された。当会計年度を通じて、本グループはまた、公共駐車場やガソリンスタンドの運営事業者を含む約100名のEHSS適用外の需要家に対し、EV充電施設の計画立案及び設置について技術的支援を提供した。

SPECSのソリューションに加えて、本グループは香港島全域で12カ所の無料EV充電スタンドを運営しており、2023年度には47,452回の充電を提供した。本グループは引き続き、充電施設の設置を模索している民間施設、香港政府、公共交通機関運営事業者に対して助言サービスと技術支援を提供している。

本グループは179両のEV社用車（ラム発電所における1両の電気バスを含む。）の使用により、2022年度と比較して燃料消費量を4,500リットル超削減した。

2023年度に本グループは、日常業務のあらゆる点においてエネルギーを節約し、廃棄物と炭素排出量を削減する取組を継続した。本グループは、最新のISO 14001及びISO 50001の要件に合致した環境及びエネルギー管理システムに基づき送配電網全体にわたって優れた環境実績を達成した。21の環境管理プログラムの実施を通じて、前会計年度比3百万香港ドル超が節減された。

本グループは事業全体を通じて廃棄物の再利用とリサイクルに取り組んでいる。微粉フライアッシュや石膏等の発電の副産物は産業用の別目的で使用されており、2023年度には約3,600リットルの廃油が揚炭機のチェーンの潤滑剤として再利用された。さらに109,000立方メートル超の雨水及びプラント処理水を収集して再使用した結果、ラム発電所における上水の消費量が7%削減された。

ラム発電所における4件の建物は建物管理システムを通じて制御及び監視されている。これらの建物のうちの1つに対する大規模な復性能検証プロジェクトでは、省エネルギー措置が実施されるとともに、空調及び温水供給システムの制御が強化された。このプロジェクトの結果、電力消費量は2021年度比で20%節減された。

さらに本グループは、従業員の健康的な労働環境を確保するため、オフィス・ビルの室内空気質（IAQ）の改善に取り組んでいる。2023年度に香港電力センターは、19年連続で香港政府からエクセレント・クラスIAQ認証を取得している。電力タワーや電力センターのカスタマー・センター等、その他の建物も同じ認証を取得している。

持続可能性レビュー

本グループは業務活動における透明性と包摂性を実現する。

本グループは環境を保護し、コミュニティとのパートナーシップにおける伝統を守る。

本グループは実際に影響を与えることができる分野でコミュニティや団体を支援する。

本グループはやりがいがある安全な労働環境を提供する。

持続可能で弾力性のあるコミュニティの支援

責任ある倫理的なアプローチは、最大規模の戦略的イニシアチブから日常業務の細目に到るまで、本グループの事業運営のあらゆる面に組み込まれている。本グループは、気候変動等の世界的な課題に対処する責任を自覚している。本グループの取組の指針として、4つの重要な分野における重点項目を詳細に示す包括的な枠組が設定されている。

持続可能性に対する責任は本グループ全体に根付いている。本取締役会レベルの持続可能性委員会は本グループの持続可能性戦略に全体的な責任を負っている。この委員会は、持続可能性イニシアチブの運営管理を監督し、それらのイニシアチブの策定と実施、及び本グループの実績と影響に関する通信と開示について本取締役会に助言する。持続可能性委員会は、CEOを委員長とする持続可能性管理委員会による支援を受けており、持続可能性管理委員会は、本グループの持続可能性の取組を推進し、優先順位を設定するとともに、本グループ内の持続可能性に対する理解を促進する。

日常的な環境保護の取組

本グループは、香港大気清浄化計画2035と香港の気候変動行動計画2050に基づいて、独自の気候変動及び環境に関する目標を設定している。さらに本グループは、国際連合の持続可能開発目標（SDGs）の達成支援に取り組むとともに、本グループの事業上の優先事項に最も緊密に合致するSDGsに対応する独自の目標を設定している。それらの目標は、「エネルギーをみんなにそしてクリーンに（SDG 7）」、「産業と技術革新の基盤をつくろう（SDG 9）」、「気候変動に具体的な対策を（SDG 13）」に関するものである。2023年度には本グループの公約にさらに3つのSDGs、すなわち、「働きがいも経済成長も（SDG 8）」、「住み続けられるまちづくりを（SDG 11）」、「つくる責任つかう責任（SDG 12）」が盛り込まれ、進捗状況を量化するための新たな目標が設定された。本グループのSDG目標を達成するための活動は継続的に見直され、調整されている。

気候関連のリスク及び機会に関する透明性の重要性を踏まえ、本グループは、気候関連財務情報開示タスクフォース（Task Force on Climate-related Financial Disclosures）の勧告に準拠して気候関連開示情報を公表している。2023年に本グループの事業についての気候関連のリスク及び機会の潜在的な影響に関するシナリオ分析が完了した。本グループは引き続き、気候変動によってもたらされる物的リスクと移行リスクを監視するとともに、供給信頼性を確保するため、事業運営に気候変動弾力性を組み込んでいく方針である。

本グループは、ネットゼロ電力の供給と輸送機関の電動化を伴う、二酸化炭素排出量の組織的な削減計画を設定している。これに加えて、本グループは、コミュニティにおけるエネルギー効率向上と環境保護を推進する一連のイニシアチブを実施している。これらのイニシアチブには、エネルギー効率向上プロジェクトに対する補助金の支給、需要家側の再生可能エネルギー・システムを支援する固定価格買取制度、建設現場向けの十分な送配電網電力供給の適時の提供、エネルギー効率に優れた設備及び装置を採用する需要家に対する支援の提供が含まれる。さらに詳細な事項については、本「最高経営責任者による報告」の事業レビューを参照のこと。

本グループは香港政府の省エネルギー憲章及び4 T憲章に則って、本グループ自身の時系列的な省エネルギー目標を設定するとともに、その結果の透明性のある報告を保証している。長年にわたる4 R組織（削減（reduce）、再利用（reuse）、回収（recover）、リサイクル（recycle））として、本グループは、2025年度のオフィス施設全体を通じた電力、水、紙の消費量を2020年度比で1～10%削減する目標を設定している。

香港市固形廃棄物課金制度 (Municipal Solid Waste Charging Scheme) の実施に先立って、本グループはリサイクル団体を招いて、従業員向けに廃棄物管理に関する情報の提供を受け、リサイクルと再利用についてすべきこととすべきでないことに関するヒントを得た。毎日400食を超える朝食と昼食を提供している社員食堂における食品廃棄物を削減するため、当日に必要な量をより適切に見積もれるように本社の従業員が朝食と昼食を予約注文することができるシステムが設定されている。さらに本グループは、主要な職場に食品廃棄物処理装置と食品廃棄物コンポストを設置している。

2023年度に本グループの職場に設置された食品廃棄物処理装置及びコンポストにより、10,300キログラム超の食品廃棄物が処理された。

FIA世界ラリークロス選手権に対するグリーン電力の供給

喜ばしいことに、HEC社は、2023年11月にセントラル・ハーバーフロントで開催されたFIA (国際自動車連盟) 世界ラリークロス選手権香港 (中国) - シーズン・フィナーレ2023 (World Rallycross Championship Hong Kong, China - Season Finale 2023) において、再び香港で開催された国際的な自動車レースで重要な役割を果たした。このレースのエネルギー・パートナーとして、本グループは、この完全電化イベントのために安全で信頼できる電力を供給することを常に優先事項としている。

しかしながら、それまで設置されていなかったレース場に電力を供給し、さらにイベント中に約20両の完全電動建設車両と高出力のラリーカーに充電可能な十分に信頼できる電力を確保するための方法が課題となった。

そこで、本グループの「建設現場のためのスマート・パワー」サービスが理想的なソリューションとなった。本グループがレース場の設置と完全電動建設車両の充電のために送配電網からの電力を主催者に提供したことにより、建設工事中のディーゼル発電機の使用が完全に回避されるとともに、ラリーカーに電力を供給することが可能になった。その結果、FIAは炭素排出量と大気汚染及び騒音を大幅に削減することができた。

さらにFIAは、本グループの再生可能エネルギー証書の購入により、FIAのイベントのあらゆる段階における再生可能エネルギーの使用を支援することで、二酸化炭素排出量がさらに削減され、ラリークロス選手権は環境に優しいイベントになった。

グリーン・エネルギーによるイベントへの電力供給に加え、HEC社はまた、エネルギー貯蔵トラックと電力切替トラックからなる全く新しい環境に優しい可動式電力供給システムを配備し、レースの円滑な運営を確保するための炭素排出量ゼロのバックアップ電源として使用した。

教育の面では、20名を超えるHKエレクトリック・ハッピー・グリーン・アンバサダー (HK Electric Happy Green Ambassador) がイベントの舞台裏の様子を紹介する特別ツアーに招待され、グリーン電力の供給に伴う作業や、現在の強力な電気自動車がスマート・モビリティにどのように貢献できるかについて他の人々に伝えられるように学んだ。

炭素削減に向けたコミュニティの取組の支援

本グループは、独自のプログラムの運営に加えて、香港政府、香港における環境保護団体やその他の組織が企画運営するコミュニティ全体にわたるイニシアチブの支援も行っている。2023年度に本グループは、香港の長期的な脱炭素化の取組に貢献するため、香港政府の「カーボン・ニュートラル・パートナーシップ (Carbon Neutrality Partnership)」、香港商界環保協會の「ネットゼロ炭素憲章 (Net-zero Carbon Charter)」、香港グリーン・ビルディング評議会 (Hong Kong Green Building Council) の「ネットゼロ推進 (Advancing Net Zero)」プログラムに継続して参加した。

国際連合の2023年環境の日 (World Environment Day 2023) を支援するため、5月には約800名の従業員が「プラスチック汚染撲滅 (Beat Plastic Pollution)」と題した1ヵ月間のキャンペーンに参加した。2023年のキャンペーンには、食品廃棄物を最小限に抑えることを従業員に奨励する「クリーン・プレート・チャレンジ (Clean Plate Challenge)」を含む新たなイニシアチブが導入された。このチャレンジの参加者は、環境に優しい食器が当たるチャンスを求めて、空になった皿の写真をHKエレクトリック・アプリを通じて提出した。

環境に優しい考え方の推進

本グループは、本グループのあらゆる業務の二酸化炭素排出量を着実に削減する取組を補完するため、一連の人氣があるコミュニティ・アウトリーチ・プログラムを通じて、コミュニティ内の省エネルギーと環境意識の向上を推進している。

20周年を迎えた本グループの主要な環境教育プログラムであるハッピー・グリーン・キャンペーンでは、2023年の「涼しくカーボン・ニュートラル (Be Chill. Be Carbon Neutral)」のテーマに沿ってエネルギー効率向上と省エネルギーを奨励している。4月には約3,000名が参加したコミュニティ・フェアが開催され、過去20年間にわたるこのキャンペーンの取組と成果が紹介された。

当会計年度を通じて、アップサイクリング・アート展覧会、グリーン・ワークショップ、インタラクティブ・ドラマ、パペット・ショー、シェアリング・セッション、オンライン・エコツアーを含む一連の活動が実施され、100,000名を超える参加者を集めた。

現在HEC社の「ハッピー・グリーン・スクール (Happy Green Schools)」ネットワークには合計で650校が参加しており、当会計年度を通じて、ハッピー・グリーン・キャンペーンの下で企画されたインタラクティブ・ドラマやバーチャルリアリティ・ゲームのデザインに関するワークショップを含む一連のエンリッチメント活動に参加した。生徒たちの間で最も人氣がある学習体験の1つは、受賞歴のある「脱炭素化のABC (Decarbonisation ABC)」というアクティビティ・ブックである。この本は、ゲーム、クイズ、AからZまでの用語集を含む、全て子供たちが毎日の生活における炭素の削減について学ぶことを支援するように設計されたさまざまなアクティビティが記載されている。この本は約60,000部が1,000ヵ所を超える幼稚園や保育園に配布されるとともに、60を超えるワークショップ及び関連活動が企画され、約4,000人の子供たちが参加した。

本グループは、年1回のグリーン・エネルギー・ドリームズ・カム・トゥルー (Green Energy Dreams Come True) コンペティションを通じて、中等学校と第3期教育機関の生徒がコミュニティと周囲の状況をより環境に優しいものにする方法について革新的な考え方を生み出すことを奨励している。今回の入賞作品は、筲箕湾官立中等学校 (Shau Kei Wan Government Secondary School) が作成した、再生可能エネルギーに関する意識向上のための創造的なボードゲームであった。さらに、3つの地元大学の学生が開発した家庭用のスマート電力監視ソリューションが表彰を受けた。

長春社 (Conservancy Association) とのパートナーシップの下で18年間以上運営されているグリーン・ホンコン・グリーン (Green Hong Kong Green) イニシアチブでは、香港市の動植物を鑑賞するために指定された環境遺産ルートのオンライン・ツアーを引き続き企画運営している。昨年後半に再開された実体験ツアーと併せて、2023年度には31回のツアーが実施され、4,200名超の参加者を集めた。

コミュニティにおける慈善活動

本グループは、香港のコミュニティにおける社会的責任について強く意識しており、長年にわたって環境教育と高齢者のケアの2つの問題に重点を置いて取り組んでいる。本グループはまた、不利な立場にある家庭と、特に外食産業の小規模企業の苦境に留意しており、COVID-19のパンデミックによる長引く社会経済的影響からの回復を支援している。

この目的のため、不利な立場にある人々に対して、最初の200単位の電力使用量について60%の割引を行う料金減免措置が引き続き実施されている。さらに本グループは、電力補助金に加えて、細分化区画の居住者が個人の料金メータを容易に設置できるように再配線工事を実施するための補助金、不利な立場にある世帯がエネルギー効率に優れた家電製品を購入するための補助金、NGOが支援を必要とする人々に飲食物を提供可能にするための補助金を支給している。

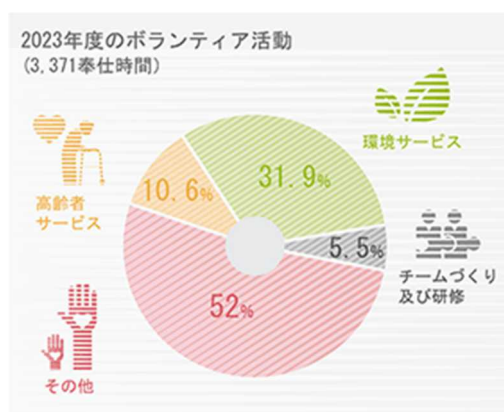
また、200件超の参加飲食店で使用できる各セット200香港ドルに相当する約50,000セットの「ケアと共有 (Care and Share)」飲食クーポンが、電気料金減免対象の家庭用需要家、細分化区画又は仮設住宅に居住する不利な立場にある世帯、「N級低所得世帯 (N-have-nots households)」又はNGO若しくは区議会の議員の紹介を受けた経済的な困難を抱える世帯、電力消費量が小さい家庭用需要家を含む、不利な立場にある人々に配布された。

対面活動が制限又は中止されていた数年間を経て、本グループの対面アウトリーチ・プログラムが再開され、ボランティア・チームを通じて高齢者やコミュニティとの交流が行われた。当会計年度を通じてボランティア・チームは、地域清掃、食事の提供、チャリティ書籍販売会、言語指導等の一連の活動を通じた支援のために3,370時間超のボランティア活動を行った。

2023年度に本グループは、高齢者向けの旗艦的プログラムであるCAREnJOYに基づく新たなイニシアチブとして「ファン&ジョイ (Fun & Joy)」を導入した。このイニシアチブでは、高齢者が外出し、現地コミュニティと再びつながりを持つことを促進するため、映画の日と、香港市で最も人気がある観光地のザ・ピーク (The Peak) への小旅行の2つの活動が実施された。さらに本グループは、電気の安全な使用とエネルギー効率向上を奨励する電気安全講演会と家庭訪問を再開した。全体として、当会計年度中にこのプログラムは約2,460名の参加者にケアと温かい真心を届けた。

本グループのもう1つの高齢者向けの長期的なイニシアチブである第3世代大学 (U3A) は、生涯学習の促進を中核的な理念として、香港社会事業協会 (Hong Kong Council of Social Service) と共同で運営されている。

2023年度に本グループは、香港全域の15の社会福祉機関の下で運営されている35カ所の自主学习センターに資金を提供した。U3Aの学生が行う自主学习クラスに対する支援に加えて、新たなイニシアチブとして「U3Aドリーム+ (U3A Dream+)」が導入され、若い退職者が自分の知識と専門技術を活用してソーシャル・グッドのための有意義なプロジェクトに取り組むことを奨励している。このイニシアチブにより、国際連合が提唱する健康的な高齢化のテーマを反映した7件のプロジェクトが資金提供を受けている。また、3つのワークショップと3回のテーマ別講演会が実施され、330名超のU3Aの学生が出席した。さらにU3Aのセンターでは、480を超えるコースとインタレスト・クラスが実施され、2,910名に学びの場を提供した。



ファン&ジョイについて

銀幕で地元のスーパースターを見ることとピークを訪れることは、多くの人々にとっては普通の週末の気晴らしにすぎないかもしれない。しかしながら、一人暮らしの高齢者にとっては、これらは非常に楽しい活動になる。

2023年前半にCOVIDの制限が解除されたことに伴い、香港では普通の生活が徐々に戻ってきたことから、多くの人々、特に一人暮らしの高齢者は、3年近くにわたった検疫、隔離及びさまざまな形態の制限を経て、自由に外出し、他者と交流することが可能になった。

この点を念頭に置いて、本グループの人気ある「CAREnJOY・フォー・エルダリー (CAREnJOY for the Elderly)」プログラムは、高齢者が楽しい時間を過ごし、社会生活を再開し、地域のコミュニティに接触し、再びつながりを持つことを促進する新たな要素を速やかに導入した。

2023年8月に本グループは、9つの高齢者サービス・パートナーと共同で「CAREnJOY・ファン&ジョイ (CAREnJOY Fun & Joy)」を導入し、最初のイベントとして、約300名の高齢者を招待して、サイバーポートの映画館で国際的な映画スターのチョウ・ユンファ (Chow Yun-fat) が出演する地元の大ヒット映画の上映会が行われた。この参加者の多くが、今回初めて映画を見に行くのだと語った。

その他の活動も続いて実施され、2023年12月の素晴らしい晴天の日には「80分間ピーク1周 (Around The Peak in 80 minutes)」と題した、約70名の高齢者が有名なピーク・トラムに乗車して楽しむ小旅行が実施された。このグループは、香港のスカイラインの美しい風景を酒を飲みながら上から眺め、クリスマスの準備に賑わう香港市の陽気な雰囲気を体験した。

80代の高齢の人々が楽しい野外での一日に子供のように興奮してはしゃぐ姿は心温まる光景であった。これらの人々は何百枚も写真を撮り、香港の見事な風景に驚嘆し、軽食とお茶を楽しみ、そこから友人や親類に絵葉書を送った人も多かった。このような楽しさに満ちた小旅行は非常に人気があり、申込みが殺到している。2024年にはさらに多くのイベントを企画し、思い出に残る体験に高齢者を招く予定である。

同時に本グループは引き続き、高齢者が日常生活を送ることを支援するための継続的な対面の支援活動を行っている。これらの活動には、家庭用電気製品の安全性とエネルギー効率向上に関するヒントを提供する本グループの旗艦的な電気安全講演会に加え、3年間の中断を経て再開された一人暮らしの高齢者に対する家庭訪問が含まれている。

専門職への道の実現の促進

本グループは1,830名超の従業員を抱える香港で最大の雇用者の1つである。本グループは、自由なコミュニケーション、専門的及び個人的な能力開発の十分な機会、ワークライフバランス等の支援の風土を備えた協力的で包括的な労働環境の実現に努めている。さらに本グループは、帰属意識を与える思いやりのある環境の構築を模索している。本グループは、香港幸福指数奨励基金 (Promoting Happiness Index Foundation) が企画運営する2023年の「ハピネス・アット・ワーク・プロモーション・スキーム (Happiness-at-Work Promotional Scheme)」に基づく香港の「ハッピー・カンパニー (Happy Companies)」の1つに選ばれる榮譽に浴している。

本グループは従業員に包括的な環境を提供しており、本グループの従業員の20.9%が女性であり、そのうち5.7%が経営管理職に就き、9.7%がエンジニア職に就いている。本グループの自発的離職率は6.5%であり、引き続き同じ規模の企業の業界平均を下回っている。

非常に競争的な雇用市場における人材の勧誘のため、本グループは、雇用者ブランド、新入社員の地位、大卒研修生及び管理職研修生プログラムについて周知するため、キャリア・フェアや就職説明会を通じて大学生に接触している。当会計年度中に7名の大卒研修生が採用された。さらに本グループは、新たな電気機械分野の実習生が香港と中国大陸の双方で業界におけるキャリアを追求することを奨励するためのアウトリーチ及びエンゲージメント活動を行っている。

繁栄と成長のための環境の創造

本グループの全ての従業員は、研修及びメンターシップ・プログラム又は新たな職責を引き受ける機会の形で個人的及び専門的な能力開発の機会を与えられている。当会計年度を通じて各従業員は平均で約30時間の研修を受けている。

本グループの人材開発プログラムは、4つのレベルのリーダーシップ能力枠組を中心に構築されている。2023年度に若手人材育成プログラム (YTP) を通じて、15名の才能ある若い従業員が優秀な第一線のリーダーへと成長するために支援を受けた。これらの従業員に対しては、ワークショップ、経験的学習、行動学習プロジェクト、メンターシップを含む個人に合わせた学習が提供された。過去数年間にYTPを修了した36名の従業員のうち29名がHEC社に引き続き在籍しており、19名が昇進している。

2023年度に本グループの最初の学習管理システムのiラーン (i-learn) の全従業員に対する導入が無事完了した。このオンライン・プラットフォームにより、従業員は、時間や場所にかかわらず、自分の都合に合わせて学習を進めることができる。現在このプラットフォームを通じて、エンジニアリング、技術運用、安全衛生、サイバーセキュリティ、デジタルツール、行動規範及びコンプライアンス、並びに一連のソフト・スキルを含む広範な科目をカバーする60件を超えるビデオベースの学習モジュールが提供されている。

HKエレクトリック・インスティテュート (HK Electric Institute) において、本グループのエンジニアは、本グループの退職者の指導の下で、香港電気条例及び法令の要件やシステム運用等の主題に関する技術コースを受講することができる。2023年度には26を超えるセッションが実施され、1,040名が参加した。さらに本グループは、COVID-19のパンデミック後に再開された最初の一带一路電力・エネルギー高度専門家育成プログラム (Belt and Road Advanced Professional Development Programme in Power and Energy) の対面の講義、セミナー、交流活動及び現場視察に参加した。これらのセッションには、一带一路の10の国及び地域から32名が出席した。

電力システムと発電技術に関する最新の状況について理解するため、ステート・グリッド・エネルギー研究所 (State Grid Energy Research Institute) の上級管理者と専門家による2つのテーマの講演会が実施され、130名を超える従業員が出席した。これらの講演会では、中国大陸における新たな電力システムの構築における最新のアプローチと、水素産業及びハイブリッド水素発電モデルの最新の動向に重点が置かれた。

さらに本グループは、香港理工大学や香港大学等の第3期教育機関と協力して、HEC社及び業界のニーズに合致した研修を実施している。

健康と安全

従業員の健康と安全は本グループの最優先事項の1つである。12年目を迎えた「労働安全行動 (Work Safe Behaviour)」プログラムは、本グループの職場内における安全文化の醸成に極めて重要な役割を果たしている。2023年度には、このプログラムに基づいて393件の行動ベースの安全観察が実施され、必要な勧告が行われた。加えて、一連の業務上の問題にわたって意識の向上を図るために月次安全ブリーフィングが開かれている。

このような取組をさらに強化するため、「2023年度安全衛生フォーラム (Health and Safety Forum 2023)」、「ライフ・ファースト2023ーウォーク・ザ・トーク (Life First 2023 - Walk the Talk)」、「魯班飯配布キャンペーン (Distribution of Lo Pan Rice Campaign)」を含む一連の安全促進キャンペーンが実施され、1,000名を超える従業員、現場労働者、ビジネス・パートナーが参加した。

過去数年間に本グループの職場において記録された労働時間の損失を伴う負傷の件数は、一貫して低い水準を維持している。2023年度には2件の労働時間の損失を伴う従業員の負傷が報告された。いずれの事例も比較的軽微であったが、再発防止のために詳細な調査が行われ、提出された勧告は適切に実施された。

労働時間の損失を伴う負傷の発生率：

従業員 0.11

契約業者 0.71

(200,000就業/契約時間当たり)

労働時間の損失を伴う負傷の深刻度：

従業員 0.17

契約業者 31.4

(200,000就業/契約時間当たり)

従業員の身体的及び精神的な健康を改善するとともに、ワークライフバランスを維持するために、従業員向けの趣味のクラスとフィジカル・トレーニング・コースが実施されている。ペーパークラフトやメイクアップ等のオンラインの趣味のクラスには合計で65名が参加した。太極拳、ピラティス、卓球、バドミントン、バスケットボール、サッカー、ローン・ボウル等、2023年度のその他の趣味のクラスは1,000名を超える参加者を集めて実施された。

本グループは、職場の能率、労働安全衛生、空間の利用と清潔さを向上させるために5S適正維持管理 (5S Good Housekeeping) プログラムを継続している。さらに本グループは、第一線の従業員が日常の実務に安全衛生意識を取り入れることを動機付けるために広範なインセンティブを提供している。

透明性及び利害関係者との関係

本グループは、年次報告書、持続可能性報告書、企業情報パンフレットにおいて、HEC社の事業と運営について利害関係者の理解を深めるための情報を公表している。四半期ニュース速報の「HKエレクトリック・オンライン (HK Electric Online)」とそのビデオ版のKR44 TVは引き続き、同社の発展やイニシアチブに関する最新情報を需要家と利害関係者に提供している。本グループは、毎年5月に開催される年次総会を通じて本株式ステープル受益証券保有者と意思疎通している。

本グループのオンライン上のプレゼンスを強化するため、HKエレクトリック・アプリ、YouTubeチャンネル、企業用Facebookページ「44KennedyRoad」は、本グループの環境、コミュニティ、安全衛生に関するイニシアチブや活動に加え、環境に優しい暮らしや電気調理に関するヒントを盛り込んだ定期的な記事によって更新されている。本グループの企業ウェブサイトは外観が一新され、コンテンツの量と透明性が拡充されている。

HKエレクトリック・インベストメンツ社の施設、主としてラマ発電所に対する全ての一般公開は常態に復帰した。2023年には13回の一般公開が実施され、390名を超える参加者を集めた。さらに、本グループの事業に対する理解を深めるため、240名を超える株主を招待してラマ発電所ツアーが6回実施された。

本グループの持続可能性に関するイニシアチブと実績は、本グループの企業ウェブサイトの定期ニュースと更新情報を通じて利害関係者に伝えられている。さらに本グループは、グローバル報告イニシアチブ（Global Reporting Initiative）の持続可能性報告基準及び電気事業セクター開示項目、並びに香港エクステンヂーズ・アンド・クリアリング・リミテッド（Hong Kong Exchanges and Clearing Limited）のESG報告ガイドに従って、外部の独立の保証を受けた持続可能性報告書を毎年刊行している。

本グループは、さまざまな手段を通じて需要家のフィードバックと提案を収集している。そのような手段には、アフターサービス満足度調査や「金曜日に会いましょう（We Meet on Friday）」セッションが含まれる。需要家の意見は、絶え間ないサービスの強化と改善のために事業上の意思決定に組み込まれている。2023年度に本グループは5件の苦情を受けたが、設定されたガイドラインに従って全て処理された。苦情の傾向及び生じた論点は、利害関係者満足度運営委員会による綿密な監視下に置かれている。

本グループは、43名からなる需要家窓口グループのメンバーと定期的に会合を持ち、彼らの意見と提案に耳を傾けている。この会合はアイデアとコメントを集めるための貴重な場である。2023年度に需要家窓口グループは、本グループのケーブル・トンネルのうちの1ヵ所と電力タワーの事業本部を訪れ、本グループが香港に対して信頼できる安全でクリーンな電力の供給を確保する方法についてさらに多くのことを学んだ。

本グループは従業員を尊重し、その意見を大切にしている。40年以上前に設置された本グループの共同協議（JC）委員会は、従業員が自分の意見を表明する機会を提供している。HEC社は、従業員のさまざまなグループから直接選出された70名の代表者との間で適切に構成された共同協議パネルを6回開催した。60名を超える従業員が四半期フォーカス・グループへの参加を求められ、従業員の論点と提案は、注意喚起、検討又はその他のフォローアップ措置のために経営陣と関連当事者に伝えられた。270名の新たに昇進した第一線の監督者に対して、自分の新たな役職に対する理解と適応を支援し、必要に応じて援助を提供するため、研修が実施され、フォローアップ・コールが行われた。

2021年に導入された「ヒア・ユア・ボイス（Hear Your Voice）」フォーラムは、従業員、監督者、上級経営陣の間の連絡と意見交換の一般的な手段になっている。2023年度にHEC社全体の上級管理職は、合計70名のさまざまなレベルの若いエンジニアに対して、彼らの自己啓発やキャリアの希望についての考えを把握するため、少人数のグループ又は1対1の面談を行った。

HEC社は思いやりの企業文化と企業社会責任の実績を評価され、香港社会事業協会から「10イヤーズ・プラス・ケアリング・カンパニー・ロゴ（10 years+ Caring Company Logo）」を授与された。

結論

本グループは、現在エネルギーの移行期にある香港において業務を行うにあたって、コミュニティ、環境及び全ての利害関係者に対して、でき得る最高のケアと支援を行うという広範な使命を達成することを公約している。

IV. 本トラストの仕組み

1. 本トラストの目的及び基本的性格

本トラストの性格並びにHKエレクトリック・インベストメンツ社及び本トラスティ・マネジャーの主たる活動

本トラストは、単一の投資信託（固定型）であり、その活動は、HKエレクトリック・インベストメンツ社の有価証券及びその他の持分に対する投資に限定されている。

HKエレクトリック・インベストメンツ社的主たる活動は投資保有であり、本グループの主たる活動は、香港島及びビラマ島における発電及び電力供給である。HKエレクトリック・インベストメンツ社の子会社の詳細は、後記「VIII. 本トラストの経理状況－2. 本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の連結財務諸表－本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の財務諸表に対する注記」の注記18に記載されている。

本トラスティ・マネジャーはPAH社の間接完全子会社であり、本トラストの管理という特定のかつ限定的な役割を有しており、本トラスト・グループが管理する事業の運営に積極的に携わっていない。

本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の目的

本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の目的は、(a) 本信託証書及びHKエレクトリック・インベストメンツ社附属定款に記載された各自の分配方針に関する明確に表明された意図をもって、本株式ステーブル受益証券保有者への分配金の支払いに重点的に取り組むこと、及び(b) 本株式ステーブル受益証券保有者に対し、分配金の持続的長期的増額の可能性をもって、安定した分配を行うことである。

業界及び競争

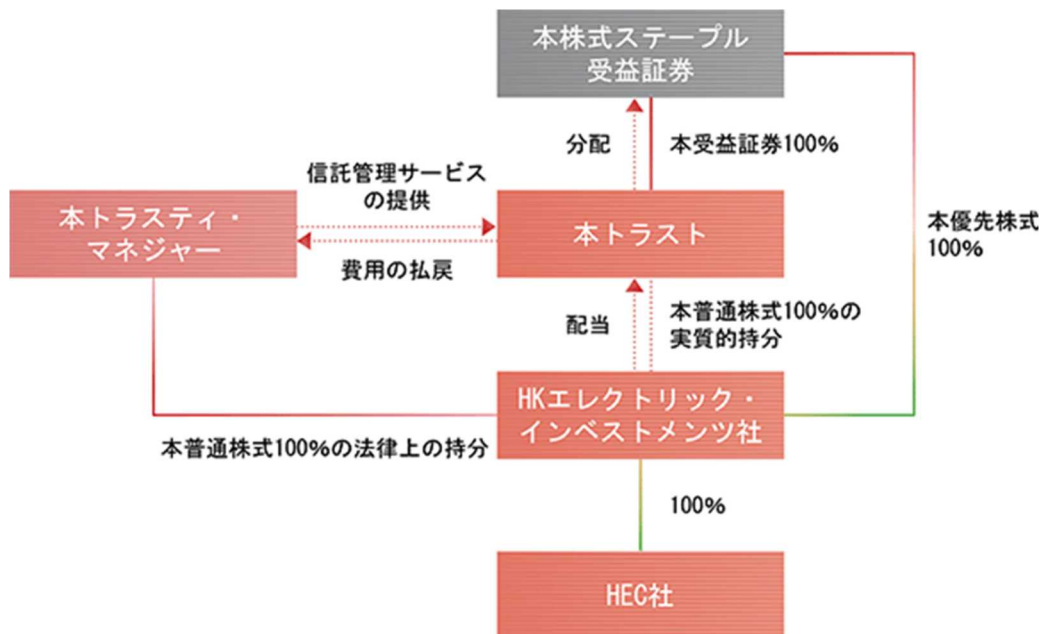
現在、香港の電力供給事業者は本グループとCLPパワー社の2社のみである。両社が香港政府と個別に締結した電力供給体制に関する契約は本グループ又はCLPパワー社の事業活動の許諾区域を定めていないが、本グループは実際のところ、香港島及びビラマ島の需要家に電力を供給する唯一の会社であり、CLPパワー社は、九龍、新界、ランタオ島及びその他の大半の周辺の島々の需要家に電力を供給する唯一の会社である。

香港の電力市場に競争を持ち込むのを困難にしている地域固有の要因は多数ある。例えば、発展した市場内に需要家基盤が確立されていること、地域原産の燃料供給が得られないこと、新たな電力会社設立を支援するための適切な土地が香港に不足していること、高度に都市化され過密していて、既存の地下設備が存在する都市に新たな送配電網を構築するのが困難であること、さらに、小売競争に参加するために競争力のある効率的な需要家サービスインフラを建設するには相当な先行投資が必要であることが挙げられる。

2. 本トラスト・グループ及び本株式ステープル受益証券の構造

① 本トラストの仕組み図

本トラスト・グループ及び本株式ステープル受益証券の仕組みは以下の通りである。



本トラスト・グループ及び本株式ステーブル受益証券の構造

本トラストは、本トラスティ・マネジャーにより管理されており、香港の法律に基づき2014年1月1日付で本信託証書により設定されたものである。本トラスティ・マネジャーは、本トラストのトラスティ・マネジャーとして、本普通株式に係る法律上の持分とともに、本株式ステーブル受益証券の構成要素となる当該本普通株式に係る実質的持分を有する。それぞれの本株式ステーブル受益証券は、本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社が共同で発行するものであり、(a) 本受益証券、(b) 本受益証券に紐付けされ、かつ、(本トラストのトラスティ・マネジャーとしての資格において) 本トラスティ・マネジャーが法的所有者として保有する具体的に特定された本普通株式の実質的持分、並びに (c) 本受益証券と一体化された具体的に特定された本優先株式を統合したものである。

本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社は、いずれも香港証券取引所のメインボードに上場されており、香港上場規則の規定の適用を受ける。本信託証書に基づき、本トラスティ・マネジャーは、本トラストに適用される香港上場規則及びその他の関連法令を本トラストが遵守することに責任を負い、HKエレクトリック・インベストメンツ社は、同社に適用される香港上場規則及びその他の関連法令を同社が遵守することに責任を負い、かつ本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社は、各当事者が香港上場規則の義務を確実に遵守し、香港証券取引所に対する開示内容を調整するために相互に協力する。

「紐付け」の定義

全ての発行済本普通株式は、(本トラストのトラスティ・マネジャーとしての資格における) 本トラスティ・マネジャーにより保有されなければならない。本トラスティ・マネジャーにより発行される各本受益証券は、本受益証券の譲渡をもって本普通株式の実質的持分の譲渡となるよう、本トラスティ・マネジャーが保有する具体的に特定された本普通株式と一致し、その具体的に特定された本普通株式の実質的持分を付与しなくてはならない。本信託証書では、この関係性を、各本受益証券が、本トラスティ・マネジャーが保有する具体的に特定された本普通株式に「紐付けされた」ものと定めている。

「一体化」の定義

本トラスティ・マネジャーにより発行される各本受益証券は、具体的に特定された本優先株式に付されるか又は「一体化された」ものでなければならない。また、いずれか一方のみで取引されることのないよう、かかる本優先株式は、法的及び実質的所有者としての本受益証券保有者により (本受益証券とともに) 保有されるものとする。本信託証書では、この関係性を、各本受益証券が、具体的に特定された本優先株式に「一体化された」ものと定めている。

本受益証券、本普通株式及び本優先株式の数が等しいこと

本信託証書及びHKエレクトリック・インベストメンツ社附属定款に基づき、発行済本普通株式及び発行済本優先株式の数は、常に同じでなければならない。いずれも発行済本受益証券の口数と等しくなくてはならない。

本株式ステーブル受益証券構造を採用する理由

(a) 本トラスト及び本受益証券

本トラスト及び本トラストによる投資家への本受益証券の発行に関する提案は、本グループ分配可能利益に基づく分配方針をより明確に唱え推進することができ、かつ専ら分配に注力し、その点において他の上場会社との差別化を図ろうとする本グループの意図を本グループがより明確に発信できる信託構造を導入するという商業上の目的を反映している。通常、信託における投資家は、信託財産に対する不可分の持分である受益証券に応募する。

(b) 具体的に特定された本普通株式に係る実質的持分

本普通株式には、HKエレクトリック・インベストメンツ社による配当金及びその他の分配金に対する権利が付されている。本普通株式は、本トラストが本受益証券の名簿上の保有者からの委託によりHKエレクトリック・インベストメンツ社の株式を保有するための手段である。本普通株式は、HKエレクトリック・インベストメンツ社が清算される場合、又は（本トラストが解散させられる場合には、）解散に際して本優先株式が額面価格で償還される場合を除き、HKエレクトリック・インベストメンツ社に由来する経済上の持分の全てとなる。

各本普通株式を具体的に特定し、かつ本受益証券に紐付けさせることの根本的根拠は、紐付け規定により、基礎となる上場された本普通株式のデリバティブとして、本受益証券に対して香港証券先物条例（投資家保護に係る規定を含むが、それに限定されない。）が適用されることにある。

究極的には、紐付けに係る取決及び交換権は、本株式ステーブル受益証券に対する投資家が、本受益証券の名簿上の保有者による特別決議を可決することにより本トラストを解散させ、その保有する本株式ステーブル受益証券を上場会社（すなわちHKエレクトリック・インベストメンツ社）の基礎となる本普通株式と、1口当たり1株で交換することができるということを意味する。

(c) 本優先株式

本優先株式は、HKエレクトリック・インベストメンツ社によるいかなる配当、分配又はその他の支払いに参加する権利も付与しない（HKエレクトリック・インベストメンツ社が清算される場合、又は（本トラストが解散させられる場合には、）解散に際して本優先株式が額面価格で償還される場合を除く。）。

本優先株式を本株式ステーブル受益証券の構成要素に含めること及び一体化構造を採用することの根本的根拠は、本株式ステーブル受益証券（ひいては本トラスト（本トラスティ・マネジャーを含む。）及びHKエレクトリック・インベストメンツ社）が、香港証券先物条例の全ての規定（投資家保護に係る規定を含むが、それに限定されない。）に服することを明らかにすることである。さもなくば、独立した本受益証券に対する香港証券先物条例の一定の規定の適用については、議論の余地があったであろう。

(d) 本トラスティ・マネジャーの特定のかつ限定的な役割

本株式ステーブル受益証券に対する投資家が、香港における既存の法的枠組みのもと、香港証券取引所に上場された会社の株主に対するそれと同等の投資家保護を受けることができるよう取り計らうため、本トラスティ・マネジャーは、本トラストの管理という特定のかつ限定的な役割を有する。本トラスティ・マネジャーは、本電力事業の運営に積極的に関与することはなく、かかる本電力事業は、本グループにより所有及び運営されている。

本株式ステーブル受益証券構造を採用することの利点及び欠点

本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の取締役は、本グループ分配可能利益及び本トラスト分配可能利益に基づく分配方針をより明確に唱え推進することができ、かつ専ら分配に注力し、その点において他の上場会社との差別化を図ろうとする本トラスト・グループの意図を本トラスト・グループがより明確に発信できる構造を、本トラストが提供するものと考えている。本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の取締役はまた、全般的な取決（本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の取締役として二重の役割の兼任、投資家に分配金が支払われるまでの分離口座に保有する金額に係る要件並びに分配方針に対するあらゆる将来の変更を発表及び説明する義務を含む。）により、上記の分配方針の導入にさらなる厳格性と規律が求められると考えている。

本株式ステーブル受益証券の構造を採用することの欠点には、下記が含まれる。

- (a) この上場構造は比較的新しい構造であり、香港市場において本株式ステーブル受益証券に類似したステーブル証券の上場及び販売を伴う取引は限られた数しかない。香港証券取引所に上場している会社の株主が享受しているそれと同等の投資家保護の利益を、本株式ステーブル受益証券保有者が享受することができるよう多大な努力が行われているものの、関連する投資家保護法が本株式ステーブル受益証券の構造にも同様に適用されると裁判所が解釈するという保証はない。
- (b) 主に本トラスト、HKエレクトリック・インベストメンツ社及び本トラスティ・マネジャーの財務諸表の作成及び公開の義務に起因して、本トラストに関して管理費が発生する。しかしながら、これらの追加的な管理費は、本トラスティ・マネジャーの役割が特定のかつ限定的であることに応じて高額ではない。
- (c) 本トラストは、一定の状況において解散する可能性がある。本トラストの解散に適用される手続は、本信託証券第25条に規定されている。要約すると、かかる解散時に本株式ステーブル受益証券の名簿上の保有者は、その保有する（本株式ステーブル受益証券の構成要素である）本受益証券に紐付けされた本普通株式の分配を現物で受ける権利を有する。

HKエレクトリック・インベストメンツ社

HKエレクトリック・インベストメンツ社は、2013年9月23日に特例有限責任会社としてケイマン諸島に設立された。HKエレクトリック・インベストメンツ社は、本電力事業の持株会社である。

HKエレクトリック・インベストメンツ社は、以下の2種類の株式を有する。

- (a) 本株主総会における議決権（本普通株式1株につき1個の議決権）並びにHKエレクトリック・インベストメンツ社からの配当及び分配を受ける権利が付された本普通株式。
- (b) 本株主総会における議決権（本優先株式1株につき1個の議決権）が付されるが、HKエレクトリック・インベストメンツ社の清算又は本トラストの解散による償還の場合を除きHKエレクトリック・インベストメンツ社からの配当、分配又はその他の支払いに対する権利が付されていない本優先株式。本優先株式に付された権利及び本株式ステーブル受益証券の構成要素として本優先株式を含める理由に関する詳細は、後記「本優先株式に付された権利」に記載されている。

本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の取締役は、本グループが、香港における発電、送電、配電及び電力供給（本電力供給契約によって規律される。）のみに従事することを意図している。電力業界の発展に鑑みるに、本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の取締役は、HKエレクトリック・インベストメンツ社基本定款及び附属定款に記載するHKエレクトリック・インベストメンツ社の事業活動の範囲を、明示的に本電力事業に限定することは実践的であるとは考えておらず、また本株式ステーブル受益証券保有者の利益になるとも考えていない。したがって、HKエレクトリック・インベストメンツ社の基本定款及び附属定款は、（その有価証券を香港証券取引所に上場しているケイマン諸島で設立された会社においては慣例となっているため）HKエレクトリック・インベストメンツ社の事業範囲は限定されない旨規定している。かかる事情を鑑みるに、本株式ステーブル受益証券に対する投資家は、HKエレクトリック・インベストメンツ社の基本定款及び附属定款がHKエレクトリック・インベストメンツ社の事業範囲を本電力事業のみに限定していないこと及び（他の種類の事業が総じて本株式ステーブル受益証券保有者の利益となる場合には）当該異なる事業に従事する法的能力をHKエレクトリック・インベストメンツ社が有していることに留意するべきである。

本トラスト及び本トラスティ・マネジャー

概要

本トラストは単一の投資信託（固定型）である。これはすなわち、本トラストは、唯一の事業体（つまり、HKエレクトリック・インベストメンツ社）の有価証券及びその他の持分のみに投資することができること、並びに本トラストが本受益証券の名簿上の保有者に対し、本トラストが保有する具体的に特定可能な財産（本普通株式がこれにあたる。）に係る実質的持分を付与することを意味する。

本トラストは、本トラスティ・マネジャーとHKエレクトリック・インベストメンツ社との間で締結された香港法を準拠法とする信託証書に基づき設立された。本信託証書に基づき、本トラスティ・マネジャーは、本トラストの受託者及び管理者に選任された。本トラスティ・マネジャーは、本トラストの資産の法的所有権を有し、また、本信託証書に基づき、将来にわたりかかる資産を本受益証券の名簿上の保有者の委託により保有する旨宣言した。

分離口座に保有される本信託財産

全ての本信託財産は、本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の共同支配下にある分離口座において保有される。

活動範囲

本信託証書に記載されている本トラストの活動範囲は、原則として、HKエレクトリック・インベストメンツ社への投資に限定されており、本信託証書により付与される本トラスティ・マネジャーの権限及び権利もまた、それに応じて限定されている。

負債の無いこと

本信託証書に従い、本トラストは、負債を負うことを認められていない。しかしながら、HKエレクトリック・インベストメンツ社又はそのいずれかの子会社が負債を負う能力に制限はない。

本トラスティ・マネジャー及びその特定の役割

本トラスティ・マネジャーは、2013年9月25日に香港会社条例に基づき香港において設立された。本トラスティ・マネジャーは、PAH社の間接完全子会社である。

本信託証書は、本トラスティ・マネジャーが、本トラストのトラスティ・マネジャーとして行為する限り、PAH社の完全子会社であり続けなければならない旨規定している。

本トラスティ・マネジャーは、本トラストの管理という特定のかつ限定的な役割を有する。本トラスティ・マネジャーは、本電力事業の運営に積極的に関与することはなく、かかる本電力事業は、本グループにより所有及び運営されている。

本トラスティ・マネジャーに支払われるべき手数料の無いこと

本トラストの管理に係る費用及び経費は、本信託財産から差し引くことができるが、その役割が特定のかつ限定的であることに応じて、本トラスティ・マネジャーは本トラストの管理に係る手数料を受領しない。

本トラスティ・マネジャーの解任及び代替

本信託証書は、本受益証券の名簿上の保有者による普通決議により本トラスティ・マネジャーを解任及び代替することができる旨規定している。本信託証書には、本トラスティ・マネジャーの退任、解任及び代替に関する詳細な規定が含まれる。

本トラスティ・マネジャー取締役会

本信託証書は、本トラスティ・マネジャーの取締役が、常にHKエレクトリック・インベストメンツ社の取締役を務める同一の個人により構成されることを定めている。また、いかなる者も、同時にHKエレクトリック・インベストメンツ社の取締役を兼任していない限り、本トラスティ・マネジャーの取締役を務めることができないこと、及びいかなる者も、同時に本トラスティ・マネジャーの取締役を兼任していない限り、HKエレクトリック・インベストメンツ社の取締役を務めることができないことを定めている。

本信託証書に規定される本株式ステーブル受益証券構造の重要な特徴

本株式ステーブル受益証券構造の重要な特徴は、本信託証書に盛り込まれている。

本優先株式に付された権利

本優先株式は、HKエレクトリック・インベストメンツ社の清算又は本トラストの解散による償還の場合を除き、HKエレクトリック・インベストメンツ社による一切の配当、分配又はその他の支払いに参加するいかなる権利も付与しない。

HKエレクトリック・インベストメンツ社が清算される場合には、本優先株式の名簿上の各保有者は、本株主に対する分配のために利用可能な資産の中から、本普通株式に関連して当該資産の何らかの分配が行われる前に、本優先株式1株当たり募集価格と同等の金額の支払いを受ける権利を有する。その後、かかる資産の残高は、本優先株式及び本普通株式の保有者の間で、同一の種類の株式であるかのごとく平等に、(その保有するそれぞれの本株式の数に比例する割合で) 分配される。

本トラストが解散する場合は、HKエレクトリック・インベストメンツ社は、本優先株式の額面価格と同額の償還価格にて各本優先株式を償還することを義務づけられる。

本受益証券に関して支払われる分配金及び分配方針

本トラストが効力を生じている間、(本トラストを代理する)本トラスティ・マネジャーは、本株式ステーブル受益証券保有者に対し、本グループに由来する全ての配当、分配及びHKエレクトリック・インベストメンツ社から本トラスティ・マネジャーが受領したその他の支払いを、本信託証書に基づき控除又は支払いが認められる額(本トラストの運営費用等)を全て控除した後に分配する。本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の分配方針の詳細は、後記「3. 投資方針－(4) 分配方針」に記載されている。

交換権

本信託証書は、本株式ステーブル受益証券の名簿上の保有者のために交換権を規定している。本受益証券の名簿上の保有者の特別決議により、本株式ステーブル受益証券の名簿上の保有者は、発行済本株式ステーブル受益証券の全て(一部は不可)を交換対象の本受益証券に紐付けされた本トラスティ・マネジャー保有の基礎となる本普通株式と(1口当たり1株で)交換することを要求できる。

交換権が行使された場合には、本トラスト及び本信託証書は終了し、本受益証券及び本優先株式は交換権の行使に基づき本トラスティ・マネジャーとの間で交換及び消却され、本株式ステーブル受益証券の名簿上の保有者であった者は、同数の上場本普通株式(香港証券取引所の事前の承認を条件に香港証券取引所において独立して取引される予定)の保有者になる。

本株式ステーブル受益証券の名簿上の保有者が臨時総会を招集し、交換権を行使するための決議案を提出する方法については、本信託証書別紙1の第1条及び第3条を参照のこと。

本受益証券、本普通株式、本優先株式及び実質的持分の関係に関する詳細

交換権が行使されるまでは、常に以下の状態を維持しなければならない。

- (a) 発行済本受益証券の口数は、発行済本普通株式の株式数に等しくなければならない（逆もまた同様とする。）。
- (b) 発行済本受益証券の口数は、発行済本優先株式の株式数にも等しくなければならない（逆もまた同様とする。）。
- (c) 発行済本普通株式の株式数は、発行済本優先株式の株式数と等しくなければならない（逆もまた同様とする。）。

紐付けに係る取決

交換権が行使されるまでは、全ての発行済本普通株式は、（本トラストのトラスティ・マネジャーとしての資格における）本トラスティ・マネジャーの名義で主要な本株主名簿に記載されなければならない。本トラストが発行した又は発行する各本受益証券は、HKエレクトリック・インベストメンツ社により（本トラストのトラスティ・マネジャーとしての資格における）本トラスティ・マネジャーに対して発行された又は発行される具体的に特定された本普通株式と組み合わせられ、かつそれらに紐付けされなければならない。本トラスティ・マネジャーは、具体的に特定された同数の本普通株式が、関連する本受益証券の発行若しくは売却より前又はそれとほぼ同時にHKエレクトリック・インベストメンツ社により（本トラストのトラスティ・マネジャーとしての資格における）本トラスティ・マネジャーに対して発行されていない限り、いかなる者に対しても本受益証券を発行又は売却してはならない。HKエレクトリック・インベストメンツ社は、本普通株式が具体的に特定され、HKエレクトリック・インベストメンツ社により（本トラストのトラスティ・マネジャーとしての資格における）本トラスティ・マネジャーに対して発行され、かつ当該具体的に特定された本普通株式に関する同数の本受益証券が本トラスティ・マネジャーにより発行されたか、又は発行される予定でない限り、本普通株式を発行又は売却してはならない。

各本受益証券は、本信託証書の条件に従って、（本トラストのトラスティ・マネジャーとしての資格における）本トラスティ・マネジャーの名義で主要な本株主名簿に記載されている具体的に特定された本普通株式の実質的持分を本受益証券の名簿上の保有者に付与する。

本トラスティ・マネジャーは、本信託証書の条件（本信託財産からの一定の支払い及びその他の控除を許可する条件を含むが、これらに限定されない。）に従って、本トラスティ・マネジャーの名義で主要な本株主名簿に記載されている具体的に特定された本普通株式に関して実施されるあらゆる配当、分配及びその他の支払いの代金を、当該具体的に特定された本普通株式と組み合わせられ、かつそれに紐付けされた関連する本受益証券の名簿上の保有者に分配する。

各本株式ステーブル受益証券は、本信託証書に従い、関連する本株式ステーブル受益証券の構成要素である本受益証券と組み合わせられ、かつそれに紐付けされ、具体的に特定された本普通株式と交換することができる。

一体化に係る取決

各本受益証券が（本トラストのトラスティ・マネジャーとしての資格における）本トラスティ・マネジャー保有の具体的に特定された本普通株式と組み合わせられ、かつそれに紐付けされなければならないという上記の条件に加えて、以下の事項は、交換権が行使されるまでは、常に守られなければならない。

- (a) 本トラスティ・マネジャーが発行した又は発行する各本受益証券は、HKエレクトリック・インベストメンツ社により発行された又は発行される具体的に特定された本優先株式と一体化されなければならない。
- (b) 本トラスティ・マネジャーは、具体的に特定された同数の本優先株式がHKエレクトリック・インベストメンツ社により発行され、かかる本優先株式が、本受益証券が発行又は売却された者と同一の者（及び本受益証券登録簿に登録された当該本受益証券の保有者と同一の者の名義で主要な本株主名簿又は主要な香港株主名簿に記載されている者）に対して本受益証券1口当たり具体的に特定された本優先株式1株の割合で、かつそれぞれが別個に取引することができないようにするために、具体的に特定された各本優先株式が本受益証券と一体化されることを前提として発行又は譲渡されない限り、いかなる者に対しても本受益証券を発行又は売却してはならない。

- (c) HKエレクトリック・インベストメンツ社は、本優先株式が上記の通り本受益証券と一体化されない限り、本優先株式を発行又は売却してはならない。

本受益証券及び本普通株式の紐付けの継続、並びに本受益証券及び本優先株式の一体化の継続

本信託証書に基づき、本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社は、交換権が行使されるまでは、(本トラストのトラスティ・マネジャーとしての資格における)本トラスティ・マネジャーの名義で主要な本株主名簿に登録された具体的に特定された本普通株式に各本受益証券を継続して紐付けさせておかなければならず、かつ、具体的に特定された本優先株式に各本受益証券を継続して一体化させておかなければならない。

本信託証書には、本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社が、本受益証券と本普通株式とが紐付けされなくなる、若しくは本受益証券と本優先株式とが一体化されなくなるような一切の行為を行い、又はこれらの関係を維持するのに必要とされる一切の行為を行わないことを禁じる規定が含まれている。

また、本信託証書には、本受益証券及び本株式が本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社によってのみ募集及び発行でき、またその保有者によってのみ、(個々の構成要素である本受益証券、本普通株式及び本優先株式の形ではなく)本株式ステーブル受益証券の形で譲渡することができる旨の詳細な規定が盛り込まれている。

本信託証書はまた、交換権の行使又は本トラストの解散による本優先株式の償還がなされるまでは、本受益証券の併合、分割、消却、買戻し又は償還に併せて、当該本受益証券に紐付けされた具体的に特定された発行済本普通株式及び当該本受益証券に一体化された具体的に特定された発行済本優先株式の両方の併合、分割、消却、買戻し又は償還を行うのでない限り、本トラスティ・マネジャーは、本受益証券の併合、分割、消却、買戻し又は償還を行ってはならない旨、またHKエレクトリック・インベストメンツ社は本株式の併合、分割、消却、買戻し又は償還を行ってはならない旨規定している。

② 管理会社及びファンドの関係法人の名称及びファンドの運営上の役割並びに契約等の概要

名称	ファンド運営上の役割	契約等の概要
HKエレクトリック・インベストメンツ・マネジャー・リミテッド	本トラスティ・マネジャー	HKエレクトリック・インベストメンツ社との間で2014年1月1日に本信託証書(その時々における変更を含む。)を締結。本信託証書は、本トラストの設定、本信託財産の構成、本株式ステーブル受益証券の発行及び償還、並びに本トラストの終了等について規定している。
HKエレクトリック・インベストメンツ・リミテッド	本普通株式及び本優先株式の発行者	本トラスティ・マネジャーとの間で2014年1月1日に本信託証書(その時々における変更を含む。)を締結。本信託証書は、本トラストの設定、本信託財産の構成、本株式ステーブル受益証券の発行及び償還、並びに本トラストの終了等について規定している。

③ 管理会社の概況

(i) 設立準拠法

本トラスティ・マネジャーであるHKエレクトリック・インベストメンツ・マネジャー・リミテッドは、2013年9月25日に香港会社条例に基づき香港において設立された。

(ii) 資本金の額

2023年12月31日現在、発行済払込株式資本金は1.00香港ドルである。

(iii) 会社の沿革

本トラスティ・マネジャーは、2013年9月25日に設立された。

本トラスティ・マネジャーは、PAH社の間接完全子会社である。本信託証書は、本トラスティ・マネジャーが、本トラストのトラスティ・マネジャーとして行為する限り、PAH社の完全子会社であり続けなければならない旨規定している。

(iv) 事業の目的

本トラスティ・マネジャーは、本トラストの管理という特定のかつ限定的な役割を有する。本トラスティ・マネジャーは、本電力事業の運営に積極的に関与することはなく、かかる本電力事業は、本グループにより所有及び運営されている。

(v) 大株主の状況

名称	住所	所有株式数	発行済株式数に対する 所有株式数の比率
シュア・グレード社	英領ヴァージン諸島、VG1110、トルトラ、ロード・タウン、ウィッカム・ケイ II、ヴィストラ・コーポレート・サービス・センター (Vistra Corporate Services Centre, Wickhams Cay II, Road Town, Tortola, VG1110, British Virgin Islands)	1	100%

3. 投資方針

(1) 投資方針

長期成長戦略

本グループは、その長い歴史を通じて、安全で信頼できる手頃な価格の電力を供給する一方で、環境に対する事業の影響を最小限に抑えることにより、香港経済の成長を一貫して支えるとともに、本グループの投資家の長期的な価値の持続的な成長の実現に努めている。

本グループは、香港の電力業界において傑出した地位を築き上げ、効率と持続可能性に関する優れた伝統を引き継いでいくという構想を実現するため、以下の長期戦略を指針としている。

ワールドクラスの電力供給を通じた香港への奉仕

電力のフェイルセーフ供給は、香港の経済的な成功にとって不可欠である。本グループは、比類ない需要家サービスの提供とともにワールドクラスの供給信頼度の維持を優先事項に掲げている。また、本グループは環境に対する影響を最小限に抑制させる技術と設備を導入・展開している。

近年、本グループは、香港のクリーンエア計画2035 (Clean Air Plan 2035) を支援するため、2035年までに石炭火力発電を段階的に廃止する計画であり、ガス火力発電及び再生可能エネルギーを拡大している。長期的には、香港政府が設定した2050年までの香港のカーボン・ニュートラル目標の実現を支援するために本グループの利害関係者と協力する予定である。

本グループ資産基盤の安定的成長の維持

本グループの発電、送電、配電に係る設備投資は、現実的かつ長期的な原則を指針として行われている。全ての支出は、供給信頼性を維持し、効率と需要家サービスを向上させつつ低排出量のエネルギー源により環境を保護するという本グループの目標の達成をサポートするものでなければならない。これらの投資は、本グループの資産基盤の安定的成長を可能にし、延いては、本グループの長期投資家に対する利益の安定的な成長につながるものである。

財務及び効率に関する慎重な原則に基づく事業運営

本グループは、慎重な財務管理の価値を認めており、健全な流動性を伴う最適な資本構成を維持している。本グループは、事業運営の効率と有効性の確保に努めるとともに、燃料費を含む営業費用を厳格に管理している。これらの原則は、本グループが投資家に持続可能なリターンをもたらすと同時に、需要家に手頃な価格で電力を供給することを可能にするものである。

(2) 投資対象

本信託証書に記載されている本トラストの活動範囲は、原則として、HKエレクトリック・インベストメンツ社への投資に限定されており、本信託証書により付与される本トラスティ・マネジャーの権限及び権利もまた、それに応じて限定されている。

(3) 運用体制

本信託証書は、本トラスティ・マネジャーの取締役が、常にHKエレクトリック・インベストメンツ社の取締役を務める同一の個人により構成されることを定めている。また、いかなる者も、同時にHKエレクトリック・インベストメンツ社の取締役を兼任していない限り、本トラスティ・マネジャーの取締役を務めることができないこと、及びいかなる者も、同時に本トラスティ・マネジャーの取締役を兼任していない限り、HKエレクトリック・インベストメンツ社の取締役を務めることができないことを定めている。したがって、本トラスティ・マネジャー取締役会の構成とHKエレクトリック・インベストメンツ社取締役会の構成は常に同一となる。

本取締役会及び管理職

本取締役会及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の管理職に関する以下の情報は、2024年4月5日時点のものである。

取締役会

執行取締役

フォク・キン・ニン, カニング (FOK Kin Ning, Canning)

会長

フォク・キン・ニン, カニング (72歳) は、本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の取締役であり、2013年12月から本取締役会の会長を務めている。同氏はまた、HKエレクトリック・インベストメンツ社の完全所有子会社であるHEC社の会長である。フォク氏は、CKハチソン社の副会長兼執行取締役であり、以前はグループ共同マネージング・ディレクターであった。同氏は、CKI社の副会長、ハチソン・テレコミュニケーションズ香港ホールディングス・リミテッド (Hutchison Telecommunications Hong Kong Holdings Limited) 及びTPGテレコム・リミテッド (TPG Telecom Limited) (以下「TPGテレコム」という。)の会長、CKハチソン・グループ・テレコム・ホールディングス・リミテッド (CK Hutchison Group Telecom Holdings Limited) (以下「CKHGT社」という。)の執行会長、並びにピーティー・インドサット・ティービーケー (PT Indosat Tbk) の副社長コミサリスである。同氏は以前、PAH社、ハチソン・ポート・ホールディングス・トラスト (Hutchison Port Holdings Trust) (以下「HPHトラスト」という。)のトラスティ・マネジャーであるハチソン・ポート・ホールディングス・マネジメント・ピーティーイー・リミテッド (Hutchison Port Holdings Management Pte. Limited) (以下「HPHMPL社」という。)、及びハチソン・テレコミュニケーションズ (オーストラリア) リミテッド (Hutchison Telecommunications (Australia) Limited) (以下「HTAL社」という。)の会長、並びにセノバス・エナジー・インク (Cenovus Energy Inc.) (以下「セノバス・エナジー社」という。)の取締役であった。上記の企業は、本トラスティ・マネジャー、HEC社、CKHGT社及びHPHMPL社を除き、全て上場企業であり、HPHトラストは上場ビジネス・トラストである。フォク氏は、香港証券先物条例第XV部の意味における本株式ステーブル受益証券の特定大量保有者の取締役及び本株式ステーブル受益証券の特定大量保有者により支配されている特定企業の取締役を務めている。フォク氏は文学士号と財務管理学の学位を有しており、オーストラリア・ニュージーランド勅許会計士協会 (Chartered Accountants Australia and New Zealand) のフェローである。

チェン・チョー・イン, フランシス (CHENG Cho Ying, Francis)

最高経営責任者

チェン・チョー・イン, フランシス (67歳) は、2013年12月から本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の取締役を務めており、2023年7月にHKエレクトリック・インベストメンツ社の最高経営責任者に就任した。チェン氏はまた、HEC社のマネージング・ディレクターであり、HKエレクトリック・インベストメンツ社の全ての子会社の取締役である。チェン氏は、上場企業であるPAH社の執行取締役であり、香港証券先物条例第XV部の目的上の本株式ステーブル受益証券大量保有者である。チェン氏は1979年から本グループに勤務しており、以前HEC社の業務担当ディレクターを務めていた。同氏は化学の学士号を有しており、英国の王立化学協会 (Royal Society of Chemistry in the United Kingdom) のフェローであり、また、香港技術者協会 (The Hong Kong Institution of Engineers) のフェローである。

チャン・ロイ・シュン (CHAN Loi Shun)

チャン・ロイ・シュン (61歳) は、2013年9月の設立時から本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の取締役を務めている。チャン氏はまた、HEC社を含むHKエレクトリック・インベストメンツ社の全ての子会社の取締役である。同氏はCKI社の執行取締役兼最高財務責任者であり、PAH社の執行取締役である。チャン氏は1992年1月にCKグループ (CK Group) に入社した。上記の企業は、本トラスティ・マネジャー及びHEC社を除き、全て上場企業である。チャン氏は香港証券先物条例第XV部の目的上の一連の本株式ステーブル受益証券大量保有者、すなわち、CKI社、PAH社、クイックビュー・リミテッド (Quickview Limited) の取締役である。チャン氏は、香港公認会計士協会のフェローであり、勅許公認会計士協会 (Association of Chartered Certified Accountants) のフェローであり、公認管理会計士協会 (オーストラリア) (Institute of Certified Management Accountants (Australia)) の会員である。

クワン・イン・レオン (KWAN Ying Leung)

クワン・イン・レオン (63歳) は、2023年7月に本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の取締役に就任した。クワン氏はまた、HEC社の取締役であり、本グループのエンジニアリング業務の全て (発電及び送配電システムの開発・運営を含む。) を統括するエンジニアリング担当ディレクターを務めている。同氏は、1983年10月から本グループに所属しており、発電プロジェクトの実行管理において30年超の経験を有している。同氏は工学の理学士号を有している。同氏は勅許技術者であり、香港技術者協会と英国の機械技術者協会 (Institute of Mechanical Engineers) の会員である。

ワン・ユアンハン (WANG Yuanhang)

ワン・ユアンハン (48歳) は、2022年7月に本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の取締役に就任した。ワン氏はまた、HEC社の取締役兼共同ジェネラル・マネジャー (送配電担当) である。同氏は、ステート・グリッド・インターナショナル・ディベロップメント・リミテッド (State Grid International Development Limited) の取締役である。同氏は以前、ステート・グリッド・ブラジル・ホールディング・エス・エー (State Grid Brazil Holding S.A.) の開発及び戦略部門の部長、ステート・グリッド・インターナショナル・ディベロップメント・カンパニー・リミテッド (State Grid International Development Co., Limited) の海外事業部門 (事業監視センター) の部長及びギリシャのインディペンデント・パワー・トランスミッション・オペレーター・エス・エー (Independent Power Transmission Operator S.A.) の取締役を務めていた。ステート・グリッド・インターナショナル・ディベロップメント・リミテッド及びステート・グリッド・インターナショナル・ディベロップメント・カンパニー・リミテッドは、香港証券先物条例第XV部の目的上の本株式ステーブル受益証券大量保有者である。ワン氏は、華北電力大学で継電器保護及び自動遠隔制御技術の学士号並びに山西大学で経営管理学の修士号を取得している。同氏はまた、英国の技術評議会 (Engineering Council) によって登録された勅許技術者である。

非執行取締役

リ・ツァー・クォイ、ヴィクター (LI Tzar Kuoi, Victor)

HKエレクトリック・インベストメンツ社取締役会副会長

リ・ツァー・クォイ、ヴィクター (59歳) は、2014年11月に本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の取締役、並びにHKエレクトリック・インベストメンツ社の取締役会副会長に就任した。リ氏はまた、HEC社の取締役、及びPAH社の非執行取締役である。同氏はまた、2018年5月からCKハチソン社の会長兼グループ共同マネージング・ディレクターを務め、2024年4月1日に会長兼執行取締役役に再任された。リ氏は、CKアセット・ホールディングス・リミテッド (CK Asset Holdings Limited) (以下「CKアセット社」という。)の会長兼マネージング・ディレクター、及び執行委員会委員長、並びにCKI社及びCKライフサイエンス・インターナショナル (ホールディングス) インク (CK Life Sciences Int' l., (Holdings) Inc.) (以下「CKライフ・サイエンス社」という。)の会長である。上記の企業は、本トラスティ・マネジャー及びHEC社を除き、全て上場企業である。リ氏はまた、リ・カシン・ファウンダーション・リミテッド (Li Ka Shing Foundation Limited) 及びリ・カシン (グローバル) ファウンダーション (Li Ka Shing (Global) Foundation) の副会長並びにリ・カシン (カナダ) ファウンダーション (Li Ka Shing (Canada) Foundation) のメンバー副会長である。リ氏は、中国の中国人民政治協商会議の第14期全国委員会の委員及び香港特別行政区の最高責任者諮問委員会 (Chief Executive's Council of Advisers) の委員を務めている。同氏はまた、香港商工会議所 (Hong Kong General Chamber of Commerce) の副会長である。リ氏は、香港のバルバドス名誉領事であり、イタリアの星勲章 (Order of the Star of Italy) のグランド・オフィサー章を授与されている。同氏は、香港証券先物条例第XV部の意味における本株式ステーブル受益証券の特定大量保有者の取締役を務めており、さらに本株式ステーブル受益証券の特定大量保有者により支配されている特定企業の取締役を務めている。リ氏は土木工学の理学士号、土木工学の理学修士号、及び名誉法学博士号 (LL.D.) を有している。

ファハド・ハマド・A・H・アル・モハナディ (Fahad Hamad A H AL-MOHANNADI)

ファハド・ハマド・A・H・アル・モハナディ (68歳) は、2015年6月に本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の取締役に就任した。同氏はまた、HEC社の取締役である。アル・モハナディ氏は以前、2020年12月付で退職するまでカタール証券取引所の上場企業であるカタール発電造水会社 (Qatar Electricity & Water Co.) のマネージング・ディレクター兼ジェネラル・マネジャーを務めていた。アル・モハナディ氏は機械工学の学士号を有している。

ロナルド・ジョセフ・アーカリ (Ronald Joseph ARCULLI)

ロナルド・ジョセフ・アーカリ (85歳) は、2013年12月に本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の取締役に就任した。同氏はまた、HEC社の取締役である。アーカリ氏は現職の事務弁護士であり、1988年から2000年まで香港立法会の議員を務め、1991年から2000年まで不動産及び建設関係の職能別選挙区を代表した。同氏は、2005年11月から2012年6月まで香港特別行政区の香港行政会議の非官職メンバーであり、2011年10月から2012年6月まで議長を務めた。同氏は、公職において優れた実績を挙げており、数多くの政府の委員会及び諮問機関のメンバーを務めてきた。アーカリ氏は、シノ・ホテルズ (ホールディングス) リミテッド (Sino Hotels (Holdings) Limited)、シノ・ランド・カンパニー・リミテッド (Sino Land Company Limited)、及びチム・シャ・ツイ・プロパティーズ・リミテッド (Tsim Sha Tsui Properties Limited) の非執行取締役である。アーカリ氏は、以前に香港証券取引所の独立非執行取締役、ハンルン・プロパティーズ・リミテッド (Hang Lung Properties Limited) の独立非執行取締役及び会長顧問、並びにHKRインターナショナル・リミテッド (HKR International Limited) の非執行取締役も務めていた。上記の企業は、本トラスティ・マネジャー及びHEC社を除き、全て上場企業である。

デヴェン・アルヴィンド・カルニク (Deven Arvind KARNIK)

デヴェン・アルヴィンド・カルニク（56歳）は、2015年6月に本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の取締役役に就任した。同氏はまた、HEC社の取締役である。カルニク氏は、カタール投資庁（Qatar Investment Authority）のインフラストラクチャ局長である。2013年にカタール投資庁に入庁する前、カルニク氏は香港において約7年間の職歴があり、モルガン・スタンレーのマネージング・ディレクター、ドレスナー・クラインオート（Dresdner Kleinwort）のマネージング・ディレクターを務めていた。カルニク氏は商学士号を有しており、イングランド及びウェールズ勅許会計士協会（Institute of Chartered Accountants in England and Wales）の会員である。

ワン・ジジヤン (WANG Zijian)

ワン・ジジヤン（56歳）は、2022年9月に本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の取締役役に就任した。ワン氏はまた、HEC社の取締役である。同氏は、ステート・グリッド・インターナショナル・ディベロップメント・カンパニー・リミテッドの従業員代表取締役、執行副社長及び労働組合の委員長である。同氏は以前、ステート・グリッド・コーポレーション・オブ・チャイナ（State Grid Corporation of China）（以下「ステート・グリッド社」という。）の開発計画部門の総合計画局長及び統計局長を務めていた。ステート・グリッド・インターナショナル・ディベロップメント・カンパニー・リミテッド及びステート・グリッド社は、香港証券先物条例第XV部の目的上の本株式ステーブル受益証券大量保有者である。ワン氏は、廈門大学で経済学の学士号を取得している。

ズー・グアンチャオ (ZHU Guangchao)

ズー・グアンチャオ（56歳）は、2017年5月に本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の取締役役に就任した。ズー氏はまた、HEC社の取締役である。同氏は、香港証券先物条例第XV部の目的上の本株式ステーブル受益証券大量保有者であるステート・グリッド社の次席エンジニア及び国際協力事業部本部長、ナショナル・グリッド・コーポレーション・オブ・フィリピンの会長、並びにポルトガルの電力・ガス網の上場国有企業である国営エネルギー網会社の取締役会副会長である。同氏は、以前にステート・グリッド・インターナショナル・ディベロップメント・カンパニー・リミテッドのマネージング・ディレクター、社長、上級副社長及び最高経営責任者、ステート・グリッド社の国際協力事業部本部長、ステート・グリッド・インターナショナル・ディベロップメント・カンパニー・リミテッドの取締役、ステート・グリッド社フィリピン代表部の副本部長、ナショナル・グリッド・コーポレーション・オブ・フィリピンの最高経営顧問、取締役及びプロジェクトチーム副責任者、並びにステート・グリッド社財務部の副本部長を務めていた。ズー氏は、電力システム及びオートメーションの修士号及び経営管理学の修士号を有している。

独立非執行取締役

フォン・チー・ウェイ, アレックス (FONG Chi Wai, Alex)

フォン・チー・ウェイ, アレックス（67歳）は、2013年12月に本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の取締役役に就任した。フォン博士はまた、HEC社の取締役である。同博士は、2006年から2011年まで香港商工会議所の最高経営責任者（CEO）を務めた。同博士は、香港商工会議所に入所する前、25年以上にわたって公務員を務め、香港政府においてさまざまな上級職に就いた。同博士には、公務員として行政運営及び政策策定の両方に関する知識を提供してきた、長期間にわたる実績がある。フォン博士は、トム・グループ・リミテッド（TOM Group Limited）（以下「TOMグループ」という。）及びHHPHトラストのトラスティ・マネジャーであるHHPHPL社の独立非執行取締役である。フォン博士は、香港大学ビジネススクール及び香港中文大学ビジネススクールの非常勤准教授である。同博士は以前、香港証券先物条例第XV部の目的上の本株式ステーブル受益証券大量保有者であるPAH社及びチャイナ・ユナイテッド・ベンチャー・インベストメント・リミテッド（China United Venture Investment Limited）の独立非執行取締役を務めていた。上記の企業は、本トラスティ・マネジャー、HEC社及びHHPHPL社を除き、全て上場企業であり、HHPHトラストは上場ビジネス・トラストである。フォン博士は、経営及び経済学の社会科学士号、国際物流管理学の技術経営修士号、国際金融学の理学修士号、経営管理学の博士号、並びに哲学の博士号を有している。

コー・ポー・ワー (KOH Poh Wah)

コー・ポー・ワー (67歳) は、2021年5月に本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の取締役役に就任した。コー氏はまた、HEC社の取締役である。同氏は、運営管理、テクノロジー、金融及びビジネスリエンジニアリングの分野で30年以上の勤務経験を有している。コー氏は、上場不動産投資信託であるフォーチュン・リアル・エステート・インベストメント・トラスト (Fortune Real Estate Investment Trust) のマネジャーであるエイアールエイ・アセット・マネジメント (フォーチュン) ・リミテッド (ARA Asset Management (Fortune) Limited) の独立非執行取締役である。コー氏は、PAH社 (上場企業であり、香港証券先物条例第XV部の目的上の本株式ステーブル受益証券大量保有者) の独立非執行取締役でもある。コー氏は、以前、2012年から2015年まで、非営利組織であるアルファ・インターナショナル (Alpha International) の地方会計士 (アルファ・アジア・パシフィック) を務め、アルファ・アジア・パシフィック地域、アルファ・シンガポール (Alpha Singapore) 及びエイエイピー・パブリッシング・ピーティーイー・リミテッド (AAP Publishing Pte. Ltd.) の財務部門を担当した。この役職に就く前は、同氏は、IT及びビジネス・リエンジニアリング・コンサルタント分野において幅広く業務を行うフューチャー・ポジティブ・ピーティーイー・リミテッド (Future Positive Pte. Ltd.) の取締役であった。コー氏はまた、1986年から2000年までの15年間、アメリカン・インターナショナル・アシュアランス・カンパニー・リミテッド (American International Assurance Co. Ltd.) に勤務しており、最終的にクオリティ・サポート・アンド・オペレーションマネジメント担当副社長の役職を務めた。コー氏は、経営科学及びオペレーションズ・リサーチの理学修士号、会計学の (名誉) 学士号、情報システム管理研究所 (旧英国データ処理管理研究所) の学位を有しており、ライフマネジメント協会 (Life Management Institute) (米国) のフェローである。

クワン・カイ・チョン (KWAN Kai Cheong)

クワン・カイ・チョン (74歳) は、2015年1月に本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の取締役役に就任した。クワン氏はまた、HEC社の取締役である。同氏は、企業コンサルタント会社のモリソン・アンド・カンパニー・リミテッド (Morrison & Company Limited) のマネージング・ディレクターである。クワン氏はまた、中国の商用不動産会社であるジーティー・ランド・ホールディングス・リミテッド (G.T. Land Holdings Limited) の取締役会会長である。クワン氏は、1982年から1993年までの10年以上にわたってメリル・リンチ・アンド・カンパニー・インク (Merrill Lynch & Co., Inc.) に勤務しており、最終的に同社のアジア太平洋地域担当プレジデントの役職を務めた。同氏は以前にパシフィック・コンコード・ホールディング・リミテッド (Pacific Concord Holding Limited) の共同マネージング・ディレクターを務めていた。クワン氏は、グリーンランド・ホンコン・ホールディングス・リミテッド (Greenland Hong Kong Holdings Limited)、ヘンダーソン・サンライト・アセット・マネジメント・リミテッド (Henderson Sunlight Asset Management Limited) (サンライト・リアル・エステート・インベストメント・トラスト (Sunlight Real Estate Investment Trust) のマネジャー)、ウィン・ハンバーキー・ホールディングス・リミテッド (Win Hanverky Holdings Limited) 及びCKライフ・サイエンス社の独立非執行取締役であり、これらは全て上場企業である (但し、サンライト・リアル・エステート・インベストメント・トラストは上場不動産投資信託である)。クワン氏は、会計学の (名誉) 学士号を有しており、香港公認会計士協会、公認管理会計士協会 (オーストラリア) 及び香港董事学会 (The Hong Kong Institute of Directors Limited) のフェローである。同氏は1992年にスタンフォード・エグゼクティブ・プログラム (Stanford Executive Program) を修了している。

リー・ラン・イー, フランシス (LEE Lan Yee, Francis)

リー・ラン・イー, フランシス (83歳) は、2013年12月に本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の取締役役に就任した。リー氏はまた、HEC社の取締役である。リー氏は、香港証券先物条例第XV部の目的上の本株式ステーブル受益証券大量保有者である上場企業のPAH社の独立非執行取締役を以前に務めていた。同氏は、40年以上にわたってPAHグループにおいてさまざまな役職を歴任しており、1997年から2008年までPAHグループのディレクター兼エンジニアリング担当ジェネラル・マネジャーを務めていた間、発電、送電及び配電システムの開発及び運用を含む、PAHグループの全てのエンジニアリング活動に責任を負っていた。同氏は工学の理学士号及び理学修士号を有している。同氏は勅許技術者であり、香港及び英国の機械技術者協会のフェローである。

ジョージ・コリン・マグナス (George Colin MAGNUS)

ジョージ・コリン・マグナス (88歳) は、2013年12月に本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の取締役役に就任した。マグナス氏はまた、HEC社の取締役である。同氏は、1993年から2005年までPAH社の会長を務め、2005年から2012年まで非執行取締役、2014年1月まで独立非執行取締役を務めていた。同氏は、CKハチソン社の非執行取締役である。同氏はまた、CKI社の非執行取締役であり、以前は同社の副会長を務めていた。同氏はチョン・コン (ホールディングス) リミテッド (Cheung Kong (Holdings) Limited) 及びハチソン・ワンポア・リミテッド (Hutchison Whampoa Limited) (以下「HWL社」という。) において副会長を務めた後、両社の非執行取締役を務めていた。上記の企業は、本トラスティ・マネジャー、HEC社、チョン・コン (ホールディングス) リミテッド及びHWL社を除き、全て上場企業である。マグナス氏は、香港証券先物条例第XV部の目的上の本株式ステーブル受益証券大量保有者である複数の企業で取締役を務めている。同氏は経済学修士号を有している。

ドナルド・ジェフリー・ロバーツ (Donald Jeffrey ROBERTS)

ドナルド・ジェフリー・ロバーツ (72歳) は、2013年12月に本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の取締役役に就任した。同氏はまた、HEC社の取締役である。ロバーツ氏は、いずれも上場企業であるCKアセット社、クイーンズ・ロード・キャピタル・インベストメント・リミテッド (Queen's Road Capital Investment Ltd.)、CKライフ・サイエンス社及びネクストジェン・エネルギー・リミテッド (NexGen Energy Ltd.) の独立非執行取締役である。同氏はウィーラボ・バンク・リミテッド (Welab Bank Limited) 及びウィーラボ・キャピタル・リミテッド (Welab Capital Limited) の独立非執行取締役である。同氏は1988年にHWLグループに入社し、2000年から2011年に退職するまでHWL社のグループ最高財務責任者代理を務めた。ロバーツ氏は、2015年7月から2020年7月まで香港証券取引所のメインボード及び成長企業市場の上場委員会の委員を務めた。同氏は以前、在香港カナダ商工会議所 (Canadian Chamber of Commerce) の執行委員を務め、現在は同会議所の会頭を務めている。同氏は以前、1998年から2004年及び2006年から2012年の期間に香港のカナダ・インターナショナル・スクール の校長を務め、また財政管理委員会の委員を務めた。ロバーツ氏は、副会長の役職を含め、香港公認会計士協会の職業倫理委員会 (Professional Conduct Committee) の委員として9年間務めた。ロバーツ氏は商学士号を有している。同氏はカナダアルバータ州及びブリティッシュ・コロンビア州勅許会計士協会 (Chartered Professional Accountants of Canada, Alberta and British Columbia) の勅許会計士であるとともに、香港公認会計士協会のフェローである。

取締役代行者

フランク・ジョン・シクスト (Frank John SIXT)

フランク・ジョン・シクスト (72歳) は、2015年6月に、リ・ツァー・クォイ、ヴィクター氏 (HKエレクトリック・インベストメンツ社取締役会の副会長であり、本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の非執行取締役である。) の取締役代行者に就任した。同氏はまた、HEC社の取締役代行者である。シクスト氏は、CKハチソン社の執行取締役、グループ共同マネージング・ディレクター兼グループ財務担当ディレクター、HTAL社の会長、TOMグループの非執行会長、CKI社の執行取締役及びTPGテレコムの子会社の非執行取締役である。同氏はまた、セノバス・エナジー社の取締役及びHTAL社の取締役代行者である。シクスト氏は以前、ピーティー・インドサット・ティーピーケイのコミサルスを務めていた。上記の企業は、本トラスティ・マネジャー及びHEC社を除き、全て上場企業である。同氏は、約40年間の法務、国際金融及びリスク管理の経験を有し、財務報告制度、リスク管理、内部統制制度及び持続可能性問題と関連リスクの監督に関する深い専門知識を有する。シクスト氏は、香港証券先物条例第IV部の意味における本株式ステーブル受益証券の特定大量保有者の取締役、及び本株式ステーブル受益証券の特定大量保有者により支配される特定企業の取締役を務めている。同氏は文学修士号及び民事法の学士号を有しており、カナダのケベック州及びオンタリオ州の法曹団及びロー・ソサイエティの会員である。

HKエレクトリック・インベストメンツ社管理職

チャン・ロク・マン, ノーマン (CHAN Lok Man, Norman)

チャン・ロク・マン (53歳) はプロジェクト担当ジェネラル・マネジャーであり、1994年1月から本グループに所属している。同氏は、発電プロジェクトの実行管理において29年超の経験を有している。同氏は機械工学の工学学士号及び経営学の哲学修士号を有している。同氏は勅許技術者であり、香港技術者協会と英国の機械技術者協会の会員である。

チョイ・ワイ・マン (CHOI Wai Man)

チョイ・ワイ・マン (64歳) は顧客サービス担当ジェネラル・マネジャーであり、1981年10月から本グループに所属している。同氏は、電力供給業界及び顧客サービスにおいて42年超の経験を有している。同氏は工学の理学士号及び経営管理学の修士号を有している。同氏は勅許技術者並びに香港技術者協会のフェロー及び英国工学技術協会 (Institution of Engineering and Technology) の会員である。

チョウ・フォ・シン (CHOW Fo Shing)

チョウ・フォ・シン (54歳) は発電担当ジェネラル・マネジャーであり、1994年9月から本グループに所属している。同氏は、発電事業において29年超の経験を有している。同氏は機械工学の工学学士号及び機械工学の理学修士号を有している。

ホー・イン・ピウ, ビル (HO Yin Piu, Bill)

ホー・イン・ピウ, ビル (53歳) は経営企画担当ジェネラル・マネジャーであり、2019年1月に本グループに入社した。同氏は、中国本土及び香港における電力事業者の経営企画及び事業運営において30年超の経験を有している。ホー氏はまた香港商界環保協会 (Business Environment Council) のディレクターである。同氏は工学の学士号、経営管理学の修士号、及び実務会計学の修士号を有している。同氏は勅許技術者であり、香港技術者協会と英国工学技術協会の会員である。

ワン・ワイ・キン, ミュラー (WAN Wai Kin, Mullar)

ワン・ワイ・キン, ミュラー (65歳) は、情報技術担当ジェネラル・マネジャーであり、1993年7月から本グループに所属している。同氏は、ソフトウェア技術、コンサルティング及び情報技術管理において41年超の国内外での経験を有している。同氏は情報管理学の理学修士号を有している。同氏は、香港コンピューター学会の会員及び英国コンピューター学会のフェローである。

ウォン・キム・マン (WONG Kim Man)

ウォン・キム・マン（63歳）は最高財務責任者であり、2010年9月から本グループに所属している。同氏は、財務管理及び会計において35年超の経験を有している。同氏は経営管理学の学士号と修士号を有している。同氏はまた、香港公認会計士協会及び米国公認会計士協会（American Institute of Certified Public Accountants）の会員である。

ウォン・ユク・キョン, アーサー (WONG Yuk Keung, Arthur)

ウォン・ユク・キョン, アーサー（66歳）はグループ・コマーシャル担当ジェネラル・マネジャーであり、1982年1月から本グループに所属している。同氏は、本グループに入社すると同時にラマ発電所の建設に携わり、その後、グループ・コマーシャル部門のさまざまな事業部において勤務し、それらの部長に昇進した。同氏は、工学の理学士号、工学の理学修士号、経営管理学の修士号を有している。

ウー・クオク・クオン、デニス (WU Kwok Kwong, Dennis)

ウー・クオク・クオン、デニス（59歳）は人事担当ジェネラル・マネジャーであり、2014年6月に本グループに入社した。同氏は、香港の官民双方のセクターの組織において人事管理及び総務に関する30年超の経験を有している。同氏はトレーニング学の理学修士号を有しており、香港人的資源管理学会（Hong Kong Institute of Human Resource Management）の専門会員、英国ホスピタリティ協会（Institute of Hospitality (UK)）の会員である。

ヨン・クオン・トゥン, トニー (YEUNG Kwong Tung, Tony)

ヨン・クオン・トゥン, トニー（60歳）は送電及び配電担当ジェネラル・マネジャーであり、1987年9月から本グループに所属している。同氏は、電力供給事業において36年超の経験を有している。同氏は電気工学の理学修士号を有している。同氏は勅許技術者及び登録専門技術者であり、香港技術者協会のフェロー及び英国工学技術協会の会員である。

ヨン・ユク・チュン, ミミ (YEUNG Yuk Chun, Mimi)

ヨン・ユク・チュン, ミミ（60歳）は広報担当ジェネラル・マネジャーであり、2003年7月から本グループに所属している。同氏は、ジャーナリズム及びコーポレート・コミュニケーションにおいて37年超の経験を有している。同氏は行政学の文学士号と修士号を有している。

本トラスティ・マネジャー秘書役及び会社秘書役

ン・ウェイ・チョン, アレックス (NG Wai Cheong, Alex)

ン・ウェイ・チョン, アレックス（54歳）はグループ法律顧問兼会社秘書役であり、2008年11月から本グループに所属している。同氏はまた、PAH社のグループ法律顧問兼会社秘書役である。同氏は法律、規制及び法令遵守の分野において25年超の経験を有している。ン氏は理学士号と法学士号を有している。同氏は香港並びにイングランド及びウェールズにおける事務弁護士資格を有している。

統合コーポレート・ガバナンス報告書

本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の取締役会は、2023年12月31日に終了した会計年度に係るコーポレート・ガバナンス報告書を提示する。

コーポレート・ガバナンス

本取締役会は、高い水準のコーポレート・ガバナンスを維持するように努めており、健全かつ有効なコーポレート・ガバナンスの実務慣行が本トラスティ・マネジャー及び本トラスト・グループの円滑、効果的かつ透明性のある運営の基盤であり、投資を誘引し、本株式ステーブル受益証券保有者及びその他の利害関係者の権利を保護し、本株式ステーブル受益証券の価値を増大させる能力の基礎となるものであると認識している。本トラスティ・マネジャー及び本トラスト・グループのコーポレート・ガバナンスの実務慣行は、これらの目的を達成するように設定

されており、プロセス、方針及びガイドラインの枠組を通じて維持されている。

本トラスティ・マネジャーにより管理されている本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社は、いずれも香港証券取引所のメインボードに上場されており、香港上場規則の規定の適用を受ける。本信託証書に基づき、本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社は、それぞれ、香港上場規則及びその他の関連法令を本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社が遵守することに責任を負い、香港上場規則の義務を確実に遵守し、香港証券取引所に対する開示内容を調整するために相互に協力する。

本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社は、下記に記載及び説明されるものを除き、2023年12月31日に終了した会計年度を通じて、コーポレート・ガバナンス規則の適用条項を遵守している。

ビジョン、使命、及び基本的価値観

本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社は香港の電力事業において優位を占めるというビジョンを持ち、株主価値を増大させ、優れた需要家サービスと供給信頼度を提供し、協調的で献身的な労働力を育成し、本グループがサービスを提供しているコミュニティをケアし、本グループのあらゆる活動において環境に配慮し、本グループの業務の効率向上を推進するという使命に献身的に取り組んでいる。4つの基本的価値観、すなわち、優秀さの追求、誠実さ、尊重と信用、思いやりを指針として、本グループはその事業を合法的かつ倫理的に責任をもって運営することを約束している。

本取締役会は、本グループの事業の長期的な持続可能性を確保することに取り組んでおり、本グループの事業運営のための持続可能性アプローチを定める持続可能性方針を策定し、HKエレクトリック・インベストメンツ社のウェブサイト上で公表している。

本取締役会の指揮の下、本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社は、上記のビジョン、使命、基本的価値観及び持続可能性アプローチに従業員と利害関係者に浸透させるとともに、本グループの日常の業務運営に取り入れている。本トラスト・グループの実績に関する情報、並びに本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社が長期にわたって価値を生み出し、上記のビジョン及び使命を実現するための戦略を策定する際の基礎となる情報は、前記「(1) 投資方針—長期成長戦略」、「II. 会長声明」及び「III. 最高経営責任者による報告」に記載されている。

取締役会

本トラスティ・マネジャー取締役会及びHKエレクトリック・インベストメンツ社取締役会は、それぞれ、会長の指揮の下かつ同一の個人により構成されており、本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社のそれぞれの経営及び業務に対して連帯責任を負う。これらの責任には、戦略及び方針の承認と監視、年次予算及び事業計画の承認、業績の評価、並びに経営陣の監督が含まれる。経営陣は、最高経営責任者の指揮の下、本グループの日常の業務に責任を負う。執行取締役で構成される本トラスト・グループの上級管理職は、取締役会及び最終的には本株式ステープル受益証券保有者に対する説明責任を負う。

取締役は、常に本トラスト・グループの情報（取締役会の書類及び関連書類）に全面的かつ適時にアクセスする権利を有する。取締役による検討のため、本グループの財務状態と業績の概要に加え、各事業の実際の業績と予算上の業績予測を主要な相違点の説明とともに記載した財務要約書が取締役に毎月送付される。

非執行取締役及び独立非執行取締役を含む全ての取締役は、管理職から本トラスト・グループに関する情報の提供を独自に受けることができ、ガバナンスに関する事項と取締役会の手続について会社秘書役から無制限に助言及び業務の提供を受けることができる。取締役は、本トラスティ・マネジャー又はHKエレクトリック・インベストメンツ社の費用負担により、自己が必要とみなすときはいつでも、独立の専門家の助言を求めることができる。

本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社は、全ての取締役のために、取締役の責任に係る保険契約を締結している。

本取締役会の構成

本取締役会は、現在、5名の本執行取締役、6名の本非執行取締役及び6名の独立非執行取締役により構成されている。独立非執行取締役の数は香港上場規則に基づく3分の1要件を満たしており、そのうち2名以上は適切な専門資格又は会計若しくは関連する財務管理の専門知識を有している。

2023年度中の取締役会の構成の変更は下記の通りである。

- (1) ワン・チー・ティン氏は2023年7月1日付で本取締役会の執行取締役及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の最高経営責任者を退任した。
- (2) 本取締役会の執行取締役であるチェン・チャー・イン、フランシス氏は、2023年7月1日付でワン氏の後任としてHKエレクトリック・インベストメンツ社の最高経営責任者に就任した。
- (3) クワン・イン・レオン氏は2023年7月1日付で本取締役会の執行取締役に就任した。
- (4) チョウ・ウー・モ・フォン、スーザン氏は2023年7月1日付で本取締役会の会長であるフォク・キン・ニン、カニング氏の取締役代行者ではなくなった。

2024年4月5日現在の取締役の経歴詳細は、前記「本取締役会及び管理職」に記載されている。取締役の最新の一覧（取締役の経歴に関する情報を含む。）は、HKエレクトリック・インベストメンツ社のウェブサイト上に維持されている。取締役全員の氏名、役割及び機能は、香港証券取引所のウェブサイトに掲載されている。

取締役会委員会

本トラスティ・マネジャー取締役会及びHKエレクトリック・インベストメンツ社取締役会は、それぞれ、本トラスティ・マネジャー監査委員会及びHKエレクトリック・インベストメンツ社監査委員会による支援を受けており、さらにHKエレクトリック・インベストメンツ社取締役会は、指名委員会、報酬委員会及び持続可能性委員会による支援を受けている。これらの委員会の詳細は本統合コーポレート・ガバナンス報告書において後述され、委員会の委任事項はHKエレクトリック・インベストメンツ社のウェブサイト及び香港証券取引所のウェブサイトに公開されている。

本取締役会の進行

本トラスティ・マネジャー取締役会とHKエレクトリック・インベストメンツ社取締役会は、統合された会議を開いている。およそ四半期間隔で、毎年4回会議が開催される。また、正当な理由がある場合には、追加的に取締役会の会議を開催する。定例会議の予定は、取締役に出席のスケジュールを調整する十分な時間を与えるため、前年の最終四半期中に設定する。取締役は、本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の附属定款に基づき、自ら会議に出席するか、又は電話若しくはその他の電子的手段により、若しくは自己の取締役代行者を通じて会議に出席することができる。当会計年度を通じて、取締役はまた、書面の決議を通じて、議事を検討及び承認しており、かかる決議の書面は、必要に応じて最高経営責任者又は会社秘書役からの説明書要旨とともに取締役に回覧される。取締役は、取締役会の会議及び書面回覧の決議において検討すべき事項に自己の利害関係が伴う場合には、これを表明することを義務付けられている。

取締役は、定例会議について14日前までに書面による招集通知を受け、議事日程に含めるべき議題を提案することができる。議事日程は関連する取締役会の書類とともに、定例会議の3日前までに取締役に送付される。会社秘書役は会長を輔佐して、十分な情報に基づいた判断を行うために、議事日程に設定された各事項について取締役が適切な情報の提示を受けられるようにするとともに、取締役から求められた説明の提供について経営陣との間の調整役を務める。

本取締役会の議事録は会社秘書役が作成し、決定された事項、提示された懸念、表明された反対意見について詳細に記載する。議事録の草稿は、全ての取締役役に送付し、コメントを求める。議事録の最終版は、会社秘書役が保管し、取締役の閲覧に供される。コピーは、各会議の終了後合理的な期間内に、記録の提供のために取締役役に送付する。この取り決めは、取締役会委員会の会議にも適用される。

取締役の会議出席状況

取締役は、本取締役会及び取締役会委員会の会議並びに年次総会への参加を通じて本トラスト・グループの業務に従事している。加えて、会長は、他の取締役を同席させることなく、独立非執行取締役との会合を開き、本グループとその事業運営に関する事項について独立非執行取締役の独立の見解に耳を傾けている。2023年度における会議出席記録は下記の通りである。

取締役	HKエレクトリック・インベストメンツ社						本トラスティ・マネジャー			2023年 年次総会
	取締役会	監査 委員会	報酬 委員会	指名 委員会	持続 可能性 委員会	会長及び 独立非執行 取締役間の 会議	取締役会	監査 委員会	会長及び 独立非執行 取締役 間の会議	
執行取締役										
フォク・キン・ニン, カ ニング (会長)	4/4	—	1/1	—	—	2/2	4/4	—	2/2	○
ワン・チー・ティン (最高経営責任者) (注1)	2/2	—	—	—	1/1	—	2/2	—	—	○
チェン・チャー・イン, フランシス (最高経営責任者) (注2)	4/4	—	—	—	2/2	—	4/4	—	—	○
チャン・ロイ・シュン	4/4	—	—	—	—	—	4/4	—	—	○
クワン・イン・レオン (注 3)	2/2	—	—	—	1/1	—	2/2	—	—	—
ワン・ユアンハン	4/4	—	—	—	—	—	4/4	—	—	○
非執行取締役										
リ・ツァー・クォイ, ヴィクター (副会長)	4/4	—	—	1/1	—	—	4/4	—	—	○
ファハド・ハマド・A・ H・アル・モハナディ	3/4	—	—	—	—	—	3/4	—	—	○
ロナルド・ジョセフ・ アーカリ	4/4	3/4	—	—	—	—	4/4	3/4	—	○
デヴェン・アルヴィンド・ カルニク	4/4	—	—	—	—	—	4/4	—	—	○
ワン・ジジャン	4/4	—	—	—	—	—	4/4	—	—	○
ズー・グアンチャオ	2/4	—	—	—	—	—	2/4	—	—	○
独立非執行取締役										
フォン・チー・ウェイ, アレックス	4/4	—	1/1	—	2/2	2/2	4/4	—	2/2	○
コー・ポー・ワー	4/4	4/4	—	—	—	2/2	4/4	4/4	2/2	○
クワン・カイ・チョン	4/4	—	—	1/1	—	2/2	4/4	—	2/2	○
リー・ラン・イー, フラ ンシス	4/4	4/4	—	1/1	—	2/2	4/4	4/4	2/2	○
ジョージ・コリン・マグ ナス	4/4	—	—	—	—	2/2	4/4	—	2/2	○
ドナルド・ジェフリー・ ロバーツ	4/4	4/4	1/1	—	—	2/2	4/4	4/4	2/2	○

(注1) 2023年7月1日付で本取締役会の執行取締役及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の最高経営責任者を退任し、同時に同社の持続可能性委員会の委員長ではなくなった。

(注2) 2023年7月1日付でHKエレクトリック・インベストメンツ社の最高経営責任者及び同社の持続可能性委員会の委員長に就任した。

(注3) 2023年7月1日付で本取締役会の執行取締役及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の持続可能性委員会の委員に就任した。

各取締役は、各自の職務及び取締役責任に見合った本トラスト・グループへの貢献を行っていること、本トラスト・グループの業務に十分な時間を割いて専心していることを確認しており、他の公開企業及び組織における自己の役職について開示し、その後の変更についてHKエレクトリック・インベストメンツ社に対し適時に更新情報を提供している。

取締役会業績評価

本取締役会は、適切なコーポレート・ガバナンスと取締役会の有効性を確保するために本取締役会の業績の定期的な評価を実施している。評価プロセスの一環として、各取締役は質問票に記入することで、本取締役会及び取締役会委員会の業績についての自己の見解を示すとともに、取締役会のプロセスを改善するための提案を行い、評価結果は本取締役会に提出され、精査を受ける。

当会計年度終了後、本取締役会は上述の方法により2023年度の本取締役会の業績の評価を行い、その結果は、2024年3月開催の本取締役会の会合において精査された。本取締役は、本取締役会及び取締役会委員会が引き続き効果的に運営されていると判断した。

指名、任命及び再選

本信託証書及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の附属定款に基づき、一時的な欠員の補充又は増員のためにHKエレクトリック・インベストメンツ社取締役会により任命された取締役は、さらに本トラスティ・マネジャーの取締役に任命されることになっている。

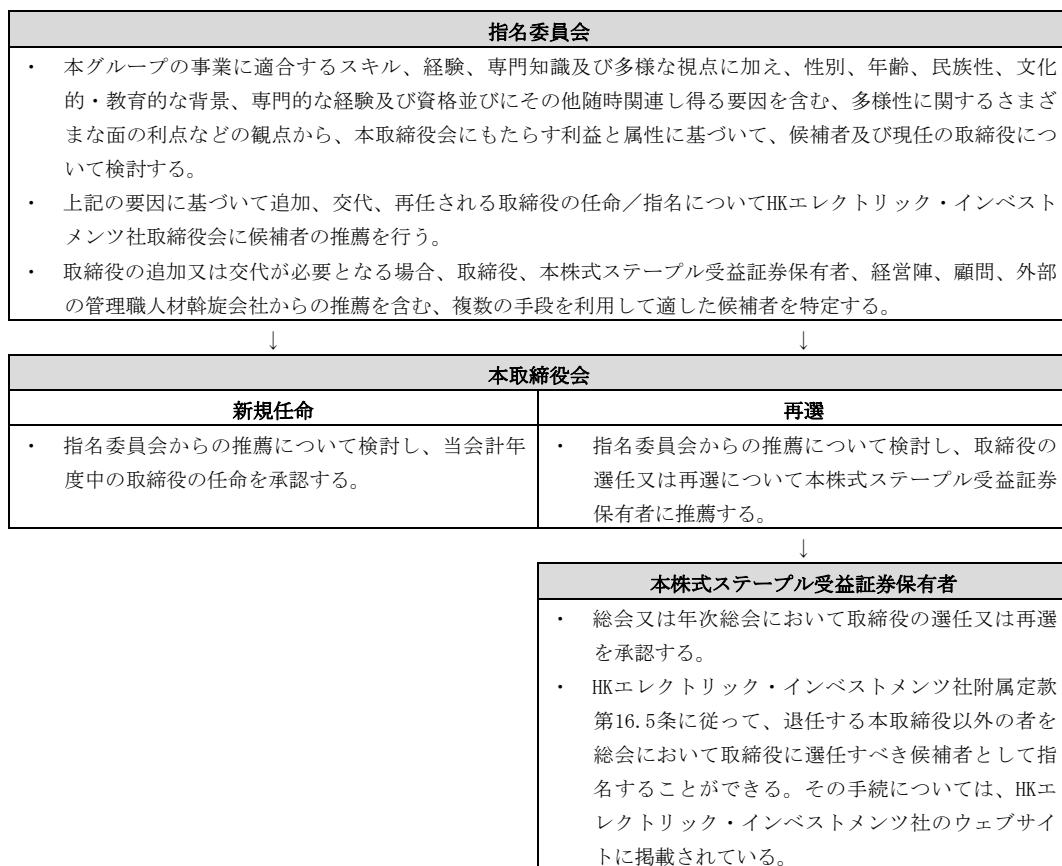
取締役は全て年単位（12ヵ月間）（但し、最初の任期は就任の年の12月31日までの期間とする。）で任命されており、本信託証書及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の附属定款に基づき、3年に1回、年次総会において順序に従って退任し、再選される。一時的な欠員の補充のために任命された取締役の任期は、直後の株主総会までとし、増員のために任命された取締役の任期は、次回の年次株主総会までとし、当該総会において再選される資格を有する。

次の年次総会において順序に従って退任する予定の取締役は、リ・ツアー・クォイ、ヴィクター氏、ファハド・ハマド・A・H・アル・モハナディ氏、チャン・ロイ・シュン氏、クワン・カイ・チョン氏及びズー・グアンチャオ氏である。また、前回の年次総会の後に、取締役として任命されたクワン・イン・レオン氏も、次の年次総会において退任する予定である。上記の退任予定の取締役は全て、自己の再選を提案している。これらの取締役について香港上場規則に基づき開示することが要求される情報は、香港における2023年度の年次報告書と併せて本株式ステープル受益証券保有者に送付される通知に記載されている。

上記の取締役は、いずれも、本トラスティ・マネジャー又はHKエレクトリック・インベストメンツ社が1年以内に補償金の支払いなしで（法定の補償金を除く。）終了させることができない役務契約は締結していない。

指名のプロセス

下記の図は、本取締役の新規任命及び再選のための指名プロセスの概要を示している。



多様性

本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社は、企業戦略を実現するとともに株主価値を増進する本取締役会の意思決定能力と全体的な有効性を強化することができる、本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の戦略にとって適切なバランスの取れたスキル・セット、経験、専門知識、視点の多様性を有する適格で有能な取締役を備えることの重要性を認識している。

本取締役会全体は、本取締役会の構造、規模、多様性に関する状況及びスキル・マトリックス、新任の取締役の選任、並びに取締役の承継計画の審査について最終的に責任を負う。本取締役会は、その職責をHKエレクトリック・インベストメンツ社の指名委員会に委任するとともに、上記のプロセスのためのアプローチと手続に関する指針を示す取締役任命方針及び取締役会多様性方針を設定しており、これらの方針はHKエレクトリック・インベストメンツ社のウェブサイトで公開されている。HKエレクトリック・インベストメンツ社の指名委員会はこれらの方針の実施状況を精査し、それらの有効性を引き続き確保するために必要とされる改定について本取締役会に勧告し、承認を受ける。

現在、本取締役会には女性の独立非執行取締役1名が在任している。本取締役会は引き続き、将来の取締役の任命の際にジェンダー多様性を尊重する方針であるが、本取締役会における適切な取締役候補者の選任において多様性のあらゆる面が総合的に考慮されるべきであると考えていることから、さらなるジェンダー多様性の拡大のための具体的な目標又は期限は設定していない。

取締役会のレベルにおけるジェンダー多様性に関するアプローチは、上級管理職を含む本グループの人員に対しても同様に適用される。2023年12月31日現在、本グループの従業員の79.1%が男性であり、20.9%が女性である。本グループは、多様性ある包摂的な労働環境を推進するためのジェンダー多様性の価値を認識しており、あらゆるレベルにおける女性の進出拡大を歓迎する。しかしながら、現在のところ本グループは、従業員についての具体的なジェンダー目標を設定することは適切ではないと考えている。多くの技術職における女性候補者の採用可能性は現在のところ幾分限定的であり、本グループは機会均等雇用者として、適材適所の人事決定に際してその他の適切な要因についても考慮している。

2023年12月31日現在の本取締役会の多様性に関する状況は以下の通りである。

		取締役の人数																
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
性別		男性															女性	
役職		執行取締役					非執行取締役					独立非執行取締役						
民族性		中国人										その他						
年齢集団		40～49歳	50～59歳				60～69歳				70歳以上							
学歴		会計					工学					法律	その他					

取締役会の独立性

本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社は、本取締役会の強い独立性を推進することに取り組んでいる。

独立非執行取締役は、本トラスティ・グループとの間に実質的な関係を一切有していないことについて本取締役会の納得を得る必要がある。本取締役会は、独立非執行取締役の独立性の判断において、香港上場規則に定める独立性の基準を指針とする。

各独立非執行取締役は、香港上場規則ルール3.13に定める各事項に従い、自己の独立性（その近親者も含む）に関する2023会計年度の確認書を本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社に提出しており、本取締役会は、これを精査した結果、引き続き当該各取締役が独立性を有すると判断している。

本取締役会は、取締役が独立した見解と意見を本取締役会に提供するためのメカニズムを設定しており、2023会計年度における当該メカニズム及びそれらの実施状況については、本取締役会が精査した結果、有効であると判断した。会長は独立非執行取締役との間で、その他の取締役が同席しない会議を毎年開催し、自主的な意見を述べるよう促し、開かれた建設的な対話を促進している。当会計年度中に、会長は、独立非執行取締役とのような会議を2度開催し、本グループ及びその事業運営に関連する事項について議論した。加えて、独立非執行取締役を含む全ての取締役は、本統合コーポレート・ガバナンス報告書において前述された取締役会業績評価を通じて、価値ある見解と意見を本取締役会に提供している。独立非執行取締役は、本取締役会のメンバーとしての任命に対する固定報酬及び／又は各取締役会への出席に対する追加報酬を受け取るが、いずれも本グループの業績に連動するものではない。独立非執行取締役はいずれも財政的に本グループに依存していない。

競合事業における取締役の利害関係

いずれの取締役も、香港における発電、送電、配電及び電力供給に係る本グループの事業と直接的又は間接的に競合する又はその可能性がある本グループの事業とは別個の事業について一切の利害関係を有していない。

取締役の専門性開発と導入研修

会社秘書役は、取締役に対し、香港上場規則の最新の展開と変更、並びに取締役の義務の免除に必要とされる適用される法律上及び規制上の要件に関する最新情報を提供する。さらに、HKエレクトリック・インベストメンツ社は、取締役に対する継続的専門能力開発研修を設定、実施し、関連資料を作成、配布することにより、本トラスト・グループが事業を行っている商業上、法律上、規制上の環境の最新の変化について伝達するとともに、上場企業の取締役の役割、機能及び義務に関する知識とスキルの向上を支援している。取締役は、外部のフォーラムやブリーフィング・セッションへ参加するか、又は継続的専門能力開発研修としてプラスになる、専門団体が実施する関連事項に関するコースを随時修了している。

取締役は、2023年度中の継続的専門能力開発研修の記録をHKエレクトリック・インベストメンツ社に提出しており、下記の研修活動に参加している。

1. 取締役の義務、上場企業のコンプライアンスに関する事項並びに／又は法律上及び規制上の要件に関する資料の読解、eトレーニング及びセミナー出席。
2. コーポレート・ガバナンス、リスク管理及び内部統制に関する資料の読解、eトレーニング及びセミナー出席。
3. 持続可能性に関する資料の読解。

取締役	1	2	3
執行取締役			
フォク・キン・ニン, カニング	○	○	○
ワン・チー・ティン (2023年7月1日付で退任)	該当なし	該当なし	該当なし
チェン・チャー・イン, フランシス	○	○	○
チャン・ロイ・シュン	○	○	○
クワン・イン・レオン (2023年7月1日付で就任)	○	○	○
ワン・ユアンハン	○	○	○
非執行取締役			
リ・ツァー・クォイ, ヴィクター	○	○	○
ファハド・ハマド・A・H・アル・モハナディ	○	○	○
ロナルド・ジョセフ・アーカリ	○	○	○
デヴェン・アルヴィンド・カルニク	○	○	○
ワン・ジジャン	○	○	○
ズー・グアンチャオ	○	○	○
独立非執行取締役			
フォン・チー・ウェイ, アレックス	○	○	○
コー・ポー・ワー	○	○	○
クワン・カイ・チョン	○	○	○
リー・ラン・イー, フランシス	○	○	○
ジョージ・コリン・マグナス	○	○	○
ドナルド・ジェフリー・ロバーツ	○	○	○

当会計年度中に就任した新任の執行取締役であるクワン・イン・レオン氏に対して、HKエレクトリック・インベストメンツ社は、本グループの運営と事業についてブリーフィングを行い、オリエンテーション資料一式を配布し、法律上の規制と香港上場規則に基づく取締役の義務と責任に関する情報を提供した。2023年6月6日、香港上場規則ルール3.09Dに基づき、クワン氏は香港法に関する助言を行う資格を有する法律事務所から、適用法令に基づく取締役の義務と責任に関する法的助言を受け、同氏は本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の取締役としての義務を理解していることを確認した。

取締役の証券取引

本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社は、内部情報と証券取引に関する方針を設定しており、当該方針は証券取引の規制、並びに本トラスティ・グループ及びその証券に関する秘密又は非公開の内部情報に適用される予防的統制措置及び報告メカニズムについて定めている。

方針に記載される通り、本取締役会は、取締役による証券取引を規制する行動規範として、モデル規約を採択している。さらに、上級管理職、その他の指定された管理職及びスタッフは、HKエレクトリック・インベストメンツ社においてそれぞれの役職に就いていることから、本トラスティ・グループ及びその証券に関する内部情報を保有している可能性が高いため、モデル規約を遵守することが義務付けられる。当会計年度中に、これらの者に対し、モデル規約に規定される「ブラックアウト期間」中、本トラスティ及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の有価証券取引を禁止する旨の注意書が送付されている。

全ての取締役は、特定の調査を受けて、2023年12月31日に終了した会計年度を通じてモデル規約を満たしていることを確認している。

財務報告及び開示に係る取締役の責任

年次報告書、中間報告書、財務諸表

取締役は、本トラスティ・グループ、本グループ及び本トラスティ・マネジャーの業務の状況について真実かつ公正な概観を提示する半期ごと及び会計年度ごとに財務諸表を作成する責任があることを了解している。本トラスティ・グループ、本グループ及び本トラスティ・マネジャーの中間業績及び年次業績は、それぞれ、当該期間の終了後2ヵ月以内及び3ヵ月以内に、適時に公開される。

会計方針

取締役は、財務諸表の作成において、本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社が法定の要件を確実に満たし、一貫して採用されている適切な会計方針を適用し、適用される会計基準に基づく合理的かつ慎重な判断と見積りを行っていると考えている。

会計記録

取締役は、本トラスティ・マネジャー及び本グループが本トラスティ・グループ、本グループ及び本トラスティ・マネジャーのそれぞれの財務状態を常時開示する適切な会計記録を維持し、かかる会計記録から本トラスティ・グループ、本グループ及び本トラスティ・マネジャーのそれぞれの財務諸表を法定の要件と適切な会計方針に基づき作成可能とすることに責任を負う。

資産の保護

取締役は、本トラスティ、本トラスティ・マネジャー及び本グループの資産の保護、並びに本トラスティ・マネジャー及び本トラスティ・グループの内部における詐欺及びその他の違法行為の予防と発見のためにあらゆる合理的かつ必要な手段を講じることに責任を負う。

継続企業

取締役は、本トラスティ・マネジャー及び本グループが、それぞれ予見可能な将来にわたって事業を存続させるために十分な資源を有していると考えており、それぞれが継続企業として存続する能力に大きな疑念を生じさせるおそれがある事象又は条件に関連する重大な不確実性について了知していない。よって、本トラスティ・グループ、本グループ及び本トラスティ・マネジャーの財務諸表は、継続企業ベースで作成されている。

開示

取締役は、内部情報、発表及び財務開示情報の適切かつ適時の開示について香港上場規則及び法定の規則に基づいて、適用される件について了解しており、必要な場合にはこれらの公開を承認する。

会長及び最高経営責任者

HKエレクトリック・インベストメンツ社の会長と最高経営責任者の役職には、異なる個人が就任し、3年に1回、年次総会において順序に従ってその役職を退任し、再選される。本取締役会の会長はフォク・キン・ニン、カニング氏であり、HKエレクトリック・インベストメンツ社の最高経営責任者はチェン・チョー・イン、フランシス氏（ワン・チー・ティン氏の退任により、2023年7月1日付でワン氏の後任として最高経営責任者に就任）である。本トラスティ・マネジャーは、その役割が本トラスティの管理という特定のかつ限定的なものであるため、最高経営責任者を任命していない。

HKエレクトリック・インベストメンツ社の会長及び最高経営責任者は、下記の通り明確な別個の職責を有している。

会長	最高経営責任者
<ul style="list-style-type: none">各取締役会が本トラスティ及び本グループのそれぞれの最善の利益のために確実に行動するように本取締役会を指揮し、その業務機能の発揮と効率的な運営を監督する。善良なコーポレート・ガバナンスの実務慣行及び手続が確実に設定されるようにする。本グループの利益と経営に関するあらゆる事項について、最高経営責任者に対する助言者として行動する。取締役会の会議の議事日程を承認し、本取締役会の会議が効果的に計画、実施され、全ての取締役が取締役会の会議で提起される議題について適切に説明を受けるようにする。独立非執行取締役との継続的な対話を維持し、独立した見解を求める。	<ul style="list-style-type: none">本グループの事業を経営管理し、本グループのあらゆる事業運営に関してHKエレクトリック・インベストメンツ社取締役会に対する全面的な説明責任を負う。本グループの方針の策定と順調な実施に取り組む。戦略的事業計画の策定に取り組み、本グループの業績の維持を確保する。事業の資金調達を確実に満たし、事業の運営上及び財務上の成績を計画と予算に照らして綿密に監視し、必要に応じて是正措置を取る。会長及びその他の全ての取締役と継続的に対話を持ち、あらゆる主要な事業上の展開と問題について常時通知する。

本株式ステーブル受益証券、原資産株式ステーブル受益証券及び債務証券に対する取締役の持分及びショート・ポジション

2023年12月31日現在、本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の取締役及びチーフ・エグゼクティブの、本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社又は（香港証券先物条例第XV部の意味における）いずれかの関係法人の本株式ステーブル受益証券、原資産株式ステーブル受益証券及び債務証券に対する持分又はショート・ポジションであって、香港証券先物条例第XV部第7章及び第8章に従って本トラスティ・マネジャー、HKエレクトリック・インベストメンツ社及び香港証券取引所に通知されているもの（香港証券先物条例の当該規定に基づき本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の取締役及びチーフ・エグゼクティブが保有しているとみなされる持分及びショート・ポジションを含む。）、香港証券先物条例第352条に従って備え置くことが要求される登記簿に登録されているもの、又はモデル規約に従って本トラスティ・マネジャー、HKエレクトリック・インベストメンツ社及び香港証券取引所に対し別途通知されているものは以下の通りである。

本株式ステーブル受益証券におけるロング・ポジション

取締役氏名	内容	持分の性質	本株式ステーブル受益証券の保有口数	合計	発行済本株式ステーブル受益証券に対する概算比率 (%)
リ・ツァー・クォイ, ヴィクター	被支配法人の持分	企業	5,170,000 (注1)	7,870,000	0.08
	信託の受益者	その他	2,700,000 (注2)		
フォク・キン・ニン, カニング	被支配法人の持分	企業	2,000,000 (注3)	2,000,000	0.02
ドナルド・ジェフリー・ロバーツ	共有の持分	その他	1,398,000 (注4)	1,398,000	0.02
ロナルド・ジョセフ・アーカリ	被支配法人の持分	企業	502	502	≈0

(注1) 当該本株式ステーブル受益証券は、リ・カシン・ファウンデーション・リミテッド（以下「LKSF社」という。）により保有されている。LKSF社の設立文書の条件により、リ・ツァー・クォイ, ヴィクター氏は、LKSF社の株主総会における議決権の3分の1以上を行使すること又は行使を支配することができる者とみなされる場合がある。

(注2) 当該本株式ステーブル受益証券は、ザ・リ・カシン・ユニティ・トラスト（以下「UT1」という。）の受託者であるリ・カシン・ユニティ・トラスティ・カンパニー・リミテッド（以下「TUT1」という。）により保有されている。リ・カシン・ユニティ・トラスティ・コーポレーション・リミテッド（ザ・リ・カシン・ユニティ・ディスクリーションナリー・トラスト（以下「DT1」という。）の受託者であり、以下「TDT1」という。）、及びリ・カシン・ユニティ・トラストコープ・リミテッド（別の裁量信託（以下「DT2」という。）の受託者であり、以下「TDT2」という。）は、それぞれ、UT1の受益証券を保有しているが、前記ユニティ・トラストの信託資産を構成するいかなる特定の財産に係るいかなる利益又は持分に対する権利も有していない。DT1及びDT2のそれぞれの裁量受益者は、特に、リ・ツァー・クォイ, ヴィクター氏、同氏の妻子、及びリ・ツァー・カイ, リチャード氏である。

TUT1、TDT1及びTDT2の発行済株式資本全体がリ・カシン・ユニティ・ホールディングス・リミテッド（以下「ユニティ・ホールドコ」という。）により所有されている。リ・カシン氏及びリ・ツァー・クォイ, ヴィクター氏は、それぞれ、ユニティ・ホールドコの発行済株式資本全体の3分の1及び3分の2の持分を有している。TUT1は、受託者としての通常の業務の過程で本株式ステーブル受益証券の持分を保有する自己の義務及び権限のみを理由としてそれらの本株式ステーブル受益証券の持分を有しているだけであり、受託者としての自己の役割を果たす際には、ユニティ・ホールドコ、又は上述したユニティ・ホールドコの株式の保有者であるリ・カシン氏及びリ・ツァー・クォイ, ヴィクター氏とは一切無関係に、独立して当該本株式ステーブル受益証券の持分を保有する自己の権限を行使する。

リ・ツァー・クォイ、ヴィクター氏は、DT1及びDT2のそれぞれの裁量受益者であるので、上記に基づき、リ・ツァー・クォイ、ヴィクター氏は、本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の取締役として、香港証券先物条例に基づき、UT1の受託者としてTUT1によって保有されている前記本株式ステーブル受益証券に関する開示の義務を負うものとみなされる。

(注3) 当該本株式ステーブル受益証券は、フォク・キン・ニン、カニング氏とその妻が均等に所有する会社により保有されている。

(注4) 当該本株式ステーブル受益証券は、ドナルド・ジェフリー・ロバーツ氏とその妻が共有している。

上記で開示されているものを除き、2023年12月31日現在、本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の取締役及びチーフ・エグゼクティブはいずれも、香港証券先物条例第352条に従って備え置くことが要求される登記簿に登録されているか、又はモデル規約に従って本トラスティ・マネジャー、HKエレクトリック・インベストメンツ社及び香港証券取引所に対して別途通知されている、本トラスティ及びHKエレクトリック・インベストメンツ社又は（香港証券先物条例第XV部の意味における）いずれかの関係法人の本株式ステーブル受益証券、原資産株式ステーブル受益証券又は債務証券に対する持分又はショート・ポジションを一切保有していない。

監査委員会

本トラスティ・マネジャー監査委員会及びHKエレクトリック・インベストメンツ社監査委員会は、3名の独立非執行取締役及び1名の非執行取締役から構成されている。これらの委員会の委員長はドナルド・ジェフリー・ロバーツ氏（独立非執行取締役）であり、その他の委員はロナルド・ジョセフ・アーカリ氏（非執行取締役）、コー・ポー・ワー氏（独立非執行取締役）及びリー・ラン・イー、フランシス氏（独立非執行取締役）である。信託証書により、両委員会の委員は同一であることが要求される。いずれの委員会の委員も、本トラスティ、本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の社外監査人のパートナー又は前パートナーではない。

職責

両監査委員会は、本トラスティ・マネジャー取締役会及びHKエレクトリック・インベストメンツ社取締役会に対し直接報告を行い、外部監査役との関係を監督する主要な代表機関として機能する。両監査委員会の主な職責は、財務報告制度の審査と監督、財務情報の審査、社外監査人及びその任命に関する事項の検討、コーポレート・ガバナンス機能の審査及び開発、並びにリスク管理体制及び内部統制制度を通じて両取締役会の業務の遂行を補助することである。さらにHKエレクトリック・インベストメンツ社監査委員会は、HKエレクトリック・インベストメンツ社の内部通報手続を監督する。監査委員会のメンバーは、職責の遂行のために必要な場合は、独立の専門家の助言を求めることができる。

業務の実施状況

両監査委員会は、2023年に会議を4回開いた。経営陣は、委員会メンバーがその職責を遂行するために必要とされる情報及びリソースに関して、補佐するために、これらの会議全てに参加することができる。当会計年度中に、監査委員は、下記を含む事項を審査し、検討した。

- ・ 中間及び年次の決算及び報告書、並びに財務ハイライト
- ・ リスク管理報告書、環境、社会及びガバナンス（以下「ESG」という。）リスク管理枠組、リスク管理及び内部統制制度の有効性に関する評価及び宣言、HKエレクトリック・インベストメンツ社の内部監査機能の有効性、内部監査計画、並びに当会計年度中に作成された全ての内部監査報告書
- ・ コーポレート・ガバナンス構造、並びにコーポレート・ガバナンス規則及びESG報告ガイドの遵守
- ・ 取締役及び上級管理職が行った継続的専門能力開発活動（ESGに関連する研修を含む。）、並びにHKエレクトリック・インベストメンツ社の会計、内部監査、並びにESG実績及び報告機能のリソース、スタッフの資格及び訓練の十分性

- ・ 本株式ステーブル受益証券保有者連絡方針（Holder of Share Stapled Units Communication Policy）の実施状況及び有効性の評価のための本株式ステーブル受益証券保有者及び投資家向けのエンゲージメント活動に関する報告書
- ・ 監査関連事項（監査及び非監査サービスに関する報酬、契約、独立性、再任、監査報告書並びに非保証業務に独立監査人を起用する際の事前承認方針及び手続の採択を含む。）
- ・ 本グループの係属中の訴訟及び請求、並びに本グループの違法行為又は非倫理的行為（内部通報ケースを含む。）及びサイバーセキュリティ事案の統計及び登録。

社外監査人であるKPMGの代表者は、2回の会議に参加するよう招聘され、2022年度の監査済財務諸表、2023年度の監査計画及びさまざまな経理に関する事項について、委員会メンバーと協議した。また、両監査委員会は、当会計年度中、KPMG及び内部監査部それぞれの代表者と、経営陣が同席しない個人面談を行った。

会計年度終了後、両監査委員会は、2024年3月に開催した会議において、2023年12月31日に終了した会計年度に係る本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の連結財務諸表並びに本トラスティ・マネジャーの財務諸表、香港における2023年度年次報告書を審査し、財務諸表の承認並びに2024年度の本トラスト、本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の外部監査人としてのKPMGの再任を勧告することを決議した。

本トラスティ・マネジャー監査委員会及びHKエレクトリック・インベストメンツ社監査委員会それぞれに対する委任事項は、2023年12月31日に発効したコーポレート・ガバナンス規則の最近の変更に合わせて、2024年3月19日付で改正された。両監査委員会に対する改正後の委任事項は、HKエレクトリック・インベストメンツ社のウェブサイト及び香港証券取引所のウェブサイトに公開されている。

指名委員会

HKエレクトリック・インベストメンツ社の指名委員会は、独立非執行取締役が過半数を占める3名のメンバーから構成される。指名委員会の議長はリー・ラン・イー、フランシス氏（独立非執行取締役）が務め、その他の委員会のメンバーは、クワン・カイ・チョン氏（独立非執行取締役）及びリ・ツァー・クオイ、ヴィクター氏（非執行取締役）である。本トラスティ・マネジャーは、本信託証書及び本トラスティ・マネジャーの附属定款がHKエレクトリック・インベストメンツ社の取締役を求める指名委員会を設置しておらず、本トラスティ・マネジャーは、同一の個人により構成され、したがって指名委員会の設置要件は本トラスティ・マネジャーに関係ないものとみなされる。

職責

指名委員会は、HKエレクトリック・インベストメンツ社取締役会に対し直接報告を行う。指名委員会の主要な職責は、本統合コーポレート・ガバナンス報告書において前述された取締役任命方針及び取締役会多様性方針のプロセス及び規準に従い、HKエレクトリック・インベストメンツ社取締役会の構造、規模、多様性に関する状況及びスキル・マトリックスを審査すること、選任及び任命のプロセスを支援すること、香港上場規則に基づく規準を考慮して独立非執行取締役の独立性を評価すること、並びにHKエレクトリック・インベストメンツ社取締役会に対して取締役の任命又は再任及び取締役の承継計画に関する提言を行うことである。指名委員会のメンバーは、自己の職責の遂行のために必要な場合は、独立の専門家の助言を求めることができる。

業務の実施状況

指名委員会は、2023年3月に会議が開催された。当会計年度中に、メンバーは、下記を含む事項を行った。

- ・ HKエレクトリック・インベストメンツ社取締役会の構造、規模及び構成、並びに取締役会多様性方針の実施状況及び効果について精査した。
- ・ 独立非執行取締役の独立性について精査した。
- ・ 2023年度年次総会において再選が予定されている退任取締役全員の指名を提案することを決議した。
- ・ ワン・チー・ティン氏の最高経営責任者兼執行取締役退任後の欠員を補充するため、チェン・チョー・イン、フランシス氏をHKエレクトリック・インベストメンツ社の最高経営責任者として任命し、クワン・イン・レオン氏を本取締役会の執行取締役として任命することを検討及び提案した。

報酬委員会

HKエレクトリック・インベストメンツ社の報酬委員会は、3名の委員から構成されており、その過半数は、独立非執行取締役である。報酬委員会の委員長はドナルド・ジェフリー・ロバーツ氏（独立非執行取締役）であり、その他の委員は、フォク・キン・ニン、カニング氏（取締役会会長）及びフォン・チー・ウェイ、アレックス博士（独立非執行取締役）である。本トラスティ・マネジャーは、報酬委員会を設置していない。これは、本トラスティ・マネジャーの取締役が、取締役としての地位において、一切の報酬を受ける権利を有しないためである。

職責

報酬委員会は、HKエレクトリック・インベストメンツ社取締役会に対し直接報告を行う。主な職責には、HKエレクトリック・インベストメンツ社の取締役及び管理職の報酬に関する方針の審査と検討、並びに個人の報酬の決定が含まれる。

執行取締役及び管理職の報酬の決定（HKエレクトリック・インベストメンツ社の業績と収益性、業界における報酬のベンチマーク及び一般的な市場の条件を参照する。）に関する指針を提供するために、HKエレクトリック・インベストメンツ社の取締役会は、常勤の取締役及び管理職の報酬に関する方針を採択した。かかる報酬は実績主義であるべきであり、インセンティブ制度と組み合わせられることで、有能な従業員を勧誘し、維持する競争力を有するべきである。本グループの人事部門は、報酬委員会の検討事項について、関連する報酬データと市場の条件の提示を通じて報酬委員会を支援する。報酬委員会の委員は、必要がある場合、その義務を履行するため、独立の専門家の助言を求めることができる。当会計年度中に、本トラスト・グループは、株式ベースの報酬を有していない。

非執行取締役及び独立非執行役は、本取締役会のメンバーとしての任命に対する固定報酬及び／又は各取締役会委員会への出席に対する追加報酬を受け取る。かかる報酬はいずれも本グループの業績に連動していない。

業務の実施状況

報酬委員会は、2023年12月に会議が開催された。当会計年度中に、HKエレクトリック・インベストメンツ社取締役会により委任された責任の下で、メンバーは、下記を含む事項を審査の上、承認した。

- ・ 2023会計年度について本グループの常勤の執行取締役及び管理職に支払うべき実績主義の賞与額と2024年度の各氏の報酬
- ・ 本グループの従業員の2024年度賃金給与審査提案

取締役又は管理職のメンバーは、いずれも自己の報酬の決定に関与していない。

2023会計年度についてHKエレクトリック・インベストメンツ社の各取締役に支払われた手当は、後記「Ⅷ. 本トラストの経理状況－2. 本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の連結財務諸表－本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の財務諸表に対する注記」の注記12に記載されている。2023会計年度について管理職に支払われた報酬は、同注記に報酬範囲別に開示されている。

持続可能性委員会

HKエレクトリック・インベストメンツ社の持続可能性委員会は3名の委員で構成されている。持続可能性委員会の委員長はチェン・チョー・イン、フランシス氏（ワン・チー・ティン氏が退任により当該委員会の委員長でなくなったため、2023年7月1日付でワン氏の後任として委員長に就任）であり、その他の委員はフォン・チー・ウェイ、アレックス博士（独立非執行取締役）及びクワン・イン・レオン氏（2023年7月1日付で執行取締役及び当該委員会の委員に就任）である。

職責

持続可能性委員会は、HKエレクトリック・インベストメンツ社取締役会に対し直接報告を行う。持続可能性委員会の主な職責は、本グループの持続可能性イニシアチブの策定と実施について経営陣を監督するとともにHKエレクトリック・インベストメンツ社取締役会に助言を行い、関連する方針と実務慣行を精査し、本グループの持続可能性開発とリスクに関する問題について評価し、提言することである。

本グループの持続可能性管理委員会は、最高経営責任者を委員長とする経営レベルの委員会であり、持続可能性委員会の職責の遂行を支援し、本グループの持続可能性に関する取組を推進及び調整し、本グループ内における持続可能性の理解を促進する。委員会のメンバーは、必要とみなされる場合、必要とされる情報の提出を経営陣に求め、独立の専門家の助言を得ることができる。

業務の実施状況

2023年度に持続可能性委員会の会合は2回開催された。当会計年度中に、メンバーは、下記を含む事項を行った。

- ・ 本グループの持続可能性に関する目的、戦略、リスク及び機会、優先事項、イニシアチブ、目標及び実績、気候変動の影響に対する企業資産の弾力性向上における本グループの戦略、並びに2023年度持続可能性報告書のために予定されている気候関連財務開示報告の更新について検討した。
- ・ ESGリスク管理枠組及び本グループのESGリスクに係る半期レビューの結果を精査した。
- ・ 2022年度持続可能性報告書を精査した。

会計年度終了後、2024年3月に持続可能性委員会の会合が開催され、2023年度持続可能性報告書を精査し、本取締役会に提案して承認を求めた。

会社秘書役

本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の会社秘書役は、本取締役会内部における適切な情報の流れと、取締役会の方針及び手続の遵守を確保することを通じて本取締役会を支援している。会社秘書役は、ガバナンスに関する事項について会長及び／又は最高経営責任者を通じて本取締役会に助言する責任を負うとともに、本取締役の導入研修と専門性開発を推進している。会社秘書役はまた、全ての取締役会委員会の秘書役を務める。

会社秘書役の任命と解任は本取締役会の承認を要する。会社秘書役は会長及び最高経営責任者に直属しているが、全ての取締役は同氏に関連ある助言とサービスを受けることができる。本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の会社秘書役であるアレックス・ン (Alex Ng) 氏は、本グループの従業員であり、本グループの日常的な業務に関する知識を有している。会計年度中、ン氏は自己のスキルと知識を更新するため、15時間以上の関連専門研修を受けている。

社外監査人

独立性

社外監査人であり、香港会計財務報告局条例 (Accounting and Financial Reporting Council Ordinance) に従って登録されている公益事業体監査人 (Public Interest Entity Auditor) であるKPMGは、2023年12月31日に終了した会計年度について、香港公認会計士協会の独立性要件に基づき、本トラスティ・マネジャー、本トラスティ・グループ及び本グループに対する独立性を有することを確認している。

業務担当パートナーの交代

KPMGは、香港公認会計士協会の職業会計士倫理規範に基づく要件に従い、7年毎に、KPMGのクライアント企業を担当する業務担当パートナーを順番に交代させる方針を採用している。本グループに関する直近の交代は、2021会計年度の監査の際に行われており、次回の交代は、2028会計年度の監査の際に行われる予定である。

報告責任

KPMGの報告責任は、後期「VIII. 本トラスティの経理状況－1. 独立監査人の監査報告書」及び「IX. 本トラスティ・マネジャーの経理状況－1. 独立監査人の監査報告書」に記載されている。

報酬

監査及び非監査サービスに関するKPMGの報酬の分析は、後記「VIII. 本トラスティの経理状況－2. 本トラスティ及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の連結財務諸表－本トラスティ及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の財務諸表に対する注記」の注記10及び後記「IX. 本トラスティ・マネジャーの経理状況－2. 本トラスティ・マネジャーの財務諸表－HKエレクトリック・インベストメンツ・マネジャー・リミテッドの財務諸表に対する注記」の注記4に記載されている。

再任

KPMGを本トラスティ、本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の監査人に再任する決議は、次回の年次総会で提案される予定である。直近3年間において、本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の監査人に変更はない。

リスク管理及び内部統制

取締役会の監督

両取締役会は、企業の戦略目標の達成にあたって両取締役会が引き受けようとする、ESGリスクを含むリスクの性質と範囲の評価及び決定、並びにリスク管理及び内部統制制度の監督について全般的に責任を負う。両監査委員会は、適切かつ効果的な制度の設定を確保するため、両取締役会によるリスク管理及び内部統制の制度の有効性の審査を支援する。

両監査委員会は、リスク管理と内部統制のあらゆる重要な側面（財務上、事業上及びコンプライアンス上の統制を含む。）に加え、HKエレクトリック・インベストメンツ社の会計、内部監査、財務報告、並びにESG実績及び報告機能を担当する従業員の資源、適格性・経験、研修プログラム及び予算の妥当性、本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社が自社の統制環境とリスク管理プロセスを評価するプロセス、並びに既存リスクと新たに生じるリスクを管理する方法を審査する。両監査委員会はまた、内部監査機能の有効性と年間業務計画を審査し、リスク管理と内部統制の制度の有効性に関する最高経営責任者及び執行取締役の報告書を検討し、年次財務諸表の承認について、両取締役会に対する提言を行う。

2023年3月及び7月に開かれた会合において、両監査委員会は、2022年度及び2023年6月30日に終了した半期それぞれにおける本トラスト、HKエレクトリック・インベストメンツ社及び本トラスティ・マネジャーのリスク管理及び内部統制制度の有効性について審査を行い、これらの制度が有効かつ妥当であると判断した。

リスク管理

効果的なリスク管理は、企業の戦略目標の達成に不可欠であり、本グループが採用した体制及びプロセスの概要を示し、先見のかつ体系的な方法により、企業及び事業ユニットレベルで重要なリスクを特定、評価、軽減及び監視するためのトップダウン及びボトムアップのアプローチを実現するため、全社的なリスク管理方針が設定されている。これらの重要なリスクには、気候変動、燃料供給、環境コンプライアンス、供給信頼性、衛生及び安全、サイバーセキュリティ並びに法令等、本グループが、重要なESG事項であると考えられるリスクが含まれる。さらに詳細な説明は、後記「V. 投資リスク」に記載されている。

内部統制環境

経営陣は、戦略計画策定、事業運営、投資、法律上及び規制上のコンプライアンス、支出管理、資金管理、環境、衛生及び安全、需要家サービス及びサイバーセキュリティの分野を含む、主要なリスクの管理に関する目的、業績目標又は方針の設定により、リスクの認識と制御について高い意識を持つ環境を推進している。

あらゆるリスク管理と内部統制の制度には本質的な限界を伴うことから、本トラスティ・マネジャー及び本グループのリスク管理及び内部統制制度は、事業目標を達成できないリスクを解消するのではなく管理するように設計されており、重大な表示の誤り又は漏れについて、絶対的保証ではなく合理的な保証をもたらすことができるだけである。

内部統制構造

本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社は、明確なレベルの責任及び権限と報告手続を伴う組織構造を確立している。

執行取締役は、各部門の業務上及び財務上の報告書並びに主要な事業統計を審査し、これらの報告書の審査のために各部門のジェネラル・マネジャーとの間に定期的に会合を持つ。

予算は各部門の経営陣が年1回作成し、最初に最高経営責任者の審査と承認を受け、続いてHKエレクトリック・インベストメンツ社取締役会の審査と承認を受ける。現行年度の事業成績の予測は四半期ごとに再設定され、執行取締役による予算との相違点について審査と承認を受ける。

グループ財務部門は、支出の承認と管理に関するガイドラインと手続を設定している。営業上の支出は、それぞれの上級経営陣と役員の権限のレベルを踏まえて承認のレベルが設定されている総合的予算管理の対象となる。また、資本的支出は、個別のプロジェクトに係る承認済予算の範囲内である場合には総合的管理の対象になり、予算を上回る支出、予算外の支出、承認済予算の範囲内における重大な支出の場合は、より個別具体的な管理と承認が要求される。さらに実際の支出額と予算上の承認を受けた支出額とを対象比較して月次報告書を作成し、審査を受ける。

資金管理部は、本グループの投資及び資金調達活動を監督する財務機能を担当し、執行取締役に対する報告を行う。資金管理部は、本グループの現金及び短期投資、借入金、偶発債務残高、金融デリバティブのコミットメントについて定期的に報告する。本取締役会は、上記のリスク管理活動に関連する財務リスク（金利リスク、為替リスク、流動性リスクを含む。）及び業務リスクの管理に関する資金管理方針を承認し、採用している。この資金管理方針は、監査委員会の随時の審査を受ける。

グループ法務及び総務部は、最高経営責任者に対する報告を行い、法務及び総務機能を担当しており、特に本トラス・グループによる香港上場規則及びその他の法令上の要件の遵守を監督する。

内部統制評価

本グループの内部統制システムについて、最高経営責任者及び執行取締役は、内部統制に関する自己評価の結果の審査を行う。事業体レベルの統制の有効性の評価は、内部統制自己評価の第1段階である。部門ジェネラル・マネジャーと部長は、内部統制の5つの要素、すなわち、統制環境、リスク評価、統制活動、情報及び通信、監視活動について、事業体レベルの統制自己評価に関する調査を行う。さらに、重要な事業プロセスのレベルにおける内部統制自己評価の第2段階では、自己の説明責任の範囲内の業務と適用法令の遵守に係る統制の有効性の評価が実施される。これらの評価結果は、最高経営責任者及び執行取締役がリスク管理及び内部統制制度に関する自己の意見書を作成し、調査結果を両監査委員会と両取締役会に報告する際に根拠の一部として使用する。

最高経営責任者とその他の執行取締役は、リスクの財務上の効果を移転する保険を締結する等のリスク軽減戦略の策定と実施に責任を負う。グループ財務部門は、他の各部門と協力して、本トラスティ・マネジャー及び本トラス・グループにとって適切な保険による保障を確保する責任を負う。

内部監査

内部監査部は、両監査委員会及び執行取締役に対する報告を行い、事業運営におけるリスク管理活動と内部統制の存在と有効性について独立した保証を行う。内部監査部のスタッフは、会計、エンジニアリング、情報技術を含む分野の出身者である。

内部監査部は、リスク評価の手法を用いて、本グループの活動及び事業環境の変化の範囲と性質を考慮の上、年間監査計画を作成する。当該監査計画は、両監査委員会による審査と承認を受ける。また、内部監査部の本グループの運営に関する内部監査報告書は、両監査委員会による審査と検討を受ける。内部監査部の業務の範囲には、財務、業務及び情報技術のレビュー、反復的な抜き打ち監査、不正行為の調査、生産効率性のレビュー、法令遵守のレビューが含まれる。内部監査部は、監査に係る提言について事業ユニットによる実施状況をフォローアップし、その進捗状況を両監査委員会に定期的に報告する。

内部監査部は、年2回のリスク管理及び内部統制自己評価を支援し、この評価に基づき、最高経営責任者及び執行取締役は、重要なリスクのプロファイルとそれらのリスクが特定、評価及び管理されている方法、前回の評価以後の重要なリスクの性質及び範囲の変化、並びに本グループの事業及び外部環境の変化に対応する能力、経営陣によるリスク管理及び内部統制制度の継続的な監視の範囲と質について審査を行う。その結果は、両監査委員会に提出される。

社外監査人はまた、重大な手続違反及び内部統制の深刻な弱点が存在する場合には、両監査委員会に報告する。この報告を検討、審査の上、必要な場合には適切な措置が取られる。

内部情報

特定の取締役による本トラスト・グループの有価証券の取引の事前審査、取締役及び関連従業員に対する定期的なブラックアウト期間の通知と有価証券取引制限等の手続が設定されるとともに、本グループの内部情報の誤った処理を防止するため、情報の配布は、目的を特定し、知るべき必要性に基づいて行われている。

2014年1月14日付でPAH社との間で締結した契約に基づき、HKエレクトリック・インベストメンツ社は、上記のリスク管理及び内部統制機能をサポートするために関連する財務会計、資金管理及び内部監査のサービスを含むサポートサービスをPAH社と共有している。

行動規範及び腐敗行為防止

本トラスティ・マネジャー及び本グループは、企業倫理及び腐敗行為防止の風土を維持する必要性を認識しており、本グループの事業のあらゆる点において倫理基準と誠実性に大きな重点を置いている。

本グループの行動規範は、倫理に関する問題を処理するための主たる指針を示し、倫理違反行為の報告に関するメカニズムを設定し、誠実性と説明責任の社風の促進を支援する。全ての従業員及び一定の状況におけるその他の利害関係者は、行動規範に設定された基準に従うことを義務付けられている。一定の事項に関する指針は、必要に応じて、本グループのその他の方針及び手順により補足される。

本トラスティ・マネジャー及び本グループは、行動規範と併せて、不正および贈収賄の防止に関する方針を設定し、一切の形式の贈収賄又は汚職を禁止している。本トラスティ・マネジャー及び本グループの事業に関連して、いかなる方法であれ、クライアント、供給事業者又はいかなる者との間であっても、利益の供与を受けることや利益の提供を申し出ることは禁じられている。

贈収賄リスクの管理統制の有効性を評価するため、贈収賄防止統制評価が半年ごとに実施されている。また、汚職防止法と行動規範の遵守を審査するため、監視メカニズムが設定されている。

取締役及び従業員は、利益相反につながるおそれがある状況、又は利益相反を伴うおそれがある状況を回避する責任を各自が負っており、取引について利益相反が生じるおそれがある場合又は実際に生じた場合には、全て開示する必要がある。全ての取締役及び従業員のうち、本トラスティ・マネジャー及び本グループの情報にアクセスしている者及びかかる情報を管理している者は全て、当該情報の濫用又は不正使用を防止するための適切な予防措置を講じる必要があり、個人的な利益の確保を目的とする当該情報の使用はしてはならない。

本トラスティ・マネジャー及び本グループは公平で自由な競争を奨励するために、供給品とサービスの調達、高度の倫理基準に従った方法で確実に行われるようにしている。調達及び入札の手続は、供給事業者と請負業者の公平な選定を確保し、サービスの利用と物品の購入が価格、品質、適合性及び必要性のみに基づき行われるように設定されている。供給事業者及び請負業者は、供給業者の実施規則（Code of Practice for Suppliers）に定められた高度の倫理基準を遵守する予定であり、いかなる腐敗も許さない。

内部通報

公開性、誠実さ、説明責任に関する高い基準を確保するため、行動規範（Code of Conduct）及び内部通報手順（Whistleblowing Procedure）に定められた内部通報の手順により、従業員に加え、需要家、供給業者、契約業者、債務者及び債権者は、一切の行動規範の違反が疑われる事例、又は詐欺及び違法行為を含む本グループ内部の不正、非行、若しくは業務過誤について通報することができる。通報された全ての事例について調査が実施される。その結果はHKエレクトリック・インベストメンツ社監査委員会と最高経営責任者に報告され、適切な場合、懲戒及び是正措置が実施される。2023年度中に4件の内部通報事例が報告され、そのうち1件は行動規範の違反に関するものであるが、有罪が決定した汚職の事例はなかった。

本株式ステーブル受益証券

本株式ステーブル受益証券は、下記の有価証券又は有価証券持分の組み合わせであり、本信託証書の規定に従い、一体でのみ取引可能であり、個別に取引することも、他のものを伴わず1つを取引することもできない。(a) 本受益証券、(b) 当該受益証券に紐付けされ、本トラストのトラスティ・マネジャーの資格による法定所有者としての本トラスティ・マネジャーによって保有されているHKエレクトリック・インベストメンツ社の特別に特定された普通株式に係る実質的持分、(c) 当該受益証券に一体化されたHKエレクトリック・インベストメンツ社の特別に特定された優先株式。本トラスト・グループ及び本株式ステーブル受益証券の仕組みは、前記「2. 本トラスト・グループ及び本株式ステーブル受益証券の構造-① 本トラストの仕組み図」に記載の通りである。

設立文書

最新版の本信託証書、並びに本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社のそれぞれの基本定款及び附属定款は、HKエレクトリック・インベストメンツ社のウェブサイト及び香港証券取引所のウェブサイトでご覧可能である。2023年12月31日に終了した会計年度中に、これらの設立文書に、変更はなかった。

一般投資家による保有分

本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社が入手した情報によると、取締役の知る限りにおいて、本株式ステーブル受益証券の発行総数に占める一般投資家による保有分の割合は25%を超えている。

本株式ステーブル受益証券保有者の関与

本株式ステーブル受益証券保有者の権利

分配方針

本取締役会は、分配金支払いに関する原則を定めた分配方針を採用した。本取締役会は、本信託証書並びにHKエレクトリック・インベストメンツ社の附属定款内に述べられた意図に従い、本株式ステーブル受益証券保有者に安定的な分配を行うことに専念する。随時行われる当該分配の水準は、その時々の実業状況並びにHKエレクトリック・インベストメンツ社の資本要件及び業績によって決まる。

年次総会に関連する権利

HKエレクトリック・インベストメンツ社の附属定款に従い、HKエレクトリック・インベストメンツ社の2名以上の株主（又は公認決済機関である1名の株主、若しくはそのノミニー）は、議事の提案書を提出するために臨時株主総会の招集を請求することができる。但し、かかる請求人は、本信託証書が有効に存続している間は、HKエレクトリック・インベストメンツ社の株主総会における議決権を伴う同社の払込済資本の5%以上、その後は当該払込済資本の10分の1以上を、請求書の寄託日の時点において保有していることを条件とする。当該請求書は、総会の目的を明記し、請求人の署名を付して、香港におけるHKエレクトリック・インベストメンツ社の主たる事務所に寄託しなければならない。本信託証書に基づき、本トラスティ・マネジャーは、いつでも、香港における任意の時期又は場所において、名簿上の受益証券保有者の臨時総会を招集することができる（かつ本トラスティ・マネジャーは、当該時点において発行済の本トラストの受益証券（本株式ステーブル受益証券の構成要素である。）の5%以上を有する本トラストの名簿上の受益証券保有者の書面による請求がある場合、臨時総会を招集しなければならない）。本株式ステーブル受益証券保有者は、総会における議事の請求書又は提案書の作成の際に、本信託証書及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の附属定款の該当条項に規定される詳細な要件及び手続を参照することができる。

登録及び関連事項

本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社は、本株式ステーブル受益証券登録機関であるコンピュータシェア香港インベスター・サービスズ・リミテッド (Computershare Hong Kong Investor Services Limited) を通じて、本株式ステーブル受益証券の移転、住所変更、分配支払指図書の変更、本株式ステーブル受益証券券面の発行及び／又は紛失、並びに本株式ステーブル受益証券保有者の死亡等、本株式ステーブル受益証券に関する登録事項を処理しており、同社の詳細な連絡先は後記「XV. 企業情報」に記載されている。

財務カレンダー及びその他の情報

2023年及び2024年に発表された重要日の財務カレンダー並びに本株式ステーブル受益証券のその他の関連情報は、香港における2023年度の年次報告書の188頁に記載されている。

本株式ステーブル受益証券保有者との連絡

本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社は、効果的な連絡を促進するために、枠組を定め、本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社と、本株式ステーブル受益証券保有者及び投資家との間の一連の連絡手段を設定する目的で本株式ステーブル受益証券保有者連絡方針を設定しており、当該方針はHKエレクトリック・インベストメンツ社のウェブサイトで公開されている。

両監査委員会は、2024年3月開催の会議において、2023年度に実施された本株式ステーブル受益証券保有者又は投資家向けのエンゲージメント活動について精査し、2023年12月31日に終了した会計年度に係る本株式ステーブル受益証券保有者連絡方針の実施状況と有効性が満足できる水準にあると判断した。

総会

年次総会及びその他の総会は、本株式ステーブル受益証券保有者との連絡及び本株式ステーブル受益証券保有者の参加のための主要なフォーラムであるとともに、取締役にとっては本株式ステーブル受益証券保有者の意見についてバランスの取れた理解を深めるための主要なフォーラムである。

2023年度年次総会

2023年度年次総会は、ハイブリッド総会として開催された。本株式ステーブル受益証券保有者は、直接又はオンライン・アクセスのいずれかを選択して、総会に出席し、参加し、議決権を行使した。

招集通知、年次報告書、及び決議案に関する情報を記載した通知は、2023年4月11日付で本株式ステーブル受益証券保有者に対し送達された。これは当該総会の正味21日以上前 (HKエレクトリック・インベストメンツ社の附属定款の要求するところによる。) である。

2023年度年次総会には、全ての取締役が出席した。全ての取締役会委員会の委員長と委員に加え、社外監査人であるKPMGの代表者が、総会の会場又はオンラインのいずれかで本株式ステーブル受益証券保有者から提起された質問に回答するため当該総会に出席した。実質的に個別の各案件について個別の決議案が提出され、投票による議決が行われ、本株式ステーブル受益証券保有者は、総会の開始時に投票による議決の手続について十分な説明を受けた。本株式ステーブル受益証券登録機関であるコンピュータシェア香港インベスター・サービスズ・リミテッドが投票検査人を務めた。

総会において提案された全ての決議案は通常決議であり、投票総数の50%超により可決されており、賛成票の割合は下記の通りである。

- ・ 2022年12月31日に終了した会計年度に係る本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社並びに本トラスティ・マネジャーの監査済財務諸表、取締役の統合報告書、並びに独立監査人の報告書の採択 (99.9982%)。
- ・ 下記の者の取締役選出。ロナルド・ジョセフ・アーカリ氏 (99.6087%)、チェン・チョー・イン、フランシス氏 (99.8356%)、フォン・チー・ウェイ、アレックス博士 (99.9857%)、リー・ラン・イー、フランシス氏 (99.6718%)、ジョージ・コリン・マグナス氏 (99.7977%)、ドナルド・ジェフリー・ロバーツ (99.6837%)、ワン・ユアンハン (99.8358%)、ワン・ジジャン (99.8468%)。
- ・ 本トラスト、本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の監査人としてのKPMGの再任、並びに本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の取締役による監査人の報酬の決定の授権 (99.9607%)。
- ・ 発行済本株式ステーブル受益証券総数の10%を超えない追加の本株式ステーブル受益証券の発行及び処理について、本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の取締役への一般的権限の付与 (99.9883%)。

投票結果 (各決議において賛成及び反対の票を投じた本株式ステーブル受益証券の数を含む。) は、当該総会の終結時に総会に発表され、その後、同日にHKエレクトリック・インベストメンツ社及び香港証券取引所のウェブサイトに掲示された。

財務及びその他の報告

本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社は、会計年度の上半期及び通年の営業成績を報告し、中間及び年次報告書を作成するとともに、香港上場規則及び適用法の要件に従って、公表物又は配布文書により本株式ステーブル受益証券保有者にその他の情報を随時通知する。さらに本トラスト・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社は、持続可能性に対する本グループのアプローチ、公約及び戦略、当該会計年度中の本グループの持続可能性実績に関する主要な成果、将来の計画及び目標について報告するため、会計年度通年の持続可能性報告書を公表する。

企業ウェブサイト

HKエレクトリック・インベストメンツ社の企業ウェブサイトであるwww.hkei.hkは、本株式ステーブル受益証券保有者、投資家のコミュニティ、その他の利害関係者との連絡を円滑化するための情報プラットフォームである。このウェブサイトには、財務成績、年次及び中間報告書、持続可能性報告書、通知、公表物及び配布文書、プレスリリース、その他の企業刊行物を含む、広範な情報が掲載されている。eサブスクリプション・サービスでは、会員が登録を行い、財務報告書及び持続可能性報告書、並びに香港上場規則の公表物が掲示された時に通知を受けることができる。

本株式ステーブル受益証券保有者は、継続的又は一時的な指示として、特定の企業通信 (総会の通知及び添付書類、配布文書、年次報告書及び中間報告書等) を郵便で受け取ることを選択できる。かかる指示がない場合、本株式ステーブル受益証券保有者は、HKエレクトリック・インベストメンツ社及び香港証券取引所のウェブサイト上で当該文書が公開されたことを通知する通知レターを受け取るが、HKエレクトリック・インベストメンツ社又は本株式ステーブル受益証券登録機関に対し、いつでも、郵便又は電子メールにより、自己の言語の選択 (英語若しくは中国語又は両方) 及び/又は企業通信の受領の手段 (印刷版又はHKエレクトリック・インベストメンツ社のウェブサイトを通じたアクセス) の一切の変更を通知することができる。本株式ステーブル受益証券保有者は、環境を保護し、紙の消費量を削減するため、HKエレクトリック・インベストメンツ社のウェブサイトを通じて企業通信にアクセスすることを推奨されている。

投資家向け広報活動

全ての本株式ステーブル受益証券保有者は、総会において、当該総会に直接出席しているかオンライン・アクセスを通じて出席しているかにかかわらず、本取締役会に質問することができ、その他の時には、HKエレクトリック・インベストメンツ社に対し、執行取締役、最高財務責任者、グループ財務責任者又は会社秘書役（これらの者の連絡先は香港における2023年度年次報告書の187頁に記載されている。）宛の書面により質問することができる。

本株式ステーブル受益証券保有者及び投資コミュニティとのコミュニケーションを円滑化し、意見を求めるため、投資家及びアナリストとの会合、ブリーフィング、ロードショーが必要に応じて随時開催されている。

利益相反

本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社は、(1) 本トラストと、(2) 発行済本受益証券の30%以上を保有する一切の受益証券保有者、又は本トラスティ・マネジャーの発行済株式の30%以上を保有する本トラスティ・マネジャーの一切の取締役若しくは株主との間の潜在的な利益相反に対処するため、特定の措置を実施している。HKエレクトリック・インベストメンツ社の附属定款に基づき、実質株主又は取締役が、取締役会が検討すべき事項に係る利益相反を有し、取締役会がかかる利益相反を重大であると判断した場合、当該事項は回覧の書面による決議ではなく、実際に取締役会の会議を開いて処理するものとし、当該会議には当該議事について本人又はその近親者が重大な利害関係を有しない独立非執行取締役が出席すべきものとする。さらに、本信託証書及び本トラスティ・マネジャーの附属定款に基づき、名簿上の全ての本受益証券保有者の全体としての利益と、HKエレクトリック・インベストメンツ社の利益との間に相反が生じた場合、本トラスティ・マネジャーの取締役は、HKエレクトリック・インベストメンツ社の利益よりも名簿上の全ての本受益証券保有者の全体としての利益を優先しなければならない。

全ての独立非執行取締役からなる委員会は、2023年におけるPAH社の2014年1月14日付競業禁止契約の条件の遵守について精査を行った。この契約に基づき、PAH社は、特定の例外を除いて、香港における発電、送電、配電及び電力供給に係る事業を行わず、これに従事せず又は関係しないこと、並びにその構成会社にこれらの事業を行わせず、従事させず、又は関係させないことについて合意している。2023年のPAH社からの遵守確認書面及びその他一切の関連要因を考慮して、同委員会は、2023年中にPAH社が上記の競業禁止契約の条件を遵守していたとの見解を示した。

本信託証書に基づく開示

本信託証書に基づき、本トラスティ・マネジャー取締役会は、下記について確認する。

- (i) 2023年12月31日に終了した会計年度について本トラスティ・マネジャーに対して本トラストの本信託財産から支払われた一切の費用又は支払われるべき一切の費用が本信託証書に従っていること。
- (ii) 関連取引が(i) 本グループの通常の事業の範囲内で行われ、(ii) 一般的な取引条件、又は本グループにとって、独立した第三者が利用可能な条件若しくは独立した第三者から得られる条件に比べて不利のない条件で行われ、当該取引を規定する関連する契約の条件が公正かつ合理的であり、本株式ステーブル受益証券保有者全体の利益に適していること。
- (iii) 本トラスティ・マネジャー取締役会は、本トラストの事業又は本株式ステーブル受益証券保有者全体の利益に重大な悪影響を及ぼすと思われる本トラスティ・マネジャーの義務の違反を認識していないこと。

本株式ステーブル受益証券保有者の持分及びショート・ポジション

2023年12月31日現在、香港証券先物条例第XV部第2章及び第3章の規定に従って開示すべき、又は香港証券先物条例第336条に従って備え置くことが要求される登記簿に登録されているか、又は本トラスティ・マネジャー、HKエレクトリック・インベストメンツ社及び香港証券取引所に対し別途通知されている、本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の本株式ステーブル受益証券又は原資産株式ステーブル受益証券の持分又はショート・ポジションを有している本株式ステーブル受益証券保有者（本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の取締役又はチーフ・エグゼクティブを除く。）は以下の通りである。

本株式ステーブル受益証券大量保有者

本株式ステーブル受益証券におけるロング・ポジション

名称	内容	本株式ステーブル 受益証券の保有口数	発行済み本株式 ステーブル受益証券に 対する概算比率 (%)
パワー・アセット・ホールディングス・リミテッド	被支配法人の持分	2,948,966,418 (注1)	33.37
ハイフォード・リミテッド (Hyford Limited)	被支配法人の持分	2,948,966,418 (注1)(注2)	33.37
チョンコン・インフラストラクチャー (BVI) リミテッド (Cheung Kong Infrastructure (BVI) Limited)	被支配法人の持分	2,948,966,418 (注2)	33.37
CKインフラストラクチャー・ホールディングス・リミテッド	被支配法人の持分	2,948,966,418 (注2)	33.37
ハチソン・インフラストラクチャー・ホールディングス・リミテッド (Hutchison Infrastructure Holdings Limited)	被支配法人の持分	2,948,966,418 (注3)	33.37
CKハチソン・グローバル・インベストメンツ・リミテッド (CK Hutchison Global Investments Limited)	被支配法人の持分	2,948,966,418 (注3)	33.37
CKハチソン・ホールディングス・リミテッド	被支配法人の持分	2,948,966,418 (注3)	33.37
ステート・グリッド・コーポレーション・オブ・チャイナ	被支配法人の持分	1,855,602,000 (注4)	21.00
ステート・グリッド・インターナショナル・ディベロップメント・カンパニー・リミテッド	被支配法人の持分	1,855,602,000 (注4)	21.00
ステート・グリッド・インターナショナル・ディベロップメント・リミテッド	実質的保有者	1,855,602,000 (注4)	21.00
カタール投資庁	被支配法人の持分	1,758,403,800	19.90

(注1) PAH社はその直接完全子会社であるクイックビュー・リミテッドにより実質的に保有されている2,948,966,418口の本株式ステーブル受益証券の持分を有するものとみなされる。ハイフォード・リミテッド(以下「ハイフォード社」という。)は、その直接及び間接完全子会社を通じて、PAH社の発行済株式の3分の1超の議決権を行使する又は行使を支配する権限を有するため、2,948,966,418口の本株式ステーブル受益証券の持分を有するものとみなされ、この持分はPAH社が持分を有する2,948,966,418口の本株式ステーブル受益証券と重複している。

(注2) CKI社は、ハイフォード社の発行済株式資本の3分の1超を保有しているチョンコン・インフラストラクチャー (BVI) リミテッドの発行済株式資本の3分の1超を保有しているため、上記(注1)で言及される2,948,966,418口の本株式ステーブル受益証券の持分を有するものとみなされる。この持分は、下記(注3)に記載されるCKハチソン社の本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社に対する持分と重複している。

- (注3) CKハチソン社は、CKハチソン・グローバル・インベストメンツ・リミテッド（以下「CKHGI社」という。）の発行済議決権付株式の3分の1超を保有しているため、上記（注2）で言及される2,948,966,418口の本株式ステーブル受益証券の持分を有するものとみなされる。CKHGI社の一部子会社は、ハチソン・インフラストラクチャー・ホールディングス・リミテッドの発行済議決権付株式の3分の1超を保有しており、ハチソン・インフラストラクチャー・ホールディングス・リミテッドは、CKI社の発行済株式資本の3分の1超を保有している。
- (注4) ステート・グリッド・インターナショナル・ディベロップメント・リミテッドは、ステート・グリッド・インターナショナル・ディベロップメント・カンパニー・リミテッドの直接完全子会社であり、かつステート・グリッド・コーポレーション・オブ・チャイナ（以下「ステート・グリッド社」という。）の間接完全子会社である。ステート・グリッド・インターナショナル・ディベロップメント・リミテッド及びステート・グリッド・インターナショナル・ディベロップメント・カンパニー・リミテッドの1,855,602,000口の本株式ステーブル受益証券の持分は、それぞれ、ステート・グリッド社が保有する1,855,602,000口の本株式ステーブル受益証券と重複している。

上記で開示されたものを除き、2023年12月31日現在、香港証券先物条例第336条に従って備え置くことが要求される登記簿に登録されている、又はその他の方法により本トラスティ・マネジャー、HKエレクトリック・インベストメンツ社及び香港証券取引所に通知されている、本トラスティ及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の本株式ステーブル受益証券又は原資産株式ステーブル受益証券に係る持分又はショート・ポジションを有している者（本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の取締役又はチーフ・エグゼクティブを除く。）は存在しない。

統合取締役報告書

本取締役会は、2023年12月31日に終了した会計年度に係る本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の年次報告書及び監査済連結財務諸表（以下「本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の連結財務諸表」という。）を提出する。

さらに本トラスティ・マネジャー取締役会は、2023年12月31日に終了した会計年度に係る本トラスティ・マネジャーの監査済財務諸表を提示する。

主たる活動

本トラストは、単一の投資信託（固定型）であり、その活動は、HKエレクトリック・インベストメンツ社の有価証券及びその他の持分に対する投資に限定されている。

HKエレクトリック・インベストメンツ社の主たる活動は投資保有であり、本グループの主たる活動は、香港島及びマカオにおける発電及び電力供給である。HKエレクトリック・インベストメンツ社の子会社の詳細は、後記「Ⅷ. 本トラストの経理状況－2. 本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の連結財務諸表－本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の財務諸表に対する注記」の注記18に記載されている。

本トラスティ・マネジャーはPAH社の間接完全子会社であり、本トラストの管理という特定のかつ限定的な役割を有しており、本トラスト・グループが管理する事業の運営に積極的に携わっていない。

事業レビュー

当会計年度における本トラスト・グループ（本グループはその一部である。）の事業のレビュー及び本トラスト・グループの事業の予想される将来の展開については、前記「Ⅱ. 会長声明」及び「Ⅲ. 最高経営責任者による報告」並びに後記「Ⅵ. 運用の経過」において提示されている。

本トラスト・グループが直面している主要なリスクと不確実性、及びこれらのリスクと不確実性を本トラスト・グループが管理する方法については、後記「Ⅴ. 投資リスク」において説明されている。

本トラスト・グループと主要な利害関係者との関係、環境方針及び実績については、前記「Ⅲ. 最高経営責任者による報告」において論じられており、本トラスト・グループに重大な影響を与える関連法令の遵守の状況については、後記「Ⅴ. 投資リスク－1. リスク要因」及び前記「統合コーポレート・ガバナンス報告書」に盛り込まれている。

これらのレビュー及び議論は、本統合取締役報告書の一部である。

業績

本トラスト・グループ及び本グループの2023年12月31日に終了した会計年度に係る業績及び同日現在における財務状態は、後記「Ⅷ. 本トラストの経理状況－2. の本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の連結財務諸表」に記載されている。

本トラスティ・マネジャーの2023年12月31日に終了した会計年度に係る業績及び同日現在における財務状態は、後記「Ⅸ. 本トラスティ・マネジャーの経理状況－2. の本トラスティ・マネジャーの財務諸表」に記載されている。

分配及び配当

分配可能利益

本株式ステーブル受益証券の分配可能利益及び1口当たり分配可能利益は、後記「Ⅷ. 本トラストの経理状況－2. 本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の連結財務諸表－本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の財務諸表に対する注記」の注記14に記載されている。

本株式ステーブル受益証券1口当たり分配金

本トラスティ・マネジャー取締役会は、2023年12月31日に終了した会計年度について、本トラストによる本株式ステーブル受益証券1口当たり16.09香港セント（2022年度：16.09香港セント）の期末分配を宣言しており、当該分配金は、2024年4月8日現在で本株式ステーブル受益証券登録簿に記載されている本株式ステーブル受益証券保有者に対し、2024年4月17日に支払われる。これにより、本株式ステーブル受益証券1口当たり15.94香港セント（2022年度：15.94香港セント）の中間分配金と合わせて、2023年12月31日に終了した会計年度における分配金総額は1口当たり32.03香港セント（2022年度：32.03香港セント）になる。

本トラストが中間分配金及び期末分配金を支払うことを可能にするため、HKエレクトリック・インベストメンツ社取締役会は、2023年12月31日に終了した会計年度について、本トラスティ・マネジャーが保有するHKエレクトリック・インベストメンツ社の各普通株式に係る第1中間配当金及び第2中間配当金として、それぞれ、15.94香港セント（2022年度：15.94香港セント）及び16.09香港セント（2022年度：16.09香港セント）の支払いを宣言した。

本トラスティ・マネジャー取締役会は、2023年12月31日に終了した会計年度に係る配当金の支払いを提言していない。

株式資本及び本株式ステーブル受益証券

株式資本

HKエレクトリック・インベストメンツ社の株式資本の詳細は、後記「Ⅷ. 本トラストの経理状況－2. 本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の連結財務諸表－本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の財務諸表に対する注記」の注記30(b)に記載されている。当会計年度中に株式資本に変動はなかった。

本トラスティ・マネジャーの株式資本の詳細は、後記「Ⅸ. 本トラスティ・マネジャーの経理状況－2. 本トラスティ・マネジャーの財務諸表－HKエレクトリック・インベストメンツ・マネジャー・リミテッドの財務諸表に対する注記」の注記8に記載されている。当会計年度中に株式資本の変動はなかった。

本株式ステーブル受益証券

当会計年度中に本株式ステーブル受益証券の発行済口数に変動はなく、本トラストの受益証券の発行済口数又はHKエレクトリック・インベストメンツ社の普通株式若しくは優先株式の発行済株式数に個別の変動はなかった。

寄付

当会計年度中に本トラスト・グループは、総額約2百万香港ドル（2022年度：約2百万香港ドル）の慈善及びその他の寄付を行った。

5年間の財務概要

本トラスト・グループ及び本グループの業績並びに資産及び負債の5年間の概要は、後記「X. 本グループの5年間の財務概要」に記載されている。

主要な需要家及び供給事業者

2023年及び2022年の12月31日に終了した各会計年度における本トラスト・グループの総収益に占める上位5社の需要家に対する売上高の割合は30%未満である。

当会計年度における収益項目の最大の供給事業者からの購入額は、本トラスト・グループの収益項目の購入額全体の43.1%（2022年度：30.6%）を占めており、上位5社の供給事業者からの購入額合計は、2023年12月31日に終了した会計年度における本トラスト・グループの収益項目の購入額全体の74.4%（2022年度：84.4%）を占めている。

当会計年度のいずれの時点においても、取締役、その近親者、又は本株式ステーブル受益証券保有者（本取締役会の知る限りにおいて発行済の本株式ステーブル受益証券口数の5%超を有している者）は、上記の主要な需要家及び供給事業者について一切の利害関係を有していない。

取締役

2023年12月31日に終了した会計年度中及び本統合取締役報告書の日付までの期間に在職していた本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の取締役は、フォク・キン・ニン、カニング氏、リ・ツァー・クォイ、ヴィクター氏、ワン・チー・ティン氏（2023年7月1日付で退任）、チェン・チョー・イン、フランシス氏、ファハド・ハマド・A・H・アル・モハナディ氏、ロナルド・ジョセフ・アーカリ氏、チャン・ロイ・シェン氏、フォン・チー・ウェイ、アレックス博士、デヴェン・アルヴィンド・カルニク氏、コー・ポー・ワー氏、クワン・カイ・チョン氏、クワン・イン・レオン氏（2023年7月1日付で就任）、リー・ラン・イー、フランシス氏、ジョージ・コリン・マグナス氏、ドナルド・ジェフリー・ロバーツ氏、ワン・ユアンハン氏、ワン・ジジャン氏及びズー・グアンチャオ氏である。

当会計年度中に、ワン・チー・ティン氏は、退職により本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の取締役を辞任した。

上記と同じ期間においてウー・モ・フォン、スーザン（別名、チョウ・ウー・モ・フォン、スーザン）氏は、フォク・キン・ニン、カニング氏の取締役代行者を務めていたが、2023年7月1日付でその職を退いた。フランク・ジョン・シクスト氏は、リ・ツァー・クォイ、ヴィクター氏の取締役代行者を務めている。

ワン氏及びチョウ氏はそれぞれ、本取締役会と意見の対立はなく、これらの者の辞任／退任に関連して本株式ステーブル受益証券保有者に注意を喚起すべき事項はない。

補償の容認

本信託証書に基づき、本トラスティ・マネジャーの取締役は、本トラストのトラスティ・マネジャーの取締役として提起を受けた一切の訴訟、費用請求、請求、損害賠償、経費請求、罰金又は要求について、本取締役の詐欺行為、故意の懈怠又は過失により発生した場合を除き、本トラストの信託財産又はその一部から補償を受ける権利を有する。

HKエレクトリック・インベストメンツ社及び本トラスティ・マネジャーのそれぞれの附属定款には、全ての本取締役は、本取締役として負担し、又は被った一切の損失又は責任について、それぞれHKエレクトリック・インベストメンツ社又は本トラスティ・マネジャーの資産（疑義を避けるため、本トラストの信託財産を除く。）から補償を受ける権利を有する旨が規定されている。

本トラスティ・マネジャー、HKエレクトリック・インベストメンツ社及びこれらの子会社の取締役に對し提起された請求から生じる潜在的な費用及び責任からこれらの取締役を保護するため、取締役賠償責任保険が現在付保されており、かつ当会計年度中、付保されていた。

重要な取引、取決及び契約における取締役の重大な利害関係

当会計年度末時点又は当会計年度中のいかなる時点においても、本トラスティ・マネジャー、HKエレクトリック・インベストメンツ社又はその親会社、子会社若しくは兄弟会社を当事者とし、かつ本取締役又はその関連事業体が、直接又は間接を問わず、重大な利害関係を有する、本トラスト・グループの事業に関連する重要な取引、取決及び契約は一切存続していない。

経営契約

当会計年度中に本トラスト・グループの事業の全部又は実質的な部分の経営及び管理に関する契約は一切締結されておらず、存在もしていなかった。

本株式ステーブル受益証券、株式又は債券の購入の取決

当会計年度中のいずれの時点においても、本トラスティ・マネジャー若しくはHKエレクトリック・インベストメンツ社又はそのいずれの親会社、子会社若しくは兄弟会社も、取締役が、本株式ステーブル受益証券、又は本トラスティ・マネジャー、HKエレクトリック・インベストメンツ社若しくはその他一切の法人の株式若しくは債券の取得により利益を得ることを可能とする取決の当事者となっていない。

株式連動型契約

当会計年度中に本トラスト・グループ又は本トラスティ・マネジャーは、株式連動型契約を締結しておらず、又は当会計年度末時点においてかかる契約は存続していない。

本株式ステーブル受益証券の購入、売却又は償還

本信託証書に基づき、本株式ステーブル受益証券保有者は、自己の本株式ステーブル受益証券の買戻し又は償還を要求する権利を有しない。香港証券先物委員会から随時発行される該当する規則及びガイドラインにより明示的に認められる場合を除き、本トラスティ・マネジャーは、本トラストに代理して本株式ステーブル受益証券の買戻し又は償還を行わない。

2023年12月31日に終了した会計年度中に、本トラスト、本トラスティ・マネジャー、HKエレクトリック・インベストメンツ社及びこれらの子会社は、いずれも発行済の本株式ステーブル受益証券を一切購入、売却又は償還していない。

新株引受権

HKエレクトリック・インベストメンツ社の変更及び書換済の附属定款、並びにケイマン諸島の法律に基づき、HKエレクトリック・インベストメンツ社が既存の本株式ステーブル受益証券保有者に対し、保有割合に応じた比例按分により本株式ステーブル受益証券の新規引受を提案することを義務付ける新株引受権に関する規定は存在しない。

HKエレクトリック・インベストメンツ・マネジャー・リミテッド
及び
HKエレクトリック・インベストメンツ・リミテッド
の取締役会を代表して

フォク・キン・ニン, カニング

会長

香港、2024年3月19日

(4) 分配方針

本「(4) 分配方針」に記載される定義語は、別段の定義がなされない限り本信託証書において定められるものと同様の意味を有するものとする。

A. 現金の分配

- (a) 関連法令及び下記 (b) 項及び (c) 項に従うことを条件として、本トラスティ・マネジャーは、自らが適切と判断する期間について、自らが適切と判断する金額で、自らが適切と判断する期日に、本受益証券の名簿上の保有者を対象に、本信託財産から現金による分配を実施することを宣言することができる。
- (b) 本トラスティ・マネジャーは、本普通株式に関して本トラスティ・マネジャーがHKエレクトリック・インベストメンツ社から受け取る配当、分配及びその他の金額の100%を、本信託証書に基づき本信託財産から控除し又は支払うことが認められた一切の金額を控除した上で、本受益証券の名簿上の保有者に対して分配させるものとする。
- (c) HKエレクトリック・インベストメンツ社の取締役会は、本信託証書の日付現在、本トラスティ・マネジャーが行う本株式ステーブル受益証券に係る分配の資金に充てるために、各会計年度に係る本グループ分配可能利益の100%の配当を宣言して、これを本トラスティ・マネジャーに分配することを意図している。さらに、ケイマン諸島の全ての適用法令及びHKエレクトリック・インベストメンツ社附属定款を遵守することを条件として、HKエレクトリック・インベストメンツ社の取締役は、当該金額に追加で配当宣言及び分配 (HKエレクトリック・インベストメンツ社の取締役の裁量により決定される。)を行うことができる。

本トラスト・グループが主として重点を置いている分配の拡充のため、現在HKエレクトリック・インベストメンツ社取締役会は、HKエレクトリック・インベストメンツ社が半期ベースで第1中間配当と、期末配当に代えて第2中間配当を宣言し、また、第2中間配当が宣言された会計年度については、期末配当を一切宣言しないとする意向を示している。第1中間配当金と第2中間配当金の合計は、当該会計年度における分配可能利益の100%に等しいものとし、本トラスティ・マネジャー取締役会は、これらの配当から本トラストによる半年ごとの中間及び期末の分配を宣言する決議を行う。この方式により、分配金の支払時期がこれに対応する半期に合わせてより適切に調整され、その結果、本株式ステーブル受益証券の名簿上の保有者は当該分配金の定期的な支払いによる恩恵を受けると本取締役会は考えている。第1中間配当及び第2中間配当として年間に支払われる配当金合計額に占めるそれぞれの割合は、HKエレクトリック・インベストメンツ社取締役会がその裁量により決定し、第1中間配当の金額は、当該会計年度の当初6ヵ月 (又は支払われた配当金に係るその他の期間) に関する本グループ分配可能利益又は当該会計年度に関する本グループ分配可能利益に比例していることを要しない。

本グループが固定資産又は不動産を売却する場合、HKエレクトリック・インベストメンツ社の取締役は、自らの裁量において、当該売却による収入 (実現利益を含む。) の全部又は一部を (関連する税金及び費用並びに関連する債務の弁済額を控除した上で) 当該売却後5年間まで留保することができるものとし (これには、将来において債務を弁済するため及び/又はクレジット・ファシリティ契約における誓約を遵守するために留保する金額が含まれる (かかる債務弁済及び誓約遵守のために留保する金額を、以下「除外額」という。))、かかる留保した収入 (除外額を除く。) を他の固定資産又は不動産の取得及び/又は資本的支出のために使用することができる。かかる留保した収入の全部又は一部 (除外額を除く。) が当該売却後5年以内に上記の目的のために使用されなかった場合、HKエレクトリック・インベストメンツ社は、かかる留保した収入 (除外額を除く。) を本トラスティ・マネジャーに対して分配するものとする。

- (d) 本トラスティ・マネジャーは、上記(c)項におけるHKエレクトリック・インベストメンツ社から本トラスティ・マネジャーに支払われる第1中間配当及び第2中間配当の中から本株式ステーブル受益証券の名簿上の保有者に対して半期ベースで分配金を支払う。本トラスティ・マネジャーは、各年の6月30日から4ヵ月以内に中間分配金を、12月31日から6ヵ月以内に期末分配金を支払うものとする。本トラスティ・マネジャーは、会計年度毎に、(本信託証書に基づき本信託財産から控除又は支払いを行うことが許可されているあらゆる控除を行った後に)本普通株式に関して本トラスティ・マネジャーに支払われた配当金の100%を、本(d)項において言及する中間分配金及び期末分配金によって分配する。
- (e) 本株式ステーブル受益証券に係る分配の資金に充てるために本グループの各会計年度に係る本グループ分配可能利益の100%の配当を宣言し、これを本トラスティ・マネジャーに分配するというHKエレクトリック・インベストメンツ社の本信託証書の日付現在の意図は、配当方針に過ぎず、HKエレクトリック・インベストメンツ社の本信託証書の日付現在の意図を記載したものに過ぎない。これは、HKエレクトリック・インベストメンツ社の取締役、HKエレクトリック・インベストメンツ社、本トラスティ・マネジャー又は本トラストに対して法的拘束力を有する義務ではなく、変更される可能性がある(疑義を避けるために付言すると、かかる配当方針の変更は、本信託証書の修正、改変、変更又は追加を構成するものではなく、またそれらを要するものでもないが、香港証券取引所に通知し、後記「C. 本トラスティ・マネジャーの公表義務」に基づく公表を行う必要がある。)。この方針は、いかなる者によっても保証されるものではない。
- 本株式ステーブル受益証券に係る将来の分配金(もしあれば)の形式、頻度及び金額は、本グループの利益、財政状態及び経営成績をはじめ、契約上の制限(本信託証書上の本トラスティ・マネジャーによる借入制限及び本グループのローン・ファシリティ契約に基づき課せられる財務制限の遵守を含む。)、適用法令の規定並びにその他の要因(一般的な事業環境及び経営状況並びに拡張計画を考慮した資金需要、その他資本管理に関する検討事項、分配の全体的な安定性並びに業界慣行の状況を含むが、これらに限定されない。)によって決まる。
- (f) 本トラストは、本トラスティ・マネジャーが(本トラストに代わって)本受益証券1口当たり分配金を宣言した時点で、関連する分配の基準日における発行済本受益証券の口数にかかわらず、かかる本受益証券1口当たり分配金を支払う義務を負うものとする。但し、本受益証券が併合又は分割された場合は、適宜適切な調整を行うこととする。

B. 分配受領権

- (a) 本トラスティ・マネジャーが分配の実施を宣言したときに、本受益証券の名簿上の保有者はそれぞれ、当該分配の実施期日と表明された日以降、宣言された分配のうち、本受益証券の名簿上の保有者それぞれが当該分配の基準日に保有する全額払込済本受益証券の口数に基づき比例按分により算定された各自の受取分を受領する権利を有するものとする。
- (b) 基準日に本受益証券の名簿上の保有者である者は、当該基準日に係る一定期間につき、本トラスティ・マネジャーが宣言した分配金を受領する権利を有する。
- (c) 分配の宣言後当該分配の基準日以前に新たな本受益証券が発行される場合には、本トラストによる分配金の総額は、当該分配基準日現在の本受益証券の名簿上の保有者が全て、宣言された本受益証券1口当たり分配金を受領することとなるよう、比例して増額されるものとする。上記(b)項及び本(c)項前段の定めにかかわらず、分配の宣言後に新たな本受益証券を発行し、かつ前記「A. 現金の分配」(f)項を適用した結果として、本トラストが本受益証券の名簿上の保有者を対象とする分配金の支払いに見合う十分なキャッシュフローを有しない場合、又は本受益証券の名簿上の保有者を対象とする分配金の支払い(行われた場合)が、本トラスト又は本グループが従う適用ある誓約に違反する場合は、かかる未払分配金が発生し、本トラストに債務の支払いに見合う十分なキャッシュフローが生じた後、又は適用ある誓約に違反することなく債務の支払いに応じることが可能となった後(場合による。)、実行可能な限り速やかに、受領権を有する者に対して支払われるものとする。但し、本受益証券の名簿上の保有者が有する発生済未払の分配金を受領する権利については利息の支払いを行わないものとし、また本受益証券の名簿上の保有者は支払停止の通知を受けるものとする。

- (d) 本トラスティ・マネジャーは、各本受益証券の名簿上の保有者が受領する権利を有する分配金額から、以下の金額を全て控除することができる。
- (i) 1香港セント未満の端数を分配することを回避するために必要な金額（1香港セント未満の端数を切り捨てる。）
 - (ii) 分配日に分配することが現実的ではないと本トラスティ・マネジャーが判断した金額
 - (iii) 本受益証券の名簿上の保有者に帰属する本トラストの利益について、又は控除しなければ本受益証券の名簿上の保有者に分配された分配金額について、本トラスティ・マネジャーにより支払われた税金の額、又は本トラスティ・マネジャーが支払わなければならない若しくはそのおそれがあると判断する税金の相当額。本トラスティ・マネジャーは、(1) 会計士、税務顧問若しくは本トラスト監査人の助言若しくは計算、又は(2) 上記の控除を実施する前に当該税金の一切について税務当局若しくは行政機関から得た一切の情報に依拠することができる（但し、依拠する義務は負わない。）。本トラスティ・マネジャーは、自らが誠実に、かつ、不正行為、故意の不履行又は過失を犯すことなく実施又は負担する一切の控除又は支払いについて、いずれの保有者その他の者にも説明する責任を負わないものとする（かかる控除又は支払いを実施若しくは負担すべきではなく、又は実施若しくは負担する必要がなかったかは問わない。）。実施若しくは負担すべきではなく、又は実施若しくは負担する必要がなかった控除を税務当局若しくは行政機関に支払うことが要求されなかった場合、又は実施若しくは負担すべきではなく、若しくは実施若しくは負担する必要がなかった税金の額がその後還付された場合には、当該金額は本信託財産を構成し、本信託証書の条件に基づきかつこれに従い、本トラスティ・マネジャーが保有し、本トラスティ・マネジャーにより行われる次の中間分配又は年次分配に関して本受益証券の名簿上の保有者に分配される金額に加算されるものとする。
 - (iv) 関連法令又は本信託証書により控除が要求される金額
 - (v) 本受益証券の名簿上の保有者が本トラスティ・マネジャー又はHKエレクトリック・インベストメンツ社に対し支払うべき金額
- (e) 本トラスティ・マネジャーは、会計年度毎に本受益証券の名簿上の保有者が本受益証券1口につき受領する権利を有する分配金を決定するものとし、かかる決定は、登録機関（任命している場合）に通知するものとする。本トラスティ・マネジャーは、自らが算定した当該会計年度につき本受益証券の名簿上の保有者が本受益証券1口につき受領する権利を有する分配金について、これを本トラスト監査人に調査・検証させ、確認書を本トラスティ・マネジャーに送付させるよう取り計らうものとする。本トラスティ・マネジャーは、会計年度毎に、登録機関（任命している場合）に対して、各会計年度の分配日までに本受益証券の名簿上の保有者がそれぞれ受領する権利を有する分配金をかかる保有者に支払うよう指図を出すものとする。
- (f) 本受益証券について又はに関して支払うべき分配金又はその他の金員に、本トラストの負うべき利息は付されないものとする。未請求金は全て、本信託証書第15.3条に定める方法で処理するものとする。

C. 本トラスティ・マネジャーの公表義務

- (a) 本トラスティ・マネジャーは、香港証券取引所に対して下記に掲げる事項を直ちに通知しなければならない。
- (i) 分配並びに分配率及び金額の宣言、推奨又は支払いの決定
 - (ii) 本来適正な過程を経ていれば宣言し、推奨し、又は支払ったであろう分配の宣言、推奨又は支払いを実施しない決定
 - (iii) 年間、半期又はその他の期間における損益の速報
- (b) 本トラスティ・マネジャーは、上記(a)項(i)又は(a)項(ii)に定める決定を公表することにより本株式ステープル受益証券の名簿上の保有者に通知するものとする。かかる公表は、当該決定後可能な限り速やかに実施しなければならないが、市場が開く前、市場での取引終了後又は昼休みの間にのみ公表すべきとする。

- (c) 分配の宣言、推奨又は支払いの決定について行う公表には、下記の事項を含めなければならない。
 - (i) 分配金額、及び本受益証券の名簿上の保有者が本受益証券1口につき受領する権利を有する分配金
 - (ii) 分配の基準日及びおおよその支払日
 - (iii) 前記「B. 分配受領権」(e)項に従って本トラスティ・マネジャーが算定した本受益証券1口につき受領する権利を有する分配金について、本トラスティ監査人がレビューし検証したという事実の確認
 - (iv) あらゆる妥当な調査を実施した上で、本受益証券の名簿上の保有者を対象に当該分配を実施後直ちに本トラスティ・マネジャーが本トラスティの負債を期日の到来時に本信託財産を原資として弁済することができるという本トラスティ・マネジャーの取締役会による確認

D. 本受益証券保有者の通知義務

各本受益証券保有者は、本トラスティ・マネジャーから要請された場合、その居住地に関する情報、又は本トラスティ・マネジャーがその時々において決定する税務目的のその他の関連情報を提供しなければならない。

E. 分配金再投資制度

本トラスティ・マネジャーは、本受益証券の名簿上の保有者に支払われる特定の分配金の全部又は一部を、本信託証書第3条に従って本トラスティ・マネジャーが決定する条件及び発行価格で(本株式ステーブル受益証券の構成要素として)本受益証券を追加発行するのに充当するように本受益証券の名簿上の保有者が要請することができる取決に、各本受益証券の名簿上の保有者が通知に定められた条件に従って参加することができる旨を、事前にHKエレクトリック・インベストメンツ社から同意を得て、本受益証券の名簿上の保有者に対して書面にて随時通知することができる。発行される本受益証券は、当該本受益証券の名簿上の保有者によって購入されたものとみなされる。本トラスティ・マネジャーは、HKエレクトリック・インベストメンツ社から事前に同意を得れば、本受益証券の名簿上の保有者に対する書面による通知により、随時、当該分配金再投資制度の条件を変更することができる。

F. 現金以外の分配

前記「A. 現金の分配」に従って現金の分配を実施する権限、及び本トラスティ・マネジャーが随時明示する分配方針を損なうことなく、かつ関連法令及び本受益証券の名簿上の保有者の普通決議に従うことを条件として、本トラスティ・マネジャーは、本受益証券の名簿上の保有者を対象とした、本信託財産を原資とする現金以外の分配の実施を宣言することができる。本「(4) 分配方針」のその他の条項を現金以外の分配に適用する場合には、その限りにおいて、当該その他の条項を準用するものとする。

G. 資本及び未実現利益の分配

本トラスティ・マネジャーは、以下の金額の分配を行うことができる。

- (a) 本トラスティの資本の一部であって、本トラスティ・マネジャーが本トラスティの資金需要を上回っていると合理的に判断するもの
- (b) 未実現利益の一部又は全部

H. 利益の区分及び源泉

- (a) 利益の区分又は源泉に関しては、本トラスティ・マネジャーは、別個の勘定を設け、本受益証券の名簿上の保有者に対していずれの区分又は源泉からも利益を割り当てることができる。
- (b) 本トラスティ・マネジャーは、上記(a)項に従って設ける勘定又は記録に記録した一切の金額を、その他の金額を分配する前に、分配させることができる。

(5) 投資制限

本トラストは、本信託証書の条件に基づきかつ従って、承認事業のみに従事する単一の投資信託（固定型）として設定される。この場合の単一の投資信託（固定型）は、信託は唯一の企業（HKエレクトリック・インベストメンツ社）の有価証券及びその他の持分に投資することのみが可能であり、また信託は信託が保有する具体的に特定される財産（この場合は本トラストが保有する本普通株式）における実質的持分を本受益証券の名簿上の保有者に付与することを意味する。

本トラストは、本信託証書に従って承認事業に従事する場合を除き、いずれの活動も行うことができない。本信託証書は、本トラストの「承認事業」の意味を以下の通り規定している。

- (a) HKエレクトリック・インベストメンツ社に対する投資（HKエレクトリック・インベストメンツ社の有価証券及びその他の持分に対する投資を含むが、これらに限定されない。）
- (b) 本信託証書に基づく本トラスティ・マネジャーの権限及び権利の行使、並びにその義務及び債務の履行
- (c) 上記（a）及び／又は（b）に記載されている活動のために又はそれに関連して必要であるか又は望ましいあらゆる事項又は活動

したがって、要約すれば、本トラストの活動範囲はHKエレクトリック・インベストメンツ社への投資に限定されている。

V. 投資リスク

1. リスク要因

リスクと不確実性は、本グループの事業、財政状態、業績又は成長見通しに影響を及ぼし、その結果、予想業績や過年度業績からの乖離を生じさせるおそれがある。2024年4月5日現在、本グループに影響を与える主要なリスク要因の概要は以下の通りである。これらのリスク要因への対応にあたって、本グループは利害関係者の懸念を理解し、これに対処するため、利害関係者と常時連絡を取っている。

これらの要因は網羅的又は包括的なものではなく、以下に示したものに加えて、本グループが関知していないか、又は現在は重大でないと思われるが、将来において重大になり得るその他のリスクが存在する可能性がある。

世界及び香港の経済環境

世界経済の回復は依然として緩慢である。インフレ率、高金利の長期化、厳しい金融情勢、貿易保護主義及び地政学的緊張など全てが、世界経済に不確実性をもたらしている。香港の経済は、インバウンド旅行者の増加及び個人消費の下支えにより緩やかではあるが回復が続いている。

世界を覆っている不確実性は、需要家又は潜在的な需要家の事業に影響を与えてきたことから、香港の電力需要や関連サービス需要の低下につながるおそれがある。その結果、本グループの財政状態、潜在利益、資産価値、債務に悪影響が生じるおそれがある。

世界経済と香港経済の不確実性に対処するため、本グループは、財務管理と資本投資における慎重かつ現実的な戦略を追求している。さらに本グループは、財務業績の向上のため、事業のあらゆる点において効率と費用効果の改善に取り組んでいる。

金利と為替市場

本グループは、主としてその利付負債に係る金利リスクにさらされている。米国連邦準備制度は、2023年にFF金利を4回引き上げ、香港金融管理局 (Hong Kong Monetary Authority) もこれに追随して基準金利を4回引き上げた。本グループはまた、主として燃料及び資本設備の輸入から生じる為替リスクにさらされている。金利及び為替市場の変動は、本グループの財政状態及び業績に悪影響を及ぼすおそれがある。

本グループの資金管理方針では、これらのエクスポージャーの管理のために取るべき措置について指針が示されている。本グループの現行の金利リスク及び為替リスクの管理に関する実務は、後記「VI. 運用の経過」に記載されている。

電力市場

香港における本グループの電力事業の運営は、香港政府との間の本電力供給契約に服しており、この契約では、主として電力関連事業に関する純固定資産平均残高に基づき利益の許容水準が定められている。

現行の本電力供給契約の契約期間は、2019年から2033年までの15年間を対象期間とし、2019年1月1日付で開始した。本電力供給契約は5年ごとに見直しが行われる。本電力供給契約は、金融サービス規制の分野において必要な安定性を提供しているが、香港政府の大気環境、気候変動の緩和のための電力部門の脱炭素化、エネルギー利用効率化と省エネルギー及び電力市場における競争に関する戦略及び政策は、本グループの中長期的な業績と成長に影響を及ぼす要因になっている。

本グループはこれらの要因を定期的に精査するメカニズムを設定しており、電力市場と規制事項について香港環境及び生態局 (Environment and Ecology Bureau) やさまざまな利害関係者との間で継続的に協議を行っている。

2023年11月に本電力供給契約の第1回中間レビューが完了し、後記「5 運用状況－(1) 投資状況」の「会長声明」及び「最高経営責任者による報告」に記載の3つの変更が加えられた。同時にHEC社の2024-2028年度開発計画も香港政府により承認された。

気候変動

気候変動の影響は世界的な範囲に及んでおり、多数の国と地域が影響を受けている。気候変動により、超大型台風、洪水、深刻な暴風雨、極端な温度、及びその他の自然災害等、異常気象現象の発生頻度と強度が増大する可能性がある。そのような気候変動はサプライ・チェーンを混乱させ、事業運営を中断させ、財務的損害及び物理的損害を生じさせるおそれがある。2021年10月に、香港政府は、気候変動対策の戦略をまとめた「香港の気候変動行動計画2050」を公表した。本プランでは、2035年までに香港の炭素排出量を50%削減（2005年比）し、最終的に2050年までにカーボン・ニュートラルを達成するという中長期目標を設定している。香港における主要な公益事業者として、本グループは、気候変動によってもたらされる物理的リスクと移行リスクにさらされている。

本グループは、下記の「供給の信頼性」のリスク要因に記載されているように、引き続き気候変動対応力を電力インフラに組み込むことで物理的リスクを軽減する。低炭素電力供給への移行関連リスクに対応するために、本グループは香港政府の炭素削減目標を全面的に支持することを公約している。本グループはさまざまな脱炭素化イニシアチブを追求しており、独自の科学に基づく炭素削減目標を更新している。これらのイニシアチブには、石炭火力発電からガス火力発電への移行及び再生可能エネルギーを通じた発電ポートフォリオの脱炭素化、並びにその他の潜在的なゼロ・カーボンエネルギー技術及び革新的な発電ソリューションの利用の探究が含まれるが、これらに限定されない。また、本グループは、本グループの事業からの廃棄物と排出物を削減し、資金供給スキームと教育活動を通じたエネルギー利用効率化と再生可能エネルギーを促進し、電気自動車の採用に挑戦し、電気自動車用の充電インフラを設置しようとする顧客に技術サポートを提供し、環境保護団体やコミュニティ組織が開始した環境プロジェクトを支援するためにリサイクル慣行を実施している。

本グループの2023年度持続可能性報告書では、気候関連財務情報開示タスクフォース（Task Force on Climate-related Financial Disclosures）の提言に関して、本グループが気候変動関連の課題と機会をどのように管理しているかについて、より詳細な議論を行っている。

環境に関するコンプライアンス

2008年に香港政府は、大気汚染防止条例に基づく特定ライセンスに関する排出許容量の技術覚書（Technical Memorandum for Allocation of Emission Allowances in respect of Specified Licences under the Air Pollution Control Ordinance (APCO)）を通じて、2010年及びそれ以降の電力セクターにおける年間排出許容量（ラマ発電所のための許容量を含む）を公布した。これまでに9件の技術覚書が発行された。最新版は、2021年に発行され、2026年及び2027年の年間排出許容量を定めている。香港政府は、第10回技術覚書の修正・発行に向けて、電力会社2社とともに第9回技術覚書の見直しを行っている。

本グループは、大気汚染防止条例に基づく年間排出許容量に加え、大気汚染防止条例のために発行された特定プロセス・ライセンス並びにその他の適用ある許認可及び環境許可書の条件を遵守する必要がある。これらの要件を遵守しない場合は、本グループに対して法律上の措置が適用されるおそれがある。

本グループは、環境管理システムを設定して、専門のチームにより運営される監視と報告のメカニズムを通じて、関連する環境規制の遵守を確保し、一般市民の懸念に対応するとともに、発電所からの汚染物質の排出量の綿密な監視と管理を行っている。

燃料の供給

本グループのラマ発電所における発電設備は、主として天然ガスと石炭を燃料源としている。天然ガス又は石炭の供給が中断又は不足した場合、あるいは基準に満たない品質の燃料が供給された場合、発電設備の稼働に重大な支障をきたすおそれがある。その結果、本グループの電力供給の信頼性、環境実績、事業、財政状態、信用に悪影響が生じる場合がある。また、燃料価格の変動も本グループに財務リスクを生じさせている。

本グループは、発電需要を満たす信頼性がある燃料供給と十分に適切な品質のストックを維持するための燃料供給戦略と燃料品質管理システムを設定している。浮体式貯蔵・再ガス化設備（FSRU）技術を使用する海上LNGターミナルのジョイント・ベンチャー開発は、2023年7月に商業運転を開始した。かかる開発により、本グループは天然ガスのもう1つの供給源を得るとともに、競争的な価格でガスの供給を確保する能力を得ることができる。

供給の信頼性

本グループは、電力供給障害に関連するリスクにさらされる場合がある。大地震、暴風雨、洪水、地滑り、気候変動に伴う異常気象、火災、サボタージュ、テロ行為、損害、電力システムを支える重要な情報・制御システムの故障、その他一切の予期せぬ事態により引き起こされる発電又は送配電網施設における大規模な被害により、長期的かつ大規模な電力供給停止が発生するおそれがある。

このような供給停止から生じるキャッシュフローの喪失と送配電網と発電資産の損傷からの復旧の費用は多大な金額になる場合がある。このような事態が生じると、顧客の信用を失うとともに、賠償請求や訴訟につながるおそれがある。供給停止の回数や期間が非常に大きくなる場合、本グループの送配電網の運営に伴う費用が増加し、本グループの事業、財政状態及び事業効率、信用に悪影響を及ぼすおそれがある。

本グループは、気候変動、公衆衛生に係る不測の事態、物理的セキュリティ及びサイバーセキュリティ並びに重要な電力システム施設内の火災リスクについて新たに発生するリスクを組み入れて徹底的なリスク評価を実施し、弾力性のある計画設計を採用し、重要なインフラや資産の信頼性重視の保守と状態管理を行い、電力供給及び消防設備の改良を行い、定期的な信頼性レビューを実施し、業務運営従業員に対する包括的な研修を行うとともに、洗練された情報技術制御・資産管理システムを設定している。さらに本グループは、供給の信頼性を確実に高水準で維持するため、さまざまな利害関係者と定期的に緊急事態対応計画に関する訓練を実施している。

安全衛生

本グループは事業の性質上、一連の安全衛生に関するリスクにさらされている。

一般市民や従業員の死傷若しくは病気を生じさせる大規模な衛生安全上の事故の発生又は本グループの財産の損害は重大な結果につながるおそれがある。このような事故や感染症は広範な災害や被害、本グループの事業の重大な混乱を生じさせる場合があり、その結果、規制当局の措置、法律上の責任、重大な費用、本グループの信用の喪失につながるおそれがある。

本グループは、安全で社会的に責任ある方法で事業を遂行することにより、エクスポージャーを管理し、従業員、需要家、請負業者、観光客及び一般市民を保護するための安全衛生管理システムを設定している。また、事業活動においては、気候変動により生じた危険を含む、潜在的な健康上及び安全上の危険を軽減又は除去するためにリスクアセスメントを実施している。組織の衛生安全に関する社風、意識と取組を強化するため、継続的な改善が実施されている。

2023年5月、香港政府はCOVID-19の流行に関する感染症対応策のレベルを「緊急」から「警戒」に引き下げた。香港政府の主導に従い、本グループの事業における感染リスクを評価した結果、本グループはCOVID-19の流行を対象とする独自のインフルエンザ流行緊急時対応計画の対応レベルを引き下げた。本グループは、その事業に関連する新たな公衆衛生上の不測の事態に関するリスクを管理するため、監視の枠組及び予防措置を維持している。

サイバーセキュリティ

本グループの重要な公益事業用資産及び情報資産は、サイバー・ワールドにおける攻撃、損害又は無権限アクセスの脅威にさらされている。世界中でサイバー攻撃がますます頻繁かつ強力な方法で行われているという事実は、本グループに対するサイバー犯罪の発生に伴うリスクを増大させている。本グループの重要な公益事業用資産及び情報資産を標的とするサイバー攻撃や無差別のサイバー攻撃からこれらの資産を保護できなければ、信用の低下、財務上の損失、事業の中断を招くおそれがある。

本グループは、サイバーセキュリティ・リスク対策においてリスク・ベースの総合的なアプローチを採用している。情報セキュリティ管理システムの実装を伴う強力なサイバーセキュリティ管理枠組（IT業界全体に複数のセキュリティ管理層を展開し、さまざまなサイバーセキュリティプロセスと統合する多層防御サイバーセキュリティ管理戦略に基づく）が構築されている。これにより、先を見越してサイバー攻撃を特定し、防止し、検知し、対応し、回復することを可能にしている。企業情報資産と重要インフラの信頼性、完全性、利用可能性を確保するため、サイバーセキュリティ管理の3本の柱である人員、プロセス、技術に対し、リソースと開発努力が重点的に傾注されている。

法律と規制

本グループの主たる事業会社であるHEC社は、香港島及びラマ島への発電、送電、配電、電力供給に従事しており、特に電力設備の開発、建設、ライセンス及び運営に関する香港の法律と規制を厳密に遵守することを義務付けられている。本グループは、その事業運営及び建設に係る許認可に含まれる条件を遵守しなければならない。また、法改正や規制の変更により本グループは、それらの変更を遵守するために追加的な資本支出及び営業費用やその他の義務又は責任を負う場合がある。適用ある法令及び関連する変更を遵守しない場合、本グループは、訴追及び訴訟の対象となる場合があり、その結果、罰金、制裁、刑事罰及び／又は許認可の停止、撤回若しくは更新拒絶を受けるおそれがあり、あるいは本グループの事業、財政状態、業績に重大な悪影響が生じるおそれがある。

最高経営責任者が会長を務めるコンプライアンス委員会は、本グループのコンプライアンス機能の監督に責任を負っている。本グループを通じた一貫した体系的なアプローチに基づきコンプライアンス義務を監督するため、コンプライアンス枠組が設定されている。この枠組の一環として、本グループのコンプライアンスの義務と状況並びに法令とその意味の変化を積極的に監視するため、規制コンプライアンス監視プログラム (Regulatory Compliance and Monitoring Programme) が実施され、その責任者が指定されている。

2. リスク管理体制

効果的なリスク管理及び内部統制の制度は、本グループの戦略目標の達成に不可欠である。

リスク管理枠組

本グループは、主要な事業、財務、経営及びコンプライアンスに係るリスクを効果的に特定、評価、軽減及び監視することを目的として、ERM (全社的リスクマネジメント) の枠組を設けている。この枠組に基づき、本グループは組織全体のリスクを特定及び管理するとともに、継続的な監視と審査を行うための予防的かつ体系的なアプローチを採用している。

ガバナンス及び監督

本グループは、リスクの認識と制御を強く意識する環境の推進に取り組んでいる。リスク管理の責任は、組織内のあらゆるレベルで負うべきものである。HKエレクトリック・インベストメンツ社取締役会は、HKエレクトリック・インベストメンツ社監査委員会を通じて、リスク管理全体を監督する。リスク管理委員会は、内部監査部のサポートを受けて、本グループの重要なリスクの精査と監視についてHKエレクトリック・インベストメンツ社取締役会とHKエレクトリック・インベストメンツ社監査委員会を支援する。経営陣は、戦略的性質を有するリスクの特定と評価について責任を負う。事業ユニットは、担当する活動におけるリスクの特定と管理に責任を負う。トップダウンとボトムアップのアプローチは相互に補完し合っており、本グループの重要なリスク (企業及びビジネス・ユニットのレベルで発生する重大なエマージング・リスクを含む。) を効果的な方法で特定及び管理することを可能にしている。

リスク管理委員会
及び経営陣による
支援を受けた
HKエレクトリック・
インベストメンツ社
取締役会／
HKエレクトリック・
インベストメンツ社
監査委員会による
監督

企業レベルでリスク
を特定及び管理

「トップダウン」

「ボトムアップ」

事業ユニット
ビジネス・ユニット・
レベルでリスクを
特定、管理及び報告

リスク管理枠組のガバナンス

(HKエレクトリック・
インベストメンツ社
監査委員会を通じた)

**HKエレクトリック・
インベストメンツ社
取締役会**

**HKエレクトリック・インベストメンツ社取締役会／HKエレクトリック・
インベストメンツ社監査委員会による監督**

- ・本グループのリスク管理及び内部統制制度について全般的に責任を負う。
- ・本グループがその戦略上及び事業上の目的を追求するにあたって受け入れようとするリスク（ESGリスクを含む。）の性質と範囲を決定し、評価する。
- ・経営陣が効果的なシステムを設定する職責を確実に遂行できるように、リスク管理及び内部統制の制度について経営陣と協議する。

リスク管理委員会
(最高経営責任者が
議長を務める)

**HKエレクトリック・インベストメンツ社取締役会／HKエレクトリック・
インベストメンツ社監査委員会に対するリスクの審査、通知及び確認**

- ・本グループのリスク・プロファイルを監視し、重要なリスクが適切に軽減されているかどうかを評価する。
- ・リスク管理及び内部統制制度の有効性に関する継続的な審査の実施を確保し、かかる審査の実施についてHKエレクトリック・インベストメンツ社監査委員会を通じてHKエレクトリック・インベストメンツ社取締役会に対する確認を行う。

経営陣

リスク及び統制の監視

- ・リスク管理及び内部統制制度の設計、実施及び監視に責任を負う。
- ・重要な企業リスクを特定及び監視する。
- ・制度の有効性について、リスク管理委員会に対する確認を行う。

事業ユニット

最前線のリスク及び統制責任

- ・ビジネス・ユニットのレベルで統制を設計、実施及び監視し、関連するリスク事項を速やかに上申する。
- ・ビジネス・ユニットのレベルにおけるリスク管理及び内部統制活動の有効性について、リスク管理委員会に保証を提供する。
- ・継続的なプロセスの改善を求め、再評価を実施する。

リスク管理プロセス

リスク管理プロセスは、本グループの日常の業務活動に組み込まれており、HKエレクトリック・インベストメンツ社取締役会から個別の従業員に至るまで、本グループのあらゆる部署が関与する継続的なプロセスである。

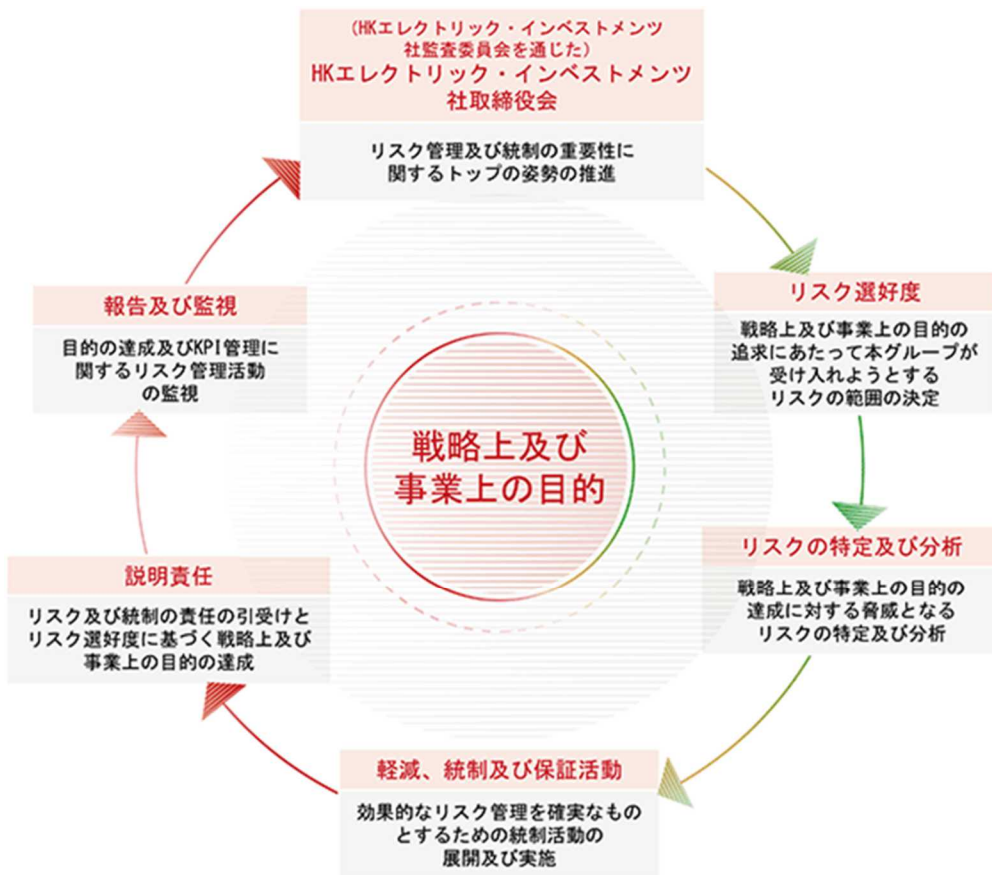
リスク特定プロセスは、内外の要因を考慮して行う。内外の要因には、経済、政治、社会、技術、環境等、法令、本グループの戦略並びにこれらの点に関する利害関係者の期待を含む。リスク分析を円滑に行うため、リスクは各カテゴリーに分類される。特定された各リスクは、HKエレクトリック・インベストメンツ社取締役会が設定したリスク選好度に従い、発生可能性と影響に基づき分析される。

リスク管理のための行動計画が策定される。さらに、リスク評価プロセスには、各リスクの制御メカニズムの精査及びそれぞれの制御の有効性の評価が含まれる。

本グループは、リスク記録を作成し、本グループに重大な影響を及ぼすおそれがあるエマージング・リスクを勘案して、継続的に更新、監視する。

リスク管理報告書は、企業とビジネス・ユニットのレベルで重要なリスクと行動計画の要点を記載し、半年ごとにリスク管理委員会の精査を受ける。企業のトップリスクの記録は、HKエレクトリック・インベストメンツ社取締役会への報告のため、HKエレクトリック・インベストメンツ社監査委員会に提出する。主要なリスクに日々生じる重大な変化は発生に応じて対処し、経営陣に報告する。

さまざまな経済的、社会的、政治的な環境において既存のリスクと新たなリスクを効果的に管理する方法を見出すことは、本グループの事業目標の達成を左右する重要な要素になっている。本グループのリスク要因については、前記「1. リスク要因」に記載されている。本グループは、変化する事業環境に適応するため、リスク管理枠組の改善に継続的に取り組んでいる。



流動性リスクに対する管理体制

本グループは、リスク管理の向上及び資金調達コストの最小化を目的として集中資金管理システムを運用している。本グループは、コミットメント型の銀行融資枠を設定することによって必要な場合に十分な流動性を利用できるようにしている。本グループは、現在及び将来の流動性需要、並びに財務制限条項の遵守状況の定期的なモニタリングを行い、本グループの短期的及び長期的な流動性需要を充足するために、十分な現金が確保され、及び適切な融資枠が設定されるようにすることを方針としている。

VI. 運用の経過

財務実績

2023年12月31日に終了した会計年度における本トラスト・グループの収益及び監査済連結純利益は、それぞれ、11,406百万香港ドル（2022年度：10,793百万香港ドル）及び3,156百万香港ドル（2022年度：2,954百万香港ドル）であった。

分配

本トラスティ・マネジャー取締役会は、本トラストによる本株式ステーブル受益証券1口当たり16.09香港セント（2022年度：16.09香港セント）の期末分配金の支払いを宣言した。本トラストが当該分配金を支払うことを可能にするため、HKエレクトリック・インベストメンツ社取締役会は、上記期間について、本トラスティ・マネジャーが保有するHKエレクトリック・インベストメンツ社の普通株式に係る期末配当金に代えて、普通株式1株当たり16.09香港セント（2022年度：16.09香港セント）の第2中間配当金の支払いを宣言した。これにより、本株式ステーブル受益証券1口当たり15.94香港セント（2022年度：15.94香港セント）の中間分配金と合わせて、2023年12月31日に終了した会計年度における分配金総額は1口当たり32.03香港セント（2022年度：32.03香港セント）になった。

	2023度 (百万香港ドル)	2022年度 (百万香港ドル)
本株式ステーブル受益証券保有者に帰属する監査済連結純利益	3,156	2,954
(i) 本調整の影響を消去（下記注記（a）参照）	5,206	4,854
(ii) 加算（減算）		
- 燃料費調整勘定の変動	1,945	(1,640)
- 運転資本の増減	(803)	(41)
- 従業員退職給付制度に係る調整	(18)	10
- 税金支払額	(169)	(544)
	955	(2,215)
(iii) 資本的支出	(4,087)	(5,844)
(iv) 減算		
- 債務返済	(1,277)	—
- 正味金融費用	(1,527)	(1,078)
	(2,804)	(1,078)
分配可能利益	2,426	(1,329)
(v) 本信託証書第14.1条(c)項に基づきHKエレクトリック・インベストメンツ社取締役会が決定した任意の金額の加算	404	4,159
任意項目調整後の分配可能利益	2,830	2,830
中間分配額	1,408	1,408
期末分配額	1,422	1,422
分配総額	2,830	2,830
本株式ステーブル受益証券1口当たり分配金（下記注記（c）参照）		
- 本株式ステーブル受益証券1口当たり中間分配金	15.94香港セント	15.94香港セント
- 本株式ステーブル受益証券1口当たり期末分配金	16.09香港セント	16.09香港セント
本株式ステーブル受益証券1口当たり分配金総額	32.03香港セント	32.03香港セント

分配金額の算定にあたって、HKエレクトリック・インベストメンツ社取締役会は、当会計年度中に達成された本グループの財務実績とその営業活動から生じた安定したキャッシュフローを勘案し、本信託証書に基づき計算された2023年12月31日に終了した会計年度における分配可能利益を、本信託証書第14.1条(c)項に従い、上記の任意の金額により調整することが適切であると判断している。

注記

- (a) 本信託証券第1.1条に基づき、「本調整」には、(i) 本電力供給契約に基づく電気料金安定化基金及び電気料金減額準備金への／からの振替、(ii) 減損引当金及び減損引当金の戻入を含む未実現再評価損益、(iii) のれんの減損／負ののれんの認識、(iv) 重要な非資金損益、(v) 本株式ステーブル受益証券の公募に係る費用で、連結損益計算書を通じて計上されるが、本株式ステーブル受益証券の発行による収入から支払われるもの、(vi) 減価償却費及び償却費、(vii) 連結損益計算書に表示された税金費用並びに (viii) 連結損益計算書に表示された正味金融収入／費用を含むが、これらに限られない。
- (b) 本トラスティ・マネジャー取締役会は、本信託証券に基づき、以下について確認した。(i) 本トラスティ・マネジャーが算定した、本株式ステーブル受益証券1口につき受領する権利を有する分配金について、本トラスト・グループの監査人がレビューし検証したこと、並びに(ii) 本トラスティ・マネジャーは、あらゆる妥当な調査を実施した上で、本受益証券の名簿上の保有者を対象に上記分配を実施後直ちに、本トラストの負債をその期日の到来時に本信託財産(本信託証券に定義される。)を原資として弁済することができること。
- (c) 本株式ステーブル受益証券1口当たり15.94香港セント(2022年度:15.94香港セント)の中間分配金は、中間分配額1,408百万香港ドル(2022年度:1,408百万香港ドル)と2023年6月30日現在の発行済本株式ステーブル受益証券数8,836,200,000口(2022年6月30日現在:8,836,200,000口)に基づき計算されている。本株式ステーブル受益証券1口当たり16.09香港セント(2022年度:16.09香港セント)の期末分配金は、期末分配額1,422百万香港ドル(2022年度:1,422百万香港ドル)と2023年12月31日現在の発行済本株式ステーブル受益証券数8,836,200,000口(2022年12月31日現在:8,836,200,000口)に基づき計算されている。

資本的支出、流動性及び財源

当会計年度中の資本的支出(資産利用権を除くが、ジョイント・ベンチャーが開発した海上LNGターミナルに係る本トラスト・グループの資本的支出を含む。)は4,447百万香港ドル(2022年度:5,734百万香港ドル)であり、営業活動及び外部借入から生じたキャッシュフローにより調達されている。2023年12月31日現在の外部借入残高合計は、無担保銀行借入金と発行済負債証券から構成される50,206百万香港ドル(2022年:51,212百万香港ドル)であった。加えて、2023年12月31日現在、本トラスト・グループは、未使用のコミットメント型の銀行融資枠6,535百万香港ドル(2022年:3,400百万香港ドル)並びに銀行預金及び現金21百万香港ドル(2022年:325百万香港ドル)を有していた。

資金管理方針、財務活動、資本及び負債の構造

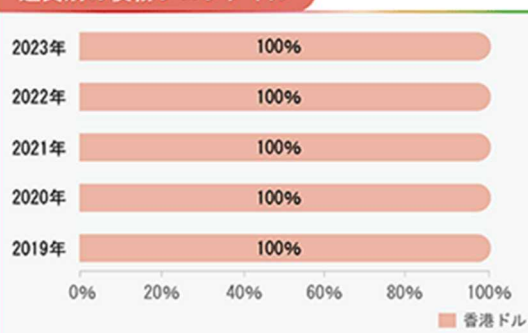
本トラスト・グループの財務リスク管理は、本トラスト・グループの通貨、金利及び取引相手に関するリスクを管理するために設定された資金管理方針において定めるガイドラインに従って行われている。剰余金は主として資本支出準備金及び電気料金の徴収額から生じており、香港ドル建の短期預金として保有されている。本トラスト・グループは、健全な資本構造を維持しつつ、借換えと事業の成長のために利用可能な適切な財源を確保することを目指している。

当会計年度中、本トラスト・グループは、満期を迎える銀行借入の借換え、資本的支出及び一般的な企業目的向けの資金のために、2,000百万香港ドルの5年間のリボルビング・クレジット・ファシリティ契約を締結した。

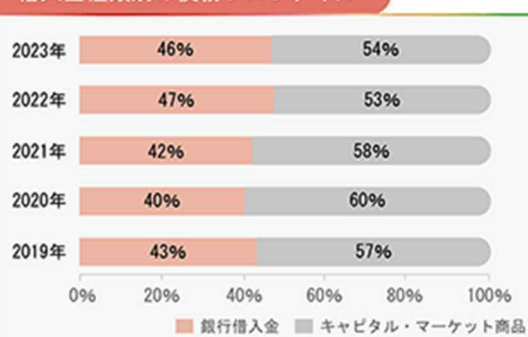
2023年12月31日現在の本トラスト・グループの純負債は50,185百万香港ドル(2022年:50,887百万香港ドル)であり、純負債純総資本比率は51%(2022年:51%)である。当会計年度中の本トラスト・グループの財務特性は堅調な状態を維持している。スタンダード・アンド・プアーズは、2023年3月26日付でHKエレクトリック・インベストメンツ社の長期信用格付けをともに「A-」(「安定的」見通し)に維持しており、これらの格付けは、2015年9月以来変更されておらず、またHEC社の「A-」(安定的見通し)の長期信用格付けを維持しており、2014年1月以来変更されていない。

2023年12月31日現在の本トラスト・グループの先物外国為替予約並びにクロス・カレンシー・スワップ及び金利スワップの効果考慮後の外部借入金の構成は、以下の通りであった。

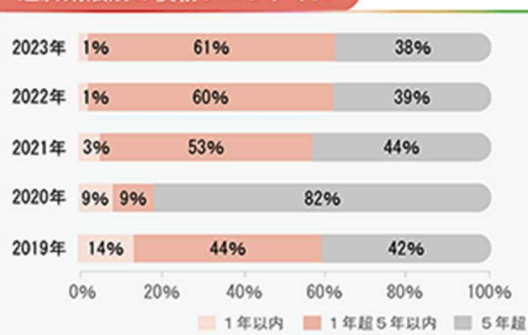
通貨別の債務プロフィール



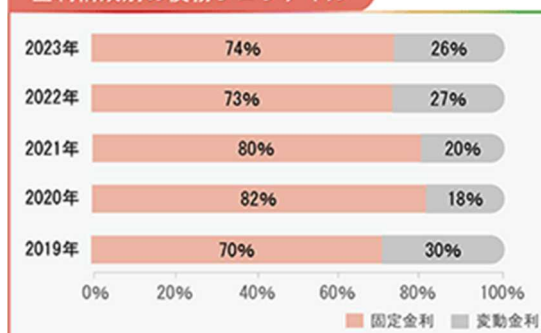
借入金種類の債務プロフィール



返済期限別の債務プロフィール



金利構成別の債務プロフィール



本トラスト・グループは、事業上及び営業上のニーズを考慮して、負債の一部を固定金利で保有する方針を採っている。金利リスクは、固定金利による借入金の確保、又は金利デリバティブの利用のいずれかの方法により管理されている。

為替リスク及び金利リスクは、本トラスト・グループの資金管理方針に従って積極的に管理されている。デリバティブは、主に金利リスク及び為替リスクを管理するために使用し、投機目的では使用していない。資金管理を目的とした取引は、取引相手に関するリスク・エクスポージャーを統制するため、許容可能な信用格付けを有する取引相手との間でのみ行われる。

本トラスト・グループの主要な為替取引エクスポージャーは、燃料及び資本設備の輸入から生じている。為替取引エクスポージャーは、主に先物外国為替予約を通じて管理されている。2023年12月31日現在、本トラスト・グループの燃料及び資本設備の輸入から生じる取引エクスポージャーの90%超は、米ドル建てで保有されているか、香港ドル又は米ドルにヘッジされている。本トラスト・グループはまた、外貨建て借入金から生じる為替変動のエクスポージャーを有している。かかるエクスポージャーは、必要に応じて、先物外国為替予約又はクロス・カレンシー・スワップのいずれかの手段を利用して軽減されている。

2023年12月31日現在のデリバティブの契約上の想定元本残高は46,116百万香港ドル（2022年：44,900百万香港ドル）である。

資産に係る担保権

2023年12月31日現在、本トラスト・グループのいかなる資産に対しても、本トラスト・グループの借入金及び銀行融資枠に係る担保権は設定されていない（2022年：なし）。

偶発債務

2023年12月31日現在、本トラスト・グループは、外部の当事者に対する保証又は補償の義務を負っていない（2022年：なし）。

従業員

本トラスト・グループは、成果主義の給与方針を採用しており、競争力維持のために給与水準を監視している。2023年12月31日に終了した会計年度における本トラスト・グループの報酬費用合計（取締役の報酬を除く。）は1,206百万香港ドル（2022年度：1,202百万香港ドル）であった。2023年12月31日現在、本トラスト・グループの常勤従業員数は1,657人（2022年：1,690人）であった。現在のところ、株式オプション制度は一切実施されていない。

Ⅶ. 運用状況

1. 投資状況

(2023年12月31日現在)

資産の種類	地域	保有総額 (百万香港ドル)	投資比率 (%)
株式	香港 (注1)	— (注2)	— (注2)
現金及びその他の資産	—	—	—
純資産総額		48,978 (注3)	100

(注1) 本普通株式は香港証券取引所に上場されているが、交換権が行使されるまでは、本普通株式は本株式ステーブル受益証券の形態でのみ取引される。

(注2) 本トラストは単一の投資信託（固定型）であり、本トラストは、HKエレクトリック・インベストメンツ社の（i）本普通株式並びに（ii）その他の有価証券及び持分のみに投資している。これは、本トラストが保有する本普通株式の実質的持分が、本受益証券の名簿上の保有者に付与されていることを意味する。但し、本株式ステーブル受益証券が香港証券取引所に上場されている限り、本株式ステーブル受益証券の一部を成し、上場されている本普通株式の相場は個別に公表されないため、本普通株式の2023年12月31日現在の保有総額（時価）を算定することはできない。

なお、香港証券取引所における2023年12月31日現在での本株式ステーブル受益証券8,836,200,000口の総額（時価）が本トラスティ・マネジャーの同日現在保有に係るHKエレクトリック・インベストメンツ社の全発行済本普通株式8,836,200,000株の総額（時価）に等しいと仮定して算出した場合、本普通株式の2023年12月31日現在での保有総額（時価）は41,619百万香港ドルである。

(注3) 当該純資産総額は、2023年12月31日現在における本トラスト、HKエレクトリック・インベストメンツ社及びその子会社の監査済連結財務諸表の原文に基づくものである。

2. 運用実績

①純資産の推移

最近10会計年度における本トラストの純資産総額及び1口当たりの純資産価額の推移は以下の通りである。

	純資産総額 (注1)				1口当たりの純資産価額			
	百万 香港ドル (分配付) (注2)	百万円 (分配付)	百万 香港ドル (分配落) (注3)	百万円 (分配落)	香港ドル (分配付) (注2)	円 (分配付)	香港ドル (分配落) (注3)	円 (分配落)
第1会計年度末 (2014年12月31日現在)	49,191	951,354	47,434	917,374	5.57	108	5.37	104
第2会計年度末 (2015年12月31日現在)	49,012	947,892	47,234	913,506	5.55	107	5.35	103
第3会計年度末 (2016年12月31日現在)	49,905	965,163	48,127	930,776	5.65	109	5.45	105
第4会計年度末 (2017年12月31日現在)	49,722	961,623	47,944	927,237	5.63	109	5.43	105
第5会計年度末 (2018年12月31日現在)	48,743	942,690	46,965	908,303	5.52	107	5.32	103
第6会計年度末 (2019年12月31日現在)	48,472	937,448	47,050	909,947	5.49	106	5.32	103
第7会計年度末 (2020年12月31日現在)	47,743	923,350	46,321	895,848	5.40	104	5.24	101
第8会計年度末 (2021年12月31日現在)	48,393	935,921	46,971	908,419	5.48	106	5.32	103
第9会計年度末 (2022年12月31日現在)	49,333	954,100	47,911	926,599	5.58	108	5.42	105
第10会計年度末 (2023年12月31日現在)	48,978	947,235	47,556	919,733	5.54	107	5.38	104

(注1) 記載金額は、各日付現在における本トラスト、HKエレクトリック・インベストメンツ社及びその子会社の純資産総額である。

(注2) 本欄の各会計年度末日現在の金額は、当該会計年度の期末分配付の金額を示す。

(注3) 本欄の各会計年度末日現在の金額は、当該会計年度の期末分配落の金額を示す。

2023年12月末日現在、同日前1年以内の各月末における本トラストの純資産総額及び1口当たりの純資産価額の推移は以下の通りである。

	純資産総額（注1）				1口当たりの純資産価額			
	百万 香港ドル (分配付)	百万円 (分配付)	百万 香港ドル (分配落)	百万円 (分配落)	香港ドル (分配付)	円 (分配付)	香港ドル (分配落)	円 (分配落)
2023年1月末	49,400	955,396	-	-	5.59	108	-	-
2023年2月末	49,679	960,792	-	-	5.62	109	-	-
2023年3月末	48,237	932,904	-	-	5.46	106	-	-
2023年4月末	48,270	933,542	-	-	5.46	106	-	-
2023年5月末	48,544	938,841	-	-	5.49	106	-	-
2023年6月末	48,851 (注2)	944,778	47,443 (注3)	917,548	5.53 (注2)	107	5.37 (注3)	104
2023年7月末	49,188	951,296	-	-	5.57	108	-	-
2023年8月末	48,055	929,384	-	-	5.44	105	-	-
2023年9月末	48,616	940,233	-	-	5.50	106	-	-
2023年10月末	48,693	941,723	-	-	5.51	107	-	-
2023年11月末	48,763	943,076	-	-	5.52	107	-	-
2023年12月末	48,978 (注4)	947,235	47,556 (注5)	919,733	5.54 (注4)	107	5.38 (注5)	104

(注1) 記載金額は、各日付現在における本トラスト、HKエレクトリック・インベストメンツ社及びその子会社の純資産総額である。

(注2) 当該会計年度の中間分配付の金額を示す。

(注3) 当該会計年度の中間分配落の金額を示す。

(注4) 当該会計年度の期末分配付の金額を示す。

(注5) 当該会計年度の期末分配落の金額を示す。

本株式ステーブル受益証券は、香港証券取引所に上場している。同取引所における最近の市場相場は以下の通りである。

	終値	
	香港ドル	円
2023年5月末	4.71	91
2023年6月末	4.69	91
2023年7月末	4.85	94
2023年8月末	4.55	88
2023年9月末	4.49	87
2023年10月末	4.34	84
2023年11月末	4.49	87
2023年12月末	4.71	91
2024年1月末	4.85	94
2024年2月末	4.80	93
2024年3月末	4.89	95
2024年4月末	4.69	91

②分配の推移

直近10会計年度における本株式ステーブル受益証券1口当たり分配金は以下の通りである。

期間	分配金総額 (百万香港ドル)	1口当たり分配金 (香港セント)	1口当たり分配金 (円)
第1会計年度 (自2014年1月1日至2014年12月31日)	3,218 (注1)	36.42 (注1)	7
第2会計年度 (自2015年1月1日至2015年12月31日)	3,538	40.04	8
第3会計年度 (自2016年1月1日至2016年12月31日)	3,538	40.04	8
第4会計年度 (自2017年1月1日至2017年12月31日)	3,538	40.04	8
第5会計年度 (自2018年1月1日至2018年12月31日)	3,538	40.04	8
第6会計年度 (自2019年1月1日至2019年12月31日)	2,830	32.03	6
第7会計年度 (自2020年1月1日至2020年12月31日)	2,830	32.03	6
第8会計年度 (自2021年1月1日至2021年12月31日)	2,830	32.03	6
第9会計年度 (自2022年1月1日至2022年12月31日)	2,830	32.03	6
第10会計年度 (自2023年1月1日至2023年12月31日)	2,830	32.03	6

(注1) 当該分配金額は、上場日(2014年1月29日)から2014年12月31日までの期間に関するものである。本株式ステーブル受益証券保有者は、本株式ステーブル受益証券の上場日前のいかなる期間についても分配金を受けていない。

③収益率の推移

直近10会計年度における収益率は以下の通りである。

期間	収益率 (%) (注1)
第1会計年度 (自2014年1月1日至2014年12月31日)	5.14
第2会計年度 (自2015年1月1日至2015年12月31日)	7.08
第3会計年度 (自2016年1月1日至2016年12月31日)	9.35
第4会計年度 (自2017年1月1日至2017年12月31日)	6.97
第5会計年度 (自2018年1月1日至2018年12月31日)	5.34
第6会計年度 (自2019年1月1日至2019年12月31日)	6.21
第7会計年度 (自2020年1月1日至2020年12月31日)	4.47
第8会計年度 (自2021年1月1日至2021年12月31日)	7.51
第9会計年度 (自2022年1月1日至2022年12月31日)	8.03
第10会計年度 (自2023年1月1日至2023年12月31日)	5.17

(注1) 第1会計年度の収益率は、以下に基づき算出された。

$$\text{収益率 (\%)} = (A - B) \div B \times 100$$

A = 期末の1口当たり純資産価額 (中間及び期末分配の分配金の金額)

B = 上場日の1口当たり純資産価額

本トラストの第1会計年度は2014年1月1日に開始したが、実際に運用が開始されたのは上場日である2014年1月29日である。したがって、第1会計年度に係る収益率は、上場日の純資産価額を使用して算出されている。

第2会計年度以降の収益率は、以下に基づき算出された。

$$\text{収益率 (\%)} = (A - B) \div B \times 100$$

A = 期末の1口当たり純資産価額 (当該会計年度の中間及び期末分配の分配金の金額)

B = 期首の1口当たり純資産価額 (前会計年度の中間及び期末分配の分配金の金額)

3. 販売及び買戻しの実績

直近10会計年度における販売／発行口数及び買戻口数は、以下の通りである。

	期間中の 販売／発行口数		買戻口数
	本邦内		
第1会計年度 (自2014年1月1日至2014年12月31日)	8,836,199,999	278,250,000	該当なし
第2会計年度 (自2015年1月1日至2015年12月31日)	-	-	該当なし
第3会計年度 (自2016年1月1日至2016年12月31日)	-	-	該当なし
第4会計年度 (自2017年1月1日至2017年12月31日)	-	-	該当なし
第5会計年度 (自2018年1月1日至2018年12月31日)	-	-	該当なし
第6会計年度 (自2019年1月1日至2019年12月31日)	-	-	該当なし
第7会計年度 (自2020年1月1日至2020年12月31日)	-	-	該当なし
第8会計年度 (自2021年1月1日至2021年12月31日)	-	-	該当なし
第9会計年度 (自2022年1月1日至2022年12月31日)	-	-	該当なし
第10会計年度 (自2023年1月1日至2023年12月31日)	-	-	該当なし

Ⅷ. 本トラストの経理状況

1. 独立監査人の監査報告書

(訳文)

独立監査人の監査報告書

HKエレクトリック・インベストメンツ及びHKエレクトリック・インベストメンツ・リミテッドの本株式
ステーブル受益証券保有者各位

(HKエレクトリック・インベストメンツは香港の法令に基づいて設定されたトラストである。HKエレクトリック・
インベストメンツ・リミテッドはケイマン諸島において有限責任形態で設立された。)

監査意見

当監査法人は、HKエレクトリック・インベストメンツ（以下「本トラスト」という。）、HKエレクトリック・イン
ベストメンツ・リミテッド（以下「HKエレクトリック・インベストメンツ社」という。）及びその子会社（以下
「本トラスト・グループ」と総称する。）、並びにHKエレクトリック・インベストメンツ社とその子会社（以下
「本グループ」と総称する。）の92ページから170ページ（訳者注：原文のページ）に掲載されている連結財務諸表
（以下「本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の連結財務諸表」と総称する。）の監査を行った。
本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の連結財務諸表注記2に記載の通り、本トラスト及びHKエ
レクトリック・インベストメンツ社の連結財務諸表は、本トラスト・グループ及び本グループの2023年12月31日現
在の連結財政状態計算書、同日をもって終了した事業年度の連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結持分変動
計算書及び連結キャッシュ・フロー計算書、並びに重要性がある会計方針に関する情報及びその他の説明的情報を含
む注記から構成される。

当監査法人は、本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の連結財務諸表が、香港公認会計士協会
が公表した香港財務報告基準等及び香港会社条例の開示規則に準拠して、本トラスト・グループ及び本グループの
2023年12月31日現在の連結財政状態並びに同日をもって終了した事業年度の連結経営成績及び連結キャッシュ・フ
ローの状況を、真実かつ適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、香港公認会計士協会が公表した香港監査基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監
査法人の責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、香港公認会計士
協会の職業会計士倫理規範並びに本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の連結財務諸表の監査に
関連するケイマン諸島における倫理規定に従って、本トラスト・グループ及び本グループから独立しており、また、
監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査
証拠を入手したと判断している。

監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当事業年度の本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の連結財務

諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の連結財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

有形固定資産の実在性及び正確性

本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の連結財務諸表注記16並びに3. 重要性がある会計方針 (f), (g) 及び (h) (ii) を参照。

監査上の主要な検討事項

HKエレクトリック・インベストメンツ社の完全子会社であるザ・ホンコン・エレクトリック・カンパニー・リミテッド（以下「HEC社」という。）は、香港における電力の発電、送電及び配電（以下「香港電力事業」という。）を行っており、有形固定資産への多額の設備投資が必要となる。

HEC社と香港特別行政区政府が締結した本電力供給契約は、HEC社が固定資産平均残高の8%の認可報酬を得られるものと規定している。本電力供給契約期間に渡るHEC社の香港電力事業に係る資本的支出は、本電力供給契約に基づく開発計画によって決定される。

HEC社の有形固定資産は、その特性から、特定の設備について自家建設されている。自家建設される有形固定資産の取得原価には、主に材料費、直接労務費、資産計上される間接費及び借入コストが含まれる。取締役は、有形固定資産に係る原価の資産計上についての内部統制を整備している。

有形固定資産は本トラスト・グループ及び本グループの最も重要な資産であり、香港電力事業の運営に不可欠であること、また、本電力供給契約の契約条件から、経営陣並びに本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の連結財務諸表利用者にとって重要な項目であることから、有形固定資産の実在性及び正確性の検証を監査上の主要な検討事項として識別した。

監査上の対応

有形固定資産の実在性及び正確性を検証するために実施した監査手続には以下が含まれる。

- 有形固定資産の実在性及び正確性に関する主要な内部統制を理解し、その整備及び運用状況の有効性を評価した。
- 現行の会計基準の要請事項に基づき、本トラスト・グループ及び本グループの有形固定資産関連支出に係る資産計上方針を検証した。
- 2023年12月31日に終了した事業年度において取得・資産計上した有形固定資産からサンプルを抽出し、関連する証憑を確認することで、抽出したサンプルが会計基準の資産計上要件を満たしており、原価の資産化日付が適切であることを検証した。
- 2023年12月31日に終了した事業年度における有形固定資産の増加について、HEC社の一定期間における設備投資水準を定めた、同社と香港特別行政区政府間で合意した開発計画との整合性を検証した。
- 前年度の有形固定資産の資産計上率と当年度に実施された設備工事水準に基づいて、当年度における資産計上額の推定値を算出し、実際の当年度の資産計上額と比較するとともに、重要な差異の性質及び要因について経営陣と協議した。
- 当期に取得した有形固定資産の一部について実査を行った。

香港電力事業に関するのれんの潜在的な減損の評価

本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の連結財務諸表注記17並びに3. 重要性がある会計方針(e)及び(h)(ii)を参照。

監査上の主要な検討事項

HKエレクトリック・インベストメンツ社は、HEC社が運営する香港電力事業を、2014年にパワー・アセット・ホールディングス・リミテッドから取得した。この取得から生じたのれんの金額は336億香港ドルである。

経営陣は、2023年11月30日時点において、のれんが配分された資金生成単位の帳簿価額を、割引後将来キャッシュ・フローに基づいて算出した使用価値として決定した回収可能価額と比較することで、のれんの潜在的な減損を検討した。割引後将来キャッシュ・フローの算出は、特に収益の成長と営業利益の予測及び適切な割引率の決定について、重要な経営陣による判断を伴うものである。

当監査法人は、のれんの帳簿価額が本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の連結財務諸表にとって重要であること、また、香港電力事業から生じると見込まれる将来キャッシュ・フロー価値の経営陣による評価は、本質的に不確実で主観的となる可能性のある仮定についての重要な判断を伴うものであることから、香港電力事業に関するのれんの潜在的な減損の評価を監査上の主要な検討事項として識別した。

監査上の対応

香港電力事業に関するのれんの潜在的な減損を評価するために実施した監査手続には以下が含まれる。

- ・経営陣によるキャッシュ・フローの予測について、経営陣が採用した仮定と香港電力事業に関する当監査法人の理解との比較、及び主要な仮定及び見積りと関連証券との比較を行った。これには、将来の収益成長と営業利益についてのHEC社・香港特別行政区政府間で合意された開発計画との比較や、割引率の構成要素についての市場データとの比較が含まれる。
- ・経営陣が5年を超える期間に渡るキャッシュ・フロー予測を採用することの合理性について、現行の会計基準のガイダンスに照らして評価した。
- ・当監査法人内部の評価の専門家を関与させ、経営陣が採用した割引後キャッシュ・フロー予測方法を現行の会計基準の要件に照らして評価し、割引後将来キャッシュ・フロー予測に採用された割引率と同業他社が適用する割引率を比較し、評価した。
- ・経営陣がキャッシュ・フロー予測に採用した割引率、長期成長率及び収益の仮定について感応度分析を実施し、これらの主要な仮定の変更が、経営陣による減損評価によって得られた結論に与える影響を検討した。また、採用された仮定について、経営者による偏向の兆候の有無を検討した。
- ・経営陣の過年度の将来予想プロセスの正確性を評価するため、当年度の実績と前年度の経営陣の予測を比較した。

連結財務諸表及びその監査報告書以外のその他の記載内容

HKエレクトリック・インベストメンツ・マネジャー・リミテッド（以下、本トラスのトラスティ・マネジャーとしての地位において「本トラスティ・マネジャー」という。）の取締役及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の取締役は、その他の記載内容に対して責任を負っている。その他の記載内容は、年次報告書に含まれる情報のうち、本トラス及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の連結財務諸表並びにその監査報告書以外の情報である。

当監査法人の本トラス及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の連結財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

本トラス及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の連結財務諸表の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と本トラス及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の連結財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

連結財務諸表に対する取締役の責任

本トラスティ・マネジャーの取締役及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の取締役の責任は、香港公認会計士協会が公表した香港財務報告基準等及び香港会社条例の開示規則に準拠して本トラス及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の連結財務諸表を作成し真実かつ適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために取締役が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

本トラス及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の連結財務諸表を作成するに当たり、取締役は、継続企業に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかを評価し、継続企業に関連する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。取締役は、本トラス・グループ及び本グループを清算若しくは事業停止する意図があるか、又はそれ例外に現実的な代替案がない場合を除いて、継続企業を前提として連結財務諸表を作成する責任がある。

取締役は、本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の財務報告プロセスを監視する責任を果たすに当たり、本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の監査委員会による支援を受けている。

連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。本報告書は、宛名人全体に対してのみ作成されており、これを唯一の目的とする。当監査法人は、本報告書の内容についてこれ以外の者に対する責任又は義務を負わない。

合理的な保証は高い水準の保証であるが、香港監査基準に準拠して実施した監査がすべての重要な虚偽表示を常に発見することを保証するものではない。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、香港監査基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の連結財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。不正による重要な虚偽表示を発見できないリスクは、誤謬による重要な虚偽表示を発見できないリスクよりも高くなる。これは不正には、共謀、文書の偽造、取引等の簿外処理、虚偽の説明又は内部統制の無効化を伴うためである。
- ・連結財務諸表監査の目的は、本トラスト・グループ及び本グループの内部統制の有効性に対する意見を表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・取締役が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに取締役によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・取締役が継続企業を前提として本トラスト・グループ及び本グループの連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、本トラスト・グループ及び本グループは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・関連する注記事項を含めた本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の連結財務諸表に対する意見を表明するために、本トラスト・グループ及び本グループ内の企業の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の監査委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の監査委員会に対して、独立性についての職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

監査人は、本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の監査委員会と協議した事項のうち、当事業年度の本トラスティ及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の連結財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

本独立監査人の監査報告書に関する監査の業務執行責任者はLee Wai Shun, Wilsonである。

KPMG

公認会計士

香港 セントラル

チャーター ロード 10番地

プリンスズ ビルディング 8階

2024年3月19日



Independent Auditor's Report

To the Holders of Share Stapled Units of HK Electric Investments and HK Electric Investments Limited

(HK Electric Investments is a trust constituted under the laws of Hong Kong; HK Electric Investments Limited is incorporated in the Cayman Islands with limited liability)

Opinion

We have audited the consolidated financial statements of HK Electric Investments (the "Trust"), HK Electric Investments Limited (the "Company") and its subsidiaries (together the "Trust Group") and of the Company and its subsidiaries (the "Group") set out on pages 92 to 170 (together referred to as the "consolidated financial statements of the Trust and of the Company"). As explained in note 2 to the consolidated financial statements of the Trust and of the Company, the consolidated financial statements of the Trust and of the Company together comprise the consolidated statement of financial position of the Trust Group and of the Group as at 31 December 2023, the consolidated statement of profit or loss, the consolidated statement of comprehensive income, the consolidated statement of changes in equity and the consolidated cash flow statement of the Trust Group and of the Group for the year then ended and notes, comprising material accounting policy information and other explanatory information.

In our opinion, the consolidated financial statements of the Trust and of the Company give a true and fair view of the consolidated financial position of the Trust Group and of the Group as at 31 December 2023 and of the Trust Group's and the Group's consolidated financial performance and consolidated cash flows for the year then ended in accordance with Hong Kong Financial Reporting Standards ("HKFRSs") issued by the Hong Kong Institute of Certified Public Accountants ("HKICPA") and have been properly prepared in compliance with the disclosure requirements of the Hong Kong Companies Ordinance.

Basis for opinion

We conducted our audit in accordance with Hong Kong Standards on Auditing ("HKSAs") issued by the HKICPA. Our responsibilities under those standards are further described in the *Auditor's responsibilities for the audit of the consolidated financial statements* section of our report. We are independent of the Trust Group and of the Group in accordance with the HKICPA's *Code of Ethics for Professional Accountants* ("the Code") together with any ethical requirements that are relevant to our audit of the consolidated financial statements of the Trust and of the Company in the Cayman Islands, and we have fulfilled our other ethical responsibilities in accordance with these requirements and the Code. We believe that the audit evidence we have obtained is sufficient and appropriate to provide a basis for our opinion.

Key audit matters

Key audit matters are those matters that, in our professional judgement, were of most significance in our audit of the consolidated financial statements of the Trust and of the Company of the current period. These matters were addressed in the context of our audit of the consolidated financial statements of the Trust and of the Company as a whole, and in forming our opinion thereon, and we do not provide a separate opinion on these matters.

Existence and accuracy of property, plant and equipment

Refer to note 16 to the consolidated financial statements of the Trust and of the Company and the accounting policies 3(f), (g) and (h)(ii).

The key audit matter

A wholly owned subsidiary of the Company, The Hongkong Electric Company, Limited (“HK Electric”), is engaged in the generation, transmission and distribution of electricity in Hong Kong (the “Hong Kong electricity business”), which requires substantial capital investment in property, plant and equipment.

The Scheme of Control Agreement entered into by HK Electric and the Government of the HKSAR provides for HK Electric to earn a permitted return calculated based on 8% of average net fixed assets. The Development Plan under the Scheme of Control Agreement governs HK Electric’s capital expenditure on the Hong Kong electricity business over the Scheme of Control Agreement period.

HK Electric’s property, plant and equipment is specialised in nature and certain items are self-constructed. The cost of self-constructed property, plant and equipment comprises, inter alia, the costs of materials and direct labour, overheads capitalised and borrowing costs. The Directors have implemented internal controls over the capitalisation of costs in property, plant and equipment.

We identified assessing the existence and accuracy of property, plant and equipment as a key audit matter because property, plant and equipment is the most significant asset of the Trust Group and the Group and is critical to the operations of Hong Kong electricity business and because, due to the terms and conditions of the Scheme of Control Agreement, property, plant and equipment is a key focus of management and the users of the consolidated financial statements of the Trust and of the Company.

How the matter was addressed in our audit

Our audit procedures to assess the existence and accuracy of property, plant and equipment included the following:

- obtaining an understanding of and assessing the design, implementation and operating effectiveness of key internal controls over the existence and accuracy of property, plant and equipment;
 - assessing the Trust Group’s and the Group’s capitalisation policy for expenditure relating to property, plant and equipment with reference to the requirements of the prevailing accounting standards;
 - selecting a sample items of property, plant and equipment acquired and capitalised during the year ended 31 December 2023 and inspecting relevant underlying documentation to assess whether these items met the criteria for capitalisation with reference to the requirements of the prevailing accounting standards and to evaluate the date on which costs were capitalised;
 - assessing whether the additions to property, plant and equipment for the year ended 31 December 2023 were consistent with the Development Plan agreed between HK Electric and the Government of the HKSAR which governs the level of capital expenditure over a period of time;
 - forming an expectation of the value of costs capitalised for the current year based on the prior year’s capitalisation ratio and the level of capital work undertaken during the current year, comparing our expectation with the actual costs capitalised for the current year and discussing with management the nature of and reasons for any significant variances; and
 - physically inspecting a sample of additions to property, plant and equipment during the current year.
-

Assessment of potential impairment of goodwill relating to the Hong Kong electricity business

Refer to note 17 to the consolidated financial statements of the Trust and of the Company and the accounting policies 3(e) and (h)(ii).

The key audit matter

The Company acquired the Hong Kong electricity business operated by HK Electric from Power Assets Holdings Limited in 2014. The goodwill arising on this acquisition amounted to HK\$33.6 billion.

Management assessed goodwill for potential impairment as at 30 November 2023 by comparing the carrying amount of the cash-generating unit to which goodwill has been allocated with the recoverable amount determined by assessing the value-in-use ("VIU") by preparing a discounted cash flow forecast. Preparing a discounted cash flow forecast involves the exercise of significant management judgement, in particular in forecasting revenue growth and operating profit and in determining an appropriate discount rate.

We identified the assessment of potential impairment of goodwill relating to the Hong Kong electricity business as a key audit matter because the carrying value of the goodwill is material to the consolidated financial statements of the Trust and of the Company and also because management's assessment of the value of the future cash flows expected to be derived from the Hong Kong electricity business involves certain critical judgements in respect of the assumptions made which are inherently uncertain and could be subject to management bias.

How the matter was addressed in our audit

Our audit procedures to assess potential impairment of goodwill relating to the Hong Kong electricity business included the following:

- evaluating management's cash flow forecast by comparing the assumptions adopted by management with our understanding of the Hong Kong electricity business and by comparing key assumptions and estimates with relevant underlying documentation, which included comparing future revenue growth and operating profit with the Development Plan agreed between HK Electric with the Government of the HKSAR and comparing components of the discount rate with market data;
 - evaluating management's rationale for adopting cash flow projections over a period greater than five years with reference to the guidance in the prevailing accounting standards;
 - involving our internal valuation specialists to assist us in assessing the methodology applied by management in its discounted cash flow forecasts with reference to the requirements of the prevailing accounting standards and whether the discount rates adopted in the discounted cash flow forecasts were comparable with those of companies in the same industry;
 - performing sensitivity analyses on the discount rate and terminal growth rate applied and the assumptions for revenue adopted by management in the cash flow forecast to assess the impact of changes in these key assumption on the conclusion reached in management's impairment assessment and considering whether there were any indicators of management bias in the assumption adopted; and
 - comparing the actual results for the current year with management's forecasts for the previous year in order to assess the historical accuracy of the management's forecasting process.
-

Information other than the consolidated financial statements and auditor's report thereon

The Directors of HK Electric Investments Manager Limited (the "Trustee-Manager", in its capacity as the trustee-manager of the Trust) and the Directors of the Company are responsible for the other information. The other information comprises all the information included in the annual report, other than the consolidated financial statements of the Trust and of the Company and our auditor's report thereon.

Our opinion on the consolidated financial statements of the Trust and of the Company does not cover the other information and we do not express any form of assurance conclusion thereon.

In connection with our audit of the consolidated financial statements of the Trust and of the Company, our responsibility is to read the other information and, in doing so, consider whether the other information is materially inconsistent with the consolidated financial statements of the Trust and of the Company or our knowledge obtained in the audit or otherwise appears to be materially misstated.

If, based on the work we have performed, we conclude that there is a material misstatement of this other information, we are required to report that fact. We have nothing to report in this regard.

Responsibilities of the Directors for the consolidated financial statements

The Directors of the Trustee-Manager and the Directors of the Company are responsible for the preparation of the consolidated financial statements of the Trust and of the Company that give a true and fair view in accordance with HKFRSs issued by the HKICPA and the disclosure requirements of the Hong Kong Companies Ordinance and for such internal control as the Directors determine is necessary to enable the preparation of consolidated financial statements of the Trust and of the Company that are free from material misstatement, whether due to fraud or error.

In preparing the consolidated financial statements of the Trust and of the Company, the Directors are responsible for assessing the Trust Group's and the Group's ability to continue as a going concern, disclosing, as applicable, matters related to going concern and using the going concern basis of accounting unless the Directors either intend to liquidate the Trust Group and the Group or to cease operations or have no realistic alternative but to do so.

The Directors are assisted by the Audit Committees of the Trustee-Manager and of the Company in discharging their responsibilities for overseeing the Trust Group's and the Group's financial reporting process.

Auditor's responsibilities for the audit of the consolidated financial statements

Our objectives are to obtain reasonable assurance about whether the consolidated financial statements of the Trust and of the Company as a whole are free from material misstatement, whether due to fraud or error, and to issue an auditor's report that includes our opinion. This report is made solely to you, as a body, and for no other purpose. We do not assume responsibility towards or accept liability to any other person for the contents of this report.

Reasonable assurance is a high level of assurance, but is not a guarantee that an audit conducted in accordance with HKSA's will always detect a material misstatement when it exists. Misstatements can arise from fraud or error and are considered material if, individually or in the aggregate, they could reasonably be expected to influence the economic decisions of users taken on the basis of these consolidated financial statements.

As part of an audit in accordance with HKSA's, we exercise professional judgement and maintain professional scepticism throughout the audit. We also:

- Identify and assess the risks of material misstatement of the consolidated financial statements of the Trust and of the Company, whether due to fraud or error, design and perform audit procedures responsive to those risks, and obtain audit evidence that is sufficient and appropriate to provide a basis for our opinion. The risk of not detecting a material misstatement resulting from fraud is higher than for one resulting from error, as fraud may involve collusion, forgery, intentional omissions, misrepresentations, or the override of internal control.
- Obtain an understanding of internal control relevant to the audit in order to design audit procedures that are appropriate in the circumstances, but not for the purpose of expressing an opinion on the effectiveness of the Trust Group's and the Group's internal control.
- Evaluate the appropriateness of accounting policies used and the reasonableness of accounting estimates and related disclosures made by the Directors.
- Conclude on the appropriateness of the Directors' use of the going concern basis of accounting and, based on the audit evidence obtained, whether a material uncertainty exists related to events or conditions that may cast significant doubt on the Trust Group's and the Group's ability to continue as a going concern. If we conclude that a material uncertainty exists, we are required to draw attention in our auditor's report to the related disclosures in the consolidated financial statements of the Trust and of the Company or, if such disclosures are inadequate, to modify our opinion. Our conclusions are based on the audit evidence obtained up to the date of our auditor's report. However, future events or conditions may cause the Trust Group and the Group to cease to continue as a going concern.
- Evaluate the overall presentation, structure and content of the consolidated financial statements of the Trust and of the Company, including the disclosures, and whether the consolidated financial statements of the Trust and of the Company represent the underlying transactions and events in a manner that achieves fair presentation.
- Obtain sufficient appropriate audit evidence regarding the financial information of the entities or business activities within the Trust Group and the Group to express an opinion on the consolidated financial statements of the Trust and of the Company. We are responsible for the direction, supervision and performance of the group audit. We remain solely responsible for our audit opinion.

We communicate with the Audit Committees of the Trustee-Manager and of the Company regarding, among other matters, the planned scope and timing of the audit and significant audit findings, including any significant deficiencies in internal control that we identify during our audit.

We also provide the Audit Committees of the Trustee-Manager and of the Company with a statement that we have complied with relevant ethical requirements regarding independence and communicate with them all relationships and other matters that may reasonably be thought to bear on our independence and, where applicable, actions taken to eliminate threats or safeguards applied.

From the matters communicated with the Audit Committees of the Trustee-Manager and of the Company, we determine those matters that were of most significance in the audit of the consolidated financial statements of the Trust and of the Company of the current period and are therefore the key audit matters. We describe these matters in our auditor's report unless law or regulation precludes public disclosure about the matter or when, in extremely rare circumstances, we determine that a matter should not be communicated in our report because the adverse consequences of doing so would reasonably be expected to outweigh the public interest benefits of such communication.

The engagement partner on the audit resulting in this independent auditor's report is Lee Wai Shun, Wilson.

KPMG

Certified Public Accountants
8th Floor, Prince's Building
10 Chater Road
Central, Hong Kong

19 March 2024

2. 本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の連結財務諸表

本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の連結損益計算書

2023年12月31日に終了した事業年度

[単位：香港ドル]

	注記	2023年 百万香港ドル	2022年 百万香港ドル
収益	5	11,406	10,793
直接費		(5,384)	(5,364)
その他の収益及び純収入	7	6,022	5,429
その他の営業費用	8	87	67
営業利益		(1,133)	(987)
金融費用	9	4,976	4,509
税引前純利益	10	(1,360)	(961)
法人所得税	11	3,616	3,548
当期		(909)	(187)
繰延		263	(442)
		(646)	(629)
税引後純利益		2,970	2,919
本電力供給契約に基づく資金移動	13 (b)	186	35
本株式ステーブル受益証券保有者／HKエレクトリック・インベストメンツ社の株主に帰属する当期純利益		3,156	2,954
本株式ステーブル受益証券1口／HKエレクトリック・インベストメンツ社株式1株当たり利益			
基本的及び希薄化後	15	35.72セント	33.43セント

[単位：日本円]

	注記	2023年 百万円	2022年 百万円
収益	5	220,592	208,737
直接費		(104,127)	(103,740)
		116,465	104,997
その他の収益及び純収入	7	1,683	1,296
その他の営業費用	8	(21,912)	(19,089)
営業利益		96,236	87,204
金融費用	9	(26,302)	(18,586)
税引前純利益	10	69,933	68,618
法人所得税	11		
当期		(17,580)	(3,617)
繰延		5,086	(8,548)
		(12,494)	(12,165)
税引後純利益		57,440	56,453
本電力供給契約に基づく資金移動	13 (b)	3,597	677
本株式ステーブル受益証券保有者／HKエレクトリック・インベストメンツ社の株主に帰属する当期純利益		61,037	57,130
本株式ステーブル受益証券1口／HKエレクトリック・インベストメンツ社株式1株当たり利益			
基本的及び希薄化後	15	6.91円	6.47円

97ページから170ページ（訳者注：原文のページ）までの注記は、連結財務諸表の一部である。

注記2に記載の通り、本トラストの連結財務諸表及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の連結財務諸表は、合わせて表示されている。

当期純利益に帰属する本株式ステーブル受益証券保有者への分配金／HKエレクトリック・インベストメンツ社の株主への支払配当金の詳細は、注記14において開示されている。

本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の連結包括利益計算書

2023年12月31日に終了した事業年度

[単位：香港ドル]

	2023年 百万香港ドル	2022年 百万香港ドル
本株式ステーブル受益証券保有者／HKエレクトリック・インベストメンツ社の株主に帰属する当期純利益	3,156	2,954
その他の包括利益（税引後及び再分類調整後）		
純損益に振り替えられることのない項目		
確定給付退職金制度：		
純確定給付資産／債務の再測定	35	39
その他の包括利益に計上された純繰延税額	(6)	(7)
	29	32
キャッシュ・フロー・ヘッジ：		
当会計期間において認識したヘッジ手段の公正価値変動の有効部分	(4)	(4)
ヘッジコスト剰余金-公正価値の変動	5	(2)
その他の包括利益に計上された純繰延税額	-	1
	1	(5)
	30	27
純損益への組替が求められる項目		
キャッシュ・フロー・ヘッジ：		
当会計期間において認識したヘッジ手段の公正価値変動の有効部分	(103)	1,023
純損益への組替額	(269)	23
ヘッジコスト剰余金-公正価値の変動	(395)	(134)
ヘッジコスト剰余金-純損益への振替え	(63)	(63)
その他の包括利益に計上／（控除）された純繰延税額	115	(64)
	(715)	785
本株式ステーブル受益証券保有者／HKエレクトリック・インベストメンツ社の株主に帰属する当期包括利益合計	2,471	3,766

[単位：日本円]

	2023年 百万円	2022年 百万円
本株式会社ステーブル受益証券保有者／HKエレクトリック・インベストメンツ社の株主に帰属する当期純利益	61,037	57,130
その他の包括利益（税引後及び再分類調整後）		
純損益に振り替えられることのない項目		
確定給付退職金制度：		
純確定給付資産／債務の再測定	677	754
その他の包括利益に計上された純繰延税額	(116)	(135)
	561	619
キャッシュ・フロー・ヘッジ：		
当会計期間において認識したヘッジ手段の公正価値変動の有効部分	(77)	(77)
ヘッジコスト剰余金-公正価値の変動	97	(39)
その他の包括利益に計上された純繰延税額	-	19
	19	(97)
	580	522
純損益への組替が求められる項目		
キャッシュ・フロー・ヘッジ：		
当会計期間において認識したヘッジ手段の公正価値変動の有効部分	(1,992)	19,785
純損益への組替額	(5,202)	445
ヘッジコスト剰余金-公正価値の変動	(7,639)	(2,592)
ヘッジコスト剰余金-純損益への振替え	(1,218)	(1,218)
その他の包括利益に計上された純繰延税額	2,224	(1,238)
	(13,828)	15,182
本株式会社ステーブル受益証券保有者／HKエレクトリック・インベストメンツ社の株主に帰属する当期包括利益合計	47,789	72,834

97ページから170ページ（訳者注：原文のページ）の注記は、連結財務諸表の一部である。

注記2に記載の通り、本トラストの連結財務諸表及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の連結財務諸表は、合わせて表示されている。

本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の連結財政状態計算書

2023年12月31日現在

[単位：香港ドル]

	注記	2023年 百万香港ドル	2022年 百万香港ドル
非流動資産			
有形固定資産		74,791	73,732
借地権		5,033	5,228
のれん	16	79,824	78,960
ジョイント・ベンチャーに対する持分	17	33,623	33,623
デリバティブ	19	895	793
従業員退職給付制度資産	26	737	1,450
	27 (a)	968	882
		116,047	115,708
流動資産			
棚卸資産	20	1,003	1,446
売掛金及びその他の債権	21	1,469	1,631
燃料費調整勘定	22	-	1,892
現金及び預金	23 (a)	21	325
		2,493	5,294
流動負債			
買掛金、その他の債務及び契約負債	24	(3,417)	(4,821)
燃料費調整勘定	22	(53)	-
一年以内返済銀行借入金及びその他有利子借入金	25	(715)	(557)
銀行当座借越 - 無担保		(44)	-
未払税金	29 (a)	(889)	(149)
		(5,118)	(5,527)
正味流動負債		(2,625)	(233)
流動負債控除後の資産合計		113,422	115,475
非流動負債			
銀行借入金及びその他有利子借入金	25	(49,447)	(50,655)
デリバティブ	26	(181)	(111)
預り保証金		(2,449)	(2,381)
繰延税金負債	29 (b)	(10,124)	(10,495)
従業員退職給付制度債務	27 (a)	(191)	(158)
その他の非流動負債	28	(1,382)	(1,430)
		(63,774)	(65,230)
本電力供給契約基金及び準備金	13 (c)	(670)	(912)
純資産		48,978	49,333
資本金及び剰余金			
資本金	30 (b)	8	8
剰余金		48,970	49,325
資本合計		48,978	49,333

[単位：日本円]

	注記	2023年 百万円	2022年 百万円
非流動資産			
有形固定資産		1,446,458	1,425,977
借地権		97,338	101,110
のれん	16	1,543,796	1,527,086
ジョイント・ベンチャーに対する持分	17	650,269	650,269
デリバティブ	19	17,309	15,337
従業員退職給付制度資産	26	14,254	28,043
	27 (a)	18,721	17,058
		2,244,349	2,237,793
流動資産			
棚卸資産	20	19,398	27,966
売掛金及びその他の債権	21	28,410	31,544
燃料費調整勘定	22	-	36,591
現金及び預金	23 (a)	406	6,286
		48,215	102,386
流動負債			
買掛金、その他の債務及び契約負債	24	(366,085)	(93,238)
燃料費調整勘定	22	(1,025)	-
一年以内返済銀行借入金及びその他有利子借入金	25	(13,828)	(10,772)
銀行当座借越 - 無担保		(851)	-
未払税金	29 (a)	(17,193)	(2,882)
		(98,982)	(106,892)
正味流動負債		(50,768)	(4,506)
流動負債控除後の資産合計		2,193,581	2,233,287
非流動負債			
銀行借入金及びその他有利子借入金	25	(956,305)	(979,668)
デリバティブ	26	(3,501)	(2,147)
預り保証金		(47,364)	(46,049)
繰延税金負債	29 (b)	(195,798)	(202,973)
従業員退職給付制度債務	27 (a)	(3,694)	(3,056)
その他の非流動負債	28	(26,728)	(27,656)
		(1,233,389)	(1,261,548)
本電力供給契約基金及び準備金	13 (c)	(12,958)	(17,638)
純資産		947,235	954,100
資本金及び剰余金			
資本金	30 (b)	155	155
剰余金		947,080	953,946
資本合計		947,235	954,100

2024年3月19日付の取締役会にて承認された。

チェン・チョー・イン, フランシス
取締役

チャン・ロイ・シュン
取締役

97ページから170ページ（訳者注：原文のページ）の注記は、連結財務諸表の一部である。

注記2に記載の通り、本トラスの連結財務諸表及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の連結財務諸表は、合わせて表示されている。

本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の連結持分変動計算書

2023年12月31日に終了した事業年度

[単位：香港ドル]

百万香港ドル	本株式ステーブル受益証券保有者／HKエレクトリック・インベストメンツ社の株主に帰属するもの					
	資本金	資本剰余金	ヘッジ損益	利益剰余金	提案済／宣言済分配金及び配当金	合計
	注記30 (b)	注記30 (c)	注記30 (d) (i)	注記30 (d) (ii)	注記14	
2022年1月1日現在残高	8	47,472	4	(513)	1,422	48,393
当期持分変動額：						
当期純利益	-	-	-	2,954	-	2,954
その他の包括利益	-	-	780	32	-	812
包括利益合計	-	-	780	2,986	-	3,766
ヘッジ対象の当初の帳簿価額への振替額（税引後）	-	-	4	-	-	4
前期提案済の期末分配金／第2中間配当金（注記14 (c) 参照）	-	-	-	-	(1,422)	(1,422)
中間分配金／第1中間配当金（注記14 (b) 参照）	-	-	-	(1,408)	-	(1,408)
期末分配金／第2中間配当金提案額（注記14 (b) 参照）	-	-	-	(1,422)	1,422	-
2022年12月31日及び2023年1月1日現在残高	8	47,472	788	(357)	1,422	49,333
当期持分変動額：						
当期純利益	-	-	-	3,156	-	3,156
その他の包括利益	-	-	(714)	29	-	(685)
包括利益合計	-	-	(714)	3,185	-	2,471
ヘッジ対象の当初の帳簿価額への振替額（税引後）	-	-	4	-	-	4
前期提案済の期末分配金／第2中間配当金（注記14 (c) 参照）	-	-	-	-	(1,422)	(1,422)
中間分配金／第1中間配当金（注記14 (b) 参照）	-	-	-	(1,408)	-	(1,408)
期末分配金／第2中間配当金提案額（注記14 (b) 参照）	-	-	-	(1,422)	1,422	-
2023年12月31日現在残高	8	47,472	78	(2)	1,422	48,978

[単位：日本円]

百万円	本株式会社ステーブル受益証券保有者／HKエレクトリック・インベストメンツ社の株主に帰属するもの					
	資本金	資本剰余金	ヘッジ損益	利益剰余金	提案済／ 宣言済 分配金 及び配当金	合計
	注記30 (b)	注記30 (c)	注記30 (d) (i)	注記30 (d) (ii)	注記14	
2022年1月1日現在残高	155	918,108	77	(9,921)	27,501	935,921
当期持分変動額：						
当期純利益	-	-	-	57,130	-	57,130
その他の包括利益	-	-	15,085	619	-	15,704
包括利益合計	-	-	15,085	57,749	-	72,834
ヘッジ対象の当初の帳簿価額 への振替額（税引後）	-	-	77	-	-	77
前期提案済の期末分配金／ 第2中間配当金（注記14 （c）参照）	-	-	-	-	(27,501)	(27,501)
中間分配金／第1中間配当金 （注記14（b）参照）	-	-	-	(27,231)	-	(27,231)
期末分配金／第2中間配当金 提案額（注記14（b）参照）	-	-	-	(27,501)	27,501	-
2022年12月31日及び 2023年1月1日現在残高	155	918,108	15,240	(6,904)	27,501	954,100
当期持分変動額：						
当期純利益	-	-	-	61,037	-	61,037
その他の包括利益	-	-	(13,809)	561	-	(13,248)
包括利益合計	-	-	(13,809)	61,598	-	47,789
ヘッジ対象の当初の帳簿価額 への振替額（税引後）	-	-	77	-	-	77
前期提案済の期末分配金／ 第2中間配当金（注記14（c） 参照）	-	-	-	-	(27,501)	(27,501)
中間分配金／第1中間配当金 （注記14（b）参照）	-	-	-	(27,231)	-	(27,231)
期末分配金／第2中間配当金 提案額（注記14（b）参照）	-	-	-	(27,501)	27,501	-
2023年12月31日現在残高	155	918,108	1,509	(39)	27,501	947,235

97ページから170ページ（訳者注：原文のページ）の注記は、連結財務諸表の一部である。

注記2に記載の通り、本トラストの連結財務諸表及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の連結財務諸表は、合わせて表示されている。

本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の連結キャッシュ・フロー計算書

2023年12月31日に終了した事業年度

[単位：香港ドル]

	注記	2023年 百万香港ドル	2022年 百万香港ドル
営業活動			
営業活動から生じたキャッシュ・フロー	23 (b)	9,460	6,157
利息の支払額		(1,264)	(875)
利息の受取額		44	30
香港事業所得税の支払		(169)	(544)
営業活動から生じた正味キャッシュ・フロー		8,071	4,768
投資活動			
固定資産及び株式の購入		(3,972)	(5,528)
資産計上支払利息		(307)	(233)
ジョイント・ベンチャーへの貸付による支出		(115)	(316)
ジョイント・ベンチャーによる借入金の返済		13	-
投資活動に使用された正味キャッシュ・フロー		(4,381)	(6,077)
財務活動			
銀行借入による収入	23 (c)	2,500	4,873
借入金の返済による支出	23 (c)	(3,477)	(500)
メディアム・ターム・ノートの償還	23 (c)	(300)	-
リース負債の支払額	23 (c)	(1)	(1)
預り保証金の受取	23 (c)	311	306
預り保証金の返還	23 (c)	(243)	(242)
分配金/配当金の支払額		(2,830)	(2,830)
財務活動に（使用された）/よる正味キャッシュ・フロー		(4,040)	1,606
現金及び現金同等物の正味（減少）/増加額		(350)	297
1月1日現在の現金及び現金同等物		325	34
外国為替レート変動による影響		2	(6)
12月31日現在の現金及び現金同等物	23 (a)	(23)	325

[単位：日本円]

	注記	2023年 百万円	2022年 百万円
営業活動			
営業活動から生じたキャッシュ・フロー	23 (b)	182,956	119,076
利息の支払額		(24,446)	(16,923)
利息の受取額		851	580
香港事業所得税の支払		(3,268)	(10,521)
営業活動から生じた正味キャッシュ・フロー		156,093	92,213
投資活動			
固定資産及び株式の購入		(76,818)	(106,912)
資産計上支払利息		(5,937)	(4,506)
ジョイント・ベンチャーへの貸付による支出		(2,224)	(6,111)
ジョイント・ベンチャーによる借入金の返済		251	-
投資活動に使用された正味キャッシュ・フロー		(84,729)	(117,529)
財務活動			
銀行借入による収入	23 (c)	48,350	94,244
借入金の返済による支出	23 (c)	(67,245)	(9,670)
メディアム・ターム・ノートの償還	23 (c)	(5,802)	-
リース負債の支払額	23 (c)	(19)	(19)
預り保証金の受取	23 (c)	6,015	5,918
預り保証金の返還	23 (c)	(4,700)	(4,680)
分配金／配当金の支払額		(54,732)	(54,732)
財務活動に（使用された）／よる正味キャッシュ・フロー		(78,134)	31,060
現金及び現金同等物の正味（減少）／増加額		(6,769)	5,744
1月1日現在の現金及び現金同等物		6,286	658
外国為替レート変動による影響		39	(116)
12月31日現在の現金及び現金同等物	23 (a)	(445)	6,286

97ページから170ページ（訳者注：原文のページ）の注記は、連結財務諸表の一部である。

注記2に記載の通り、本トラストの連結財務諸表及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の連結財務諸表は、合わせて表示されている。

本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の財務諸表に対する注記

[単位：香港ドル（別段の記載がない限り）]

1 一般事項

HKエレクトリック・インベストメンツ・リミテッド（以下「HKエレクトリック・インベストメンツ社」という。）は、ケイマン諸島の2011年会社法（統合・改正済）に基づき、有限責任の特例会社として2013年9月23日にケイマン諸島で設立された。HKエレクトリック・インベストメンツ社は、事業の本拠地を香港ケネディ・ロード44番地、香港エレクトリック・センターに構えている。HKエレクトリック・インベストメンツ社は、主に投資持株会社として活動している。

HKエレクトリック・インベストメンツ（以下「本トラスト」という。）は、香港の法律に基づいて、HKエレクトリック・インベストメンツ・マネジャー・リミテッド（以下、本トラストのトラスティ・マネジャーとしての地位において「本トラスティ・マネジャー」という。）及びHKエレクトリック・インベストメンツ社間で締結された本信託証書により、2014年1月1日に組成された。本信託証書が定める本トラストの事業活動の範囲は、HKエレクトリック・インベストメンツ社への投資に限定される。

本株式ステーブル受益証券は、（1）本トラストの受益証券、（2）HKエレクトリック・インベストメンツ社の受益証券に関連し、本トラスティ・マネジャーが本トラストのトラスティ・マネジャーとしての地位において法的所有者として保有する特定普通株式の実質的持分、及び（3）HKエレクトリック・インベストメンツ社の受益証券へ「ステーブルされた」特定優先株式から構成される。本株式ステーブル受益証券は、本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社が共同で発行しており、香港証券取引所（以下「証券取引所」という。）に上場されている。

2 表示の基礎

本信託証書の規定により、本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社は、連結基準での独自の財務諸表をそれぞれ作成する必要がある。2023年12月31日に終了した事業年度の本トラストの連結財務諸表は、本トラスト、HKエレクトリック・インベストメンツ社及びその子会社（以下「本トラスト・グループ」と総称する。）の連結財務諸表並びに本トラスト・グループのジョイント・ベンチャーに対する持分から構成される。2023年12月31日に終了した事業年度のHKエレクトリック・インベストメンツ社の連結財務諸表は、HKエレクトリック・インベストメンツ社及びその子会社（以下「本グループ」と総称する。）の連結財務諸表並びに本グループのジョイント・ベンチャーに対する持分から構成される。

本トラストはHKエレクトリック・インベストメンツ社を支配しており、2023年12月31日に終了した事業年度の本トラストの活動は、HKエレクトリック・インベストメンツ社への投資のみである。このため、本トラストの連結財務諸表に表示される連結経営成績及び財政状態は、HKエレクトリック・インベストメンツ社の資本金の開示との相違を除いて、HKエレクトリック・インベストメンツ社の連結経営成績及び財政状態と同一である。本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の取締役は、本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の連結財務諸表を合わせて表示するのがより明瞭であると考えられる。本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の連結財務諸表は、両者が同一である限りにおいて合わせて表示される。以下、これを「本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の連結財務諸表」という。

連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結財政状態計算書、連結持分変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、重要性がある会計方針及びその他の注記情報は、本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社に共通する。HKエレクトリック・インベストメンツ社固有の情報は、連結財務諸表の注記の中で関連する情報として別途開示されている。

本トラスト・グループ及び本グループを「両グループ」と総称する。

3 重要性がある会計方針

(a) コンプライアンス・ステートメント

連結財務諸表は、該当する香港財務報告基準等（香港公認会計士協会により公表されている個々の香港財務報告基準、香港会計基準及びそれらの解釈の総称をいう。）、香港で一般に認められた会計原則及び香港会社条例による開示規則に準拠して作成されている。また、連結財務諸表は香港証券取引所の上場規則による開示規定にも準拠している。両グループが適用している重要性がある会計方針は以下に開示されている。

香港公認会計士協会は、両グループの当会計期間において初めて適用される、若しくは早期適用が可能となる香港財務報告基準のいくつかの改訂を発表した。両グループの連結財務諸表に反映されている当会計期間及び前会計期間に関連する限りにおいて、当該改訂等の初度適用に伴う会計方針の変更に関する情報は、注記4に記載されている。

(b) 財務諸表の作成の基礎

後述の会計方針を除き、財務諸表は取得原価を測定的基础として作成されている。

香港財務報告基準等に準拠した財務諸表の作成は、会計方針の適用や資産・負債・収益・費用の報告金額に影響する、経営陣による判断、見積り及び仮定の使用を要求する。見積り及び関連する仮定は、状況に照らして合理的であると考えられる過去の経験やその他の様々な要因に基づいており、これらの結果が他の手段では容易には明らかとならない資産及び負債の帳簿価額を判断する上での基礎を形成する。実際の業績はこれらの見積りと異なる場合がある。

見積り及びその基礎となる仮定は継続して見直される。会計上の見積りの修正は、その影響が修正された会計期間に限定される場合は見積りが修正された会計期間において認識され、影響が修正された会計期間及び将来の会計期間の双方に及ぶ場合には、見積りが修正された会計期間及び将来の会計期間において認識される。

香港財務報告基準等の適用に当たって、財務諸表に重要な影響を与える経営陣の判断及び見積りの不確実性については、注記37に記載している。

(c) 子会社

子会社とは、両グループによって支配されている企業をいう。両グループは企業への関与により生じる変動リターンに対するエクスポージャー又は権利を有し、且つ、その企業に対する支配を通じてそれらのリターンに影響を及ぼす能力を有している場合に、その企業を支配する。両グループが支配しているかを評価する際には、実質的な権利（両グループ及び他の企業によって所有されている。）のみが考慮される。

子会社への投資は、支配開始日から支配終了日までの間、連結財務諸表に連結される。グループ内の債権債務残高及び取引、並びにグループ内取引によって発生した未実現利益は、連結財務諸表の作成に際して消去される。未実現損失は、減損が生じている証拠がない場合に限り、未実現利益と同様の方法で消去している。

支配の喪失を伴わない子会社に対する両グループの持分の変動は、資本取引として連結上の資本内部における支配持分と非支配持分の調整として会計処理され、のれんの調整や損益は認識されない。

一方、両グループが子会社の支配を喪失した場合には、子会社に対する全ての持分を処分する会計処理が行われ、その結果生じた損益が損益計算書において認識される。当該子会社に対する持分は、その支配を喪失した日において公正価値で認識され、当該公正価値の金額は金融資産の当初認識時の公正価値、若しくは関連会社投資又はジョイント・ベンチャーへの投資における当初認識時の原価とみなされる。

HKエレクトリック・インベストメンツ社の財政状態計算書上、子会社への投資は減損損失控除後の取得原価で計上されている（注記3（h）（ii）参照）。

(d) ジョイント・ベンチャー

ジョイント・ベンチャーとは、両グループ又はHKエレクトリック・インベストメンツ社が共同支配する取決めであり、両グループ又はHKエレクトリック・インベストメンツ社が当該取り決めの資産に対する権利及び負債に対する義務ではなく、その純資産に対する権利を有する。

ジョイント・ベンチャーへの持分は、売却目的保有に分類されない限り（又は売却目的保有に分類される処分グループに含まれない限り）、持分法で会計処理される。当該持分は当初認識時に取引費用を含む原価で認識される。その後、共同支配が終了する日まで、当該投資先の損益及びその他の包括利益に対する両グループの持分は、連結財務諸表で認識される。

損失に対する両グループの持分がジョイント・ベンチャーへの持分を超過する場合、両グループの持分はゼロまで減額され、両グループに法的義務若しくは推定的義務が生じている範囲、又は投資先に代わって支払う金額の範囲を除いて、追加的な損失は認識されない。この目的における両グループの持分は、持分法で算定したジョイント・ベンチャーに対する投資と、当該ジョイント・ベンチャーに対する両グループの純投資の一部を実質的に構成するその他の長期持分（該当する場合、その他の長期持分に対して予想信用損失モデルを適用後（注記3（h）（i）を参照）の帳簿価額である。

両グループと持分法適用会社の投資先との取引から生じる未実現利益は、投資先における両グループの持分の範囲で消去される。未実現損失は、減損が生じている証拠がない場合に限り、未実現利益と同様の方法で消去している。

(e) のれん

のれんは、以下の差額で表示される。

- (i) 譲渡対価の公正価値の合計額
- (ii) 取得日において測定される被取得企業の識別可能資産及び負債の公正価値
- (ii) が (i) を上回る場合、その差額は割安購入益として直ちに損益に認識される。

M&Aで生じるのれんは、原価から減損損失累計額を控除した金額で測定し、年次で減損テストが行われる（注記3 (h) (ii) 参照）。

(f) 有形固定資産及び借地権、減価償却及び償却

- (i) 両グループが不動産の登記名義人ではない賃貸不動産のリースから生じる使用権資産を含む有形固定資産は、建設中の資産を除き、取得原価から減価償却費（注記3 (f) (viii) 参照）及び減損損失累計額（該当がある場合）（注記3 (h) (ii) 参照）を控除して計上する。
- (ii) 建設中の資産は取得原価から減損損失（注記3 (h) (ii) 参照）を控除して計上し、減価償却は実施しない。完成し、使用可能となった時点で適切な固定資産項目へ振替える。
- (iii) 自家建設の有形固定資産の取得原価には、材料費及び直接労務費、該当する場合には解体・撤去費用及びその資産が設置されていた土地の原状回復費用の当初見積額、並びに製造間接費の適切な配賦額及び借入コストが含まれる（注記3 (v) 参照）。
- (iv) 個別に会計処理された固定資産の構成要素を取替えるための、又はその作動性能を向上させるための取得後の支出は、当初評価された既存の資産の標準性能を上回る将来の経済的便益が両グループに流入する可能性が高く、且つ当該資産項目の支出について信頼性をもって測定できる場合に限り、当該資産の帳簿価額に含めるか、個別の資産として認識する。その他の取得後の支出については、発生した期間の費用として認識する。
- (v) 固定資産の廃棄又は処分から生じる利得又は損失については、処分により受け取る金額の純額と固定資産の帳簿価額との差額として測定し、廃棄又は処分した日において損益として認識する。
- (vi) 借地権は、取得原価から償却累計額（注記3 (f) (vii) 参照）及び減損損失（注記3 (h) (ii) 参照）を控除して計上する。

(vii) 借地権の取得原価は、残存借地契約期間と見積耐用年数のいずれか短い方の期間に渡って定額法で償却する。

(viii) 減価償却は、見積残存価額（該当がある場合）を差し引いた固定資産の取得原価を、以下の見積耐用年数に渡って定額法を用いて減額するように計算し、通常、損益に認識される。

当期及び比較対象期間の見積耐用年数以下のとおりである。

	年数
ケーブル・トンネル	100
建物	60
灰分処理池及びガスパイプライン	60
送配電設備、架空電線及びケーブル	60
発電設備及び機械	35
ガスタービン及びガスタービン・コンバインドサイクル設備	30
機械式空力計	30
太陽光発電設備	25
風力発電設備	20
電子式空力計、電波・光通信設備及び移動式無線中継設備	15
建物附属設備、その他工場及び機械	10
コンピュータ	5～10
車両運搬具及び海洋運搬具	5～6
製作所工具及び事務所機器	5
自己使用のリース資産	残存リース期間又は 資産の見積耐用年数 のいずれか短い方

不動産について、その見積耐用年数より当該不動産が位置する土地の残存借地契約期間が短い場合は、残存借地契約期間に渡って定額法で償却する。

1つの固定資産について部分ごとに異なる耐用年数がある場合、固定資産の取得原価を各部分へ合理的な基準で配分し、別々に減価償却を行う。資産の減価償却方法、耐用年数及び残存価額（該当がある場合）は各報告日に見直し、必要に応じて調整する。

(g) リース資産

契約開始時に、両グループは当該契約がリース、又はリースを含んだものであるのかどうかを判定する。契約が特定された資産の使用を支配する権利を一定期間に渡って対価と交換に移転する場合には、これに該当する。顧客が特定された資産の用途を指図する権利及び特定された資産の使用からの経済的便益のほとんどすべてを得る権利の両方を有している場合には支配は移転している。

リース開始日において、両グループはリース期間が12ヵ月以下の短期リース又は少額資産のリースを除く使用権資産及びリース負債を認識する。両グループが少額資産のリース契約を締結する場合、両グループはリース1件ごとに資産計上するか否かを決定する。資産計上しない場合には、当該リースに関連するリース料は、リース期間に渡って定期的に損益に認識される。

リースが資産計上される場合、リース負債は、リース期間に渡って支払われるリース料の現在価値（当該リースの計算利率、又は金利が容易に決定できない場合には適切な追加借入利率を用いて割引かれる）で当初認識される。当初認識後は、リース負債は償却原価で測定され、利息費用は実効金利法を用いて算出される。

リースが資産計上されたときに認識された使用権資産は取得原価で当初測定されるが、その取得原価はリース負債の当初の金額、開始日以前に支払われたリース料調整額、当初発生した直接コスト及び原資産の解体・除去費用、原資産又は原資産がある敷地の原状回復費用（受け取ったリース・インセンティブを控除後）の見積りが含まれる。その後、使用権資産は、減価償却累計額及び減損損失を控除した原価で表示される（注記3（f）及び（h）（ii）参照）。

指数又はレートの変更により生じる将来のリース料の変動、又は残価保証に基づいて支払われると見込まれる金額の両グループの見積りに変更がある場合、あるいは両グループが購入、延長、解約オプションを行使するかどうかの評価を変更した場合、リース負債は再測定される。リース負債が再測定された場合、それに対応する調整を使用権資産の帳簿価額に対して行うか、又は使用権資産の帳簿価額がゼロまで減額されている場合には純損益に計上する。

リースの条件変更（すなわち、リースの当初のリース契約条件の一部ではなかったリースの範囲又はリースの対価の変更）が発生したときに、当該条件変更が独立したリースとして会計処理されない場合にリース負債は再測定される。この場合、リース負債は改訂後のリース料及びリース期間に基づき、条件変更の効力発生日に修正された割引率を用いて再測定される。

長期リース負債の1年以内の支払額は、報告期間後12ヵ月以内に決済される予定のリースに係る契約上の支払の現在価値として決定される。

(h) 信用損失及び資産の減損

(i) 金融商品に係る信用損失

両グループは、償却原価で測定する金融資産（現金及び現金同等物、売掛金、その他の債権、ジョイント・ベンチャーに対する貸付債権を含む。）について予想信用損失に対する損失評価引当金を認識している。

予想信用損失の測定

予想信用損失は、信用損失を確率加重した見積りである。信用損失は、契約に従って支払われるべき金額と、両グループが受け取ると見込んでいる金額との間の見込まれる全てのキャッシュ・フロー不足の現在価値で測定される。

見込まれるキャッシュ・フロー不足は、割引計算の影響が重要である場合、以下の金利を用いて割引かれる。

- 営業債権及びその他の債権、固定金利の金融資産：当初認識時に算定した実効金利又はその近似値
- 変動金利の金融資産：現在の実効金利

予想信用損失の見積りを行う際に考慮する最長期間は、両グループが信用リスクに晒される最長の契約期間である。

予想信用損失は、以下のいずれかの方法で測定される。

- 12ヶ月の予想信用損失：報告日後12ヶ月以内（当該金融商品の予想存続期間が12ヶ月未満である場合、それよりも短い期間）に生じ得る債務不履行事象から生じる予想信用損失
- 全期間の予想信用損失：金融商品の予想存続期間にわたる全ての生じ得る債務不履行事象から生じる予想信用損失

12ヶ月の予想信用損失で損失評価引当金を測定する以下の場合を除き、両グループは全期間の予想信用損失に相当する金額で損失評価引当金を測定する。

- 報告日において信用リスクが低いと判定された金融商品
- 信用リスク（すなわち、金融商品の予想存続期間に渡るデフォルト・リスク）が当初認識以降に著しく増大していないその他の金融商品

営業債権に係る損失評価引当金は、全期間の予想信用損失に等しい金額で測定される。

信用リスクの著しい増大

両グループは、金融商品の信用リスクが当初認識以降に著しく増大しているか否かを判定する際及び予想信用損失を見積る際、過大なコストや労力を費やすことなく利用可能な、合理的で裏付け可能な情報を考慮する。これには、両グループの過去の経験や信用評価（将来予測的な情報を含む）に基づく定性的・定量的情報と分析が含まれる。

両グループは（i）両グループが担保権の実行（担保がある場合）等を行わなければ、債務者が両グループに対する借入を全額返済する可能性が低い場合、（ii）債権が90日期日超過している場合で、債務者が両グループの回収活動に応じておらず、過去の経験からそのような債権を回収できる可能性は低いと示唆される場合、当該金融資産に債務不履行が発生しているとみなす。

予想信用損失は、各報告日において、金融商品の信用リスクの当初認識以降の変化を反映させるために再測定される。予想信用損失の金額に変化があれば、減損利得又は減損損失として純損益に認識される。両グループは全ての金融商品の減損利得又は減損損失を認識し、損失評価引当金により金融商品の帳簿価額を修正している。

信用減損金融資産

両グループは、各報告日に、金融資産が信用減損金融資産に該当するか否かを判定する。金融資産は、当該金融資産の見積将来キャッシュ・フローに不利な影響を与える1つ又は複数の事象が発生している場合には、信用減損している。

金融資産が信用減損している証拠には、次の観察可能な事象が含まれる。

- 債務者の重大な財政的困難
- 契約違反（債務不履行又は90日超の期日経過事象など）
- 両グループのローン又は立替金のリスラクチャリングを両グループが他では考えないような条件で行ったこと
- 借手が破産又は他の財務上の再編を行う可能性が高くなったこと
- 証券についての活発な市場が発行者の財政上の困難により消滅したこと

直接償却の方針

金融資産は、回収が現実的に見込まれない範囲で、総額での帳簿価額を直接減額する。直接償却は、通常、債務者が直接償却の対象となる金額の返済に十分なキャッシュ・フローを生み出す資産や収入源を有していないと両グループが判断する場合に行われる。

直接償却済の資産が回復した場合には、回復した期間の純損益に減損の戻入れとして認識する。

(ii) その他の非流動資産の減損

両グループは、非金融資産（棚卸資産を除く）が減損している可能性を示す兆候が存在しているかを識別するために、各報告日においてその帳簿価額を検討する。そのような兆候がある場合には、当該資産の回収可能価額が見積られる。のれんは年次で減損テストが行われる。

減損テストを行う際に、資産は、他の資産又は資金生成単位のキャッシュ・インフローから概ね独立した継続的使用からのキャッシュ・インフローを生み出す資産グループの最小単位でグルーピングされる。企業結合で生じるのれんは、企業結合によるシナジーから便益を享受できると期待される資金生成単位又は資金生成単位グループに配分される。

資産又は資金生成単位の回収可能価額は、その売却費用控除後の公正価値と使用価値のいずれか高い金額である。資産の使用価値を評価する際に、貨幣の時間的価値及び当該資産又は資金生成単位に固有のリスクに関する現在の市場評価を反映した税引前割引率を用いて、見積将来キャッシュ・フローを現在価値に割り引く。

減損損失は、資産又は資産が属する資金生成単位の帳簿価額がその回収可能価額を上回る場合に認識される。

減損損失は損益に認識される。減損損失は、まず当該資金生成単位に配分されたのれんの帳簿価額から減額し、次にその資金生成単位内のその他の資産の帳簿価額に基づいた比例按分により減額する。

のれんに関連する減損損失は戻入してはならない。その他の資産については、最終帳簿価額が、減損損失が認識されなかった場合の（償却又は減価償却費控除後の）帳簿価額を超えない場合にのみ、減損損失が戻入される。

(iii) 中間財務報告及び減損

香港証券取引所における香港上場規則に基づき、両グループは香港会計基準第34号「中間財務報告」に準拠した6ヶ月間の中間財務報告書の作成が求められる。中間期間末において、両グループは減損のテスト及び認識並びに戻入について年度末と同様の方針を適用している（注記3（h）（i）及び3（h）（ii）参照）。

中間期で認識されるのれんの減損損失について、同一会計年度の中間期以降での戻入は行わない。これは、当該中間期が帰属する会計年度の終了時点でのみ減損テストが行われた場合に減損損失が認識されないか、より小さい金額でしか認識されない場合についても該当する。

(i) 短期従業員給付

短期従業員給付は、関連するサービスが提供された時点で費用として認識する。両グループが、従業員から過去に提供された労働の対価として支払うべき法的債務又は推定的債務を負い、かつその金額を信頼性をもって見積ることができる場合、支払われると見積もられる額を負債として認識する。

(j) 退職給付債務

(i) 確定退職給付債務

両グループの確定給付退職金制度に関する純債務は、従業員が現在及び過去において提供したサービスの対価として獲得した将来給付額を現在価値に割り引き、制度資産の公正価値を控除した上で、それぞれの制度ごとに見積って計算する。割引率は、報告期間末における両グループの退職給付債務と概ね同じ満期日を有する香港特別行政区政府為替基金証券の利回りである。この計算は、年金数理人によって予測単位積増方式を用いて行われる。

算定の結果、両グループにとって便益がある場合、認識される資産は確定給付退職金制度からの将来返金額又は制度への将来掛金の減額の形で利用可能な経済的便益の現在価値を限度としている。

数理計算上の差異、資産上限額の影響（該当ある場合）及び制度資産に係る収益（利息を除く）から構成される再測定は、発生した期においてその他の包括利益として認識し、即時に連結財政状態計算書に計上される。その他の包括利益として認識した再測定は即時に利益剰余金に計上され、損益に振り替えられることはない。

両グループは確定給付債務又は資産の純額に係る当会計年度の利息費用又は利息収益の純額について、会計年度の期首の確定給付債務の測定に用いられる割引率を会計年度の期首の確定給付債務又は資産の純額に適用し、さらに拠出及び給付支払による当期の確定給付債務又は資産の純額の変動を考慮して算定する。確定給付退職金制度に係る利息費用の純額及びその他の費用は損益に認識される。

(ii) 確定拠出退職金制度への拠出

香港定年退職積立金条例に基づく掛金の支払いを含む確定拠出退職金制度への拠出に係る債務については、関連するサービスが提供された時点で費用として損益に認識する。

(k) 棚卸資産

棚卸資産は取得原価又は正味実現可能価額のいずれか低い方で計上される。

石炭、貯蔵品、燃料油並びに天然ガスは加重平均法で測定され取得原価で評価される。

取得原価には棚卸資産の取得に係る費用、並びにその棚卸資産を現在の場所及び状態とするまでに要したその他の費用が含まれる。費用として認識される棚卸資産の取得原価には、棚卸資産減耗損及び棚卸資産評価損が含まれる。

正味実現可能価額は、通常の商取引に用いられる見積販売価格から販売に要する見積費用を控除した金額で見積られる。

(l) 売掛金及びその他の債権

債権は両グループが対価を受領する無条件の権利を有し、かつ当該対価の支払いの期限が到来する前に時の経過だけが要求される場合に認識される。

重大な金融要素を含まない売掛金は、取引価格で当初測定される。全ての債権はその後、実効金利法を用いた償却原価に損失評価引当金を加味した金額で計上される（注記3（h）（i）参照）。

(m) 有利子負債

有利子負債は取引費用控除後の公正価値で当初認識する。当初認識後、有利子負債は実効金利法を用いて償却原価で計上される。支払利息は、借入コストに係る両グループの会計方針に基づき認識される（注記3（v）参照）。

負債性金融商品に組込まれたコール・オプションの権利行使日における権利行使価格が、負債性金融商品の償却原価と概ね一致している場合には、負債性金融商品と組込オプションは密接に関連しているため、区分して計上を行わない。

(n) 買掛金及びその他の債務

買掛金及びその他の債務は公正価値で当初認識し、当初認識後、償却原価で計上するが、割引の影響に重要性がない場合は請求額で計上する。

(o) 契約負債

契約負債は、両グループが関連する収益を認識する前に顧客が返金不能の対価を支払った場合に認識される（注記3（r）参照）。また、契約負債は、両グループが関連する収益を認識する前に返金不能の対価を受領する無条件の権利を有する場合にも認識される。その場合、対応する債権も認識される（注記3（1）参照）。

(p) デリバティブ

両グループは為替リスク及び金利リスクを管理するためにデリバティブを保有する。デリバティブは当初認識時に公正価値で測定する。その後、デリバティブは純損益を通じて公正価値で測定される。ただし、キャッシュ・フロー・ヘッジの要件を満たす場合を除く（注記3（q）参照）。

(q) ヘッジ

両グループは一部のデリバティブを、為替変動及び変動金利の借入金から生じる発生可能性の非常に高い予定取引に係るキャッシュ・フローの変動に対するヘッジ手段（キャッシュ・フロー・ヘッジ）又は認識された資産又は負債の公正価値の変動に対するヘッジ手段（公正価値ヘッジ）として指定している。

(i) 公正価値ヘッジ

公正価値ヘッジとして指定され、その要件を満たすデリバティブの公正価値の変動は、ヘッジされたリスクに係るヘッジ対象資産又は負債の公正価値の変動とともに、損益として認識する。

(ii) キャッシュ・フロー・ヘッジ

キャッシュ・フロー・ヘッジにおけるヘッジ手段としてデリバティブを指定した場合、その公正価値変動の有効部分はその他の包括利益として認識し、資本の構成要素であるヘッジ損益として個別に累積する。その他の包括利益に認識される有効部分はヘッジの開始時からの、ヘッジ対象の現在価値に基づく公正価値の変動累計額に限定される。ヘッジ非有効部分については、即時に損益として認識する。

先物外国為替予約の先渡要素及び金融商品の外貨ベース・スプレッドを区分し、ヘッジ手段の指定から除外することができる。両グループが、先物外国為替予約の先渡要素又は金融商品の外貨ベース・スプレッド（「除外された要素」）をヘッジ手段の指定から除外する場合、除外された要素はヘッジのコストとして区分して会計処理することができる。除外された要素に係る公正価値の変動は、ヘッジ対象に関連する範囲で資本の独立の内訳項目として認識される。

予定取引のヘッジが、その後において棚卸資産等の非金融資産の認識を生じさせる場合、ヘッジ損益に累積した額を資本から振り替え、当該非金融項目の当初認識時にその取得原価に直接計上する。

その他のヘッジされた予定取引については、ヘッジ損益に累積した額を、ヘッジされた見積将来キャッシュ・フローが損益に影響を与える期間（支払利息の認識時等）においてその他の包括利益を通じて資本から損益に組み替える。

ヘッジが、ヘッジ会計の要件をもちや満たさない、又はヘッジ手段が売却された、満期となった、終了した、又は行使された場合、ヘッジ会計は将来に向かって中止される。ヘッジ会計は中止されたがヘッジされた予定取引が行われる見込みである場合、ヘッジ損益に累積した額は予定取引の発生まで資本に計上され続け、上記の方針に従って会計処理される。

ヘッジされた見積将来キャッシュ・フローの発生が予想されなくなった場合、ヘッジ損益に累積した額を、その他の包括利益を通じて即時に資本から損益に組み替える。

(r) 収益認識

(i) 本電力供給契約に基づく収益規制

両グループの主要子会社であるHEC社の収益は、香港特別行政区政府（以下「香港政府」という。）によって管理され、本電力供給契約により、主にHEC社の発電・送電・配電設備への投資に対するリターンを基礎とした収益の許容範囲（以下「認可報酬」という。）が定められている。本電力供給契約では、需要家サービスの品質向上、エネルギー利用効率化、需要応答による使用抑制及び再生可能エネルギーの開発を促すため、実績に基づいたインセンティブ及び罰則が設けられている。本電力供給契約に基づくHEC社の電力事業関連の純収益は、認可報酬から利息及び余剰生産能力の調整（該当がある場合）を控除し、さらに当該インセンティブ及び罰則を調整した上で決定される。HEC社は詳細な開発計画を香港政府に提出し、承認を得ることが要求されている。当該計画には、開発計画期間に渡ってHEC社が獲得できる純収益の主要な決定要因の予測が含まれる。

香港政府は2023年11月において、2024年1月1日から2028年12月31日までの期間に対応する2024-2028年度開発計画を承認した。2019-2023本開発計画と同様に、当該期間においては、本電力供給契約に基づく香港政府による年次の電気料金の見直しによって標準電気料金の大幅増額が必要と認められない限り、香港政府からの追加的な許認可は要求されない。

(ii) 燃料費調整勘定

本電力供給契約に基づき、香港政府と合意した燃料の標準原価と消費した燃料の実際原価との差額を燃料費調整勘定に計上する（以下「燃料費勘定調整」という。）。

燃料費調整による加算額（又は差引額）は、需要家からの純電気料金の支払いとなるよう標準電気料金に上乘せ（又は割引き）して需要家に請求（又は還元）され、燃料費調整勘定に対して貸方（又は借方）計上される。

燃料費調整勘定の会計年度末残高は、当期の燃料費調整による加算額（又は差引額）と燃料費勘定調整との差額、前期からの繰越分及び一般的な市場利子率に基づいた金利から構成される。

(iii) 収益認識

両グループは電力の販売、サービスの提供及び両グループの通常の商取引におけるリース取引として他者による両グループの資産の使用により発生する収入を、収益として区分している。

収益は、製品又はサービスに対する支配が顧客に移転した時点又は借手が資産を使用する権利を有する場合に、両グループが権利を得ると見込まれる契約に定められる対価の金額から第三者のために回収する金額を控除した金額で認識される。収益は、値引きを控除した金額で認識される。

両グループの収益及びその他の収入の認識に係る方針の詳細は以下の通りである。

- (1) 電気料金収入は、各事業年度における需要家による電力消費の実際発生量と、香港政府と年次合意する標準電気料金単価に基づいて認識する。
- (2) 電力事業関連収入は関連するサービスを提供した時点で認識する。
- (3) 利息収益は、金融資産の予想存続期間を通じて見積もった将来の現金の受取りを、金融資産の総額での帳簿価額まで正確に割引く率を用いた実効金利法により、その発生に応じて認識される。利息収益を計算する際に、実効金利は資産の総額での帳簿価額に適用される（資産が信用減損していない場合）。ただし、当初認識以降に信用減損となった金融資産の場合、利息収益は実効金利を当該金融資産の償却原価に適用して計算される。資産が信用減損に該当しなくなった場合、利息収益の計算は総額法に戻す。

(s) 外貨換算

外貨建取引は取引日における為替レートによって香港ドルに換算し、先物外国為替予約によって外貨がヘッジされている場合には、予約レートによって香港ドルに換算する。外貨建貨幣性資産及び負債は、報告期間末現在の為替レートによって香港ドルに換算する。為替差損益は通常、損益に計上する。

外貨建の取得価額で測定される非貨幣性資産及び負債は、取引日の為替レートを用いて換算する。取引日とは、両グループによる非貨幣性資産又は非貨幣性負債の当初認識日である。外貨建の公正価値で測定される非貨幣性資産及び負債は、その公正価値の測定日における為替レートで換算する。

(t) 現金及び現金同等物

現金及び現金同等物は、銀行預金、手元現金、銀行及びその他の金融機関の要求払預金、並びに容易に一定の金額に換金可能であり、価値変動についてリスクが僅少な、取得時から償還期日が3ヵ月以内の短期で流動性の高い投資で構成される。要求払債務であり、両グループの資金管理の不可欠な構成部分である銀行当座借越は、連結キャッシュ・フロー計算書上、現金及び現金同等物の構成要素に含まれる。現金及び現金同等物は、注記3 (h) (i)に記載されている方針に従い、予想信用損失モデルにより評価される。

(u) 法人所得税

当期の法人所得税は、当期税金及び繰延税金から構成され、その税額がその他の包括利益において認識される又は資本として直接認識される場合を除き、損益として認識する。

当期税金は、当期の課税所得又は欠損金に係る納税見込額又は還付見込額、及び過年度の納付税額又は還付税額の調整額が含まれる。当期の納付税額又は還付税額は、法人所得税に係る不確実性を反映した、納税見込額又は還付見込額の最善の見積りであり、報告期間末において施行又は実質的に施行されている税率を乗じて計算される。

当期税金資産及び負債は、定められる条件が満たされた場合にのみ相殺される。

繰延税金は、資産及び負債の財務諸表上の帳簿価額と税務上の金額との差額である一時差異に対して認識される。なお、以下の場合に限り、繰延税金は認識されない。

- 企業結合ではなく、会計上の損益にも課税所得又は欠損金にも影響を与えず、かつ同額の将来加算一時差異と将来減算一時差異を生じさせない取引における資産又は負債の当初認識から生じる一時差異
- 子会社及びジョイント・ベンチャーに対する投資から生じる一時差異のうち、両グループが当該一時差異を解消する時期をコントロールし、かつ予測可能な期間内に当該一時差異が解消しない可能性が高いもの
- のれんの当初認識時から生じる将来加算一時差異

繰延税金資産は、未使用の税務上の欠損金、未使用の税額控除及び将来減算一時差異のうち、将来の課税所得に対して利用できる可能性が高いものに限り認識される。将来の課税所得は、基礎となる将来加算一時差異の解消に基づいて決定される。将来加算一時差異の金額が繰延税金資産を全額認識するのに不十分である場合、両グループの各子会社の事業計画に基づき、既存の一時差異の解消に係る将来の課税所得の調整が考慮される。繰延税金資産は、各報告日に見直し、関連する税務上の便益が実現する可能性がなくなった範囲内で減額する。このような減額は、将来の課税所得が得られる可能性が高くなった場合には戻入を行う。

繰延税金資産及び負債は、定められる条件が満たされた場合にのみ相殺される。

(v) 借入コスト

意図した方法で使用可能又は売却可能にするために相当の期間を要する資産の取得、建設又は製造に直接起因する借入コストは、当該資産の取得価額として資産計上する。それ以外の借入コストは発生した期に費用処理する。

適格資産の取得原価の一部としての借入コストの資産化は、資産に係る支出が発生し、借入コストが発生し、意図した使用又は売却に向けて資産を準備するために必要な活動に着手している場合に開始する。意図した使用又は売却に向けて適格資産を準備するために必要な活動が実質的に全て中断又は完了した時点で、借入コストの資産化を中断又は終了する。

(w) 引当金及び偶発債務

引当金は、両グループ又はHKエレクトリック・インベストメンツ社が過去の事象の結果として発生した法的又は推定的債務を負っており、その債務を決済するための経済的便益の流出の可能性が高く、信頼性の高い見積りが可能な場合に認識する。

通常の場合には、引当金は見積将来キャッシュ・フローを貨幣の時間価値及びその負債に固有のリスクに関する現時点での市場の評価を反映した税引前の利率を用いて現在価値に割り引くことで決定される。

経済的便益の流出の可能性が低い、又は金額を信頼性をもって測定することができない場合には、経済的便益の流出の可能性が極めて低い場合を除き、当該債務は偶発債務として開示される。複数の将来事象が発生するか否かでのみその存在が確認される発生し得る債務は、経済的便益の流出の可能性が極めて低い場合を除き、偶発債務として開示される。

(x) 関連当事者

- (i) 個人又は当該個人の近親者が以下のいずれかに該当する場合は、当該個人又は近親者は、両グループの関連当事者である。
- (1) 両グループを支配又は共同支配している。
 - (2) 両グループに対し重要な影響力を持つ。
 - (3) 両グループの経営幹部の一員である。
- (ii) 企業が以下のいずれかに該当する場合は、当該企業は両グループの関連当事者である。
- (1) 当該企業と両グループが同一のグループの構成企業である（すなわち、親会社、子会社、兄弟会社はそれぞれ他に対し関連する。）。
 - (2) 一方の企業がもう一方の企業のジョイント・ベンチャー又は関連会社である（又はもう一方の企業が所属するグループのジョイント・ベンチャー又は関連会社である。）。
 - (3) 双方の企業が同じ第三者のジョイント・ベンチャーである。
 - (4) 一方の企業がある第三者のジョイント・ベンチャーであり、もう一方の企業が当該第三者の関連会社である。
 - (5) 当該企業が両グループ又は両グループの関連当事者である法人の従業員の福利厚生のための退職給付制度である。
 - (6) 当該企業が、注記3 (x) (i) で特定された個人に支配又は共同支配されている。
 - (7) 注記3 (x) (i) (1) で特定された個人が当該企業に対し重要な影響力を持つ、又は当該企業（若しくは当該企業の親会社）の経営幹部の一員である。
 - (8) 当該企業（又は企業が属する企業集団の一員）が両グループに経営幹部を派遣している。

個人の近親者とは、企業との取引において、かかる個人に影響を与える、又は影響を受けることが見込まれる家族のことである。

(y) セグメント情報

事業セグメントは、資源配分及び業績評価のために両グループの最高経営意思決定者に提供される内部報告と一致する方法で報告される。

4 会計方針の変更

(a) 新規制定・改訂された香港財務報告基準

香港公認会計士協会は、両グループの当会計期間において初めて適用される香港財務報告基準のいくつかの改訂を発表した。このうち、本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の連結財務諸表に関連する改訂は以下の通りである。

- － 香港財務報告基準第1号及び香港財務報告基準実務記述書第2号の改訂、会計方針の開示
- － 香港財務報告基準第8号の改訂、会計上の見積りの定義
- － 香港財務報告基準第12号の改訂、単一の取引から生じた資産及び負債に係る繰延税金

これらの改訂の適用による、両グループの当期及び過年度の経営成績及び財政状態への影響は軽微である。両グループは、当会計期間において未だ効力を生じていない新会計基準、改訂又は解釈を適用していない。

(b) 長期服務金 (LSP) への強制積立金 (MPF) 充当制度の廃止に伴う会計上の影響に関する新しい香港公認会計士協会のガイダンス

香港政府は2022年6月に、「2022雇用及び退職制度法 (相殺に関する取り決め) (改正) 法令」 (以下「改正条例」という。) を公布した。同条例は2025年5月1日 (以下「移行日」という。) より施行される。改正条例の施行に伴い、雇用主は、強制積立金 (以下「MPF」という。) 制度への強制拠出分の未払給付累計額を、移行日以降に従業員により提供されたサービスに対して支払うべき長期服務金 (Long Service Payment、以下「LSP」という) として充当することができなくなる (すなわち、「充当制度」を廃止する)。また、移行日以前に提供されたサービスにより生じたLSPは、移行日以前の従業員の月給と同日までの勤続年数に基づいて計算される。

香港公認会計士協会は2023年7月に、充当制度とその廃止に関連する会計ガイダンスを提供する、「香港におけるMPF-LSP充当制度の廃止に伴う会計上の影響」を発行した。特に、当該ガイダンスでは、企業は、MPFへの強制拠出の未払給付累計額 (従業員に支払うべきLSPに充当すると予想される) をLSPに対する従業員の拠出金として計上できると明記している。

ただし、この方法を適用する場合、2022年6月に改正条例が公布された後、香港財務報告基準第19号93 (b) 項における実務上の便法は適用されないことになる。すなわち、このようなみなし拠出金を拠出が行われた時点でその期間の勤務費用の控除項目として認識すること (負の勤務費用) は認められなくなる。その代わりに、そのようなみなし拠出金は、LSP給付総額と同様に勤務期間に帰属させるとしている。

充当制度廃止の実態をより適切に反映させるために、両グループは、LSP負債に関する会計方針を変更し、上記の香港公認会計士協会のガイダンスを遡及適用した。当該香港公認会計士協会の新しいガイダンスの適用は、両グループの当期及び過年度の経営成績及び財政状態に重要な影響を及ぼすものではない。

5 収益

両グループの主な事業は、香港島・ラマ島向けの電力発電及び配電である。収益の内訳は以下の通りである。

	2023年 百万香港ドル	2022年 百万香港ドル
電力売上	11,321	10,724
控除：電力売上特別割引	(7)	(6)
	11,314	10,718
電気事業関連収入	92	75
	11,406	10,793

6 セグメント情報

両グループは1つの報告セグメントを有しており、当該報告セグメントの事業内容は香港島・ラマ島向けの電力発電及び配電である。全てのセグメント資産は香港に所在している。両グループの連結業績は、資源配分及び業績評価の目的で両グループの最高経営意思決定者によってレビューされる。従って、追加的な報告セグメント及び地域別情報は開示されない。

7 その他の収益及び純収入

	2023年 百万香港ドル	2022年 百万香港ドル
償却原価で測定する金融資産からの受取利息	44	30
雑収入	43	37
	87	67

8 その他の営業費用

	2023年 百万香港ドル	2022年 百万香港ドル
管理費、政府賃借料、地方固定資産税	341	348
コーポレート及び管理サポートに関する人件費	238	234
資産除去債務引当金	76	120
その他の営業費用に含まれる借地権償却費の一部	222	197
有形固定資産の処分及び減損に係る純損失	256	88
	1,133	987

9 金融費用

	2023年 百万香港ドル	2022年 百万香港ドル
借入利息及びその他の金融費用	1,761	1,287
減算：		
建設中の資産の取得原価の一部として資産化された 支払利息とその他の金融費用	(366)	(293)
燃料費へ転換された利息	(35)	(33)
借入に対する支払利息及びその他の金融費用	1,360	961

建設中の資産に関する借入コストは、年率平均約3.3%（2022年度：2.7%）で資産計上されている。

10 税引前純利益

	2023年 百万香港ドル	2022年 百万香港ドル
税引前純利益の計算には、以下の費用（その控除額）が含まれる。		
減価償却費		
－自己所有の有形固定資産	2,904	2,923
－自己使用のリース資産	1	1
借地権償却	196	196
短期リースに係る費用	5	5
棚卸資産費用	6,867	8,424
棚卸資産評価減	10	23
従業員費用	734	746
固定資産の処分及び減損による純損失	256	88
監査人報酬		
－監査及び監査関連サービス	5	5
－非監査サービス（下記注記参照）	1	1

非監査サービスに対する監査人の報酬は785,000香港ドル（2022年：860,000香港ドル）である。

11 連結損益計算書における法人所得税

(a) 連結損益計算書における税金費用

	2023年 百万香港ドル	2022年 百万香港ドル
当期税額		
当会計年度における香港事業所得税計上額	909	187
繰延税額 (注記29 (b) 参照)		
一時差異の発生及び解消	(263)	442
	646	629

2023年度の香港事業所得税計上額は、2段階の事業所得税率制度に適合している子会社1社を除き、当年度の見積課税所得に対して16.5% (2022年：16.5%) の税率で計算されている。

2段階の事業所得税率制度に適合している子会社については、適格法人の見積課税所得のうち2百万香港ドルまでは8.25%、残りの見積課税所得には16.5%の税率が適用される。当該子会社の香港事業所得税計上額は2022年と同様の方法で計算されている。

ケイマン諸島及び英領ヴァージン諸島の規制により、両グループは当該管轄区域における法人所得税を免除されている。

(b) 税金費用と会計上の利益に適用税率を乗じた額との調整

	2023年 百万香港ドル	2022年 百万香港ドル
税引前純利益	3,616	3,548
香港事業所得税率 (下記注記参照) によって計算した税引前純利益に係る実効税額	597	585
損金不算入費用の影響額	82	71
益金不算入収益の影響額	(5)	(5)
過年度未認識の一時差異の影響額	(28)	(6)
特別割戻しの影響額	-	(16)
実際税金費用	646	629

2023年度の実効税額は、2段階の事業所得税率制度に適合している子会社1社を除き、当年度の見積課税所得に対して16.5% (2022年：16.5%) の税率で計算されている。2段階の事業所得税率制度に適合している子会社については、見積課税所得のうち2百万香港ドルまでは8.25%、残りの見積課税所得には16.5%の税率が適用される。当該子会社の法定税額は2022年と同様の方法で計算されている。

12 取締役及び管理職の報酬

取締役報酬は、HKエレクトリック・インベストメンツ社及びその子会社の業務管理に関連して、同社及びその子会社から取締役へ支払われたものである。HKエレクトリック・インベストメンツ社の各取締役の報酬は以下の通りである。

取締役氏名	報酬	基本給、 諸手当及び その他の給付 (注16)	退職制度 への拠出	賞与	2023年 報酬合計	2022年 報酬合計
	百万 香港ドル	百万 香港ドル	百万 香港ドル	百万 香港ドル	百万 香港ドル	百万 香港ドル
執行取締役 (注1)						
フォク・キン・ニン, カニング (注3) 会長	0.12	1.40	-	-	1.52	1.17
ワン・チー・ティン (注12) 最高経営責任者	0.04	6.13	-	5.46	11.63	20.13
チェン・チョー・イン, フランシス (注5) (注13) 最高経営責任者	0.09	4.99	-	3.95	9.03	6.55
チャン・ロイ・シュン	0.07	3.52	-	-	3.59	3.47
チェン・ダオピャオ (注9)	-	-	-	-	-	2.19
クワン・イン・レオン (注5) (注14)	0.05	2.88	0.21	1.14	4.28	-
ワン・ユアンハン (注8)	0.07	2.46	0.02	0.52	3.07	0.84
非執行取締役						
リ・ツァー・クオイ・ヴィクター (注4) HKエレクトリック・インベストメンツ社取締役会副会長	0.09	0.57	-	-	0.66	0.56
ファハド・ハマド・A H アル - モハ ナディ	0.07	-	-	-	0.07	0.07
ロナルド・ジョセフ・アーカリ (注2)	0.14	0.08	-	-	0.22	0.20
デュアン・グアンミン (注11)	-	-	-	-	-	0.05
デヴェン・アルヴィンド・カルニク	0.07	-	-	-	0.07	0.07
ワン・ジジャン (注10)	0.07	-	-	-	0.07	0.02
ジュ・グアンチャオ	0.07	-	-	-	0.07	0.07
独立非執行取締役						
フォン・チー・ウェイ, アレックス (注3) (注5)	0.11	0.03	-	-	0.14	0.13
コー・ポー・ワー (注2)	0.14	-	-	-	0.14	0.14
クワン・カイ・チョン (注4)	0.09	0.03	-	-	0.12	0.11
リー・ラン・イー, フランシス (注2) (注4)	0.16	0.03	-	-	0.19	0.18
ジョージ・コリン・マグナス	0.07	0.04	-	-	0.11	0.11
ドナルド・ジェフリー・ロバーツ (注2) (注3)	0.16	0.01	-	-	0.17	0.17
ラルフ・レイモンド・シェア (注7)	-	-	-	-	-	0.05
取締役代行者						
ウー・モ・フォン, スーザン (通称名 チョウ・ウー・モ・フォン, スーザン) (注15)	-	0.03	-	-	0.04	0.04
フランク・ジョン・シクスト (注6)	-	0.04	-	-	0.03	0.03
2023年度合計	1.68	22.24	0.23	11.07	35.22	
2022年度合計	1.71	21.53	0.01	13.10		36.35

注釈：

- (1) 両グループの上級管理職は、全ての執行取締役で構成される。
- (2) 本トラスティ・マネジャー及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の監査委員会の一員である。
- (3) 報酬委員会の一員である。
- (4) 指名委員会の一員である。
- (5) 持続可能性委員会の一員である。
- (6) リ・ツァー・クォイ・ヴィクター氏の取締役代行者である。
- (7) 2022年5月18日付で独立非執行取締役を退任し、指名委員会からも退任した。
- (8) 2022年7月22日付で執行取締役に選任された。
- (9) 2022年7月22日付で執行取締役を退任した。
- (10) 2022年9月9日付で非執行取締役に選任された。
- (11) 2022年9月9日付で非執行取締役を退任した。
- (12) 2023年7月1日付で執行取締役及び最高経営責任者を退任し、持続可能性委員会の会長からも退任した。
- (13) 2023年7月1日付で最高経営責任者及び持続可能性委員会の会長に選任された。
- (14) 2023年7月1日付で執行取締役及び持続可能性委員会の一員に選任された。
- (15) 2023年7月1日付でフォク・キン・ニン、カニング氏の取締役代行者を退任した。
- (16) その他の給付には、住宅で利用される電気に関する手当が含まれる。両グループの従業員兼務の取締役に
対しては、両グループの従業員に付与されている保険、医療給付等の手当がその他の給付に含まれる。

(a) 両グループの高額報酬受領者上位5名のうち取締役は3名であり（2022年度：2名）、その個人別報酬総額は上記の通りである。両グループの高額報酬受領者上位5名である残りの2名（2022年度：3名）の報酬は以下の通りである。

	2023年 百万香港ドル	2022年 百万香港ドル
給料、諸手当及びその他給付	7.48	9.76
退職制度への拠出	0.98	1.32
賞与	2.92	3.66
	11.38	14.74

(b) 上記注記（a）の高額報酬受領者上位5名のうち2名（2022年度：3名）を含む、管理職の報酬合計は、以下の報酬の範囲にある。

	2023年 人数	2022年 人数
1,500,001 - 2,000,000香港ドル	1	-
2,500,001 - 3,000,000香港ドル	-	1
3,000,001 - 3,500,000香港ドル	3	6
3,500,001 - 4,000,000香港ドル	5	2
5,000,001 - 5,500,000香港ドル	-	1
5,500,001 - 6,000,000香港ドル	2	1

(c) 取締役及び管理職の報酬は以下の通りである。

	2023年 百万香港ドル	2022年 百万香港ドル
短期従業員給付	73	75
退職後給付	3	2
	76	77

2023年12月31日現在及び2022年12月31日現在、取締役及び管理職に対する貸付はない。

13 本電力供給契約に基づく資金移動

(a) HEC社の経営成績は、香港政府と合意された本電力供給契約によって定められた、HEC社が獲得する認可報酬によって決定される（注記3 (r) (i) 参照）。総電気料金収入が、総営業費用、本電力供給契約上の電力事業関連の純収益及び本電力供給契約上の税金費用の合計を超過する部分（又は不足する部分）は、HEC社の損益計算書から電気料金安定化基金へ（不足分は、電気料金安定化基金からHEC社の損益計算書へ）組替えられる。電気料金安定化基金から損益計算書への組替が必要な場合、その組替額は電気料金安定化基金の残高が上限となる。さらに、電気料金安定化基金の平均残高に対し、1ヵ月物の香港銀行間取引金利の平均を用いて計算された金額が、HEC社の損益計算書から電気料金減額準備金へ組替えられる。

現行の本電力供給契約の下、2013年度に実施された2009-2018電力供給契約の中間審査に従って設立されたスマート・パワー基金の2018年12月31日時点の最終残高から初期資金を提供することにより、スマート・パワー・ケア基金が2019年1月1日に設立された。スマート・パワー・ケア基金は、家庭用、産業用、商業用及び障害を持つ需要家やそのグループが、電化製品をよりエネルギー効率の優れたモデルに交換又はアップグレードすることを支援するようにデザインされたプログラムを通じて最終使用エネルギー効率を促進する等、エネルギーの効率化と使用抑制を推進することを目的としている。HEC社は、2019年1月1日から2033年12月31日までの期間において、各年度のエネルギー効率インセンティブを条件として、その65%に相当する額を控除してスマート・パワー・ケア基金に拠出することに同意した。

(b) 連結損益計算書（への）／からの本電力供給契約に基づく資金の移動は以下の通りである。

	2023年 百万香港ドル	2022年 百万香港ドル
電気料金安定化基金	(255)	(80)
電気料金減額準備金	31	13
スマート・パワー・ケア基金		
－当会計年度に拠出された金額	13	－
－翌会計年度に拠出される暫定金額	25	32
	(186)	(35)

HEC社の2023年度の報奨金38,291,000香港ドル（2022年：32,348,000香港ドル）は連結損益計算書から振り替えられ、その中の13,000,000香港ドルは2023年度のスマート・パワー・ケア基金へ拠出し、残りの25,291,000香港ドルは翌年度のスマート・パワー・ケア基金への拠出のために2023年12月31日時点では買掛金、その他の債務及び契約負債に計上されている。

(c) 電気料金安定化基金、電気料金減額準備金及びスマート・パワー・ケア基金の変動は以下の通りである。

百万香港ドル	電気料金 安定化基金	電気料金 減額準備金	スマート・パワ ー・ケア基金	合計
2022年1月1日現在	1,050	1	14	1,065
電気料金減額準備金から電気料金安定化基金への組替（下記注記1参照）	1	(1)	-	-
連結損益計算書（への）／からの組替	(80)	13	-	(67)
特別割戻し	(99)	-	-	(99)
2022年度における拠出額	-	-	31	31
2022年度における支出額	-	-	(18)	(18)
2022年12月31日及び 2023年1月1日現在	872	13	27	912
電気料金減額準備金から電気料金安定化基金への組替（下記注記1参照）	13	(13)	-	-
連結損益計算書（への）／からの組替	(255)	31	-	(224)
2023年度における拠出額	-	-	45	45
2023年度における支出額（下記注記2参照）	-	-	(63)	(63)
2023年12月31日現在	630	31	9	670

注1 本電力供給契約に従って、年間の電気料金減額準備金の年度末残高を翌会計年度の電気料金安定化基金に組替えなくてはならない。

注2 2023年度における支出額には月次電力消費量300kWh以下の家庭用需要家に対する1単位あたり9.5セントの特別電力補助金が含まれる。2023年の特別電力補助金総額は38,881,000香港ドルである。

14 分配金／配当金

(a) 各期の分配可能利益は以下の通りである。

	2023年 百万香港ドル	2022年 百万香港ドル
本株式ステーブル受益証券の保有者に帰属する 監査済連結純利益	3,156	2,954
(i) 本調整の影響を消去 (下記注1参照)	5,206	4,854
(ii) 加算／(減算)		
- 燃料費調整勘定の変動	1,945	(1,640)
- 運転資本の増減	(803)	(41)
- 従業員退職給付制度の調整	(18)	10
- 税金支払額	(169)	(544)
	955	(2,215)
(iii) 資本的支出	(4,087)	(5,844)
(iv) 減算		
- 債務返済	(1,277)	-
- 正味金融費用	(1,527)	(1,078)
	(2,804)	(1,078)
当期分配可能利益	2,426	(1,329)
(v) 本信託証書第14.1(c)条に基づきHKエレクトリック・インベストメンツ社の取締役会が決定した任意の金額の加算 (下記注4参照)	404	4,159
任意項目調整後の当期分配可能利益	2,830	2,830

注1 本信託証書第1.1条が定める「本調整」には以下の項目が含まれるが、これらに限定されるものではない。

- (i) 本電力供給契約に基づく電気料金安定化基金及び電気料金減額準備金への／からの振替
- (ii) 減損引当金及び減損引当金の戻入を含む未実現再評価損益
- (iii) のれんの減損／負のれんの認識
- (iv) 重要な非資金損益
- (v) 本株式ステーブル受益証券の公募に係る費用で、連結損益計算書を通じて計上されるが、本株式ステーブル受益証券の発行による収入から支払われるもの
- (vi) 減価償却費及び償却費
- (vii) 連結損益計算書に表示された税金費用
- (viii) 連結損益計算書に表示された正味金融収入／費用

注2 本信託証書により、本トラスティ・マネジャーは、HKエレクトリック・インベストメンツ社の普通株式に関して (本トラストのために) 受け取った配当金、分配金及びその他金額の全額から、本信託証書に基づいて減額又は支払いが許容される全ての金額を控除した金額を分配することが要求される。

注3 本トラスティ・マネジャーがHKエレクトリック・インベストメンツ社から受け取る配当金は、関連する事業年度又は分配期間について本株式ステーブル受益証券保有者に帰属する監査済の連結純利益に、本信託証書が定める調整を行った本グループの分配可能利益から生じる。

注4 分配額の決定に当たり、HKエレクトリック・インベストメンツ社の取締役会は、該当年度において達成された本グループの財務業績及び営業活動からの安定したキャッシュ・フローを考慮した。取締役会は、本信託証券第14.1(c)条に基づいて本信託証券の定めによって計算された上記の任意の金額を、2023年12月31日に終了した年度の分配可能利益について調整することが適切であると考え。

(b) 本株式ステーブル受益証券/HKエレクトリック・インベストメンツ社株式保有者に支払われる分配金/配当金のうち、当期に帰属するもの

	2023年 百万香港ドル	2022年 百万香港ドル
中間分配金/第1中間配当金 本株式ステーブル受益証券1口当たり/HKエレクトリック・インベストメンツ社株式1株当たり15.94セント (2022年度:15.94セント)	1,408	1,408
報告期間終了後に提案された期末分配金/第2中間配当金 本株式ステーブル受益証券1口当たり/HKエレクトリック・インベストメンツ社株式1株当たり16.09セント (2022年度:16.09セント)	1,422	1,422
	2,830	2,830

2023年12月31日に終了した会計年度について、HKエレクトリック・インベストメンツ社取締役会は、報告期間の終了後、普通株式1株につき16.09セント(2022年度:16.09セント)、総額1,422百万香港ドル(2022年度:1,422百万香港ドル)の第2中間配当金の支払いを期末配当に代えて宣言した。このため、HKエレクトリック・インベストメンツ社取締役会は、期末配当を提案していない。

2023年12月31日に終了した会計年度について、本トラスティ・マネジャー取締役会は、報告期間の終了後、本株式ステーブル受益証券1口につき16.09セント(2022年度:16.09セント)、総額1,422百万香港ドル(2022年度:1,422百万香港ドル)の期末分配金を宣言した。

報告期間終了後に宣言された期末分配金/第2中間配当金は、2023年12月31日現在の本株式ステーブル受益証券口数/HKエレクトリック・インベストメンツ社の普通株式数8,836,200,000(2022年度:8,836,200,000)に基づいている。報告期間終了後に宣言された期末分配金/第2中間配当金は、報告期間の終了時点における負債として認識されていない。

(c) 本株式ステーブル受益証券/HKエレクトリック・インベストメンツ社株式保有者に支払われる分配金/配当金のうち、基準日が前期で効力発生日が当期に帰属するもの

	2023年 百万香港ドル	2022年 百万香港ドル
前期承認済の期末分配金/第2中間配当金 本株式ステーブル受益証券1口当たり/HKエレクトリック・インベストメンツ社株式1株当たり16.09セント (2022年度:16.09セント)	1,422	1,422

15 本株式ステーブル受益証券1口当たり利益/HKエレクトリック・インベストメンツ社株式1株当たり利益

基本的及び希薄化後本株式ステーブル受益証券1口当たり利益/HKエレクトリック・インベストメンツ社株式1株当たり利益は、本株式ステーブル受益証券/HKエレクトリック・インベストメンツ社普通株式の保有者に帰属する純利益3,156百万香港ドル（2022年度：2,954百万香港ドル）、及び当期における本株式ステーブル受益証券の加重平均発行済口数/HKエレクトリック・インベストメンツ社普通株式の加重平均発行済株式数8,836,200,000（2022年度：8,836,200,000）を基に算出している。

16 有形固定資産及び借地権

百万香港ドル	土地整備費用及び建物	自己使用のリース資産	工場及び機械装置	建物附属設備、器具備品及び車両運搬具	建設仮勘定	小計	自己使用の借地権	固定資産合計
取得原価								
2022年1月1日現在	18,620	2	60,298	1,157	11,925	92,002	6,960	98,962
取得	-	1	41	17	5,472	5,531	-	5,531
振替	1,903	-	4,501	123	(6,527)	-	-	-
処分	(7)	(1)	(327)	(9)	-	(344)	-	(344)
2022年12月31日及び 2023年1月1日現在	20,516	2	64,513	1,288	10,870	97,189	6,960	104,149
取得	-	3	73	19	4,244	4,339	1	4,340
振替	270	-	4,021	249	(4,540)	-	-	-
処分	(326)	(1)	(1,959)	(43)	-	(2,329)	-	(2,329)
2023年12月31日現在	20,460	4	66,648	1,513	10,574	99,199	6,961	106,160
減価償却累計額								
2022年1月1日現在	4,055	1	15,991	639	-	20,686	1,536	22,222
処分による減額	(3)	(1)	(225)	(9)	-	(238)	-	(238)
当期償却費	563	1	2,327	118	-	3,009	196	3,205
2022年12月31日及び 2023年1月1日現在	4,615	1	18,093	748	-	23,457	1,732	25,189
処分による減額	(177)	(1)	(1,836)	(43)	-	(2,057)	-	(2,057)
当期償却費	619	1	2,253	135	-	3,008	196	3,204
2023年12月31日現在	5,057	1	18,510	840	-	24,408	1,928	26,336
正味帳簿価額								
2023年12月31日	15,403	3	48,138	673	10,574	74,791	5,033	79,824
2022年12月31日	15,901	1	46,420	540	10,870	73,732	5,228	78,960

上記は主に電力関連の有形固定資産であり、これらに関連して当期に資産計上された借入コストは366百万香港ドル（2022年度：293百万香港ドル）である。

減価償却費の当期計上額には、開発活動において使用される資産に係る減価償却費103百万香港ドル（2022年度：85百万香港ドル）が含まれ、これらは資産計上されている。

17 のれん

(a) のれんの帳簿価額

	2023年 百万香港ドル	2022年 百万香港ドル
取得原価 1月1日／12月31日現在	33,623	33,623

(b) のれんの減損テスト

HEC社は、のれんが配分されている両グループ唯一の資金生成単位（以下「CGU」という。）である。

減損の兆候が発生した場合及び少なくとも年に1回、両グループはのれんが減損しているかどうかをテストする。のれんが配分されたCGUの回収可能価額は、使用価値の計算に基づいて決定される。この計算には、経営陣が承認した16年間（2022年度：16年間）の財政予算に基づいた税引前キャッシュ・フロー予測が用いられる。5年を超える期間の予測は、より長期の予測期間が発電及び送配電資産が長期に渡って使用されるという特徴を表し、新規制に基づくHEC社の将来キャッシュ・フローへの影響をより適切に反映することを基礎としている。予測キャッシュ・フローは7.08%（2022年度：6.79%）の税引前割引率を用いて割り引かれる。使用される割引率はCGUに関連する特有のリスクを反映している。16年を超える期間のキャッシュ・フローは1.0%（2022年度：1.0%）の期間成長率を用いて推定される。

2023年11月30日現在、のれんのレビューから生ずる減損の兆候はない。

割引率が7.17%（2022年度：7.09%）まで上昇した場合、CGUの回収可能価額は概ね帳簿価額と等しくなる。この点を除いて、使用価値の計算に用いられた他の主要な仮定について合理的に起こり得る変動は、2023年11月30日時点の減損テスト結果に関する経営陣の見解に影響を及ぼさない。

18 子会社への投資

2023年12月31日現在の子会社の詳細は以下の通りである。

子会社名	発行済株式資本 及び負債証券	HKエレクトリック・インベスト メンツ社による 株式保有割合	会社/ 事業所在地	主な 事業内容
センチュリー・ランク・リミ テッド	1米ドル	100%	英領ヴァージン 諸島/香港	投資 持株会社
トレジャー・ビジネス・リミ テッド	1米ドル	100% (注1)	英領ヴァージン 諸島/香港	投資 持株会社
ホンコン・エレクトリック・ カンパニー・リミテッド	2,411,600,000香港ドル	100% (注1)	香港	電力発電 及び供給
ホンコン・エレクトリック・ ファイナンス・リミテッド	1米ドル 香港ドル建固定金利債 8,704百万香港ドル 米ドル建固定金利債 1,750百万米ドル 香港ドル建ゼロクーポン債 1,056百万香港ドル 米ドル建任意償還権付 ゼロクーポン債 400百万米ドル (注記25参照)	100% (注1)	英領ヴァージン 諸島/香港	金融

注：(1) 間接保有

19 ジョイント・ベンチャーに対する持分

連結財務諸表上、持分法で会計処理されている両グループのジョイント・ベンチャーに対する持分の詳細は以下のとおりである。

ジョイント・ベンチャー名	発行済株式資本	両グループの持分	会社/ 事業所在地	主な事業内容
ホンコン・エルエヌジー・ターミナル・リミテッド（以下「HKLTL社」という。）	10香港ドル	30%	香港	香港の液化天然ガス（LNG）ターミナルの開発、建設、運営、保守及び所有、並びに関連サービスの提供

HKLTL社は、香港におけるLNGターミナルの開発を目的として、HEC社及びキャッスル・ピーク・パワー・カンパニー・リミテッド（以下「CAPCO社」という。）に共同所有されている。HKLTL社は、その重要な経営上及び財務上の決定に両株主の全員一致の合意を必要とすることから、HEC社とCAPCO社のジョイント・ベンチャーである。

両グループが参画する唯一のジョイント・ベンチャーであるHKLTL社は、その市場価格が入手不可能な非上場企業である。

以下の要約された財務情報は、香港財務報告基準に準拠して作成されたHKLTLの財務諸表に記載された金額、及び経営成績及び純資産に対する両グループの持分である。

	2023年 百万香港ドル	2022年 百万香港ドル
流動資産		
現金及び預金	11	25
その他の流動資産	114	11
	125	36
非流動資産	4,973	2,777
流動負債		
株主ローン	(86)	(38)
金融負債	(112)	-
買掛金及びその他の債務	(223)	(171)
	(421)	(209)
非流動負債		
株主ローン	(2,896)	(2,604)
金融負債	(1,781)	-
	(4,677)	(2,604)
純資産	-	-
収益	527	8
当期純利益	-	-
その他の包括利益	-	-
当期包括利益合計	-	-
上記の利益に計上されるもの:		
減価償却費及び償却費	123	-
金融費用	124	-

	2023年 百万香港ドル	2022年 百万香港ドル
純資産の両グループの持分 ジョイント・ベンチャーへの貸付（下記注記参照）	-	-
	895	793
	895	793

HEC社は、HKLTL社のLNGターミナル用の借地及び栈橋の建築の資金を調達する目的で、HKLTL社に対して合計699百万香港ドルの2区分の貸付枠を提供する株主ローン・ファシリティ契約をHKLTL社との間で2019年に締結した。上記の貸付については、どちらの区分も無担保であり、金利については市場金利を参照して決定される。2022年及び2023年において、HEC社はHKLTL社と上記ローン契約の変更契約書2通をそれぞれ締結し、2区分の貸付枠を合計978百万香港ドルに増額した。

20 棚卸資産

	2023年 百万香港ドル	2022年 百万香港ドル
石炭、燃料油及び天然ガス 貯蔵品及び材料（下記注記参照）	692	1,158
	311	288
	1,003	1,446

貯蔵品及び材料には、固定資産の将来の修繕に使用する目的で購入した貯蔵品138百万香港ドル（2022年度：137百万香港ドル）が含まれる。

21 売掛金及びその他の債権

	2023年 百万香港ドル	2022年 百万香港ドル
売掛金（損失評価引当後）（下記注記（a）及び（b）参照）	724	811
その他の債権（下記注記参照）	651	729
	1,375	1,540
デリバティブ（注記26参照）	1	1
預け金及び前渡金	93	90
	1,469	1,631

全ての売掛金及びその他の債権は1年以内に回収予定である。

両グループのその他の債権には、電力需要家から回収する請求書未発行の電力料金489百万香港ドル（2022年度：579百万香港ドル）が含まれる。

(a) 売掛金年齢分析

請求書日付を基準とした売掛金の年齢別内訳は以下の通りであり、個別にも集計しても減損は生じていないと考える。

	2023年 百万香港ドル	2022年 百万香港ドル
1ヵ月以内	664	748
1ヵ月超3ヵ月以内	48	56
3ヵ月超12ヵ月未満	12	7
	724	811

家庭用需要家、小規模な産業用需要家、商業用需要家及びその他の需要家に対する電気料金請求書は、請求書の提示時に支払期限が到来する一方、大口電力需要家には16営業日の信用期間が与えられている。大口電力需要家による支払いが信用期間経過後に行われた場合、請求書金額に5%の超過料金が上乘せされる。

(b) 売掛金に係る予想信用損失

両グループは売掛金に係る損失評価引当金について、引当マトリクスを用いて計算される全期間の予想信用損失に等しい金額で測定している。両グループは予想信用損失に係る引当金について、信用リスクの特徴が類似する売掛金ごとにグループ化し、現在の経済的環境を考慮したうえで集散的に回収可能性を評価して決定する。重要な金額が回収期日を大幅に超過している、倒産の事実がある又は回収活動に対する反応がない相手先に係る売掛金については、個別に減損引当を評価している。

両グループは売掛金を相手先の性質に応じて、主に継続先に対する債権と閉鎖先に対する債権に区分している。両グループの信用リスクに対するエクスポージャー及び売掛金に係る予想信用損失は以下の通りである。

	2023年			
	予想信用 損失率 %	総額での 帳簿価額 百万香港ドル	全期間の 予想信用損失 百万香港ドル	純額での 帳簿価額 百万香港ドル
継続先に対する債権				
集計単位で引当	2	691	(13)	678
閉鎖先に対する債権				
個別に引当	17	21	(4)	17
その他の引当金				
集計単位で引当	0	29	-	29
		741	(17)	724

	2022年			
	予想信用 損失率 %	総額での 帳簿価額 百万香港ドル	全期間の 予想信用損失 百万香港ドル	純額での 帳簿価額 百万香港ドル
継続先に対する債権 集計単位で引当	2	789	(12)	777
閉鎖先に対する債権 個別に引当	14	12	(2)	10
その他の引当金 集計単位で引当	0	24	-	24
		825	(14)	811

HEC社は保証金又は銀行保証の形式で需要家から担保を取得している（注記31（a）参照）。

売掛金に係る損失評価引当金の変動は、以下の通りである。

	2023年 百万香港ドル	2022年 百万香港ドル
1月1日現在	14	12
当会計期間において認識した減損損失	5	3
当会計期間において直接償却した金額	(2)	(1)
12月31日現在	17	14

22 燃料費調整勘定

HEC社は燃料費の実績をより適時に反映するため、電力売上1単位当たりの燃料費調整を月次で実施している。2023年5月において、HEC社は2023年5月に支払われる燃料費調整による加算額を2023年4月の水準に据え置いたため、全ての需要家に対して1単位あたり1.1セントの燃料特別割戻しを提供した（2022年：なし）。

燃料費調整勘定の変動は以下の通りである。

	2023年 百万香港ドル	2022年 百万香港ドル
1月1日現在	1,892	252
損益への組替	5,401	6,922
燃料費調整による加算額	(7,356)	(5,282)
燃料特別割戻し	10	-
12月31日現在	(53)	1,892

当該勘定には利息費用が含まれ、電力料金安定化のために使用される。

23 現金及び預金、その他のキャッシュ・フロー情報

(a) 現金及び預金は以下の通りである。

	2023年 百万香港ドル	2022年 百万香港ドル
銀行及び他の金融機関等への3ヵ月もの又は満期3ヵ月以内の預金	-	252
現金及び当座預金	21	73
銀行当座借越 - 無担保	(44)	-
連結キャッシュ・フロー計算書における現金及び現金同等物	(23)	325
銀行当座借越 - 無担保	44	-
連結財政状態計算書における現金及び当座預金	21	325

(b) 税引前純利益から、営業活動から生じたキャッシュ・フローへの調整

	注記	2023年 百万香港ドル	2022年 百万香港ドル
税引前純利益		3,616	3,548
調整項目：			
受取利息	7	(44)	(30)
金融費用	9	1,360	961
燃料費へ振り替えられた利息	9	35	33
減価償却費	10	2,905	2,924
借地権償却	10	196	196
有形固定資産の除却及び減損に係る純損失	10	256	88
資産除去債務引当金の増加	28 (a)	76	120
デリバティブの再評価による純損益及び為替差損益		(2)	5
運転資本の変動：			
棚卸資産の減少／(増加)		444	(549)
売掛金及びその他の債権の減少／(増加)		158	(372)
燃料費調整勘定の変動		1,945	(1,640)
買掛金、その他の債務及び契約負債の(減少)／増加		(1,280)	985
従業員退職給付制度資産／負債の(減少)／増加		(18)	10
資産除去債務の履行による支出	28 (a)	(124)	(5)
特別割戻し	13 (c)	-	(99)
スマート・パワー・ケア基金への拠出	13 (c)	(63)	(18)
営業活動から生じたキャッシュ・フロー		9,460	6,157

(c) 財務活動から生じるキャッシュ・フローに係る負債の変動の調整

下表は、両グループの財務活動からの負債の変動の詳細を示しており、キャッシュ・フローからの変動とキャッシュ・フロー以外からの変動の双方が含まれる。財務活動から生じる負債は、そのキャッシュ・フロー又は将来のキャッシュ・フローが両グループの連結キャッシュ・フロー計算書において財務活動からのキャッシュ・フローに分類される負債である。

百万香港ドル	銀行 借入金 (注記 25)	メディア ム・ター ム・ノート (注記 25)	預り 保証金	リース負債 (注記 28 (b))	借入金のヘ ッジ目的で 保有するデ リバティブ 金融商品 (資産)	借入金のヘ ッジ目的で 保有するデ リバティブ 金融商品 (負債)	合計
2023年1月1日現在	23,987	27,225	2,381	1	(1,289)	127	52,432
財務キャッシュ・フローから の変動							
銀行借入による収入	2,500	-	-	-	-	-	2,500
借入金の返済による支出	(3,477)	-	-	-	-	-	(3,477)
メディアム・ターム・ノートの償還	-	(300)	-	-	-	-	(300)
リース負債の支払額	-	-	-	(1)	-	-	(1)
預り保証金の受取	-	-	311	-	-	-	311
預り保証金の返還	-	-	(243)	-	-	-	(243)
合計	(977)	(300)	68	(1)	-	-	(1,210)
公正価値の変動	-	-	-	-	586	14	600
その他の変動							
リース負債の増加	-	-	-	3	-	-	3
借入利息及びその他の金融費用	7	220	-	-	-	-	227
2023年12月31日現在	23,017	27,145	2,449	3	(703)	141	52,052

百万香港ドル	銀行 借入金 (注記 25)	メディア ム・ター ム・ノート (注記 25)	預り 保証金	リース負債 (注記 28 (b))	借入金のヘ ッジ目的で 保有するデ リバティブ 金融商品 (資産)	借入金のヘ ッジ目的で 保有するデ リバティブ 金融商品 (負債)	合計
2022年1月1日現在	19,612	27,014	2,317	1	(389)	187	48,742
財務キャッシュ・フローから の変動							
銀行借入による収入	4,873	-	-	-	-	-	4,873
借入金の返済による支出	(500)	-	-	-	-	-	(500)
リース負債の支払額	-	-	-	(1)	-	-	(1)
預り保証金の受取	-	-	306	-	-	-	306
預り保証金の返還	-	-	(242)	-	-	-	(242)
合計	4,373	-	64	(1)	-	-	4,436
公正価値の変動	-	-	-	-	(900)	(60)	(960)
その他の変動							
リース負債の増加	-	-	-	1	-	-	1
借入利息及びその他の金融費用	2	211	-	-	-	-	213
2022年12月31日現在	23,987	27,225	2,381	1	(1,289)	127	52,432

24 買掛金、その他の債務及び契約負債

	2023年 百万香港ドル	2022年 百万香港ドル
買掛金及びその他の債務		
償却原価により測定される債務 (下記注記 (a) 参照)	3,381	4,718
リース負債 (注記28 (b) 参照)	2	-
デリバティブ (注記26参照)	1	40
	3,384	4,758
契約負債 (下記注記 (b) 参照)	33	63
	3,417	4,821

全ての買掛金及びその他の債務は1年以内に決済又は要求に応じて決済される予定である。

(a) 債務の年齢分析は以下の通りである。

	2023年 百万香港ドル	2022年 百万香港ドル
支払期限1ヵ月以内、又は要求払い	1,353	2,748
支払期限1ヵ月超3ヵ月以内	901	818
支払期限3ヵ月超12ヵ月未満	1,127	1,152
	3,381	4,718

(b) 契約負債

(i) 契約負債は電力関連サービスに関して顧客から受領した前受対価に関係するものであり、主に(1)大型開発案件における顧客の変電所への送電及び小規模開発案件における顧客の変電所を介さない送電などの恒常的なサービスや、(2)主に建設現場や特殊な用途への一時的な電力供給などのサービスから構成されている。これらの契約負債は、電力関連サービスが完成し次第、収益として認識される。

(ii) 契約負債の変動は、以下の通りである。

	2023年 百万香港ドル	2022年 百万香港ドル
1月1日現在	63	78
電力関連サービスの履行に係る事前請求による契約負債の増加	6	48
収益認識に伴う期首時点で契約負債に含まれていた契約負債の減少	(36)	(63)
12月31日現在	33	63

25 銀行借入金及びその他有利子負債

	2023年 百万香港ドル	2022年 百万香港ドル
銀行借入金	23,017	23,987
うち、一年以内返済部分	(415)	(257)
	22,602	23,730
香港ドル建ミディアム・ターム・ノート		
固定利率社債(下記注記(a)参照)	8,661	8,956
ゼロクーポン社債(下記注記(b)参照)	834	806
	9,495	9,762
一年以内返済部分	(300)	(300)
	9,195	9,462
米ドル建ミディアム・ターム・ノート		
固定利率社債(下記注記(a)参照)	13,581	13,565
ゼロクーポン社債(下記注記(b)参照)	4,069	3,898
	17,650	17,463
非流動部分	49,447	50,655

(a) 香港ドル建社債の固定利率は、年率2.4%から4%(2022年度:年率2.4%から4%)の範囲である。

米ドル建社債の固定利率は、年率1.875%から2.875%(2022年度:年率1.875%から2.875%)の範囲である。

(b) 香港ドル建ゼロクーポン社債は額面金額1,056百万香港ドル(2022年12月31日現在:1,056百万香港ドル)の割引債であり、付加利率は年率3.5%(2022年度:年率3.5%)である。

2023年12月31日現在、米ドル建ゼロクーポン社債の額面金額は400百万米ドル(2022年12月31日現在:400百万米ドル)であり、付加利率は年率4.375%(2022年度:年率4.375%)である。当該債券は2022年10月12日から償還期限の前年までの発行者による毎年の期限前償還オプションが組み込まれている。

- (c) 香港ドル建及び米ドル建ミディアム・ターム・ノートの発行者の詳細は、注記18に記載されている。
- (d) 両グループに対するいくつかの銀行融資枠は、両グループの財政状態計算書上の比率の一部に関連する財務制限条項の充足が条件となっており、これらの借入条項は金融機関との融資契約で一般的に用いられるものである。両グループが当該財務制限条項に違反した場合、使用済の融資枠は要求払いとなり、未使用の金額も取消される。両グループは、当該条項に準拠していることを定期的にモニターしている。両グループの流動性リスク管理に関する詳細は注記31（b）に記載されている。2023年12月31日及び2022年12月31日現在、使用済の融資枠に関連する財務制限条項への抵触は生じていない。
- (e) 非流動有利子負債のうち1年以内に決済される予定のものはない。上記の借入金は全て無担保である。

非流動有利子負債の返済予定は以下の通りである。

	2023年 百万香港ドル	2022年 百万香港ドル
1年超2年以内	300	1,300
2年超5年以内	29,974	29,351
5年超	19,173	20,004
	49,447	50,655

26 デリバティブ

	2023年		2022年	
	資産 百万香港ドル	負債 百万香港ドル	資産 百万香港ドル	負債 百万香港ドル
ヘッジ会計に利用されるデリバティブ				
キャッシュ・フロー・ヘッジ				
- クロス・カレンシー・スワップ	-	(92)	-	(41)
- 金利スワップ	602	(26)	972	(86)
- 先物外国為替予約	136	(64)	479	(8)
公正価値ヘッジ				
- 先物外国為替予約	-	-	-	(16)
	738	(182)	1,451	(151)
分類区分：				
流動	1	(1)	1	(40)
非流動	737	(181)	1,450	(111)
	738	(182)	1,451	(151)

27 従業員退職給付

両グループは全ての正社員に対して3つの退職金制度を提供している。

第1の制度（以下「年金制度」という。）は、従業員の最終基本給及び勤続年数に基づく年金給付を提供する。この制度は、確定給付退職金制度として会計処理される。

第2の制度は確定拠出であり、従業員に対して複数の投資ファンドの中から投資の選択肢を提供する。投資ファンドの1つは投資リターンを保証しており、確定給付退職金制度として会計処理される（以下「リターン保証制度」という。）。その他の投資ファンドはリターンを保証しておらず、確定拠出退職金制度として会計処理される（注記27（b）参照）。

これらの退職金制度は、「香港任意退職スキームに関する条例」の認定を受けた信託によって設立されている。制度資産は、受託ファンドによって両グループの資産から独立して管理されている。制度のガバナンスに対する責任は、投資先及び拠出の決定を含め、制度の信託証書に基づいて独立した管財人が負っている。

両グループは、「定年退職金に関する条例」に基づいて独立した認定ファンドによって運営されている、香港年金基金の強制積立金制度（以下「MPF制度」という。）にも加入している。MPF制度は、関連する規定に基づいて雇用主と従業員のそれぞれが制度に対して拠出する、確定拠出退職金制度である。MPF制度は雇用主による任意の積立についても規定しており、拠出金額は従業員の基本給に対する一定割合として計算される。

2000年12月に香港にてMPF制度が導入されて以来、年金制度とリターン保証制度は新規加入を締め切っており、全ての新規加入者はMPF制度に加入している。

（a）確定給付退職金制度

年金制度に関する拠出方針は、独立した専門的資格を有するウィリス・タワーズ・ワトソン・ホンコン・リミテッドの年金数理人によって定期的に行われる評価を基礎としている。当該方針では雇用主の拠出について、年金数理人からの継続的な提案に準拠して制度の積立を行うこととしている。使用される数理計算上の主要な仮定には、注記27（a）（viii）に開示されている割引率、長期予定昇給率及び年金給付上昇率の他、死亡率、離職率、短期的な給与水準の上昇に関する市場の期待を反映した調整が含まれる。年金制度に関する直近の年金数理評価は、2021年1月1日時点においてウィン・ルイ氏（FSA）を代表とする年金数理人によって行われた。当該評価によると、評価基準日において年金制度資産の合計は受給権が確定している確定給付債務の合計を上回っている。

確定給付退職金制度により、両グループは投資リスク、金利リスク、給与変動リスクにさらされており、また年金制度によって長寿リスク及びインフレーション・リスクにさらされている。

2023年12月31日に終了した事業年度において認識した退職金制度に係る費用及び収益は、香港会計基準第19号「従業員給付」（2011年）に基づいて決定している。

(i) 連結財政状態計算書において認識した金額は以下の通りである。

	2023年 百万香港ドル	2022年 百万香港ドル
確定給付退職金制度資産の公正価値	3,085	3,065
確定給付債務の現在価値	(2,308)	(2,341)
	777	724
分類区分：		
従業員退職給付制度資産	968	882
従業員退職給付制度債務	(191)	(158)
	777	724

上記資産／債務の一部が実現又は決済されるのに1年超を要するが、将来の拠出額は将来に提供されるサービス、将来の数理計算上の仮定及び市場環境の変動に関連することから、12ヵ月以内の支払債務を当該金額から区別することは実務的でない。

(ii) 確定給付退職金制度における制度資産の公正価値の変動は、以下の通りである。

	2023年 百万香港ドル	2022年 百万香港ドル
1月1日現在	3,065	3,816
利息収益	109	51
利息収益を除く制度資産から生じた収益	130	(533)
雇用主による制度への拠出	32	35
従業員による制度への拠出	9	11
給付支払	(260)	(315)
12月31日現在	3,085	3,065

両グループは2024年度において、35百万香港ドルを制度に拠出する予定である。

(iii) 確定給付退職金制度における確定給付債務の現在価値の変動は、以下の通りである。

	2023年 百万香港ドル	2022年 百万香港ドル
1月1日現在	2,341	3,121
当期勤務費用	38	52
利息費用	85	44
従業員による拠出	9	11
数理計算上の差異		
- 実績による修正	2	(23)
- 財務上の仮定の変更	93	(552)
- 人口統計学上の仮定の変更	-	3
給付支払	(260)	(315)
12月31日現在	2,308	2,341

(iv) 有形固定資産の取得に係る人件費の資産計上前に、連結損益計算書において費用として認識した金額は以下の通りである。

	2023年 百万香港ドル	2022年 百万香港ドル
当期勤務費用	38	52
純確定給付資産／債務に係る利息収益純額	(24)	(7)
	14	45

(v) 上記の費用は、連結損益計算書上、以下の勘定科目において認識されている。

	2023年 百万香港ドル	2022年 百万香港ドル
直接原価	8	31
その他の営業費用	6	14
	14	45

(vi) 連結包括利益計算書において認識した数理計算上の差異の累計額は、以下の通りである。

	2023年 百万香港ドル	2022年 百万香港ドル
1月1日現在	725	686
純確定給付資産／債務の再測定により、連結包括利益計算書において認識した金額	35	39
12月31日現在	760	725

(vii) 制度資産の主な構成は以下の通りである。

	2023年 百万香港ドル	2022年 百万香港ドル
香港持分証券	220	259
欧州持分証券	155	156
北米持分証券	517	460
アジア・パシフィック諸国及びその他持分証券	143	132
グローバル債	2,005	2,001
預金、現金その他	45	57
	3,085	3,065

リスクとリターンに関して戦略的な投資意思決定が行われている。

(viii) 12月31日時点において使用された主要な数理計算上の仮定は、以下の通りである。

	2023年	2022年
割引率		
－年金制度	3.5%	4.0%
－リターン保証制度	2.9%	3.4%
長期予定昇給率	5.0%	5.0%
年金給付上昇率	2.5%	2.5%

(ix) 感応度分析

(1) 年金制度

	2023年 百万香港ドル	2022年 百万香港ドル
数理計算上の仮定	確定給付債務への影響	
割引率		
－ 0.25%増加	(36)	(34)
－ 0.25%減少	37	36
年金給付上昇率		
－ 0.25%増加	36	35
－ 0.25%減少	(35)	(33)
特定の年齢に使用される死亡率		
－ 1年延長	(50)	(45)
－ 1年短縮	50	45

(2) リターン保証制度

	2023年 百万香港ドル	2022年 百万香港ドル
数理計算上の仮定	確定給付債務への影響	
割引率		
－ 0.25%増加	(12)	(13)
－ 0.25%減少	12	14
保証リターン率		
－ 0.25%増加	12	14

上記の感応度分析は、他の全ての仮定が一定である場合のある仮定の変動に基づいている。実際には、仮定の中には相互に関連して変動するものもある。確定給付債務の重要な数理計算上の仮定に対する感応度を計算するにあたり、連結財政状態計算書において認識した退職給付債務を計算する場合と同様の方法（退職給付債務の現在価値を報告期間の終了時点において予測単位積増方式により計算する方法）を適用している。当該分析は2022年と同様の基準によって行われている。

(x) 確定給付債務の加重平均デュレーションは下表の通りである。

	2023年	2022年
年金制度	10.8 年	10.8 年
リターン保証制度	5.1 年	5.3 年

(b) 確定拠出退職金制度

	2023年 百万香港ドル	2022年 百万香港ドル
連結損益計算書において認識	77	71

受給権の失効した拠出金2,046,000香港ドル(2022年度:1,492,000香港ドル)を、当会計年度において受領している。受給権の失効した拠出金(すなわち、雇用主が拠出しているが、従業員が拠出金の全額を受領する権利を確定する前に制度から脱退する場合)は、既存の拠出金との相殺には使用されない。

28 その他の非流動負債

	2023年 百万香港ドル	2022年 百万香港ドル
引当金(下記注記(a)参照)	1,381	1,429
リース負債(下記注記(b)参照)	1	1
	1,382	1,430

(a) 引当金

	2023年 百万香港ドル
資産除去債務引当金	
1月1日現在	1,429
追加引当金	76
引当金の使用	(124)
12月31日現在	1,381

本電力供給契約では、HKエレクトリック・インベストメンツ社が有形固定資産を解体・撤去し、当該資産が設置されていた敷地の原状回復義務を負う範囲において、当該固定資産の取得時、若しくは、電力関連活動のための一定期間における使用に応じて、最善の見積りにより資産除去債務引当金を計上することが求められている。

(b) リース負債

以下の表は、報告期間末日現在における契約上の満期までの残存期間ごとの、両グループのリース負債の一覧である。

	2023年		2022年	
	最低リース料 の現在価値 百万香港ドル	最低リース料 合計 百万香港ドル	最低リース料 の現在価値 百万香港ドル	最低リース料 合計 百万香港ドル
1年以内	2	2	-	-
1年超2年以内	1	1	1	1
	3	3	1	1
減算： 将来の支払利息合計		-		-
リース負債の現在価値		3		1

29 連結財政状態計算書における法人所得税

(a) 連結財政状態計算書における未払税金

	2023年 百万香港ドル	2022年 百万香港ドル
香港事業所得税		
当事業年度における香港事業所得税計上額	909	187
過年度に係る未払事業所得税残高	(20)	(38)
	889	149

(b) 繰延税金負債

	2023年 百万香港ドル	2022年 百万香港ドル
繰延税金負債	10,124	10,495

(i) 連結財政状態計算書において認識した繰延税金負債（資産）の内訳及び当事業年度における変動は以下の通りである。

百万香港ドル	減価償却差額	燃料費 調整勘定	確定給付 退職金制度	その他	合計
2022年1月1日現在	9,861	42	65	14	9,982
損益計上額	176	270	(2)	(2)	442
その他の包括利益計上額	-	-	7	63	70
直接資本で認識された額	-	-	-	1	1
2022年12月31日及び 2023年1月1日現在	10,037	312	70	76	10,495
損益計上額	52	(321)	3	3	(263)
その他の包括利益計上額	-	-	6	(115)	(109)
直接資本で認識された額	-	-	-	1	1
2023年12月31日現在	10,089	(9)	79	(35)	10,124

(ii) 2023年12月31日現在及び2022年12月31日現在、両グループにおいて未計上の重要な繰延税金資産又は負債は存在しない。

30 資本、剰余金及び配当金

(a) 資本項目の変動

両グループの資本項目の期首残高から期末残高への変動については、連結持分変動計算書に記載されている。HKエレクトリック・インベストメンツ社の資本の個別項目の期首残高から期末残高への変動は、以下の通りである。

HKエレクトリック・インベストメンツ社

	資本金	資本剰余金	ヘッジ損益	利益剰余金	提案済/ 宣言済 配当金	合計
百万香港ドル	注記30 (b)	注記30 (c)	注記30 (d) (i)	注記30 (d) (ii)	注記14	
2022年1月1日現在残高	8	47,472	(95)	3,307	1,422	52,114
2022年持分変動額：						
当期純利益	-	-	-	3,387	-	3,387
その他の包括利益	-	-	460	-	-	460
包括利益合計	-	-	460	3,387	-	3,847
前年度第2中間配当金 (注記14(c)参照)	-	-	-	-	(1,422)	(1,422)
第1中間配当金 (注記14(b)参照)	-	-	-	(1,408)	-	(1,408)
第2中間配当金提案額 (注記14(b)参照)	-	-	-	(1,422)	1,422	-
2022年12月31日及び 2023年1月1日現在残高	8	47,472	365	3,864	1,422	53,131
2023年持分変動額：						
当期純利益	-	-	-	3,705	-	3,705
その他の包括利益	-	-	(135)	-	-	(135)
包括利益合計	-	-	(135)	3,705	-	3,570
前年度第2中間配当金 (注記14(c)参照)	-	-	-	-	(1,422)	(1,422)
第1中間配当金 (注記14(b)参照)	-	-	-	(1,408)	-	(1,408)
第2中間配当金提案額 (注記14(b)参照)	-	-	-	(1,422)	1,422	-
2023年12月31日現在残高	8	47,472	230	4,739	1,422	53,871

全ての資本剰余金及び利益剰余金は分配可能である。HKエレクトリック・インベストメンツ社取締役会は、普通株式1株当たり16.09セント（2022年度：16.09セント）の第2中間配当金、総額1,422百万香港ドル（2022年度：合計1,422百万香港ドル）を期末配当の代わりに宣言した。このため、HKエレクトリック・インベストメンツ社取締役会は期末配当を提案していない。

(b) 資本金

HKエレクトリック・インベストメンツ社

	2023年	
	株式数	額面価額 香港ドル
授権株式資本：		
普通株式（額面0.0005香港ドル） 1月1日及び12月31日現在	20,000,000,000	10,000,000
優先株式（額面0.0005香港ドル） 1月1日及び12月31日現在	20,000,000,000	10,000,000
発行済及び払込済資本金：		
普通株式（額面0.0005香港ドル） 1月1日及び12月31日現在	8,836,200,000	4,418,100
優先株式（額面0.0005香港ドル） 1月1日及び12月31日現在	8,836,200,000	4,418,100

	2022年	
	株式数	額面価額 香港ドル
授権株式資本：		
普通株式（額面0.0005香港ドル） 1月1日及び12月31日現在	20,000,000,000	10,000,000
優先株式（額面0.0005香港ドル） 1月1日及び12月31日現在	20,000,000,000	10,000,000
発行済及び払込済資本金：		
普通株式（額面0.0005香港ドル） 1月1日及び12月31日現在	8,836,200,000	4,418,100
優先株式（額面0.0005香港ドル） 1月1日及び12月31日現在	8,836,200,000	4,418,100

(c) 資本剰余金

資本剰余金は、本株式ステーブル受益証券の発行価額から引受手数料及びグローバル・オフERINGに伴い資本に計上された上場費用を控除した金額の、普通株式及び優先株式の額面価額に対する超過額である。資本剰余金の取扱いは、ケイマン諸島会社法第34条及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の変更・書換済の基本定款及び付随定款において規定されている。

(d) その他の資本の構成要素の内容及び目的

(i) ヘッジ損益

ヘッジ損益はキャッシュ・フロー・ヘッジ剰余金とヘッジコスト剰余金を含む。キャッシュ・フロー・ヘッジ剰余金は、注記3 (q) (ii) に記載の会計方針に基づいて、キャッシュ・フロー・ヘッジに利用されたヘッジ手段に係る公正価値の純変動額の累積額（税効果考慮後）のうちヘッジが有効な部分で、ヘッジ対象となるキャッシュ・フローが未だ認識されていないものから構成される。香港財務報告基準第9号「金融商品」では、両グループが先物為替予約の先渡要素及び金融商品の外貨ベース・スプレッド（「除外された要素」）をヘッジ手段の指定から除外する場合、除外された要素はヘッジのコストとして区分して会計処理することができる。除外された要素に係る公正価値の変動は、ヘッジ対象に関連する範囲で資本の独立の内訳項目であるヘッジコスト剰余金として認識される。

以下の表は、ヘッジ損益の構成要素のリスク分類別の調整表及びヘッジ会計から生じたその他の包括利益の分析を示している。

(1) キャッシュ・フロー・ヘッジ剰余金

百万香港ドル	金利リスク	為替リスク	合計
2022年1月1日現在残高	(183)	600	417
その他の包括利益として認識したヘッジ手段の公正価値変動の有効部分	1,012	7	1,019
純損益への組替額（下記注記1参照）	23	-	23
その他の包括利益に計上された純繰延税額	(95)	(1)	(96)
	940	6	946
ヘッジ対象の当初帳簿価額への振替額（税引後）（下記注記2参照）	-	3	3
2022年12月31日及び	757	609	1,366
2023年1月1日現在残高 （下記注記3参照）			
その他の包括利益として認識したヘッジ手段の公正価値変動の有効部分	(125)	18	(107)
純損益への組替額（下記注記1参照）	(269)	-	(269)
その他の包括利益に計上された純繰延税額	43	(3)	40
	(351)	15	(336)
ヘッジ対象の当初帳簿価額への振替額（税引後）（下記注記2参照）	-	3	3
2023年12月31日現在残高 （下記注記3参照）	406	627	1,033

(注1) 純損益に振り替えられた金額は、連結損益計算書上「金融費用」として認識される。

(注2) ヘッジ対象の当初帳簿価額への振替額は、連結財政状態計算書上「有形固定資産」又は「棚卸資産」として認識される。

(注3) 残高は継続中のヘッジに係るものである。

(2) ヘッジコスト剰余金

百万香港ドル	外貨ベース・スプレッド	先渡要素	合計
2022年1月1日現在残高	(25)	(388)	(413)
期間に関連したヘッジ対象に係るヘッジ			
-その他の包括利益として認識したヘッジ手段の公正価値変動の有効部分	(20)	(114)	(134)
-純損益への組替額（下記注記1参照）	-	(63)	(63)
取引に関連したヘッジ対象に係るヘッジ			
-その他の包括利益として認識したヘッジ手段の公正価値変動の有効部分	-	(2)	(2)
-ヘッジ対象の当初帳簿価額への振替額（下記注記2参照）	-	1	1
その他の包括利益に計上された純繰延税額	3	30	33
2022年12月31日及び 2023年1月1日現在残高 （下記注記3参照）	(42)	(536)	(578)
期間に関連したヘッジ対象に係るヘッジ			
-その他の包括利益として認識したヘッジ手段の公正価値変動の有効部分	33	(428)	(395)
-純損益への組替額（下記注記1参照）	-	(63)	(63)
取引に関連したヘッジ対象に係るヘッジ			
-その他の包括利益として認識したヘッジ手段の公正価値変動の有効部分	-	5	5
-ヘッジ対象の当初帳簿価額への振替額（下記注記2参照）	-	1	1
その他の包括利益に計上された純繰延税額	(5)	80	75
2023年12月31日現在残高 （下記注記3参照）	(14)	(941)	(955)

(注1) 純損益に振り替えられた金額は、連結損益計算書上「金融費用」として認識される。

(注2) ヘッジ対象の当初帳簿価額への振替額は、連結財政状態計算書上「有形固定資産」又は「棚卸資産」として認識される。

(注3) 残高は継続中のヘッジに係るものである。

(ii) 利益剰余金

利益剰余金はHKエレクトリック・インベストメンツ社及び子会社において留保された累積利益、及びHKエレクトリック・インベストメンツ社の確定給付資産／負債の再測定から生じた数理計算上の差異によって構成される。

(e) 資本の管理

両グループにおける資本管理の主たる目的は以下の通りである。

- 両グループが本株式ステーブル受益証券保有者に対するリターンを提供と他の利害関係者への利益の提供を継続できるよう、継続企業としての存続を前提とした両グループの能力を保護すること
- 合理的コストによる資金調達手段を確保することにより、本株式ステーブル受益証券保有者へリターンを提供すること
- 両グループの安定性及び将来の成長を支えること
- 両グループのリスク管理能力を強化するための資本を提供すること

両グループは定期的且つ能動的に、両グループにおける将来の資金需要、資本効率、予測収益性、予測営業キャッシュ・フロー、予測資本的支出及び予測投資機会を勘案した上で資本構成を見直し、管理している。

両グループは資本構成を純負債純資本比率に基づいてモニターしている。この目的において両グループは、純負債を有利子負債（連結財政状態計算書で表示されている）から銀行預金及び現金を控除した金額と定義している。また、純資本の定義には、純負債及び資本の全ての構成要素（連結財政状態計算書で表示されている）が含まれる。

2023年における両グループの戦略は、2022年と同様、負債水準を一定に保つことで合理的コストによる資金調達手段を確保することである。両グループは負債水準を一定に保つ又は調整するために、本信託証書に基づく本株式ステーブル受益証券保有者に対する分配金額の調整、本株式ステーブル受益証券の新規発行、負債による資金調達又は負債削減のための資産の売却を行っている。

2023年12月31日現在及び2022年12月31日現在における純負債純資本比率は以下の通りである。

	2023年 百万香港ドル	2022年 百万香港ドル
銀行借入金及びその他有利子負債	50,162	51,212
銀行当座借越 - 無担保	44	-
控除：現金及び預金	(21)	(325)
純負債	50,185	50,887
総資本	48,978	49,333
純負債	50,185	50,887
純資本合計	99,163	100,220
純負債純資本比率	51%	51%

31 財務リスク管理及び金融商品の公正価値

両グループは、通常の業務上、信用リスク、流動性リスク、金利リスク及び為替リスクにさらされている。両グループの資金管理方針に基づいて、デリバティブは、営業、財務及び投資活動から発生する為替及び金利の変動に係るエクスポージャーをヘッジするためにのみ使用される。両グループは、デリバティブを売買又は投機を目的として保有又は発行しない。

(a) 信用リスク

両グループにおける信用リスクは、主として電力需要家に対する売掛金及びその他の債権、銀行預金、ヘッジを目的として相対取引を行ったデリバティブに係るものである。両グループにおいて信用リスクに関する方針が整備され、これらの信用リスクに対するエクスポージャーについて継続的にモニターされている。

HEC社は、電力需要家に対する売掛金及びその他の債権について、電力供給規則に基づいて、保証金又は銀行保証の形式で需要家から担保を取得している。担保がカバーする2023年12月31日現在の売掛金及びその他の債権合計額は451百万香港ドル（2022年12月31日現在：508百万香港ドル）である。与信に関する方針は注記21に記載されている。

両グループは、信用リスクを軽減するためにデリバティブ取引又は保証金を設定する場合、取引相手の信用格付けについての最低要求水準及び取引金額の上限を定めている。両グループの取引相手による債務不履行は想定されていない。

両グループにおける電力需要家に対する売掛金及びその他の債権について、上位5件の需要家に対する売上高の合計は両グループの総売上高の30%以下であることから、重要な信用リスクの集中は存在しない。

信用リスクに対するエクスポージャーの最大値は、連結財政状態計算書において認識されているデリバティブを含む金融資産の帳簿価額である。

両グループの売掛金及びその他の債権から生じる信用リスクのエクスポージャーに関するその他の定量的情報は、注記21に記載されている。

金融資産と金融負債の相殺

両グループのデリバティブ取引は、一定の状況下において全ての取引残高を解消し純額決済する条件付き相殺権利が付与される、国際スワップデリバティブ協会基本契約（ISDA）又は金融機関の一般的な契約条件に基づいて金融機関との間で締結されるが、金融機関が法的に執行可能な相殺権を有する認識金額はなく、両グループも純額ベースで決済する意思や資産の実現と負債の決済を同時に行う意思を有していないことから、これらの金融商品は報告期間末日において全て総額で計上されている。

以下の表は、執行可能な基本相殺契約の対象となっているものの、報告期間末日において相殺されていない金融商品の金額を表している。

百万香港ドル	注	2023年			2022年			
		連結財政状態計算書上の金融商品総額	相殺されていない関連金融商品	純額	連結財政状態計算書上の金融商品総額	相殺されていない関連金融商品	純額	
金融資産								
	金利スワップ	31 (f) (i)	602	(118)	484	972	(114)	858
	先物外国為替予約	31 (f) (i)	136	(64)	72	479	(37)	442
	合計		738	(182)	556	1,451	(151)	1,300
金融負債								
	クロス・カレンシー・スワップ	31 (f) (i)	92	(92)	-	41	(41)	-
	金利スワップ	31 (f) (i)	26	(26)	-	86	(86)	-
	先物外国為替予約	31 (f) (i)	64	(64)	-	24	(24)	-
	合計		182	(182)	-	151	(151)	-

(b) 流動性リスク

両グループは、リスク管理の向上及び資金コストの最小化を目的として、集中資金管理システムを運用している。両グループは、短期的及び長期的な流動性要件を満たす十分な資金及び融資枠を確実に確保するために、現在及び将来の流動性要件及び財務制限条項の遵守状況を定期的にモニターする方針としている。両グループの2023年12月31日現在における未使用の銀行融資枠は6,535百万香港ドルである（2022年12月31日現在：3,400百万香港ドル）。

以下の表は、報告期間末日現在における契約上の満期日及び要求される可能性のある最短の支払日ごとの、両グループの非デリバティブ金融負債及びデリバティブの一覧であり、金額は契約上の割引前キャッシュ・フロー（契約上の金利、又は変動金利の場合は、報告期間末日の金利を基に計算した支払利息を含む。）に基づいている。

百万香港ドル	2023年					
	契約上の割引前キャッシュ・アウトフロー（インフロー）					12月31日 現在の 帳簿価額
	1年以内 又は要求払い	1年超 2年以内	2年超 5年以内	5年超	合計	
非デリバティブ 金融負債						
銀行借入金、その他の借入金及び未払利息	2,680	2,251	32,364	28,578	65,873	50,390
銀行当座借越 - 無担保	44	-	-	-	44	44
買掛金及び未払費用	3,056	-	-	-	3,056	3,056
	5,780	2,251	32,364	28,578	68,973	53,490
デリバティブ						
純額決済：						
金利スワップ及び関連未払利息	(394)	(395)	(439)	(80)	(1,308)	(593)
総額決済：						
クロス・カレンシー・スワップ及び関連未払利息						86
-アウトフロー	202	201	180	55	638	
-インフロー	(197)	(197)	(172)	(59)	(625)	(72)
キャッシュ・フロー・ヘッジに利用される先物外国為替予約：						
-アウトフロー	1,553	-	3,379	13,372	18,304	
-インフロー	(1,551)	-	(3,510)	(14,013)	(19,074)	
その他の先物外国為替予約：						
-アウトフロー	144	-	-	-	144	
-インフロー	(144)	-	-	-	(144)	

百万香港ドル	2022年					12月31日 現在の 帳簿価額
	契約上の割引前キャッシュ・アウトフロー（インフロー）					
	1年以内 又は要求払い	1年超 2年以内	2年超 5年以内	5年超	合計	
非デリバティブ						
金融負債						
銀行借入金、その他の借入金及び未払利息	2,389	3,075	32,851	29,991	68,306	51,426
買掛金及び未払費用	4,445	-	-	-	4,445	4,445
	6,834	3,075	32,851	29,991	72,751	55,871
デリバティブ						
純額決済：						
金利スワップ及び関連未払利息	(292)	(312)	(651)	(103)	(1,358)	(900)
総額決済：						
クロス・カレンシー・スワップ及び関連未払利息						35
-アウトフロー	202	202	349	87	840	
-インフロー	(197)	(197)	(340)	(88)	(822)	
キャッシュ・フロー・ヘッジに利用される先物外国為替予約：						(471)
-アウトフロー	176	4	3,378	13,372	16,930	
-インフロー	(171)	(3)	(3,510)	(14,013)	(17,697)	
その他の先物外国為替予約：						16
-アウトフロー	302	-	-	-	302	
-インフロー	(287)	-	-	-	(287)	

(c) 金利リスク

両グループは、有利子資産及び有利子負債からの金利リスクにさらされている。金利リスクとは、市場金利の変動により金融商品の公正価値又は金融商品から生じる将来のキャッシュ・フローが変動するリスクである。両グループの金利リスクは主に長期の外部借入金に係るものである。

(i) 金利リスクのヘッジ

両グループの方針は、固定金利及び変動金利の借入金のバランスを維持することで、金利リスクを抑制するものである。また、両グループは資金管理方針に基づいてリスクを管理するため、クロス・カレンシー・スワップ及び金利スワップを行っている。

両グループは、クロス・カレンシー・スワップ及び金利スワップをキャッシュ・フロー・ヘッジ又は公正価値ヘッジに分類しており、注記3（q）に記載の会計方針に基づいて公正価値で計上している。クロス・カレンシー・スワップの外貨ベース・スプレッドはヘッジ手段の指定から除外され、資本の独立の内訳項目であるヘッジコスト剰余金として認識される。

両グループは、ベンチマーク金利のみをヘッジし、1：1のヘッジ比率の適用を図っている。クロス・カレンシー・スワップ／金利スワップと固定金利及び変動金利の借入との経済的関係性は、参照金利、金利期間、金利改定日、満期日、利払及び／又は受領日、スワップの想定元本及び借入金の元本残高を含む、重要な契約条件の一致に基づいて判断される。

これらのヘッジ関係におけるヘッジ非有効部分の主な発生原因は、以下の通りである。

- 取引相手及び両グループ自身の信用リスクがスワップの公正価値に及ぼす影響
- スワップと借入金の金利改定日の相違

(ii) 金利構成

以下の表は、キャッシュ・フロー・ヘッジ又は公正価値ヘッジとして分類したクロス・カレンシー・スワップ及び金利スワップの効果考慮後の、報告期間末日における両グループの純有利子資産及び有利子負債に係る金利構成を表している（上記（i）参照）。

	2023年		2022年	
	加重平均 金利 (%)	百万香港ドル	加重平均 金利 (%)	百万香港ドル
純固定利付資産／（負債）：				
銀行及び他の金融機関への預金	-	-	4.06	252
銀行借入金及びその他の借入金	2.71	(37,265)	2.72	(37,333)
		(37,265)		(37,081)
純変動利付資産／（負債）：				
銀行預金及び手元現金	0.03	21	0.03	73
銀行借入金及びその他の借入金	6.25	(12,897)	5.65	(13,879)
銀行当座借越 - 無担保	5.88	(44)	-	-
預り保証金	0.88	(2,449)	0.63	(2,381)
		(15,369)		(16,187)

(iii) 感応度分析

2023年12月31日時点において、他の条件が一定と仮定すると、1%の金利の増加／減少によって、両グループの税引後純利益及び利益剰余金は116百万香港ドル（2022年12月31日現在：121百万香港ドル）減少／増加し、他の連結株主資本の構成要素は268百万香港ドル（2022年12月31日現在：331百万香港ドル）増加／減少すると試算された。

上記の感応度分析は、金利の変動が報告期間の末日において発生し、これが当該報告期間末日において存在するデリバティブ及び非デリバティブ双方の金利リスクに対して適用されると仮定して計算している。当該分析は2022年と同様の基準によって行われている。

(d) 為替リスク

両グループは、主に両グループの機能通貨以外の通貨建で行われる購買取引や借入からの為替リスクにさらされている。為替リスクが生じる通貨は、主に米ドル及び日本円である。

(i) 為替リスクのヘッジ

両グループの方針では、両グループの資金管理方針に基づいて外貨建借入金額の100%をヘッジすること及び予定取引に関して見積られた為替変動に係るエクスポージャーをヘッジすることとしている。また、両グループは為替リスクの管理、キャッシュ・フロー・ヘッジと公正価値ヘッジの区分及びそれらのヘッジを公正価値で計上するため、注記3（q）に記載されている方針に基づいて先物外国為替予約及びクロス・カレンシー・スワップを行っている。両グループは、先物外国為替予約の直物要素を指定して為替リスクをヘッジしている。先物外国為替予約の先渡要素は、ヘッジ手段の指定から除外してヘッジのコストとして区分して会計処理しており、ヘッジコスト剰余金として資本に認識されている。両グループは、先物為替予約の重要な契約条件をヘッジ対象の条件と整合させる方針を有している。

両グループはヘッジ比率を1：1に設定しており、先物為替予約と確定約定及び予定取引／外貨建借入の経済的関係性を、関連するキャッシュ・フローの通貨、金額及び発生時期に基づいて判断している。

これらのヘッジ関係におけるヘッジ非有効部分の主な発生原因は、以下の通りである。

- 取引相手及び両グループ自身の信用リスクが先物外国為替予約の公正価値に及ぼす影響
- ヘッジされた取引の発生時期の変化

両グループの借入は、先物外国為替予約及びクロス・カレンシー・スワップによって香港ドルにヘッジされているか又は香港ドル建で行われている。経営陣は両グループの借入金に関連する重要な為替リスクを想定していない。

(ii) 為替リスクのエクスポージャー

以下の表は、報告期間末日における、両グループの機能通貨以外の通貨建の認識済資産及び負債から生じる為替リスクに対するエクスポージャーの詳細である。

	2023	
	百万米ドル	百万円
現金及び預金	-	1
買掛金、その他の債務及び契約負債	(96)	(1,407)
銀行借入金及びその他の借入金	(2,272)	-
認識済資産及び負債に係るエクスポージャー総額	(2,368)	(1,406)
ヘッジ指定された先物外国為替予約の想定元本	1,340	131
ヘッジ指定されたクロス・カレンシー・スワップの想定元本	950	-
認識済資産及び負債に係るエクスポージャー純額	(78)	(1,275)

	2022	
	百万米ドル	百万円
現金及び預金	32	2
買掛金、その他の債務及び契約負債	(189)	(1,126)
銀行借入金及びその他の借入金	(2,250)	-
認識済資産及び負債に係るエクスポージャー総額	(2,407)	(1,124)
ヘッジ指定された先物外国為替予約の想定元本	1,329	986
ヘッジ指定されたクロス・カレンシー・スワップの想定元本	950	-
認識済資産及び負債に係るエクスポージャー純額	(128)	(138)

(iii) 感応度分析

以下の表は、香港ドルに対し各通貨が10%上昇した場合の、報告期間末日における両グループの税引後純利益（及び利益剰余金）及び連結株主資本の他の構成要素に与える影響を示したものである。

	2023年		2022年	
	税引後純利益及び利益剰余金の増加（減少）	連結株主資本の他の構成要素の増加（減少）	税引後純利益及び利益剰余金の増加（減少）	連結株主資本の他の構成要素の増加（減少）
百万円	-	-	1	5

香港ドルに対して各通貨が10%低下した場合の各報告期間末日における両グループの税引後純利益（及び利益剰余金）及び連結株主資本の他の構成要素に与える影響額は、上表の数値の正負を逆にした金額である。

上記の感応度分析は、外国為替レートの変化が、両グループが為替リスクを負っている金融商品の報告期間末日時点における再測定に適用され、他の全ての変数、特に金利が一定であることを前提としている。この点で、香港ドルと米ドルの間での固定為替相場が、他国通貨に対する米ドルの価値の変化によって実質的に影響を受けないことを前提としている。当該分析は2022年と同様の基準により行われている。

(e) ヘッジ会計

以下の表は、2023年12月31日に終了した事業年度及び2022年12月31日に終了した事業年度における両グループのヘッジ手段、ヘッジ対象及びヘッジされるリスクを表している。

(i) キャッシュ・フロー・ヘッジ

ヘッジ手段	2023										
	満期日	加重平均 固定スワ ップレ ート/契約 レート	ヘッジ手段の想 定元本残高 百万香港ドル	連結財政状態計算書において認識されてい る帳簿価額				ヘッジ非有効部分を算定するために 使用した公正価値の変動			
				非流動資産 に計上され ているデリ バティブ 百万香港 ドル	売掛金 及びその 他の 債権 百万香 港ドル	非流動負債 に計上され ているデリ バティブ 百万香港 ドル	買掛金、 その他の 債務及び 契約負債 百万香港 ドル	ヘッジ 手段 百万香港 ドル	ヘッジ 対象 百万香港 ドル	純損益に認 識したヘッ ジ非有効部 分 百万香港 ドル	
(1) 外貨建借入金の為替リスク及び変動金利の借入金の金利リスクのヘッジ											
クロス・カ レンシー・ス ワップ及び金 利スワップ	2026年- 2035年	2.09%	27,668	602	-	(118)	-	(125)	125	-	
(2) 確定約定及び予定取引の為替リスクのヘッジ											
先物外国為替 予約	2024年- 2032年	下記注 記参照	8,493	34	1	(40)	(1)	5	(5)	-	
(3) 外貨建借入金の為替リスクのヘッジ											
先物外国為替 予約	2027年- 2032年	下記注 記参照	9,811	101	-	(23)	-	13	(13)	-	

ヘッジ手段	2022										
	満期日	加重平均 固定スワ ップレ ート/契約 レート	ヘッジ手段の想 定元本残高 百万香港ドル	連結財政状態計算書において認識されてい る帳簿価額				ヘッジ非有効部分を算定するために 使用した公正価値の変動			
				非流動資産 に計上され ているデリ バティブ 百万香港 ドル	売掛金 及びその 他の 債権 百万香 港ドル	非流動負債 に計上され ているデリ バティブ 百万香港 ドル	買掛金、 その他の 債務及び 契約負債 百万香港 ドル	ヘッジ 手段 百万香港 ドル	ヘッジ 対象 百万香港 ドル	純損益に認 識したヘッ ジ非有効部 分 百万香港 ドル	
(1) 外貨建借入金の為替リスク及び変動金利の借入金の金利リスクのヘッジ											
クロス・カ レンシー・ス ワップ及び金 利スワップ	2023年- 2035年	2.09%	27,668	972	-	(110)	(17)	1,012	(1,012)	-	
(2) 確定約定及び予定取引の為替リスクのヘッジ											
先物外国為替 予約	2023年- 2032年	下記注 記参照	7,284	161	1	(1)	(7)	-	-	-	
(3) 外貨建借入金の為替リスクのヘッジ											
先物外国為替 予約	2027年- 2032年	下記注 記参照	9,646	317	-	-	-	7	(7)	-	

(ii) 公正価値ヘッジ

ヘッジ手段	2023										
	満期日	加重平均 固定スワップ レート/契約 レート	想定元本残 高 百万香港ド ル	連結財政状態計算書において認識されて いる帳簿価額				ヘッジ非有効部分を算定するため に使用した公正価値の変動			
				非流動資 産に計上 されている デリバ ティブ 百万香港 ドル	売掛金及 びその他 の債権 百万香港 ドル	非流動負 債に計上 されてい るデリバ ティブ 百万香港 ドル	買掛金、 その他の 債務及び 契約負債 百万香港 ドル	ヘッジ 手段 百万香港 ドル	ヘッジ 対象 百万香港 ドル	純損益に認 識したヘッ ジ非有効部 分 百万香港 ドル	
先物外国為替予約	2024年	下記 参照	144	-	-	-	-	-	-	-	

ヘッジ対象	2023		
	ヘッジ対象の 帳簿価額 (公正価値ヘッジ調整 の累計額を含む) 百万香港ドル	ヘッジ対象の 公正価値ヘッジ 調整累計額 百万香港ドル	ヘッジ対象が含まれる 連結財政状態計算書の 勘定科目
金融負債	(145)	-	買掛金、その他の債務 及び契約負債

ヘッジ手段	2022										
	満期日	加重平均 固定スワップ レート/契約 レート	想定元本残 高 百万香港ド ル	連結財政状態計算書において認識されて いる帳簿価額				ヘッジ非有効部分を算定するため に使用した公正価値の変動			
				非流動資 産に計上 されている デリバ ティブ 百万香港 ドル	売掛金及 びその他 の債権 百万香港 ドル	非流動負 債に計上 されてい るデリバ ティブ 百万香港 ドル	買掛金、 その他の 債務及び 契約負債 百万香港 ドル	ヘッジ 手段 百万香港 ドル	ヘッジ 対象 百万香港 ドル	純損益に認 識したヘッ ジ非有効部 分 百万香港 ドル	
先物外国為替予約	2023年	下記 参照	302	-	-	-	(16)	(8)	8	-	

ヘッジ対象	2022		
	ヘッジ対象の 帳簿価額 (公正価値ヘッジ調整 の累計額を含む) 百万香港ドル	ヘッジ対象の 公正価値ヘッジ 調整累計額 百万香港ドル	ヘッジ対象が含まれる 連結財政状態計算書の 勘定科目
金融負債	(286)	16	買掛金、その他の債務 及び契約負債

以下の表は、報告期間末における先物外国為替予約残高の加重平均契約レートに関する情報を表している。

	2023年	2022年
加重平均契約レート		
USD : HKD	7.4867	7.4620
JPY : HKD	0.0543	0.0703
GBP : HKD	-	8.9438
EUR : HKD	8.5846	8.9349
JPY : USD	118.1725	102.0011
GBP : USD	-	1.3338

(f) 公正価値の測定

以下の表は、継続的に報告期間末において測定される両グループの金融資産の公正価値を表しており、香港財務報告基準第13号「公正価値評価」が定義する3つのレベルの公正価値ヒエラルキーに分類されている。分類される公正価値測定レベルは、以下の通り、評価技法に利用されたインプットの観察可能性と重要性に基づいて決定される。

- レベル1評価：レベル1のインプット、すなわち、測定日において同一の資産又は負債に関する活発な市場における未調整の相場価額のみを用いて測定された公正価値
- レベル2評価：レベル2のインプット、すなわち、レベル1の要件は満たさないが観察可能なインプットを用いて測定された公正価値で、重要な観察可能でないインプットを用いていないもの。観察可能でないインプットとは、市場データが入手可能でないインプットをいう。
- レベル3評価：重要な観察可能でないインプットを用いて測定された公正価値

(i) 継続的な公正価値測定

	注記	レベル2	
		2023年 百万香港ドル	2022年 百万香港ドル
金融資産			
デリバティブ：			
— 金利スワップ	31 (a)	602	972
— 先物外国為替予約	31 (a)	136	479
		738	1,451
金融負債			
デリバティブ：			
— クロス・カレンシー・スワップ	31 (a)	92	41
— 金利スワップ	31 (a)	26	86
— 先物外国為替予約	31 (a)	64	24
		182	151

(ii) 公正価値以外で計上される金融商品の公正価値

売掛金及びその他の債権、買掛金、その他の債務及び契約負債、外部借入金は、取得原価又は償却原価で計上されており、2023年12月31日現在及び2022年12月31日現在、計上額とそれらの公正価値との間に重要な乖離は生じていない。

(iii) 評価技法及びレベル2の公正価値測定におけるインプット

先物外国為替予約の公正価値は、報告期間末における市場の先物為替レートを使用して決定される。クロス・カレンシー・スワップ及び金利スワップの公正価値は、契約からの将来キャッシュ・フローを現在の市場金利で割り引くことによって決定される。

32 コミットメント

(a) 財務諸表に計上されていない、12月31日現在の両グループの未履行の資本的支出コミットメントは、以下の通りである。

	2023年 百万香港ドル	2022年 百万香港ドル
契約締結済： 有形固定資産購入目的の資本的支出	5,832	6,702
契約未締結（承認済）： 有形固定資産購入目的の資本的支出	21,073	10,412

(b) 2023年12月31日現在のジョイント・ベンチャーの資本的支出コミットメントに対する両グループの持分は31百万香港ドル（2022年：59百万香港ドル）である。

2023年12月31日現在のジョイント・ベンチャーのリース及びその他のコミットメントに対する両グループの持分は約700百万香港ドル（2022年：1,627百万香港ドル）である。

33 偶発債務

2023年12月31日現在、両グループは、外部の当事者に対する保証又は補償の義務を負っていない（2022年12月31日現在：なし）。

34 重要な関連当事者取引

当期における両グループの重要な関連当事者取引は、以下の通りである。

(a) 本株式ステーブル受益証券保有者

PAH社グループから回収したサポート・サービス費用

その他の営業費用には、PAH社グループへのサポート・サービス及びオフィス設備の提供のために発生したサポート・サービス費用の回収額45百万香港ドル（2022年度：43百万香港ドル）が含まれている。サポート・サービス費用は、サービス及び設備の提供又は調達のために発生した総費用に基づいて、サービス提供に要した職員の時間を考慮し、PAH社グループに公正且つ公平に割り当てられる。

2023年12月31日現在、PAH社グループに対する債権の未決済残高は6百万香港ドル（2022年度：4百万香港ドル）である。

(b) ジョイント・ベンチャー

(i) 両グループが実施したHKLTL社への株主ローン・ファシリティ契約の詳細及び2023年12月31日現在の貸付残高は注記19に開示されている。

(ii) 株主ローン・ファシリティ契約に関連し、当期に計上されたHKLTL社からの受取利息は36百万香港ドル（2022年度：27百万香港ドル）である。

(iii) HEC社、CAPCO社及びHKLTL社間で締結されたLNGターミナルの開発に係る共同開発契約に基づいて、HEC社及びCAPCO社は、LNGターミナルの開発と建設におけるプロジェクト管理及びHKLTL社へのサポートを実施する。2023年度において、HKLTL社はHEC社に対し12百万香港ドル分の関連費用を払い戻した（2022年度：11百万香港ドル）。

(iv) HEC社、CAPCO社及びHKLTL社間で締結されたターミナルの使用に係る契約に基づいて、HKLTL社は184百万香港ドル分（2022年度：3百万香港ドル）の経営サービス費用及び35百万香港ドル分（2022年度：1百万香港ドル）の施設サービス費用を回収した。

(v) HEC社及びHKLTL社間で締結された出向契約及びマスターサービスに係る契約に基づいて、HEC社は、HKLTL社への様々な企業サポートを実施する。2023年度において、HKLTL社はHEC社に対し8百万香港ドル分のサービス費用を払い戻した（2022年度：1百万香港ドル）。

(c) 経営幹部の報酬

両グループの経営幹部の報酬は注記12に開示されている。

(d) 関連取引への香港上場規則の適用

上記34(a)に記載した関連当事者取引は、香港上場規則第14A章が定義する継続的関連取引に該当するが、当該取引について香港上場規則第14A章で要求される開示は免除されている。

35 HKエレクトリック・インベストメンツ社の財政状態計算書

	注記	2023年 百万香港ドル	2022年 百万香港ドル
非流動資産			
子会社投資		62,349	61,463
デリバティブ		241	408
		62,590	61,871
流動資産			
売掛金及びその他の債権		63	60
現金及び預金		1	1
		64	61
流動負債			
買掛金及びその他の債務		(92)	(95)
正味流動負債		(28)	(34)
流動負債控除後の資産合計		62,562	61,837
非流動負債			
銀行借入金		(8,681)	(8,673)
デリバティブ		(10)	(33)
		(8,691)	(8,706)
純資産		53,871	53,131
資本金及び剰余金	30 (a)		
資本金		8	8
剰余金		53,863	53,123
資本合計		53,871	53,131

2024年3月19日付の取締役会にて承認された。

チェン・チョー・イン, フランシス

取締役

チャン・ロイ・シュン

取締役

36 本トラスト・グループの本株式ステーブル受益証券の大量保有者

本トラスト・グループの本株式ステーブル受益証券は香港証券取引所のメインボードに上場されており、一般に広く保有されている。2023年12月31日現在、PAH社、ステート・グリッド社及びカタール投資庁が、それぞれ発行済本株式ステーブル受益証券の約33.37%、21.00%及び19.90%を保有しており、本株式ステーブル受益証券の大量保有者と認識されている。

37 重要な会計上の判断及び見積り

両グループの会計方針の適用に当たって取締役が使用した方法、見積り及び判断は、両グループの財政状態及び経営成績に対して重要な影響を与える。一部の会計方針は、本質的に不確実性を有する事項について、両グループによる見積り及び判断の適用を要求している。両グループの会計方針に適用されている重要な会計上の判断は以下の通りである。

(a) 減価償却及び償却

有形固定資産は、見積残存価額を考慮の上、見積耐用年数に渡って定額法で減価償却される。両グループは、資産の耐用年数、及び該当ある場合には残存価額を年次で見直している。借地権は残存リース期間又はリース資産の予想耐用年数のうち短い方の期間に渡って定額法で償却される。償却期間及び償却方法は年次で見直しされる。将来期間に係る減価償却費及び償却費は、過去の見積りからの重要な変更があった場合に調整される。

(b) 減損

両グループは、各報告期間末日において両グループの有形固定資産及び借地権が減損している兆候がないかを検討し、注記3(h)(ii)に記載の会計方針に基づいて、のれんの減損の有無を年次でテストしている。

両グループの有形固定資産、借地権及びのれんについて計上すべき可能性のある減損損失を検討するにあたり、回収可能価額を決定する必要がある。回収可能価額は、処分コスト控除後の公正価値と使用価値のうちいずれか大きい方の金額である。市場価格が容易に入手可能ではないため、処分コスト控除後の公正価値の正確な見積りは困難である。使用価値の算定に当たっては、資産又はのれんが配分された資金生成単位から生み出される予測キャッシュ・フローを現在価値に割り引くが、これには重要な判断を伴う。両グループは、回収可能価額の合理的な近似値を決定するために、全ての入手可能な情報を利用する。

上記によって認識される減損損失の多寡は、将来の期間に係る純利益に影響を与える。

2023年12月31日に終了した会計年度におけるのれんの減損テストに使用された主要な仮定については、注記17を参照のこと。

38 2023年12月31日に終了した事業年度において公表されているが発効していない改訂、新基準及び解釈指針の影響

本財務諸表の発行日までに、香港公認会計士協会は多くの香港財務報告基準の改訂を公表したが、これらは2023年12月31日に終了した事業年度において効力を生じておらず、本財務諸表において適用されていない。これらには、両グループに影響を及ぼす可能性のある以下の改訂が含まれている。

	適用される会計期間の開始日
香港会計基準第1号の改訂「負債の流動又は非流動への分類」	2024年1月1日
香港会計基準第1号の改訂「特約条項付きの非流動負債」	2024年1月1日
香港会計基準第21号の改訂「交換可能性の欠如」	2025年1月1日

両グループは、適用初年度における当該改訂の影響について評価を行っている。これまでのところ、両グループの財務諸表に関連はするものの、当該改訂及び新会計基準の適用が両グループの経営成績及び財政状態に重要な影響を与える可能性は低いと結論付けている。

IX. 本トラスティ・マネジャーの経理状況

1. 独立監査人の監査報告書

(訳文)

独立監査人の監査報告書

HKエレクトリック・インベストメンツ・マネジャー・リミテッド (香港有限責任法人) 一人株主 御中

監査意見

当監査法人は、173ページから181ページ (訳者注: 原文のページ) に掲載されている、HKエレクトリック・インベストメンツ・マネジャー・リミテッド (以下「本トラスティ・マネジャー」という。) の2023年12月31日現在の財政状態計算書、同日をもって終了した事業年度の損益及び包括利益計算書、持分変動計算書及びキャッシュ・フロー計算書、並びに重要性がある会計方針に関する情報及びその他の説明的情報を含む注記から構成される財務諸表について監査を行った。

当監査法人は、財務諸表が香港公認会計士協会が公表する香港財務報告基準等及び香港会社条例に準拠して、本トラスティ・マネジャーの2023年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了した事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、真実かつ適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、香港公認会計士協会が公表した香港監査基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、香港公認会計士協会の職業会計士倫理規範に従って、本トラスティ・マネジャーから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

財務諸表及びその監査報告書以外のその他の記載内容

本トラスティ・マネジャー (HKエレクトリック・インベストメンツのトラスティ・マネジャーとしての地位において) 及びHKエレクトリック・インベストメンツ・リミテッドの取締役は、その他の記載内容に対して責任を負っている。その他の記載内容は、年次報告書に含まれる情報のうち、本トラスティ・マネジャーの財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。

当監査法人の本トラスティ・マネジャーの財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

本トラスティ・マネジャーの財務諸表の監査に関連する当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と本トラスティ・マネジャーの財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、当該事実を報告することが求められている。その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表に対する取締役の責任

本トラスティ・マネジャーの取締役の責任は、香港公認会計士協会が公表した香港財務報告基準等及び香港会社

条例に準拠して財務諸表を作成し真実かつ適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために取締役が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、取締役は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかを評価し、継続企業に関連する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。取締役は、清算若しくは事業停止の意図があるか、又はそれ以外に現実的な代替案がない場合を除いて、継続企業を前提として財務諸表を作成する責任を負う。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。本報告書は、香港会社条例第405条に基づいて宛名人に対してのみ作成されており、これを唯一の目的とする。当監査法人は、本報告書の内容についてこれ以外の者に対する責任又は義務を負わない。

合理的な保証は高い水準の保証であるが、香港監査基準に準拠して実施した監査がすべての重要な虚偽表示を常に発見することを保証するものではない。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、香港監査基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による本トラスティ・マネジャーの財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。不正による重要な虚偽表示を発見できないリスクは、誤謬による重要な虚偽表示を発見できないリスクよりも高くなる。これは不正には、共謀、文書の偽造、取引等の簿外処理、虚偽の説明又は内部統制の無効化を伴うためである。
- ・財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性に対する意見を表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・取締役が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに取締役によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・取締役が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象又は状況により、本トラスティ・マネジャーは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、取締役に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

KPMG

公認会計士

香港 セントラル

チャーター ロード 10番地

プリンスズ ビルディング 8階

2024年3月19日



Independent Auditor's Report

To the Sole Member of HK Electric Investments Manager Limited

(Incorporated in Hong Kong with limited liability)

Opinion

We have audited the financial statements of HK Electric Investments Manager Limited (the "Company") set out on pages 173 to 181, which comprise the statement of financial position as at 31 December 2023, the statement of profit or loss and other comprehensive income, the statement of changes in equity and the cash flow statement for the year then ended and notes, comprising material accounting policy information and other explanatory information.

In our opinion, the financial statements give a true and fair view of the financial position of the Company as at 31 December 2023 and of its financial performance and cash flows for the year then ended in accordance with Hong Kong Financial Reporting Standards ("HKFRSs") issued by the Hong Kong Institute of Certified Public Accountants ("HKICPA") and have been properly prepared in compliance with the Hong Kong Companies Ordinance.

Basis for opinion

We conducted our audit in accordance with Hong Kong Standards on Auditing ("HKSA") issued by the HKICPA. Our responsibilities under those standards are further described in the *Auditor's responsibilities for the audit of the financial statements* section of our report. We are independent of the Company in accordance with the HKICPA's *Code of Ethics for Professional Accountants* ("the Code") and we have fulfilled our other ethical responsibilities in accordance with the Code. We believe that the audit evidence we have obtained is sufficient and appropriate to provide a basis for our opinion.

Information other than the financial statements and auditor's report thereon

The Directors of the Company (in its capacity as the trustee-manager of HK Electric Investments) and of HK Electric Investments Limited are responsible for the other information. The other information comprises all the information included in the annual report, other than the financial statements and our auditor's report thereon.

Our opinion on the financial statements does not cover the other information and we do not express any form of assurance conclusion thereon.

In connection with our audit of the financial statements, our responsibility is to read the other information and, in doing so, consider whether the other information is materially inconsistent with the financial statements or our knowledge obtained in the audit or otherwise appears to be materially misstated.

If, based on the work we have performed, we conclude that there is a material misstatement of this other information, we are required to report that fact. We have nothing to report in this regard.

Responsibilities of the Directors for the financial statements

The Directors of the Company are responsible for the preparation of financial statements that give a true and fair view in accordance with HKFRSs issued by the HKICPA and the Hong Kong Companies Ordinance and for such internal control as the Directors determine is necessary to enable the preparation of financial statements that are free from material misstatement, whether due to fraud or error.

In preparing the financial statements, the Directors are responsible for assessing the Company's ability to continue as a going concern, disclosing, as applicable, matters related to going concern and using the going concern basis of accounting unless the Directors either intend to liquidate the Company or to cease operations or have no realistic alternative but to do so.

Auditor's responsibilities for the audit of the financial statements

Our objectives are to obtain reasonable assurance about whether the financial statements as a whole are free from material misstatement, whether due to fraud or error, and to issue an auditor's report that includes our opinion. This report is made solely to you, in accordance with section 405 of the Hong Kong Companies Ordinance, and for no other purpose. We do not assume responsibility towards or accept liability to any other person for the contents of this report.

Reasonable assurance is a high level of assurance, but is not a guarantee that an audit conducted in accordance with HKSAAs will always detect a material misstatement when it exists. Misstatements can arise from fraud or error and are considered material if, individually or in the aggregate, they could reasonably be expected to influence the economic decisions of users taken on the basis of these financial statements.

As part of an audit in accordance with HKSAAs, we exercise professional judgement and maintain professional scepticism throughout the audit. We also:

- Identify and assess the risks of material misstatement of the financial statements, whether due to fraud or error, design and perform audit procedures responsive to those risks, and obtain audit evidence that is sufficient and appropriate to provide a basis for our opinion. The risk of not detecting a material misstatement resulting from fraud is higher than for one resulting from error, as fraud may involve collusion, forgery, intentional omissions, misrepresentations, or the override of internal control.
- Obtain an understanding of internal control relevant to the audit in order to design audit procedures that are appropriate in the circumstances, but not for the purpose of expressing an opinion on the effectiveness of the Company's internal control.
- Evaluate the appropriateness of accounting policies used and the reasonableness of accounting estimates and related disclosures made by the Directors.
- Conclude on the appropriateness of the Directors' use of the going concern basis of accounting and, based on the audit evidence obtained, whether a material uncertainty exists related to events or conditions that may cast significant doubt on the Company's ability to continue as a going concern. If we conclude that a material uncertainty exists, we are required to draw attention in our auditor's report to the related disclosures in the financial statements or, if such disclosures are inadequate, to modify our opinion. Our conclusions are based on the audit evidence obtained up to the date of our auditor's report. However, future events or conditions may cause the Company to cease to continue as a going concern.
- Evaluate the overall presentation, structure and content of the financial statements, including the disclosures, and whether the financial statements represent the underlying transactions and events in a manner that achieves fair presentation.

We communicate with the Directors regarding, among other matters, the planned scope and timing of the audit and significant audit findings, including any significant deficiencies in internal control that we identify during our audit.

KPMG

Certified Public Accountants
8th Floor, Prince's Building
10 Chater Road
Central, Hong Kong

19 March 2024

2. 本トラスティ・マネジャーの財務諸表

HK エレクトリック・インベストメンツ・マネジャー・リミテッドの損益及び包括利益計算書

2023年12月31日に終了した事業年度

[単位：香港ドル]

	注記	2023年 香港ドル	2022年 香港ドル
収益		-	-
一般管理費		-	-
税引前純利益	4	-	-
法人所得税	5	-	-
当期利益及び包括利益合計		-	-

HKエレクトリック・インベストメンツ・マネジャー・リミテッドの財政状態計算書

2023年12月31日現在

[単位：香港ドル]

	注記	2023年 香港ドル	2022年 香港ドル
流動資産			
直接親会社に対する債権	7	1	1
純資産		1	1
資本金及び剰余金			
資本金	8	1	1
剰余金		-	-
資本合計		1	1

2024年3月19日付の取締役会にて承認された。

チェン・チョー・イン, フランシス
取締役

チャン・ロイ・シュン
取締役

HKエレクトリック・インベストメンツ・マネジャー・リミテッドの持分変動計算書

2023年12月31日に終了した事業年度

[単位：香港ドル]

	資本金 香港ドル	剰余金 香港ドル	合計 香港ドル
2022年1月1日現在残高	1	-	1
2022年持分変動額： 当期純利益及び包括利益合計	-	-	-
2022年12月31日及び2023年1月1日現在残高	1	-	1
2023年持分変動額： 当期純利益及び包括利益合計	-	-	-
2023年12月31日現在残高	1	-	1

HKエレクトリック・インベストメンツ・マネジャー・リミテッドのキャッシュ・フロー計算書

2023年12月31日に終了した事業年度

[単位：香港ドル]

	2023年 香港ドル	2022年 香港ドル
営業活動		
営業活動から生じた正味キャッシュ・フロー	-	-
投資活動		
投資活動に使用された正味キャッシュ・フロー	-	-
財務活動		
財務活動に使用された正味キャッシュ・フロー	-	-
現金及び現金同等物増減額	-	-
1月1日現在の現金及び現金同等物	-	-
12月31日現在の現金及び現金同等物	-	-

HKエレクトリック・インベストメンツ・マネジャー・リミテッドの財務諸表に対する注記

[単位：香港ドル（特段の記載がない限り）]

1 一般事項

HKエレクトリック・インベストメンツ・マネジャー・リミテッド（以下「本トラスティ・マネジャー」という。）は、香港会社条例に基づいて2013年9月25日に香港で設立された、PAH社が間接所有する完全子会社である。PAH社は香港で設立され、その株式は香港証券取引所に上場されており、米国の店頭取引市場において米国預託証券が売買されている。本トラスティ・マネジャーの登記上の事務所及び主たる事業所の住所は、香港ケネディ・ロード44番地、香港エレクトリック・センターである。

本トラスティ・マネジャーの主な事業活動は、HKエレクトリック・インベストメンツ（以下「本トラスト」という。）のトラスティ・マネジャーとしての地位に基づく、本トラストの管理である。本トラストは、香港の法律に基づいて、本トラスティ・マネジャーが本トラストのトラスティ・マネジャーとしての地位においてHKエレクトリック・インベストメンツ・リミテッドと締結した本信託証書により、2014年1月1日に組成された。

本トラストの管理に係るコスト及び費用は、本トラストがその受益証券の名簿上の保有者のために保有する全ての信託財産及びあらゆる権利から控除可能であるが、本トラスティ・マネジャーは、その特定且つ限定された役割に応じて、本トラストの管理に対する報酬を受領しない。

2 重要性がある会計方針

(a) コンプライアンス・ステートメント

財務諸表は、該当する香港財務報告基準等（香港公認会計士協会により公表され適用されている個々の香港財務報告基準、香港会計基準及びそれらの解釈の総称をいう。）、香港で一般に認められた会計原則及び香港会社条例の要求事項に準拠して作成されている。また、財務諸表は香港証券取引所の上場規則による開示規定にも準拠している。本トラスティ・マネジャーが適用している重要性がある会計方針は以下に開示されている。

香港公認会計士協会は、本トラスティ・マネジャーの当会計期間において初めて適用される、若しくは早期適用が可能となる香港財務報告基準のいくつかの改訂を発表した。本トラスティ・マネジャーの財務諸表に反映されている当会計期間及び前会計期間に関連する限りにおいて、当該改訂等の初度適用に伴う会計方針の変更に関する情報は、注記3に記載されている。

(b) 財務諸表の作成及び表示の基礎

財務諸表は取得原価を測定的基础として作成されている。

香港財務報告基準等に準拠した財務諸表の作成は、会計方針の適用や資産・負債・収益・費用の報告金額に影響する、経営陣による判断、見積り及び仮定の使用を要求する。見積り及び関連する仮定は、状況に照らして合理的であると考えられる過去の経験やその他の様々な要因に基づいており、これらの結果が他の手段では容易に明らかとならない資産及び負債の帳簿価額を判断する上での基礎を形成する。実際の業績はこれらの見積りと異なる場合がある。

見積り及びその基礎となる仮定は継続して見直される。会計上の見積りの修正は、その影響が修正された会計期間に限定される場合は見積りが修正された会計期間において認識され、影響が修正された会計期間及び将来の会計期間の双方に及ぶ場合には、見積りが修正された会計期間及び将来の会計期間において認識される。

本信託証書により、本トラスティ・マネジャーは、HKエレクトリック・インベストメンツ・リミテッドの普通株式に関して（本トラストのために）受け取った配当金、分配金及びその他金額の全額から、本信託証書に基づいて減額又は支払いが許容される全ての金額を控除した金額を分配することが要求される。

本信託証書に基づき、本トラスティ・マネジャーの財務諸表には分配金計算書が含まれるが、分配金の詳細については、124ページ（訳者注：原文のページ）の本トラスト及びHKエレクトリック・インベストメンツ・リミテッドの連結財務諸表の注記14に記載されているため、本財務諸表において分配金計算書は表示されていない。

(c) キャッシュ・フロー計算書

本トラスティ・マネジャーにおいて、当期及び前期にいかなるキャッシュ・フローも生じておらず、当期及び前期の全期間を通じて現金及び現金同等物を所有していない。

(d) 関連当事者

(i) 個人又は当該個人の近親者が以下のいずれかに該当する場合は、当該個人又は近親者は、本トラスティ・マネジャーの関連当事者である。

- (1) 本トラスティ・マネジャーを支配又は共同支配している。
- (2) 本トラスティ・マネジャーに対し重要な影響力を持つ。
- (3) 本トラスティ・マネジャー又はその親会社の経営幹部の一員である。

(ii) 企業が以下のいずれかに該当する場合は、当該企業は本トラスティ・マネジャーの関連当事者である。

- (1) 当該企業と本トラスティ・マネジャーが同一のグループの構成企業である（すなわち、親会社、子会社、兄弟会社はそれぞれ他に対し関連する。）。
- (2) 一方の企業がもう一方の企業のジョイント・ベンチャー又は関連会社である（又はもう一方の企業が所屬するグループのジョイント・ベンチャー又は関連会社である。）。
- (3) 双方の企業が同じ第三者のジョイント・ベンチャーである。
- (4) 一方の企業がある第三者のジョイント・ベンチャーであり、もう一方の企業が当該第三者の関連会社である。
- (5) 当該企業が本トラスティ・マネジャー又は本トラスティ・マネジャーの関連当事者である法人の従業員の福利厚生のための退職給付制度である。
- (6) 当該企業が、上記注記2（d）（i）で特定された個人に支配又は共同支配されている。
- (7) 上記注記2（d）（i）（1）で特定された個人が当該企業に対し重要な影響力を持つ、又は当該企業（若しくは当該企業の親会社）の経営幹部の一員である。
- (8) 当該企業（又は企業が属する企業集団の一員）が経営幹部を本トラスティ・マネジャー又はその親会社に派遣している。

個人の近親者とは、企業との取引において、個人に影響を与える、又は影響を受けることが見込まれる家族のことである。

3 会計方針の変更

香港公認会計士協会は、本トラスティ・マネジャーの当会計期間において初めて適用される香港財務報告基準等のいくつかの改訂を発行した。これらの香港財務報告基準等の改訂を適用することによる、本トラスティ・マネジャーの財務諸表に与える影響は軽微である。

本トラスティ・マネジャーは、当会計期間において効力を生じていない新会計基準、改訂又は解釈を適用していない。

4 税引前純利益

本トラスティ・マネジャーの監査報酬62,000香港ドル（2022年：60,000香港ドル）及び本トラスティの管理のためのその他全ての費用762,985香港ドル（2022年：752,564香港ドル）は、HKエレクトリック・インベストメンツ・リミテッドが負担しており、その費用回収の権利は放棄されている。

上記を除き、当期及び前期に本トラスティ・マネジャーにおける管理費用は発生していない。

5 法人所得税

本トラスティ・マネジャーにおいて、当期及び前期に課税所得が発生していないため、財務諸表上、香港事業所得税は計上されていない。

6 取締役の報酬

当期及び前期において取締役に支払った手数料や報酬はないため、香港会社条例第383条1項及び会社（取締役への給付に係る開示）規定第2部に基づいた取締役の報酬の開示はない。

7 直接親会社に対する債権

直接親会社に対する債権は無担保・無利子であり、要求時に返済される。

8 資本金

	2023年		2022年	
	株式数	香港ドル	株式数	香港ドル
発行済かつ払込済普通株式				
1月1日及び12月31日現在	1	1	1	1

香港会社条例第135条に基づき、本トラスティ・マネジャーの普通株式は無額面株式である。

9 資本の管理

本トラスティ・マネジャーにおける資本管理の主たる目的は、本トラスティ・マネジャーが一人株主へのリターン提供と他の利害関係者への利益提供を継続できるよう、継続企業としての存続を前提とした本トラスティ・マネジャーの能力を保護することにある。本トラスティ・マネジャーはより大きなグループの一部であるため、本トラスティ・マネジャーの追加資本の調達源や余剰資本の分配方針は、当該グループにおける資本管理の目的的影響を受ける可能性がある。

本トラスティ・マネジャーは、「資本」を資本の全構成要素と定義している。本トラスティ・マネジャーは定期的且つ能動的に、将来の資金需要及び事業活動のために資本構成を見直し、管理している。本トラスティ・マネジャーは、本トラストの運営に関する特定且つ限定的な役割を担っている。全ての資金需要は最終親会社によって完全にサポートされる。

当期及び前期において、本トラスティ・マネジャーに外部から課された資本要件はない。

10 直接及び最終的な支配当事者

2023年12月31日現在、取締役は本トラスティ・マネジャーの直接親会社及び最終親会社を、シュア・グレード・リミテッド及びPAH社と認識しており、両社はそれぞれ英国領ヴァージン諸島及び香港で設立された法人である。PAH社の財務諸表は一般に公開されている。

11 財務リスク管理

本トラスティ・マネジャーは、当期及び前期において、通常の業務上、重要な信用リスク、流動性リスク、金利リスク及び為替リスクにさらされていない。

12 重要な関連当事者取引

財務諸表の他の箇所で開催されている取引及び残高を除き、本トラスティ・マネジャーは重要な関連当事者取引を行っていない。

13 2023年12月31日に終了した事業年度において公表されているが発効していない改訂、新基準及び解釈指針の影響

本財務諸表の発行日までに、香港公認会計士協会は、2023年12月31日に終了した事業年度において未発効であり、本財務諸表に適用されていない、いくつかの改訂を公表した。

本トラスティ・マネジャーは、適用初年度における当該改訂の影響について評価を行っている。これまでのところ、本トラスティ・マネジャーの財務諸表に関連はするものの、当該改訂及び新基準の適用が本トラスティ・マネジャーの経営成績及び財政状態に重要な影響を与える可能性は低いと結論付けている。

X. 本グループの5年間の財務概要

連結損益計算書

(百万香港ドル)	2023年度	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
売上収益	11,406	10,793	11,344	10,389	10,739
営業利益	4,976	4,509	4,845	4,140	4,213
金融費用	(1,360)	(961)	(800)	(971)	(1,004)
税引前純利益	3,616	3,548	4,045	3,169	3,209
法人所得税	(646)	(629)	(735)	(568)	(614)
税引後純利益	2,970	2,919	3,310	2,601	2,595
本電力供給契約に基づく資金移動	186	35	(377)	131	(268)
本株式ステーブル受益証券保有者／ HKエレクトリック・インベストメンツ 社の株主に帰属する当期純利益	3,156	2,954	2,933	2,732	2,327

連結財政状態計算書

(百万香港ドル)	2023年度	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
有形固定資産及び借地権 のれん	79,824	78,960	76,740	74,434	72,416
その他の非流動資産	33,623	33,623	33,623	33,623	33,623
正味流動負債	2,600	3,125	2,118	1,781	1,500
流動負債控除後の資産合計	(2,625)	(233)	(3,470)	(6,612)	(8,069)
非流動負債	113,422	115,475	109,011	103,226	99,470
本電力供給契約基金及び準備金	(63,774)	(65,230)	(59,553)	(54,757)	(50,120)
純資産	(670)	(912)	(1,065)	(726)	(878)
資本金	48,978	49,333	48,393	47,743	48,472
準備金	8	8	8	8	8
資本合計	48,970	49,325	48,385	47,735	48,464
資本合計	48,978	49,333	48,393	47,743	48,472

XI. HEC社 直近10年間の電力供給報告書、財政状態及び営業実績

HEC社

直近10年間の電力供給報告書

(a) 本電力供給契約

HEC社は香港政府と締結した2019年1月1日から2033年12月31日までの15年間の契約期間とする本電力供給契約に基づき運営されている。

本電力供給契約は、HEC社の認可報酬を、電力事業関連の純固定資産平均残高の8%と定めている。認可報酬は本電力供給契約の付属書の定めに従って、余剰発電能力調整後に確定される。2023年及び2022年は余剰発電能力調整が発生しなかった。電気料金収入合計がHEC社の総営業費用、電力事業関連の純収益、及び本電力供給契約上の税金費用の合計を超過した場合は、超過額がHEC社の損益計算書から電気料金安定化基金に振り替えられる。逆に電気料金収入合計がHEC社の総営業費用、電力事業関連の純収益、及び本電力供給契約上の税金費用の合計を下回った場合、当該不足金額は電気料金安定化基金からHEC社の当該年度の損益計算書に振り分けられる。但し、電気料金安定化基金からHEC社の損益計算書への振り替える場合に、振替額が電気料金安定化基金の残高を超えることはない。本電力供給契約における純収益の算出にあたっては、資産計上された又は総営業費用に計上された固定資産の取得に係る借入金に対する年率7%を上限とする利息が税引後純収益に加算される。さらに、各年度の電気料金安定化基金の期首期末の平均残高にHIBOR 1ヵ月物の平均を乗じた金額に相当する金額がHEC社の損益計算書から電気料金減額準備金に振り替えられる。

(b) 12月31日までの直近10年間の電力供給報告書

百万香港ドル	2023	2022	2021	2020	2019	2018	2017	2016	2015	2014
電力販売	11,321	10,724	11,312	10,363	10,694	11,541	11,621	11,373	11,165	11,165
燃料費調整勘定の繰戻	5,401	6,922	3,122	1,823	2,051	2,696	1,904	1,206	1,861	2,994
その他の本電力供給契約に基づく収入	131	111	73	162	77	115	93	79	74	63
電気料金収入合計	16,853	17,757	14,507	12,348	12,822	14,352	13,618	12,658	13,100	14,222
燃料費	(6,891)	(8,420)	(4,778)	(3,453)	(3,842)	(4,530)	(3,785)	(3,105)	(3,697)	(4,818)
営業費用	(1,704)	(1,702)	(1,735)	(1,697)	(1,723)	(1,656)	(1,592)	(1,460)	(1,277)	(1,143)
利息	(1,024)	(722)	(621)	(778)	(764)	(779)	(719)	(811)	(838)	(789)
減価償却費	(2,497)	(2,543)	(2,530)	(2,414)	(2,342)	(2,355)	(2,210)	(2,127)	(2,054)	(1,988)
税引前純利益	4,737	4,370	4,843	4,006	4,151	5,032	5,312	5,155	5,234	5,484
本電力供給に基づく税	(1,113)	(459)	(670)	(695)	(688)	(557)	(698)	(1,209)	(1,140)	(1,009)
税引後純利益	3,624	3,911	4,173	3,311	3,463	4,475	4,614	3,946	4,094	4,475
借入資本に係る利息	1,328	1,017	926	1,018	1,043	983	873	821	729	690
追加預り保証金に係る利息	10	1	—	—	1	—	—	—	—	—
本電力供給に基づく純利益	4,962	4,929	5,099	4,329	4,507	5,458	5,487	4,767	4,823	5,165
電気料金安定化基金の繰戻／(繰入)	255	80	(344)	164	(222)	(303)	(291)	181	84	(249)
認可報酬	5,217	5,009	4,755	4,493	4,285	5,155	5,196	4,948	4,907	4,916
借入資本に係る利息	(1,328)	(1,017)	(926)	(1,018)	(1,043)	(983)	(873)	(821)	(729)	(690)
追加預り保証金に係る利息	(10)	(1)	—	—	(1)	—	—	—	—	—
スマート・パワー・ケア基金／スマート・パワー基金の繰入	(38)	(32)	(32)	(25)	(32)	—	(5)	(5)	(5)	(10)
電気料金減額準備金の繰入	(31)	(13)	(1)	(8)	(14)	(6)	(1)	(1)	(1)	—
電力事業関連の純収益	3,810	3,946	3,796	3,442	3,195	4,166	4,317	4,121	4,172	4,216

HEC社

直近10年間の財政状態

12月31日現在

百万香港ドル	2023	2022	2021	2020	2019	2018	2017	2016	2015	2014
非流動資産										
有形固定資産及び借地権	63,784	62,162	59,355	56,437	53,791	51,753	50,494	49,971	49,482	49,198
ジョイント・ベンチャーに対する持分	895	793	477	278	42	—	—	—	—	—
従業員退職給資産	968	882	1,045	887	809	593	648	454	580	668
デリバティブ	496	1,042	596	616	641	539	784	1,034	314	352
	66,143	64,879	61,473	58,218	55,283	52,885	51,926	51,459	50,376	50,218
流動資産										
石炭、石油及び天然ガス	692	1,158	620	430	522	675	671	624	525	572
貯蔵品及び原材料	311	288	284	296	297	314	340	361	357	361
売掛金及びその他の債権	1,407	1,571	1,147	931	1,056	1,024	1,065	1,218	1,155	1,129
燃料費調整勘定	-	1,892	252	—	—	—	—	—	—	—
預金及び現金	20	324	33	51	297	33	1,658	310	6,155	4,629
	2,430	5,233	2,336	1,708	2,172	2,046	3,734	2,513	8,192	6,691
流動負債										
銀行借入金及びその他の借入金	(715)	(557)	(1,233)	(1,486)	(6,010)	(440)	—	(335)	(900)	(520)
燃料費調整勘定	(53)	—	—	(796)	(647)	(855)	(2,771)	(4,088)	(2,283)	(631)
買掛金及びその他の債務並びに契約負債	(9,617)	(10,132)	(8,883)	(7,107)	(6,940)	(6,607)	(6,626)	(6,263)	(5,519)	(4,740)
銀行当座借越 - 無担保	(44)	—	—	—	(33)	—	—	—	—	—
未払税金	(889)	(149)	(506)	(541)	(577)	(137)	(214)	(351)	(360)	(219)
	(11,318)	(10,838)	(10,622)	(9,930)	(14,207)	(8,039)	(9,611)	(11,037)	(9,062)	(6,110)
正味流動資産／(負債)	(8,888)	(5,605)	(8,286)	(8,222)	(12,035)	(5,993)	(5,877)	(8,524)	(870)	581
流動負債控除後の資産合計	57,255	59,274	53,187	49,996	43,248	46,892	46,049	42,935	49,506	50,799
非流動負債										
銀行借入金及びその他の借入金	(40,766)	(41,982)	(36,729)	(34,708)	(28,319)	(32,855)	(32,714)	(30,700)	(37,646)	(38,703)
デリバティブ	(171)	(78)	(102)	(370)	(14)	(411)	(184)	(73)	(168)	(63)
預り保証金	(2,449)	(2,381)	(2,317)	(2,268)	(2,241)	(2,195)	(2,130)	(2,057)	(2,001)	(1,937)
繰延税金負債	(7,478)	(7,723)	(7,113)	(6,628)	(6,467)	(6,168)	(5,848)	(5,595)	(5,698)	(5,927)
従業員退職給付制度債務	(191)	(158)	(350)	(367)	(368)	(393)	(288)	(406)	(587)	(499)
その他の非流動負債	(1,382)	(1,430)	(1,314)	(1,122)	(955)	(747)	(503)	—	—	—
	(52,437)	(53,752)	(47,925)	(45,463)	(38,364)	(42,769)	(41,667)	(38,831)	(46,100)	(47,129)
電気料金安定化基金 (注1)	(630)	(872)	(1,050)	(698)	(848)	(620)	(316)	(24)	(204)	(288)
電気料金減額準備金 (注2)	(31)	(13)	(1)	(8)	(14)	(6)	(1)	(1)	(1)	—
スマート・パワー・ケア基金 ／ スマート・パワー基金 (注3)	(9)	(27)	(14)	(20)	(16)	(22)	(18)	(14)	(10)	(5)
純資産	4,148	4,610	4,197	3,807	4,006	3,475	4,047	4,065	3,191	3,377
資本金及び剰余金										
資本金	2,411	2,411	2,411	2,411	2,411	2,411	2,411	2,411	2,411	2,411
剰余金	1,868	1,756	1,666	1,427	1,259	1,125	1,326	1,057	921	1,002
ヘッジ剰余金	(131)	443	120	(31)	336	(61)	310	597	(141)	(36)
資本合計	4,148	4,610	4,197	3,807	4,006	3,475	4,047	4,065	3,191	3,377

(注1) 電気料金安定化基金は、株主基金の一部ではない。

(注2) 本電力供給契約により、毎年の電気料金減額準備金の年度末残高は翌年の電気料金安定化基金に振り替えられる。

(注3) 2009-2018年度の本電力供給契約の2013年度中間審査に従い、スマート・パワー基金を2014年6月に設立し、公共設備の敷設におけるエネルギー効率の向上促進を目指している。現行の本電力供給契約に基づき、スマート・パワー・ケア基金は、エネルギー効率の向上及び省エネルギーの促進のため、スマート・パワー基金の期末残高により提供される初期資金で、2019年1月1日までに設立されなければならない。

HEC社

直近10年間の営業実績

	2023	2022	2021	2020	2019	2018	2017	2016	2015	2014
販売電力量 (百万キロワット時)										
商業用	7,369	7,149	7,409	7,178	7,751	7,766	7,824	7,893	8,012	8,015
家庭用	2,384	2,505	2,659	2,667	2,475	2,466	2,485	2,584	2,541	2,610
産業用	287	287	293	289	293	305	306	315	326	330
合計 (百万キロワット時)	10,040	9,941	10,361	10,134	10,519	10,537	10,615	10,792	10,879	10,955
年間増加率/ (減少率) (%)	1.0	(4.0)	2.2	(3.7)	(0.2)	(0.7)	(1.6)	(0.8)	(0.7)	1.7
平均純電気料金 (香港セント/ キロワット時)										
標準電気料金	114.5	109.0	109.0	102.0	101.3	109.1	108.9	105.5	102.6	101.8
賃料・評価税特別割戻し	—	—	—	(0.4)	(2.3)	(4.0)	(4.0)	—	—	—
特別割戻し	—	(1.0)	—	—	—	—	—	—	—	—
純標準電気料金	114.5	108.0	109.0	101.6	99.0	105.1	104.9	105.5	102.6	101.8
燃料費調整による加算額	82.5	27.3	17.4	24.8	23.4	23.4	23.4	27.9	32.3	33.1
燃料特別割戻し	—	—	—	—	(2.3)	(16.0)	(17.9)	—	—	—
純電気料金 (香港セント /キロワット)	197.0	135.3	126.4	126.4	120.1	112.5	110.4	133.4	134.9	134.9
顧客数 (000' s)	589	586	584	583	581	579	577	575	572	570
設備容量 (メガワット)										
ガスタービン及び予備設備	555	555	555	555	555	555	555	555	555	555
石炭火力発電設備	1,750	1,750	2,000	2,000	2,000	2,000	2,250	2,500	2,500	2,500
ガス火力コンバインドサイ クル設備 (注1)	1,095	1,095	1,060	1,060	680	680	680	680	680	680
風力ガスタービン及び太 陽光発電システム (注2)	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2
合計 (メガワット)	3,403	3,402	3,617	3,617	3,237	3,237	3,487	3,737	3,737	3,737
全体的最大需要 (メガワット)	2,269	2,384	2,384	2,336	2,395	2,376	2,513	2,428	2,427	2,460
年間 (減少率) / 増加率 (%)	(4.8)	—	2.1	(2.5)	0.8	(5.5)	3.5	0.0	(1.3)	0.3
年負荷率 (%)	55.9	52.8	55.1	55.0	56.4	56.8	54.0	56.7	57.3	56.9
熱効率 (%)	39.3	38.9	37.6	37.6	35.5	35.6	35.9	35.9	36.2	36.1
設備稼働率 (%)	89.4	86.6	89.0	89.5	90.9	90.7	87.1	85.6	85.5	88.4
開閉所数	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24
ゾーン変電所数	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27
配電変電所数	4,012	3,977	3,962	3,944	3,920	3,912	3,889	3,848	3,818	3,793
従業員数	1,657	1,690	1,699	1,713	1,770	1,763	1,776	1,790	1,801	1,814
資本的支出 (百万香港 ドル) (注3)	4,447	5,734	6,001	5,485	4,620	3,695	2,929	2,799	2,516	2,252

(注1) HEC社は、2020年以降ガス発電約50%という香港の燃料構成目標を達成するため、新ガス火力発電設備L10を設置し、旧ガス火力発電設備GT57の除却を新ガス火力発電設備L11が稼働した2022年に延期した。これは、香港政府の目標を達成するための暫定的な措置であった。GT57を使用しない場合の2020年及び2021年の設備容量は、3,272メガワットである。

- (注2) 800キロワットの風力タービンが2005年に設置された。ラマ発電所において550キロワットの太陽光発電システムが2010年に設置され、1.4メガワットへの拡張工事が2023年に完了した。同社の施設及び変電所に設置されたその他の太陽光発電システムと合わせて、総容量は2.4メガワットに達した。
- (注3) 電力関連の有形固定資産に対してのみの資本的支出。資本的支出は、資産利用権の追加を除くが、ジョイント・ベンチャーが開発した海上LNGターミナルに係る資本的支出を含む。

XII. 費用の明細

1. 申込手数料

本受益証券の申込人は、本受益証券及び本優先株式の双方につき申込みを行わなければならない、申込みにあたり、本受益証券1口当たりの募集価格及び本優先株式1株当たりの募集価格、すなわち本株式ステーブル受益証券1口当たりの募集価格に、（いずれの場合も本株式ステーブル受益証券の募集価格に対して）その時々において適用される比率の仲介手数料、香港証券先物委員会取引賦課金及び香港証券取引所取引手数料を加えた金額を支払わなければならない。

申込手数料は、商品及び関連する投資環境の説明及び情報提供等、並びに購入に関する事務手続の対価である。

2. 買戻し手数料

該当事項なし。

本信託証書に基づき、本株式ステーブル受益証券保有者は、自己の本株式ステーブル受益証券の買戻し又は償還を要求する権利を有しない。香港証券先物委員会から随時発行される該当する規則及びガイドラインにより明示的に認められる場合を除き、本トラスティ・マネジャーは、本トラストに代理して本株式ステーブル受益証券の買戻し又は償還を行わない。

2023年12月31日に終了した会計年度中に、本トラスト、本トラスティ・マネジャー、HKエレクトリック・インベストメンツ社及びこれらの子会社は、いずれも発行済の本株式ステーブル受益証券を一切購入、売却又は償還していない。

3. 管理報酬等

本トラストの管理に係る費用及び経費は、本信託財産から控除することができるが、その役割が特定のかつ限定的であることに応じて、本トラスティ・マネジャーは本トラストの管理に係る手数料を受領しない。

本トラストの管理に係る費用及び経費に関しては、関連法令に従うことを条件として、本トラスティ・マネジャーは、（本トラスティ・マネジャーが具体的な場合に応じて決定する時期及び期間に）本信託証書に基づき義務を履行し若しくは権限を行使するにあたって適切にかつ合理的に被り若しくは負担することのある、又はその他の本信託証書に起因する若しくは関連して生じる全ての負債（不正行為、故意の不履行若しくは過失の場合を除く。）、手数料、諸費用、負担並びに支出（本信託証書の別紙2に定める金員（本信託財産の取得、保有及び換金に関して支払う適用ある税金及びその他の費用、並びに本トラストの運用及び受託業務に関する費用として本信託証書が認めるもの）を含むが、これらに限らない。）に本信託財産を充当し又は本信託財産から補償を受ける権利を有するものとする。

4. その他の手数料等

該当事項なし。

XIII. 純資産額計算書

【純資産額計算書】

(2023年12月31日現在)

	百万香港ドル	百万円
I. 資産総額	118,540	2,292,564
II. 負債総額	69,562	1,345,329
III. 純資産総額 (I - II)	48,978	947,235
IV. 発行済数量		8,836,200,000口
V. 1単位当たり純資産額 (III/IV)	5.54香港ドル	107円

XIV. 投資資産

①【投資有価証券の主要銘柄】

(2023年12月31日現在)

順位	発行体 名称	種類	地域	業種	数量	簿価		時価		投資比率 (%)
						単価 (香港ドル) (注2)	総額 (香港ドル) (注2)	単価 (香港ドル) (注3)	総額 (百万香港ドル) (注3)	
1	HKエレクトリック・インベストメンツ社	普通株式	香港 (注1)	本電力事業の持株会社	8,836,200,000	0.0005 (注2)	4,418,100 (注2)	— (注3)	— (注3)	100

(注1) 本普通株式は香港証券取引所に上場されているが、交換権が行使されるまでは、本普通株式は本株式ステーブル受益証券の形態でのみ取引される。

(注2) 上記は、本普通株式の額面金額（2023年12月31日現在）を示したものである。

(注3) 本トラストは単一の投資信託（固定型）であり、本トラストは、HKエレクトリック・インベストメンツ社の（i）本普通株式並びに（ii）その他の有価証券及び持分のみに投資している。これは、本トラストが保有する本普通株式の実質的持分が、本受益証券の名簿上の保有者に付与されていることを意味する。但し、本株式ステーブル受益証券が香港証券取引所に上場されている限り、本株式ステーブル受益証券の一部を成し、上場されている本普通株式の相場は個別に公表されないため、本普通株式の2023年12月31日現在保有総額（時価）を算定することはできない。

なお、香港証券取引所における2023年12月31日現在での本株式ステーブル受益証券8,836,200,000口の総額（時価）が本トラスティ・マネジャーの同日現在保有に係るHKエレクトリック・インベストメンツ社の全発行済本普通株式8,836,200,000株の総額（時価）に等しいと仮定して算出した場合、本普通株式の2023年12月31日現在での保有総額（時価）は41,619百万香港ドルである。

業種別投資比率

事業の種類	投資比率 (%)
本電力事業の持株会社	100
合計	100

②【投資不動産物件】

該当事項なし。

③【その他投資資産の主要なもの】

該当事項なし。

XV. 企業情報

以下の情報は、2024年4月5日現在のものである。

HKエレクトリック・インベストメンツ・マネジャー・リミテッド

(香港において設立された有限責任会社である、本トラスのトラスティ・マネジャー) 及び

HKエレクトリック・インベストメンツ・リミテッド

(ケイマン諸島において設立された有限責任会社)

取締役会

執行取締役

フォク・キン・ニン, カニング (会長)

チェン・チョー・イン, フランシス (最高経営責任者)

チャン・ロイ・シュン

クワン・イン・レオン

ワン・ユアンハン

非執行取締役

リ・ツァー・クオイ, ヴィクター (副会長) (代行者はフランク・ジョン・シクスト)

ファハド・ハマド・A・H・アル・モハナディ

ロナルド・ジョセフ・アーカリ

デヴェン・アルヴィンド・カルニク

ワン・ジジャン

ズー・グアンチャオ

独立非執行取締役

フォン・チー・ウェイ, アレックス

コー・ポー・ワー

クワン・カイ・チョン

リー・ラン・イー, フランシス

ジョージ・コリン・マグナス

ドナルド・ジェフリー・ロバーツ

本トラスティ・マネジャー監査委員会

ドナルド・ジェフリー・ロバーツ (会長)

ロナルド・ジョセフ・アーカリ

コー・ポー・ワー

リー・ラン・イー, フランシス

HKエレクトリック・インベストメンツ社監査委員会

ドナルド・ジェフリー・ロバーツ (会長)

ロナルド・ジョセフ・アーカリ

コー・ポー・ワー

リー・ラン・イー, フランシス

報酬委員会

ドナルド・ジェフリー・ロバーツ (会長)
フォク・キン・ニン, カニング
フォン・チー・ウェイ, アレックス

指名委員会

リー・ラン・イー, フランシス (会長)
クワン・カイ・チョン
リ・ツァー・クォイ, ヴィクター

持続可能性委員会

チェン・チョー・イン, フランシス (会長)
フォン・チー・ウェイ, アレックス
クワン・イン・レオン

会社秘書役

アレックス・ン

主たる銀行

ザ・ホンコン・アンド・シアンハイ・バンキング・コーポレーション・リミテッド (The Hongkong and Shanghai Banking Corporation Limited)
バンク・オブ・チャイナ (ホンコン) リミテッド (Bank of China (Hong Kong) Limited)
株式会社みずほ銀行
株式会社三菱UFJ銀行

監査人

KPMG

HKエレクトリック・インベストメンツ社のウェブサイト

www.hkei.hk

本トラスティ・マネジャーの登録事務所

香港、44 ケネディ・ロード

HKエレクトリック・インベストメンツ社の登録事務所

ケイマン諸島, KY1-1111、グランド・ケイマン、ハッチンス・ドライブ、クリケット・スクエア、私書箱2681
(Cricket Square, Hutchins Drive, P.O. Box 2681, Grand Cayman, KY1-1111, Cayman Islands)

HKエレクトリック・インベストメンツ社の本店及び香港における主要な営業所

香港、44 ケネディ・ロード
電話番号：(852) 2843 3111
ファックス番号：(852) 2810 0506
電子メール：mail@hkei.hk

本株式ステーブル受益証券登録機関

香港、ワンチャイ、183 クイーンズ・ロード・イースト、ホープウエル・センター、17階、店舗番号1712-1716
(Shops 1712-1716, 17th Floor, Hopewell Centre, 183 Queen's Road East, Wanchai, Hong Kong)
コンピュータシェア香港インベスター・サービス・リミテッド
(Computershare Hong Kong Investor Services Limited)
ウェブサイト：www.computershare.com/hk/contact

主要な株式登録機関

ケイマン諸島、KY1-1111、グランド・ケイマン、ハッチンス・ドライブ、クリケット・スクエア、私書箱2681
コンヤーズ・トラスト・カンパニー（ケイマン）リミテッド

株式登録機関香港支店

香港、ワンチャイ、183 クイーンズ・ロード・イースト、ホープウエル・センター、17階、店舗番号1712-1716
コンピュータシェア香港インベスター・サービス・リミテッド
ウェブサイト：www.computershare.com/hk/contact

米国預託証券（ADR）（レベル I プログラム）預託機関

NY 10019、ニューヨーク、1 コロンバス サークル (1 Columbus Circle, New York, NY 10019)
ドイチェ・バンク・トラスト・カンパニー・アメリカ (Deutsche Bank Trust Company Americas)
ウェブサイト：www.adr.db.com
電子メール：adr@db.com

投資家向け広報

電子メール：mail@hkei.hk
電話番号：(852) 2843 3111
ファックス番号：(852) 2810 0506
郵便住所：香港、私書箱915号
住所：香港、44 ケネディ・ロード

機関投資家の方は、チャン・ロイ・シュン（執行取締役）、ウォン・キム・マン（最高財務責任者）又はヴィンセント・チョウ（グループ財務責任者）までお問い合わせ下さい。

その他の投資家の方は、アレックス・ン（会社秘書役）までお問い合わせ下さい。

XVI. 財務カレンダー及び本株式ステーブル受益証券の情報

財務カレンダー

中間業績の発表	2023年8月1日
年次業績の発表	2024年3月19日
権利落ち日	2024年4月5日
期末分配金の基準日	2024年4月8日
本株式ステーブル受益証券1口当たりの分配金	
中間：15.94香港セント	2023年8月25日
期末：16.09香港セント	2024年4月17日
登録簿の閉鎖	2024年5月17日から2024年5月22日まで
－ 年次総会	(両日を含む。)
年次総会	2024年5月22日

本株式ステーブル受益証券の情報

取引単位	500口
2023年12月31日現在の時価総額	41,619百万香港ドル
本株式ステーブル受益証券と米国預託株式の比	10 : 1

証券コード

香港証券取引所	2638
ブルームバーグ	2638 HK
リフィニティブ	2638.HK
米国預託証券(ADR) ティッカー・シンボル	HKVTY
CUSIP番号	40422B101